

2022年度 人間環境学部 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覧

【発行日：2022/5/2】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【C2002】 民法法Ⅰ [中川 義宏] 春学期授業/Spring	1
【C2003】 民法法Ⅱ [中川 義宏] 秋学期授業/Fall	2
【C2004】 国際法Ⅰ [鈴木 孟] 春学期授業/Spring	3
【C2005】 国際法Ⅱ [鈴木 孟] 秋学期授業/Fall	4
【C2006】 市民社会と政治 [長島 美紀] 秋学期授業/Fall	5
【C2007】 行政学 [林 嶺那] 年間授業/Yearly	6
【C2008】 国際関係論 [千坂 知世] 春学期授業/Spring	7
【C2009】 アメリカ法の基礎 [永野 秀雄] 春学期授業/Spring	8
【C2010】 地方自治論 [阿部 慶徳] 春学期授業/Spring	9
【C2011】 憲法の基礎 [塚林 美弥子] 秋学期授業/Fall	10
【C2012】 刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期授業/Spring	11
【C2013】 環境法Ⅰ [横内 恵] 春学期授業/Spring	13
【C2014】 環境法Ⅱ [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	14
【C2015】 環境法Ⅲ [横内 恵] 秋学期授業/Fall	15
【C2016】 環境法Ⅳ [今井 康介] 秋学期授業/Fall	16
【C2017】 国際環境法 [鈴木 詩衣菜] 秋学期授業/Fall	17
【C2019】 労働環境法 [水野 圭子] 春学期授業/Spring	18
【C2020】 自治体環境政策論Ⅰ [小島 聡] 春学期授業/Spring	20
【C2021】 自治体環境政策論Ⅱ [小島 聡] 秋学期授業/Fall	22
【C2023】 アメリカ環境法 [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	23
【C2024】 エネルギー政策論 [菊地 昌廣] 春学期授業/Spring	24
【C2025】 地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期授業/Spring	26
【C2026】 地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	28
【C2100】 ミクロ経済学Ⅰ [芦田 登代] 春学期授業/Spring	29
【C2101】 ミクロ経済学Ⅱ [芦田 登代] 秋学期授業/Fall	30
【C2102】 マクロ経済学Ⅰ [今 喜史] 春学期授業/Spring	31
【C2103】 マクロ経済学Ⅱ [今 喜史] 秋学期授業/Fall	32
【C2104】 現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	33
【C2105】 ビジネスヒストリー [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	35
【C2106】 経営学入門 [金藤 正直] 春学期授業/Spring	36
【C2107】 環境経営と会計 [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	37
【C2110】 環境経済論Ⅰ [杉野 誠] 春学期授業/Spring	38
【C2111】 環境経済論Ⅱ [杉野 誠] 秋学期授業/Fall	39
【C2112】 環境経営論Ⅰ [金藤 正直] 春学期授業/Spring	40
【C2113】 環境経営論Ⅱ [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	42
【C2116】 CSR論Ⅰ [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	43
【C2117】 CSR論Ⅱ [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	45
【C2118】 国際環境政策Ⅰ [杉野 誠] 春学期授業/Spring	46
【C2119】 国際環境政策Ⅱ [久谷 一郎、土井 菜保子] 秋学期授業/Fall	47
【C2120】 途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	49
【C2121】 途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	50
【C2126】 環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期授業/Fall	52
【C2127】 平和学 [植村 充] 春学期授業/Spring	54
【C2128】 人間の安全保障 [植村 充] 秋学期授業/Fall	55
【C2129】 環境マネジメントスタディーズⅠ [池原 庸介] 春学期授業/Spring	57
【C2130】 環境マネジメントスタディーズⅡ [池原 庸介] 秋学期授業/Fall	58
【C2131】 簿記入門Ⅰ [大下 勇二] 春学期授業/Spring	60
【C2132】 簿記入門Ⅱ [大下 勇二] 秋学期授業/Fall	61
【C2133】 行政法Ⅰ [横内 恵] 春学期授業/Spring	62
【C2134】 行政法Ⅱ [横内 恵] 秋学期授業/Fall	63
【C2200】 現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	64
【C2201】 現代社会論Ⅱ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	65
【C2202】 現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	66

【C2203】	NPO・ボランティア論 [新田 英理子] 秋学期授業/Fall	67
【C2204】	フィールド調査論 [笠原 良太] 春学期授業/Spring	69
【C2205】	フィールド調査論 [笠原 良太] 秋学期授業/Fall	70
【C2207】	社会統計論 [藤本 隆史] 春学期授業/Spring	71
【C2208】	ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	72
【C2209】	グローバル・コミュニケーション [ESTHER STOCKWELL] 春学期授業/Spring	73
【C2210】	地域形成論 [小島 聡] 秋学期授業/Fall	75
【C2211】	地域経済論Ⅰ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	76
【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期授業/Spring	77
【C2213】	地域コモンズ論 [船戸 修一] 秋学期授業/Fall	79
【C2216】	都市デザイン論 [佐谷 和江] 秋学期授業/Fall	80
【C2217】	環境社会論Ⅰ [黒田 暁] 春学期授業/Spring	81
【C2218】	環境社会論Ⅱ [黒田 暁] 秋学期授業/Fall	83
【C2219】	環境社会論Ⅲ [西城戸 誠] 春学期授業/Spring	84
【C2220】	労働環境論Ⅰ [長峰 登記夫] 春学期授業/Spring	86
【C2221】	労働環境論Ⅱ [長峰 登記夫] 秋学期授業/Fall	87
【C2223】	NGO活動論 [小野 行雄] 秋学期授業/Fall	89
【C2225】	ローカルスタディーズⅠ [船戸 修一] 秋学期授業/Fall	90
【C2226】	ローカルスタディーズⅡ [坂本 昭夫] 秋学期授業/Fall	91
【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	92
【C2229】	社会開発論 [新村 恵美] 秋学期授業/Fall	94
【C2231】	開発教育 [福田 紀子] 春学期授業/Spring	96
【C2232】	国際社会学 [新藤 慶] 秋学期授業/Fall	97
【C2233】	文化経営論 [武田 知也] 秋学期授業/Fall	98
【C2240】	ファシリテーション論 [徳田 太郎] 春学期授業/Spring	99
【C2241】	科学技術社会論Ⅰ [金光 秀和] 春学期授業/Spring	101
【C2242】	科学技術社会論Ⅱ [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	102
【C2300】	西欧近代批判の思想 [越部 良一] 春学期授業/Spring	103
【C2301】	仏教思想 [宮部 峻] 秋学期授業/Fall	104
【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期授業/Spring	105
【C2303】	比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	106
【C2304】	比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	107
【C2307】	日本美術史論 [豊田 和平] 秋学期授業/Fall	108
【C2308】	西洋美術史論 [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	110
【C2309】	応用倫理学 [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	111
【C2310】	環境倫理学Ⅰ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	112
【C2311】	環境倫理学Ⅱ [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	113
【C2312】	日本環境史論Ⅰ [根崎 光男] 春学期授業/Spring	114
【C2313】	日本環境史論Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	115
【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [梅原 秀元] 春学期授業/Spring	116
【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [梅原 秀元] 秋学期授業/Fall	117
【C2316】	環境人類学Ⅰ [橋爪 太作] 春学期授業/Spring	119
【C2317】	環境人類学Ⅱ [藤原 江美子] 秋学期授業/Fall	120
【C2321】	環境人類学Ⅲ [難波 美芸] 秋学期授業/Fall	121
【C2322】	環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	122
【C2323】	環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	123
【C2400】	サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期授業/Spring	124
【C2401】	サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	125
【C2402】	サイエンスカフェⅢ [鈴木 倫太郎] 春学期授業/Spring	126
【C2403】	自然環境論Ⅰ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	127
【C2404】	自然環境論Ⅱ [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	128
【C2405】	自然環境論Ⅲ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	129
【C2406】	エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉] 春学期授業/Spring	130
【C2409】	環境健康論Ⅰ [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	131
【C2410】	環境健康論Ⅱ [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	133
【C2411】	気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期授業/Spring	135
【C2412】	気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	136

【C2413】	自然環境政策論Ⅰ [三村 起一] 春学期授業/Spring	137
【C2414】	自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	138
【C2416】	環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	139
【C2417】	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	140
【C2418】	環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	141
【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	142
【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	143
【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	144
【C2422】	エネルギー論Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	145
【C2423】	大気と社会Ⅰ [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	146
【C2424】	大気と社会Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	147
【C2429】	サイエンスカフェⅣ [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	148
【C2430】	環境モデル論Ⅰ [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	149
【C2431】	環境モデル論Ⅱ [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	151
【C2432】	自然災害論 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	153
【C2433】	自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	154
【C2500】	環境管理論Ⅰ [大岡 健三] 春学期授業/Spring	155
【C2501】	環境管理論Ⅱ [大野 香代] 春学期授業/Spring	156
【C2502】	廃棄物・リサイクル論 [坂川 勉] 秋学期授業/Fall	158
【C2503】	環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	159
【C2504】	キャリア入門 [長峰 登記夫] 春学期授業/Spring	160
【C2505】	食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫] 春学期授業/Spring	161
【C2506】	食と農の環境学Ⅱ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	163
【C2507】	食と農の環境学Ⅲ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	164
【C2508】	スポーツビジネス論Ⅰ [岩村 聡] 春学期授業/Spring	165
【C2509】	スポーツビジネス論Ⅱ [岩村 聡] 秋学期授業/Fall	166
【C2554】	アーティストと社会貢献 [庄野 真代] 春学期授業/Spring	167
【C2559】	現代思想と人間Ⅰ [増田 一夫] 春学期授業/Spring	168
【C2560】	現代思想と人間Ⅱ [増田 一夫] 秋学期授業/Fall	170
【C2563～】	キャリアチャレンジ [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	171
【C2564～】	キャリアチャレンジ [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	172
【C2570】	地域経済論Ⅱ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	173
【C2579】	人間環境特論 (職業選択と自己実現) [才木 弓加] 春学期授業/Spring	174
【C2580】	人間環境特論 (科学技術哲学Ⅰ) [金光 秀和] 春学期授業/Spring	175
【C2581】	人間環境特論 (科学技術哲学Ⅱ) [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	176
【C2600】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	177
【C2602】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	178
【C2703】	基礎演習 [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	179
【C2704】	基礎演習 [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	180
【C2706】	基礎演習 [長峰 登記夫] 秋学期授業/Fall	181
【C2707】	基礎演習 [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	182
【C2708】	基礎演習 [杉野 誠] 秋学期授業/Fall	183
【C2712】	基礎演習 [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	184
【C2714】	基礎演習 [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	185
【C2716】	基礎演習 [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	186
【C2717】	基礎演習 [ESTHER STOCKWELL] 秋学期授業/Fall	187
【C2718】	基礎演習 [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	188
【C2719】	基礎演習 [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	189
【C2720】	基礎演習 [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	190
【C2722】	基礎演習 [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	191
【C2723】	基礎演習 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	192
【C2724】	基礎演習 [日原 傳] 秋学期授業/Fall	193
【C2726】	基礎演習 [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	194
【C2729】	基礎演習 [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	195
【C2730】	基礎演習 [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	196
【C2733】	基礎演習 [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	197
【C2800】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	198

【C2801】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	200
【C2802】	情報処理基礎 [松本 倫明] 春学期授業/Spring	201
【C2803】	情報処理基礎 [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	202
【C2804】	情報処理基礎 [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	203
【C2805】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	205
【C2806】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	206
【C2807】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	208
【C2809】	統計とデータ分析 [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	209
【C2812】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 春学期授業/Spring	210
【C2900】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	211
【C2903】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [板橋 美也] 春学期授業/Spring	213
【C2909】	英語Ⅱ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	214
【C2915】	英語Ⅲ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 春学期授業/Spring	215
【C2921】	英語Ⅳ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	216
【C2950】	テーマ別英語1 (スキルアップ科目) [王 川菲] 春学期授業/Spring	217
【C2956】	テーマ別英語3 (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 春学期授業/Spring	218
【C2959】	テーマ別英語4 (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 秋学期授業/Fall	219
【C3000】	研究会 A [朝比奈 茂] 年間授業/Yearly	220
【C3003】	研究会 A [板橋 美也] 年間授業/Yearly	222
【C3004】	研究会 A [杉戸 信彦] 年間授業/Yearly	223
【C3005】	研究会 A [土屋 志穂] 年間授業/Yearly	224
【C3006】	研究会 A [梶 裕史] 年間授業/Yearly	225
【C3007】	研究会 A [北川 徹哉] 年間授業/Yearly	227
【C3010】	研究会 A [小島 聡] 年間授業/Yearly	228
【C3011】	研究会 A [小島 聡] 年間授業/Yearly	230
【C3012】	研究会 A [ESTHER STOCKWELL] 年間授業/Yearly	231
【C3015】	研究会 A [武貞 稔彦] 年間授業/Yearly	233
【C3017】	研究会 A [辻 英史] 年間授業/Yearly	234
【C3018】	研究会 A [永野 秀雄] 年間授業/Yearly	236
【C3019】	研究会 A [永野 秀雄] 年間授業/Yearly	237
【C3020】	研究会 A [長峰 登記夫] 年間授業/Yearly	239
【C3022】	研究会 A [西城戸 誠] 春学期授業/Spring	241
【C3022】	研究会 A [西城戸 誠] 秋学期授業/Fall	242
【C3023】	研究会 A [根崎 光男] 年間授業/Yearly	244
【C3024】	研究会 A [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	245
【C3025】	研究会 A [日原 傳] 年間授業/Yearly	247
【C3026】	研究会 A [平野井 ちえ子] 年間授業/Yearly	248
【C3027】	研究会 A [藤倉 良] 年間授業/Yearly	249
【C3028】	研究会 A [金藤 正直] 年間授業/Yearly	250
【C3029】	研究会 A [松本 倫明] 年間授業/Yearly	252
【C3030】	研究会 A [宮川 路子] 年間授業/Yearly	254
【C3031】	研究会 A [宮川 路子] 年間授業/Yearly	256
【C3034】	研究会 A [渡邊 誠] 年間授業/Yearly	258
【C3035】	研究会 A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	259
【C3036】	研究会 B [杉戸 信彦] 年間授業/Yearly	261
【C3037】	研究会 B [齊藤 安希子] 年間授業/Yearly	262
【C3038】	研究会 B [梶 裕史] 年間授業/Yearly	263
【C3039】	研究会 B [北川 徹哉] 年間授業/Yearly	265
【C3040】	研究会 B [ESTHER STOCKWELL] 年間授業/Yearly	266
【C3043】	研究会 B [武貞 稔彦] 年間授業/Yearly	268
【C3047】	研究会 B [長峰 登記夫] 年間授業/Yearly	269
【C3048】	研究会 B [根崎 光男] 年間授業/Yearly	271
【C3049】	研究会 B [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	272
【C3052】	研究会 A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	273
【C3054】	研究会 B [永野 秀雄] 春学期授業/Spring	275
【C3055】	研究会 B [日原 傳] 秋学期授業/Fall	276
【C3060】	研究会 B [渡邊 誠] 年間授業/Yearly	277

【C3062】	研究会 B [金藤 正直] 年間授業/Yearly	278
【C3064】	研究会 B [山崎 真之] 年間授業/Yearly	280
【C3072】	研究会 A [赤羽 悠] 年間授業/Yearly	281
【C3073】	研究会 A [横内 恵] 年間授業/Yearly	283
【C3074】	研究会 A [佐伯 英子] 年間授業/Yearly	284
【C3075】	研究会 A [湯澤 規子] 年間授業/Yearly	285
【C3076】	研究会 A [吉永 明弘] 年間授業/Yearly	286
【C3077】	研究会 B [杉野 誠] 年間授業/Yearly	287
【C3078】	研究会 B [金光 秀和] 年間授業/Yearly	289
【C3081】	研究会 B [横内 恵] 年間授業/Yearly	290
【C3083】	研究会 B [佐伯 英子] 年間授業/Yearly	291
【C3085】	研究会 B [湯澤 規子] 年間授業/Yearly	292
【C3087】	研究会 B [吉永 明弘] 年間授業/Yearly	293
【C3092】	研究会 B [小島 聡] 年間授業/Yearly	294
【C3093】	研究会 B [杉野 誠] 年間授業/Yearly	296
【C3094】	研究会 B [金光 秀和] 年間授業/Yearly	297
【C3095】	研究会 B [高田 雅之] 年間授業/Yearly	299
【C3100】	研究会修了論文 [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	300
【C3103】	研究会修了論文 [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	301
【C3104】	研究会修了論文 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	302
【C3105】	研究会修了論文 [土屋 志穂] 秋学期授業/Fall	303
【C3106】	研究会修了論文 [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	304
【C3107】	研究会修了論文 [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	305
【C3109】	研究会修了論文 [小島 聡] 秋学期授業/Fall	306
【C3110】	研究会修了論文 [ESTHER STOCKWELL] 秋学期授業/Fall	307
【C3113】	研究会修了論文 [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	308
【C3115】	研究会修了論文 [辻 英史] 秋学期授業/Fall	309
【C3116】	研究会修了論文 [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	310
【C3117】	研究会修了論文 [長峰 登記夫] 秋学期授業/Fall	311
【C3118】	研究会修了論文 [西城戸 誠] 秋学期授業/Fall	312
【C3119】	研究会修了論文 [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	313
【C3120】	研究会修了論文 [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	314
【C3121】	研究会修了論文 [日原 傳] 秋学期授業/Fall	315
【C3122】	研究会修了論文 [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	316
【C3123】	研究会修了論文 [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	317
【C3124】	研究会修了論文 [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	318
【C3125】	研究会修了論文 [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	319
【C3127】	研究会修了論文 [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	320
【C3128】	研究会修了論文 [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	321
【C3130】	研究会修了論文 [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	322
【C3131】	研究会修了論文 [赤羽 悠] 秋学期授業/Fall	323
【C3133】	研究会修了論文 [横内 恵] 秋学期授業/Fall	324
【C3134】	研究会修了論文 [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	325
【C3135】	研究会修了論文 [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	326
【C3136】	研究会修了論文 [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	327
【C3150～】	コース修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	328
【C3160～】	プログラム修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	329
【C3200】	人間環境セミナー [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	330
【C3201】	人間環境セミナー [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	331
【C3204】	人間環境セミナー [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	332
【C3300～】	フィールドスタディ [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	333
【C3301～】	フィールドスタディ [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	334
【C3454】	SCOPE Seminar [伊藤 弘太郎] 秋学期授業/Fall	335
【C3455】	SCOPE Seminar [竹原 正篤] 秋学期授業/Fall	336
【C3457】	SCOPE Seminar [伊藤 弘太郎] 春学期授業/Spring	337
【C3458】	SCOPE Seminar [竹原 正篤] 春学期授業/Spring	338
【C3459】	SCOPE Seminar [吉田 秀美] 秋学期授業/Fall	339

【C3460】 SCOPE Seminar [吉田 秀美] 春学期授業/Spring	340
【C3461】 SCOPE Seminar [SHAMIK CHAKRABORTY] 秋学期授業/Fall	341
【C3462】 SCOPE Seminar [SHAMIK CHAKRABORTY] 春学期授業/Spring	342
【C3700～】 Field Workshop [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	343
【C3701～】 Field Workshop [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	344
【C3750】 Co-creative Workshop A I [竹原 正篤] 秋学期授業/Fall	345
【C3751】 Co-creative Workshop A II [竹原 正篤] 春学期授業/Spring	346
【C3752】 Co-creative Workshop B I [吉田 秀美] 秋学期授業/Fall	347
【C3753】 Co-creative Workshop B II [吉田 秀美] 春学期授業/Spring	348

LAW200HA

民事法 I

中川 義宏

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に契約法と不法行為法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争を解決する際の拠り所となる民法について、主に契約法と不法行為法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第 2 回	民法入門	民法の全体構造を概観し、民法の体系的な理解を図る。
第 3 回	民法総則 (1)	民法の総則規定である、権利の主体（自然人・法人）、物、意思表示による権利変動について学習する。
第 4 回	民法総則 (2)	民法の総則規定である、意思表示の瑕疵（心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）、契約の不当性について学習する。
第 5 回	民法総則 (3)	民法の総則規定である、無効と取消し、代理、時効について学習する。
第 6 回	物権	民法の「物権法」と呼ばれる領域に関し、物権の意義と種類、物権変動、占有権・所有権について学習する。
第 7 回	担保物権	民法の「担保物権法」と呼ばれる領域に関し、担保物権の意義と種類、抵当権について学習する。
第 8 回	債権総論	民法の「債権法」と呼ばれる領域に関し、債権関係とその内容、債務の不履行、弁済、相殺、債権譲渡、保証債務について学習する。
第 9 回	契約 (1)	民法を理解するうえで大切な「契約法」と呼ばれる領域に関し、契約の意義と種類、契約の成立、契約の解除について学習する。

第 10 回 契約 (2)

民法に規定された「典型契約」のうち、贈与、売買、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用について学習する。

第 11 回 事務管理・不当利得

民法の「事務管理」、「不当利得」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨について学習する。

第 12 回 不法行為 (1)

民法の「不法行為法」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨、要件について学習するとともに、プライバシー侵害、名誉棄損に関する裁判例を概観する。

第 13 回 不法行為 (2)

民法の「不法行為」の一類型である、使用者責任、工作物責任、製造物責任について学習する。

第 14 回 試験及び解説

試験を実施し、その解説をしながら、民事法 I の総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

民法（全）【第 2 版】（著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600 円＋税）。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第 14 回目に期末試験を行い（実施できない場合は期末レポート）、成績評価はこの期末試験（又は期末レポート）と平常点（小レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験（又はレポート課題）50 点、平常点 50 点の 100 点満点のうち 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly contract law and tort law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid term report (50%), term end examination (50%), and in class contribution

LAW200HA

民事法Ⅱ

中川 義宏

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法的一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に親族法と相続法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争・家事紛争を解決する際の拠り所となる民法の中の親族法と相続法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法・家族法入門	民法の全体構造を概観し、その中の家族法（親族法と相続法）の基礎を学習する。
第3回	親族・戸籍と氏	民法の「親族法」と呼ばれる領域に関し、その基本的概念となる親族、戸籍と氏の考え方について学習する。
第4回	婚姻(1)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の意義、婚姻の成立要件、婚姻の効果について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第5回	婚姻(2)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の無効と取消し、夫婦財産制について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第6回	離婚、内縁・事実婚	民法が規定する親族法のうち、離婚の方法（協議離婚、調停離婚等）、内縁・事実婚の意義について学習するとともに、離婚に関する裁判例を概観する。
第7回	親子（実親子関係）(1)	民法が規定する親族法のうち、実親子関係（母子関係、父子関係）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。
第8回	親子（実親子関係）(2)	民法が規定する親族法のうち、嫡出子、婚外子（非嫡出子）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。

第9回	養子	民法が規定する親族法のうち、養子の種類（普通養子、特別養子）、養子縁組の要件と効果、離縁について学習する。
第10回	親権、後見・保佐・補助、扶養	民法が規定する親族法のうち、親権の内容、制限行為能力（未成年・後見・保佐・補助）の制度、扶養について学習する。
第11回	相続の開始と相続人、相続の効力	民法が規定する相続法のうち、相続の開始と相続人、相続の効力（相続財産の包括承継、遺産共有、相続分、遺産分割）について学習する。
第12回	遺言、遺贈	民法が規定する相続法のうち、遺言制度と遺言の方式（自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言）、遺言の執行、遺贈について学習するとともに、遺言に関する裁判例を概観する。
第13回	配偶者居住権、遺留分	民法が規定する相続法のうち、配偶者居住権、遺留分の意義について学習するとともに、遺留分に関する裁判例を概観する。
第14回	試験及び解説	試験を実施し、その解説をしながら、民事法Ⅱの総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

民法(全)【第2版】(著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円+税)。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い（実施できない場合は期末レポート）、成績評価はこの期末試験（又は期末レポート）と平常点（小レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験（又はレポート課題）50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly family law and inheritance law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).

LAW200HA

国際法 I

鈴木 孟

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、独立平等な主権国家群から成る国際社会において妥当し、ゆえにそのような国際社会の特徴を反映した独自の法体系である。春学期の「国際法 I」（総論）、秋学期の「国際法 II」（各論）を通じて、国際法の基本事項を一通り学ぶ。総論では、①法源論、②国際法の主要な法主体である国家に関わる基本事項（国家責任法を含む）の2点を中心に学ぶ。総論と各論は不可分一体であり、年間を通して、国際社会で日々生起する様々な国際問題を理解し分析するための一視点を養う。

【到達目標】

国際法の基本的特徴を説明できるようになる。国際法 II と併せて受講することにより、国際問題に関するメディアの報道を国際法の視点から理解し、批評できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

特段の指示が無い限り、基本的に対面での授業とする。必要に応じて問いかけを行いながらの講義を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義に関する説明、国際法の特徴、国際法の調べ方
第 2 回	法源 (1)	法源の意義、慣習国際法、条約
第 3 回	法源 (2)	法の一般原則、判例と学説、その他
第 4 回	条約法	条約の定義、条約締結手続、条約に対する留保、条約の効力、条約の解釈、条約の終了及び運用停止
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国際法主体	法主体性の概念、各法主体について（国家、国際組織、個人）
第 7 回	国家と国際機関	国家承認、政府承認、国家承継、外交関係法
第 8 回	国家管轄権 (1)	国家管轄権の意義と分類、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合と調整
第 9 回	国家管轄権 (2)	国家免除（主権免除）
第 10 回	国家領域 (1)	領域と領域主権、領域権原
第 11 回	国家領域 (2)	領域紛争の解決、日本の領域紛争
第 12 回	国家責任法 (1)	国家責任の観念、国家責任の発生要件、違法性阻却事由
第 13 回	国家責任法 (2)	国際請求の提起（対世的義務、外交的保護）、国家責任の解除（救済）
第 14 回	試験	書き込みのない条約集のみ持ち込み可（線引きは可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・小寺彰、岩沢雄司、森田章夫（編）『講義国際法〔第 2 版〕』（有斐閣、2010 年）

・植木俊哉、中谷和弘（編）『国際条約集 2022 年版』（有斐閣、2022 年）

（条約集は何年度の版でもよい）

【参考書】

・森川幸一、兼原敦子、酒井啓亘、西村弓（編）『国際法判例百選〔第 3 版〕』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

新規に担当するため特にありません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Being valid in the international society composed of independent and equal sovereign States, international law is a unique legal system that reflects such characteristics of that society. Together with the autumn course “International Law II” (Special Part), this course aims to look through most of the fundamental matters in international law. This spring course (General Part) mainly deals with the following two points: (1) sources of international law and (2) fundamental matters on States, which are the main legal subject in international law, including the law of State responsibility. General Part and Special Part being closely interconnected, students are expected, throughout the year, to enhance their ability to understand and analyze various international problems that arise on a daily basis in the international society.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students should be able to explain the fundamental characteristics of international law. Also taking the autumn course “International Law II” (Special Part), they can acquire the skills in understanding and criticizing the media news on international problems from the perspective of international law.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on your performance in the term-end examination alone. (Term-end examination: 100%)

LAW200HA

国際法Ⅱ

鈴木 孟

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【G】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、独立平等な主権国家群から成る国際社会において妥当し、ゆえにそのような国際社会の特徴を反映した独自の法体系である。春学期の「国際法Ⅰ」（総論）、秋学期の「国際法Ⅱ」（各論）を通じて、国際法の基本事項を一通り学ぶ。各論では国際法の各個別分野を扱うが、国際法の規律対象が国家間関係から個人へと拡大されてきた態様を理解しやすくするため、前半（武力紛争法（1）まで）では主として国家間関係を規律する法分野、後半（武力紛争法（2）から）では個人に関わる法分野を扱う。なお国際環境法は別授業として開講される。総論と各論は不可分一体であり、年間を通して、国際社会で日々生起する様々な国際問題を理解し分析するための一視点を養う。

【到達目標】

国際法の各個別分野につき、基本的な内容や制度を説明できるようになる。国際法Ⅰと併せて受講することにより、国際問題に関するメディアの報道を国際法の視点から理解し、批評できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

特段の指示が無い限り、基本的に対面での授業とする。必要に応じて問いかけを行いながらの講義を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義に関する説明
第2回	海洋法(1)	歴史、内水、領海、接続水域
第3回	海洋法(2)	排他的経済水域、大陸棚、公海、深海底、紛争解決
第4回	国際公域	南極、空域、宇宙
第5回	紛争の平和的解決(1)	国際社会における紛争解決、非裁判手続（交渉、周旋、審査、調停）
第6回	紛争の平和的解決(2)	裁判手続（仲裁裁判、司法裁判）
第7回	武力行使の規制と国際安全保障(1)	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権
第8回	武力行使の規制と国際安全保障(2)	PKO、軍縮・軍備管理
第9回	武力紛争法（国際人道法）(1)	ハーグ法
第10回	武力紛争法（国際人道法）(2)	ジュネーブ法
第11回	国際人権法	国際人権保障の歴史と概観、履行確保制度、人道的介入
第12回	国際刑事法(1)	犯罪人引渡、諸国の共通利益を害する犯罪
第13回	国際刑事法(2)	個人の国際犯罪（国際刑事裁判の展開）
第14回	試験	書き込みのない条約集のみ持ち込み可（線引きは可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・小寺彰、岩沢雄司、森田章夫（編）『講義国際法〔第2版〕』（有斐閣、2010年）
・植木俊哉、中谷和弘（編）『国際条約集 2022年版』（有斐閣、2022年）
（条約集は何年度の版でもよい）

【参考書】

・森川幸一、兼原敦子、酒井啓亘、西村弓（編）『国際法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2021年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

新規に担当するため特にありません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Being valid in the international society composed of independent and equal sovereign States, international law is a unique legal system that reflects such characteristics of that society. Together with the spring course "International Law I" (General Part), this course aims to look through most of the fundamental matters in international law. This autumn course (Special Part) deals with individual specific fields of international law, the first half thereof (up to the law of armed conflict (1)) focusing on the fields that mainly govern the relationship between States, while the latter half (from the law of armed conflict (2) onward) dealing with those that approach individuals. Such a structure of this course helps students to understand the gradual extension of the subject-matter of international law, which is no longer limited to the relationship between States. Note that international environmental law is specifically dealt with in a different, independent course. General Part and Special Part being closely interconnected, students are expected, throughout the year, to enhance their ability to understand and analyze various international problems that arise on a daily basis in the international society.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students should be able to explain the basic contents and regimes of individual fields of international law. Also taking the spring course "International Law I" (General Part), they can acquire the skills in understanding and criticizing the media news on international problems from the perspective of international law.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on your performance in the term-end examination alone. (Term-end examination: 100%)

POL200HA

市民社会と政治

長島 美紀

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「政治に興味がない」「自分とのつながりが分からない」そんなコメント聞くことがあります。果たして本当にそうでしょうか？ 私たちの日常は「政治」と密接にかかわっています。それはちょっとした疑問や要望から始まり、あなたの暮らす地域の町内会、市町村、県、国、そして国際社会へとつながる、大きなつながりです。

本講義（授業）では、市民社会における様々なテーマにおける「政治のあり方」について考えていきます。テーマは持続可能な開発目標（SDGs）のゴールから毎回1つ選び、授業でディスカッションします。

授業を通じてぜひ政治を自分ゴトとして考えてもらうことを目的とします。

【到達目標】

私たちの日常で感じる疑問を社会課題とつなげて考え、議論する力を身につけることができる。

授業でのディスカッションを通じて、他の学生の意見をきくことでより自分の意見を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では毎回テーマに沿って講師からの講義とその後受講生同士の映像やレジュメ、パワーポイントを使った論点の提示の後、授業内で小グループに分かれ、テーマに沿ってディスカッションと発表を行います。

授業内での発表は必須ではありませんが、みなさんの積極的な参加を期待しています。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

毎回終了後にリアクションペーパーの提出があります。毎回授業の初めにリアクションペーパーを見ながら、振り返りを行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 「アドボカシーとは何か」	アドボカシーとはどのような活動を指すのでしょうか？ 市民社会と政治をつなぐ「アドボカシー」を考えます。
第2回	わたしたちの人生と政治	わたしたちの生活は政治と密接にかかわります。わたしたちの人生から政治とのかかわりを考えます。
第3回	SDGsと市民社会「なぜ今「続かない」社会なのか」	持続可能な開発目標（SDGs）という言葉が良く聞かれるようになりました。授業でテーマで取り上げる前に、そもそもSDGsとは何か、SDGsにおける市民社会の役割を考えます。

第4回	SNS、インターネットが変える世界	SNSやインターネットはわたしたちの生活を一変させました。情報を得る手段はどう変化したか考えます。
第5回	貧困とは何か	日本でも聞かれるようになった貧困・格差の問題。相対的貧困、コロナによる非正規労働者の失業とその対策について考えます。
第6回	ジェンダー平等「女性が輝く社会」とは	#Me Tooは私たちの問題でもあります。#Me Tooや最近のSNSでの炎上テーマを通じて私たちの生きやすさ、社会の包摂を考えます。
第7回	フードロス問題を考える	最近よく聞かれるフードロス問題。フードロスの根本課題と市民社会の役割を考えます。
第8回	エシカル消費とは何か	「エシカル消費」という言葉が良く聞かれる一方、このエシカル消費は何を意味するのでしょうか？消費を通じて私たちは社会をどう変えられるのでしょうか？
第9回	ディーセントワーク	「人間としての尊厳ある働き方」に注目が集まっています。同一労働同一賃金の方で、コロナによる非正規雇用者の失業など、雇用環境は厳しいのが現状です。働くとはどういうことか、考えます。
第10回	差別はなぜ起きるのか	2020年はBlack Lives Matter問題に見られるように、コロナ禍での持たざる者への差別が起きました。差別はなぜ起きるのか、日本での問題は何か、考えます。
第11回	地球規模の感染症対策	COVID-19は日本で医療崩壊や地域医療のあり方への疑問を投げかけました。望ましい医療体制とは何でしょうか？
第12回	「自粛警察」「買い占め騒動」から考える	コロナ禍で問題になった「自粛警察」。私たちが正しい判断を持ち、行動するにはメディアの情報を正しく判断する必要があります。自粛警察などを事例に問題を考えます。
第13回	民主主義を考える ポストトゥルースの時代	ポストトゥルースはトランプ政権の時に言われるようになりました。私たちは情報をいかに知り、判断すべきでしょうか？メディアの役割は？改めて情報と市民社会の関係を考えます。
第14回	民主主義を考える	2020年のアメリカ大統領選挙とその後の混乱は、民主主義への大きな課題を突き付けました。民主主義とは何か、そして今日本を含め世界各地で生じているポピュリズムは何でしょうか？そしてこの流れは市民社会にどう影響するのか、考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

[準備学習] 事前に次回講義のテーマとディスカッションテーマ、および必要に応じて参考文献を提示。

[復習] 授業終了後に講義のコメントをオンライン提出。

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Preparation] The theme of the next lecture and discussion topics will be presented in advance, and reference materials will be provided as necessary.

[Review] After the class, students will submit comments on the lecture online. Comments will be shared and reviewed in the next class.

【テキスト（教科書）】

特になし
Not specified

【参考書】

一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク編『基本解説 そうだったのか。SDGs 2020 —我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダから、日本の実施指針まで—』（2020 年、一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク）
詳細は以下参照のこと。https://www.sdgs-japan.net/shop-1

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）、リアクションペーパーの提出やディスカッションへの参加度（30 %）、試験（60 %）により総合的に評価します。

The overall evaluation will be based on the following criteria: ordinary points (10%), participation in reaction papers and discussions (30%), and examinations (60%).

【学生の意見等からの気づき】

学生のコメントを反映しながら授業を設計します。
関心のあるテーマに配慮しながら講義は設計します。

The class will be designed while reflecting on student comments.

Lectures will be designed while taking into consideration the topics of interest.

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、通信環境
PC, internet access

【その他の重要事項】

授業は場合によってテーマが変更されたり、講義の順番が入れ替わることがあります。その場合は変更となる回の前までにお伝えします。
In some cases, the theme of the class may be changed, or the order of the lectures may be switched. If this happens, you will be informed before the class.

【Outline (in English)】

In this course, you can learn about social agendas in civil society, such as poverty, aging, gender, depopulation, racism, etc., and discuss the role of politics to solve these agendas. Politics relates closely with our daily life, so I expect you to deepen your thoughts about civil society and its possibility to change the world.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The overall evaluation will be based on the following criteria: ordinary points (10%), participation in reaction papers and discussions (30%), and examinations (60%).

POL200HA

行政学

林 嶺那

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】

主催：法

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。国際比較や公民の対比も適宜、実施する。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる 26 のトピックを、1 回の授業で 1 つずつ取り上げ、逐次解説を行う。以上を通じて、行政学を構成する制度論、政策論、管理論という 3 つの領域をカバーする。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の冒頭でフィードバックを行う。2 度のレポート課題と、年度末に 1 度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第 2 回	官僚制①	官僚制の諸モデルについて論じる。
第 3 回	官僚制②	政官関係について論じる。
第 4 回	議院内閣制と大統領制	議院内閣制と大統領制の下での行政の位置づけについて論じる。
第 5 回	公務員制度とその運用	公務員の採用・昇進・配置について論じる。
第 6 回	省庁	日本の中央省庁を中心とした行政組織について論じる。
第 7 回	予算編成	予算の編成プロセスについて論じる。
第 8 回	地方自治①	地方自治の諸アクターについて論じる。
第 9 回	地方自治②	政府間関係について論じる。
第 10 回	政府と市場	政府と市場の関係性について論じる。
第 11 回	ガバナンス	統治をめぐるアクター間の関係性について論じる。
第 12 回	政策類型	政策の類型について論じる。
第 13 回	アジェンダ設定	アジェンダ設定の理論と実証について論じる。
第 14 回	政策決定①	政策決定と合理性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読 15 分、新聞閱讀毎日 15 分 × 7 日 = 115 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

真淵勝（2020）『行政学 [新版]』有斐閣、定価 4290 円

【参考書】

講義のなかにおいて、必要に応じて適宜、言及する。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー（10%）

課題レポート（20%）

定期試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン受講できるようなデバイス／周辺環境。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan. The lecture will also include international comparisons and civic contrasts as needed.

POL100HA

国際関係論

千坂 知世

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際関係論は、国家間の戦争を回避し、平和裏に紛争を解決するための知恵を探るための学問である。今日では、国家間の協力だけでなく、国家と様々な勢力との協働を実現するための課題が生じている。本授業では、それらのイシューについて、国際関係論の分析枠組みに基づいて理解していくことを目的とする。

【到達目標】

1、国際関係論の研究分野における主要なテーマを2つ以上取り上げ、初歩的な説明ができる。

2、国際関係論の各テーマに関連するキーワードを3つ以上取り上げ、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業は講義形式で行う。各回特定のテーマを取り上げ、講義する。配布するレジュメの他に口頭で多くの情報を伝えるため、受講生は各自で情報を整理し講義ノートを作成していくことが期待される。
・各回のテーマは受講生の関心に応じて変更する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	ガイダンス、主権国家体系とは何か
第2回	国際体系史①	主権国家体系の生成
第3回	国際体系史②	主権国家体系の拡大
第4回	国際体系史③	国民国家化
第5回	国際体系史④	大戦後の変容
第6回	国際関係の理論①	アナーキーと国際政治
第7回	国際関係の理論②	制度（総論）
第8回	国際関係の理論②	制度（各論）
第9回	国際関係の理論③	規範
第10回	協調と対立①	国際交流と相互依存
第11回	協調と対立②	国内政治体制と国際関係
第12回	協調と対立③	地域主義
第13回	協調と対立④	対外政策決定と外交
第14回	越境的世界	内戦

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

・授業で行った範囲をよく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

山影進（2012）『国際関係論講義』東京大学出版会

砂原庸介他（2015）『政治学の第一歩』有斐閣、第10章～第12章

小川浩之（2018）『国際政治史』有斐閣

その他、授業時に参考文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

・期末試験 100%。

- ・国際関係論の研究で用いられるキーワードや重要な 이슈について基本的な理解ができていのかを評価基準とする。
- ・成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

International Relations is a discipline to seek an idea of how to avoid interstate wars and to peacefully solve interstate conflicts. Students taking this course are expected to understand various methods of interstate cooperation as well as relationships between states and various non-state actors. This introductory course provides a concept and basic analytical framework for students to deepen their understanding of the main issues in the field of International Relations.

Students are expected to read materials recommended during the class.

Grading criteria: final exam(100%)

LAW200HA

アメリカ法の基礎

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【グ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

【到達目標】

学生が、この授業をとおして、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、社会問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。この後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

なお、本授業は、対面授業として実施される予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第 2 回	連邦制度	特に憲法、軍隊等をもつ州政府について
第 3 回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第 4 回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第 5 回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第 6 回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第 7 回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第 8 回	信教の自由	信教の自由の限界と国教樹立の禁止
第 9 回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第 10 回	法の下での平等（1）	人種差別の規制
第 11 回	法の下での平等（2）	男女差別等の規制
第 12 回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制の特徴
第 13 回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第 14 回	これまでの学びの振り返りと授業内試験	これまで学んだ内容について振り返った後、授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布するか、Hoppi で PDF ファイルとして配布します。

【参考書】

松井茂記『アメリカ憲法入門（第8版）』（有斐閣、2018年）。

【成績評価の方法と基準】

第14回に対面で実施する授業内試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、アメリカ法に興味を持って頂ける授業をしていきたいと思えます。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This course will give you the fundamental principles that comprise the American legal system. We will examine the United States Constitution, centering on the issues of the federal government and civil rights. For each issue we will learn important judicial precedents.

< Learning Objectives >

The goals of this course is to understand the basic system of American law, and, through the cases of the United States, to understand various approaches to solving social and legal problems.

< Learning Activities outside of Classroom >

Students will be expected to prepare and review using the prints distributed in each class. Please study basic terms and legal logic with those prints. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

The grades of this subject will be evaluated by the in-class examination conducted in the 14th class (100%).

POL200HA

地方自治論**阿部 慶徳**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方自治の基礎を学ぶことにより、他の自治体政策に関する科目を理解できるようになることを目的とする。地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【到達目標】

他の自治体政策に関する科目を理解できるように、地方自治に関連する基礎知識を幅広く学習する。このことにより、地方自治体が様々な公共サービスを提供し、自らの生活といかに関連しているかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に対面で授業を行う。映像や新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを伝える。また、取り扱った内容に関連して、適宜リアクションペーパーの提出を求める場合がある。授業に対する質問に関し、クラス全体に共有した方が良い内容については、全受講者に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせするので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	地方自治の理念・基本的な考え方	地方自治の理念の重要性や、地方自治がなぜ必要なのかを講義する。
2回	地方自治の基本制度	二層制、行政機構・公務員、広域行政、指定都市・中核市制度など、基本的な制度の解説する。
3回	政府間関係と地方分権	国と地方政府としての都道府県、市町村の関係や、地方分権がどのように進展したかを解説する。
4回	地方財政	中央政府と比較して、地方政府の財政がいかに運営されているのかを解説する。
5回	法令と条例・規則・要綱	中央政府が制定する法律の範囲内で、地方政府がいかに条例などを制定して自治体行政を運営しているかを解説する。
6回	直接請求権・市民参加	自治体に対して認められている直接請求権制度について解説するほか、同制度を利用した市民参加などについても講義する。
7回	自治体とNPO等との協働	様々な行政課題に対し、NPOや地域社会との協働がいかになされているのか、またその課題について解説する。
8回	自治体の政策体系と行政サービス	自治体の政策が、各行政分野ごとにいかに異なり、自治体内で「調整」されているのかを解説する。

9 回	地方自治と地域社会の 今日の問題のトピック	実際の社会現象を取り上げ、今までの講義で学んできた地方自治論の観点からどのような分析が可能なかを解説する。
10 回	個別行政（子ども・子育てで支援政策）	国や自治体の子ども・子育て支援政策について解説する。
11 回	個別行政（学校教育）	国や自治体の学校教育に関する政策や制度を解説する。
12 回	個別行政（高齢者福祉）	国や自治体の高齢者福祉に関する政策や制度を解説する。
13 回	現代の地方自治の課題	現在の地方自治の課題を、今までの講義をふまえて解説し、1 - 12 回の講義のまとめを行う。
14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。
講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努めること。
自分の住んでいる自治体の財政状況などを調べること。
日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につけること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。プリントなどは学習支援システム上で配布する。

【参考書】

特に参考書は指定しない。必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（70 %）に授業内の小レポート・リアクションペーパーの提出状況等（30 %）を加味し、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に対面で授業を行うので、適宜質問の時間を設ける。また、メール等を通じた質問も歓迎する。地方自治に関心が持てるよう、身近なニュース等をお伝えするよう努める。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to learn the basics of local autonomy so that you can understand subjects related to other lectures of local government policies.

It is aim in this lecture to acquire the basic knowledge to be involved as taxpayers in the local government and to think it independently as citizens.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students will be expected to have read the relevant newspaper articles to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, Short reports : 30%

LAW200HA

憲法の基礎

塚林 美弥子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の基本原理、ものの見方、そして立憲主義とは何かを理解し、「憲法に基づいたものの見方」を養うことが本授業の目標です。これは公的空間に参与するために必要な一つの見識です。そもそもなぜそのような力が求められるかを併せて学びましょう。

【到達目標】

- 1) 日本国憲法の基本原理、ものの見方を理解する。
- 2) 自身の見解を論理的に表現する。
- 3) 日常に潜伏する「憲法問題」を見抜く力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書や参考書のほか、項目ごとにレジュメや資料をもとに解説を行う。但し、担当者の一方通行の授業にならぬよう、授業内で受講生に発言を求めるほか、授業後に感想などを提出してもらい可能性もあります。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
オリエンテーション	憲法とは何か？	講義担当者の自己紹介、講義の進め方と講義内容の全体像についての説明等に加え、そもそも憲法とは何かを学びます。法律との違いがわかればさしあたり OK です。
国民民主権	国民民主権と天皇の地位	日本国憲法の基本原理の一つとしてなぜ「主権」が拵がるのか、憲法成立の歴史的経緯を含めて学びます。
平等(1)	憲法上の平等について	憲法上の「平等」とはなにか、具体的判例を用いて学びます。とくに第 24 条の制定に奔走したベアテの思想を追います。
平等(2)	(1) の続き	判例の検討
思想良心の自由	思想良心の自由について	個人の良心や信仰がなぜ憲法上保障されるのか、具体的判例を用いて学びます。とくに「学校」で生じる問題を扱います。
表現の自由	表現の自由について	表現の自由はなぜ憲法上保障されるのか、「保護されない」言論はあるのか、争点を整理します。
人身の自由	人身の自由について	将来の裁判員候補である受講生が、憲法的に考えるべきことは何であるかを学びます。
経済的自由	職業選択の自由・財産権について	経済的諸権利が保障される根拠と同時に、制限される場面がいくつあるものかを検討します。
生存権(1)	社会権という権利の性質について	「貧困は自己責任」なのか。憲法によって保障されるべき「健康で文化的な最低限度の生活」について、判例も交えながら憲法的に考えます。

生存権 (1) の続き (2)	(1) の続き・判例の検討
平和主義 (1) の続き	日本国憲法の「平和主義」の世界史的意義を理解し、判例や学説を通じて、とくに「平和的生存権」について学びます。
平和主義 (1) の続き (2)	(1) の続き・判例の検討
総括・これまでの授業内容の 憲法改正 総括 正 (1)	受講生の疑問点を解消しつつ、憲法改正について考えます。
総括 (1) の続き	(1) の続き・判例の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

項目ごとに教科書を一読し、何がわかるか／わからないかを整理してください。

日々のニュースを新聞やネットの記事などを通じてチェックしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

斎藤久・城野一憲編『教職のための憲法』（ミネルヴァ書房、2020年）

【参考書】

岡田順太・淡路智典・今井健太郎編『判例キーワード憲法』（成文堂、2020年）

安念 潤司/小山 剛/青井 未帆/宍戸 常寿/山本 龍彦・編『憲法を学ぶための基礎知識 論点日本国憲法』（第2版）など。

適宜、授業を通じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験… 65 %

授業への参加度… 35 %

※受講者数や新型コロナウイルス感染拡大に伴う大学の方針などに従い、一部変更（中間レポートの作成など）が生じる可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

全面オンラインの方針を採用した場合であっても、適宜、担当者が大学に赴き学生の質問対等に応じることを検討しています。

但し、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて変更の可能性があります。

【学生が準備すべき機器他】

担当者が容易するレジュメや資料を各自印刷して臨んでください。

【その他の重要事項】

受講者数や新型コロナウイルス感染拡大による大学の方針により、授業内容や成績評価の実施方法など一部変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

To understand the essence and the function of Constitutional law.

At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Constitution, discuss the role of laws.

Class attendance and attitude in class: 35%

Term-end examination: 65%

LAW200HA

刑法の基礎

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律（公的ルール）のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなものでしょうか。この授業では、これらについて具体的な事例をつづじて、刑法のわたしたちの社会における意義と役割とをまなびます。

現在、わたしたちは、様々な「分断」に直面しています。国と国との間で、また社会においても人種、思想、地域、年代、収入等のちがいがから、意見や価値観の深刻な対立が生じています。対立する相手を「敵」とみて、徹底的にはげしく罵倒したり、排除しようとする動きが SNS 等でもみられます。こうした「分断」は、場合によっては大きな紛争にも発展し、大勢の人々の心身に大きな被害をも生じさせかねません。こうした「分断」を解消するには、どうしたらよいのでしょうか。それには、対立する相手とは絶対に分かりあえないとあきらめるのではなく、相手の立場も尊重し、その意見にも耳をかたむけて、その価値観を理解しようとする、対話を重ねることが必要なのではないでしょうか。

犯罪の加害者と、その被害者（遺族含む。）及び被害者に同情・共感する多くの人々との間でも、深刻な「分断」が生じているように思えます。加害者は、ルールに反し、被害者を生み出した以上、ともかく、重く罰すべきだ。それにもかかわらず、法では、加害者をさばけなかったり、軽い処罰しかなされなかったりするときがある。法は加害者に甘すぎる！このように考える人も少なくないのではないのでしょうか。犯罪の被害者に同情・共感することは、もちろん大切です。しかし、だからといって、その加害者を「敵」として、とにかく重く罰しさえすれば、社会はよくなるのでしょうか。加害者の立場・境遇にも思いをはせ、その言い分にも耳をかたむけることも必要なのではないのでしょうか。また、法が加害者に「甘い」ようにみえるとしても、それはなぜなのでしょう。そして、それは本当に不当な「甘さ」なのでしょうか。

これらのことを考えるためには、刑法の意義・役割、またその原則の下で、どのような場合に「犯罪」が成立し、また「刑罰」が科されるのか。このことをきちんと理解する必要があります。その理解をせずに、ともかく加害者がわるいのだ、として、これを徹底的に攻撃して社会から排除し、また加害者に「甘い」法には「不備」があるとして、犯罪の重罰化を一方向的に主張しようとするのは、果たして公正でしょうか。むしろ、社会における「分断」の1つを一層深めるだけではないのでしょうか。

この意味で、刑法の概要をまなぶことは、様々な「分断」を乗り越え、他の人と仲良く共存しながら、わたしたちの誰もが幸せに生きていく社会を築くためのヒントになるかもしれません。

【到達目標】

法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割・限界、刑罰の目的や刑法と他の法律との関係をふまえて、刑法の一般原則および犯罪の一般的・個別的な成立要件等や、さらにこれに関する判例（裁判所の判断）および学説の議論を理解し、これらの基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

レジュメには、[確認問題]・[検討問題]を適宜もうけます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解し、それを文章（言語）できちんと説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、原則として、対面授業となります。
 各回ごとに、アップされたレジュメを用いて、具体的事例について検討し、各回のテーマごとの理解をはかります。
 数回の小テストについては、回答期限後の授業ないし学習支援システムをつうじて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「刑法」とは何か。	法（律）の意義、法の体系および「刑法」の意義をまなぶ。
第 2 回	殺人罪①－犯罪の一般的な成立要件	犯罪の一般的成立要件および刑法における人の「生」と「死」をめぐる議論などをまなぶ。
第 3 回	殺人罪②－犯罪の故意・過失	犯罪の故意と過失、故意犯処罰の原則、責任主義などについてまなぶ。
第 4 回	殺人罪③－罪刑法定主義	胎児性致死傷と罪刑法定主義との関係などをまなぶ。
第 5 回	傷害罪	傷害の意義および傷害と傷害致死との関係（刑法の因果関係）などをまなぶ。
第 6 回	自殺関与・同意殺人罪	刑法における被害者の同意の意義および同意の有効性と刑法の最終手段性の原則との関係などをまなぶ。
第 7 回	安楽死・尊厳死	終末期医療における安楽死・尊厳死と刑法との関係などをまなぶ。
第 8 回	刑罰論	刑法の刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が市民に刑罰を科すことの正当な根拠をめぐる議論などについてまなぶ（Google ドライブで共有した録音を聴いてもらう形式にする予定）。
第 9 回	脅迫罪・強要罪・監禁罪、強制わいせつ罪・強制性交等罪	意思決定の自由、性的自由に対する罪の基礎をまなぶ。
第 10 回	住居侵入罪	住居権・住居の平穏に対する罪の基礎をまなぶ。
第 11 回	名誉毀損罪・侮辱罪 真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎および刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係をまなぶ。
第 12 回	財産に対する罪	財産に対する罪の共通原則および個別の犯罪の基礎をまなぶ。
第 13 回	放火罪・偽造罪	放火罪（公共危険犯）、偽造罪（取引の安全に対する罪）の基礎をまなぶ。
第 14 回	賄賂罪	汚職の罪（国家の作用に対する罪）の基礎をまなぶ（レジュメ対応とする予定）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメや刑法の参考書等で予習・復習をしてください。とくに復習時には配布レジュメ中の各事例や〔確認問題〕・〔検討問題〕を中心に理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

とくに指定はしません。おすすめの参考書は、開講時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業であつかった基礎知識を問う定期試験 80 %、数回の学習支援システム上での小テスト 20 %の総合評価でおこなう予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は録音聴講形式のオンライン授業でしたが、常に具体例を用いて説明がなされていたのでとても分かりやすく、より理解を深めることができたなどの感想もよせられました。

その一方で、授業開始当初には専門用語が難しすぎるといった指摘もありました。また、録音ならばわからないところは何度も聴いて理解を深められるが、対面授業であれば講義内容の補充が必要になる、といった意見もありました。

原則は対面授業となる本年度は、一層説明の仕方などに気を配りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウイルス感染予防の観点から、レジュメを印刷して直接配布することはしません。学習支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

また、第1回は対面・オンライン同時配信の併用、第8回は Google ドライブで共有した録音を聴いてもらう形式、第14回はレジュメ対応にする予定です。これらの点を含めて通信環境等の準備をお願いします。

【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民事法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目もあわせて履修しておくこと、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、秋学期開講の「環境法Ⅳ」（環境刑法）では、主として環境犯罪についてまなびます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解できます。

なお、刑法にかぎらず、法律学は、条文、判例、学説の理解が基本です。これらを十分に理解せずに、自分のこれまでの断片的な知識・経験による見解だけを一方的に主張しても、法律をまなだことにはなりません。受講にあたり、また定期試験受験時には、このことをよく理解しておいてもらいたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What kind of action is subject to punishment as a crime? What is the basic principle of criminal law to consider crime and punishment? We will learn it through concrete examples. And we will think the meaning and role of criminal law in society.

Learning criminal law may be a hint to overcome various divisions and build a society where everyone can live happily while coexisting with others.

【Learning Objectives】 Acquiring basic knowledge of criminal law is the goal of this class. [Confirmation question] and [Examination question] are described in the resume. At the end of this course, students are expected to understand answer and its reason for each question and to be able to explain them correctly in sentences.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:80%,mini exam:20%

LAW300HA

環境法 I**横内 恵**

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の主要分野の現在の法制度やそれをめぐる訴訟の基本的な内容を解説する。

【到達目標】

本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後的な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式で実施する。質問対応の機会については、履修者に対して、学習支援システムにおいてアナウンスを行う。

提出されたレポートからいくつかポイントを取り上げ、学習支援システムにおいて全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、	環境法とは何かについて、解説する 環境法の基本的な考え方
第 2 回	環境法の手法	当該テーマについて解説する
第 3 回	わが国の環境法の歴史 (1)	当該テーマについて解説する
第 4 回	わが国の環境法の歴史 (2)	当該テーマについて解説する
第 5 回	環境基本法	当該テーマについて解説する
第 6 回	大気汚染防止法	当該テーマについて解説する
第 7 回	水質汚濁防止法	当該テーマについて解説する
第 8 回	土壌汚染対策法	当該テーマについて解説する
第 9 回	環境アセスメント	当該テーマについて解説する
第 10 回	循環基本法・リサイクル法	当該テーマについて解説する
第 11 回	廃棄物処理法	当該テーマについて解説する
第 12 回	生物多様性基本法	当該テーマについて解説する
第 13 回	自然公園法	当該テーマについて解説する
第 14 回	まとめ	授業のまとめを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書の該当ページをよく読んでください。オンデマンド授業の教材が掲載されたら、スライドや解説ノートと教科書をよく読んでください。復習を兼ねて、レポート課題に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第5版〕』（弘文堂、2020年）。（本体 3,300 円＋税）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 45%、期末レポート 55%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「環境法Ⅲ」に先立って本講義を履修することを推奨します。履修に際しては、学習支援システムに掲載するオリエンテーション資料をよく読んでください。

【Outline (in English)】

Course outline : The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in environmental administrative law.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to gain a theoretical and comprehensive understanding of the role of law on various environmental issues.

Learning activities outside of classroom : The standard preparation and review time for this class is two hours each week.

Grading Criteria /Policy : Mid-term report (45%), Final report (55%).

LAW300HA

環境法Ⅱ

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点

第14回 環境問題に起因する風評被害訴訟
 環境問題に起因する風評被害訴訟
 風評被害訴訟及び授業内における因果関係、損害評価の難しさと授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業の最終回に実施される授業内試験により100%評価されます。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This lecture will give you civil liability for environmental damage, which is one of the legal fields for solving this environmental problem facing us.

< Learning Objectives >

This class shows you the knowledge necessary to get involved in the reality of environmental problems. The goal is to be able to think in the legal framework when faced with these problems.

< Learning Activities outside of Classroom >

Students will be expected to prepare and review using the prints distributed in each class. Please study basic terms and legal logic with those prints. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

The grades of this subject will be evaluated by the in-class examination conducted in the 14th class (100%).

LAW300HA

環境法Ⅲ**横内 恵**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境アセスメント、産業廃棄物、高レベル放射性廃棄物の各分野につき、判例も検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深める。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することを旨とする。

【到達目標】

「環境法Ⅰ」の履修を前提として、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式で実施する。質問対応の機会については、履修者に対して、学習支援システムにおいてアナウンスを行う。提出されたレポートから、ポイントをいくつか取り上げ、学習支援システム上で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義を受講するにあたっての注 意事項等を説明する
第2回	環境アセスメント (1)	当該テーマについて解説する
第3回	環境アセスメント (2)	当該テーマについて解説する
第4回	環境アセスメント (3)	当該テーマについて解説する
第5回	環境アセスメント (4)	当該テーマについて解説する
第6回	廃棄物処理法 (1)	当該テーマについて解説する
第7回	廃棄物処理法 (2)	当該テーマについて解説する
第8回	廃棄物処理法 (3)	当該テーマについて解説する
第9回	廃棄物処理法 (4)	当該テーマについて解説する
第10回	高レベル放射性廃棄物 (1)	当該テーマについて解説する
第11回	高レベル放射性廃棄物 (2)	当該テーマについて解説する
第12回	高レベル放射性廃棄物 (3)	当該テーマについて解説する
第13回	高レベル放射性廃棄物 (4)	当該テーマについて解説する
第14回	まとめ	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書や参考資料の該当ページをよく読んでください。オンデマンド授業の教材が掲載されたら、スライドや解説ノートと教科書をよく読んでください。復習を兼ねて、レポート課題に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第5版〕』（弘文堂、2020年）。（本体3,300円+税）

【参考書】

必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 45%、期末レポート 55%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、「環境法Ⅰ」履修済みの人を主な対象とします。履修に当たっては、学習支援システムに掲載するオリエンテーション資料をよく読んでください。

【Outline (in English)】

Course outline : The programme gives undergraduate students special knowledge and skills within several environmental fields.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to deepen their understanding of the legal issues surrounding the practical challenges of environmental law and policy.

Learning activities outside of classroom : The standard preparation and review time for this class is two hours each week.

Grading Criteria /Policy : Mid-term report (45%), Final report (55%).

LAW300HA

環境法Ⅳ

今井 康介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題について法律的なアプローチを行う場合、3つのアプローチがあります。民法的なアプローチ、行政法的なアプローチ、そして刑法的なアプローチです。各アプローチには、それぞれの原則や理論、メリット・デメリットがあります。

環境法Ⅳの授業では、刑法的なアプローチ、特に刑事罰の独自性、特殊性、有効性、そしてその限界を扱います。

環境刑法の基本的な問題や現在の制度の問題点等を学ぶことにより、自らが将来、会社や企業で環境犯罪を行わないようにするだけでなく、多角的な視点から環境問題や環境法制を考えられるようになることが、最終的な目的です。

【到達目標】

例えば、山の中にいらなくなったパソコンを捨ててくるのは、不法投棄（廃棄物処理法違反）です。それでは、自分の敷地の一角に放置しておくのは、犯罪なのでしょうか？ 燃えるゴミと燃えないゴミを分別しないで捨てたら捕まるのでしょうか？ コンビニのゴミ箱に家のゴミを捨てたら犯罪なのでしょうか？ 従業員が環境犯罪を犯した場合、会社や会社の社長は処罰されるのでしょうか？

この授業を受講すると、これらの場合にどのように考えるべきかが分かるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業になります。授業では、適宜、身近な問題を例にして、考えながら講義を受けてもらえるようにします。

教科書や参考書については、第1回の講義で詳しく案内します。講義で配る配付資料は、授業支援システムで公開しています。多くの法律が登場するので、適宜、六法やインターネットで法律の条文を参照してください。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス スタート環境刑法	授業の進め方、評価方法についての説明します。 環境刑法はどのような学問か、どのような特色があるか、なぜ環境刑法を学ぶのか、環境刑法を学ぶと将来どのような場合に役に立つかについて説明します。
第2回	環境刑法の基礎理論	法律とはどういうものか、法律に違反するとどうなるのかを学びます。また、刑罰はなぜ科されるのか、どのような環境を保護するために刑罰は利用されるのかを学びます。
第3回	動物の保護	2019年に改正のあった、動物愛護法を中心に、なぜ動物を保護するのか、人間が作る法律は、本当に動物を保護しているのかという点を学びます。

第4回 水の保護

我々の飲料水や、川の水質はどのように保護されているのかを学びます。また浦安事件などの、水質汚濁事件も学びます。

第5回 大気汚染の保護

大気汚染とは、どのようなものか、大気汚染に対し法律はどのような対応をしているか、アスベストによる大気汚染規制を学びます。

第6回 土壌汚染

土壌汚染とは、どのようなものか、農用地の汚染と市街地の汚染は何が違うか、豊洲市場の移転で問題となった土壌汚染とはどのようなものかを中心に、土壌汚染対策法の罰則を学びます。

第7回 廃棄物の処理①

廃棄物の処理を規制しなければいけない理由を、廃棄物関連の事件から学びます。また、行政対象暴力事件についても学びます。

第8回 廃棄物の処理②

廃棄物処理法が規制している「廃棄物」とは何かについて学びます。

第9回 廃棄物の処理③
+ 会社の罰則（法人処罰）

廃棄物の不法投棄や焼却は、いつから禁止されているのか、どのような行為が禁止されているかを学びます。また、会社をどのように処罰するのか、会社はどれくらい重く処罰されるのかを学びます。

第10回 廃棄物の処理④
+ 現代社会における環境犯罪対策

工場や企業が注意すべき、廃棄物を受け渡す際の罰則について取り扱います。

第11回 環境犯罪の捜査と刑事裁判の仕組み

また、環境保護法制をサポートする組織犯罪処罰法や課税通報を学びます。

第12回 有罪判決と有罪判決後の問題

誰が環境犯罪を捜査するのか？ どのタイミングで捜査するのか？ 逮捕とは？ 被疑者となった場合に何が出来るか？ 刑事裁判はどのように進むかを学びます。

第13回 総復習と補足

裁判で有罪判決を受けた場合、有罪判決を受けるとどのような影響があるか、さらに廃棄物再審事件を題材として、環境犯罪の司法実務の問題を探ります。

第14回 試験

12回の講義までで終わらなかつた箇所や補足が必要な箇所を取り上げます。
また2022年に発生した事件を取り上げて、環境刑法の視点から、実際の事件を分析します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前あるいは講義の後に、テキストの該当部分を読むと理解が深まります。環境問題は、よくニュースになります。そのため、報道された環境問題をテーマにして、何が法律的に問題なのか考えると、この講義がよりいっそう実り豊かなものになります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

今井康介『ニュースから読み解く環境刑法 入門編』（大日本法規、2019年）、ISBN:978-4991111600 を使用する予定です

【参考書】

環境刑法の重要問題を取り上げた参考書として、長井圓編『未来世代の環境刑法1 Textbook 基礎編』（信山社、2019年）、4200円（税抜）、ISBN:978-4797286748をおすすめします。講義の後に同書を読むと、より一層深い理解をすることが出来ます。その他の参考文献については、初回の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として講義の最後に行う授業内試験で評価します（100％）。授業への出席は単位修得の前提ですので、出席それ自体を成績評価に加えることは行いません。成績評価は100点満点とし、60点以上で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

反響が強かった、身近な環境問題を取り上げられるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

環境刑法を理解するためには、刑法の基礎知識が必要になります。それゆえ、本講座の受講生には、春学期に開講される「刑法の基礎」（渡辺靖明先生）の履修をおすすめしています。

【Outline (in English)】

There are three legal approaches.

In this lesson, we deal with the peculiarity of the criminal approach, identity and its limitations.

The goal of this lesson is to learn the basics of the environmental criminal law and to think about environmental problems from the perspective of penalties.

The lecture requires 2 hours preparation and review.

Grades are evaluated by examinations.

LAW200HA

国際環境法

鈴木 詩衣菜

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【G】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。

本講義では、環境条約を手掛かりに、その基本的な構造を取り上げ、環境問題に対し国家がどのように対応しているのかを検討する。また、具体的な判例を通じて、環境問題を解決するために、何が守られるべきか、必要とされる対応はなにか、などについて沢山考える。

【到達目標】

- ・国際的な環境問題について法的な観点から、考察できる
- ・各環境条約の全体像を把握し、その背景、特徴、解決すべき問題点、残されている課題を理解し、説明することができる
- ・国際的な環境問題に対し、法的根拠に基づいて自分の見解を提示することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。講義スケジュールに沿って行うが、学生の興味や関心に応じて取り上げるテーマの内容や順序を変更する場合がある。

事後課題の答え合わせ、解説、フィードバックは、課題提出後の授業の冒頭で行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要(成績評価、授業の受け方など)、国際環境法とはなにか
第2回	国際環境法制史(1)	国際環境法の基本原則:「環境」はいつから、どのように国際的な問題になってきたのか
第3回	国際環境法制史(2)	国際環境法の規範の発展:国際的な環境問題と国際環境法の特徴はなにか
第4回	大気に関わる国際法制度(1)	気候変動枠組条約を手掛かりに、大気汚染と地球温暖化を考える
第5回	大気に関わる国際法制度(2)	京都議定書とパリ協定を手掛かりに、大気汚染と地球温暖化を考える
第6回	森林に関わる国際法制度	森林保全と REDD+を考える
第7回	生き物に関わる国際法制度(1)	生物多様性条約を手掛かりに、生物多様性の保全を考える
第8回	生き物に関わる国際法制度(2)	ワシントン条約を手掛かりに、動植物の輸出入を考える
第9回	水に関わる国際法制度(1)	国連海洋法条約などを手掛かりに、海洋汚染への対応を考える
第10回	水に関わる国際法制度(2)	ラムサール条約を手掛かりに、河川と湿地の保全を考える
第11回	世界遺産に関わる国際法制度	世界遺産条約を手掛かりに、自然遺産と文化遺産の保全を考える

第12回	廃棄物に関わる国際法制度	バーゼル条約を手掛かりに、越境するゴミ問題を考える
第13回	他分野の国際法制度と環境	貿易、人権、労働分野と環境分野の調整を考える
第14回	試験・まとめと解説	学期末試験と国際環境法の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
 予習では、授業のテーマに関連して、自分で調べた重要な情報などをレジュメなどに書きとめること、また授業毎に示すテーマについて考えてくること。
 復習では、授業毎に配布する事後課題を作成すること。次回の授業で確認するため、復習を通じて理解の深化に努めること。

【テキスト（教科書）】

植木俊哉ほか編『国際条約集』有斐閣、2022年、2800円。
 適宜、レジュメを配布する。

【参考書】

繁田泰宏・佐古田彰・岡松暁子・小林友彦編『ケースブック国際環境法』東信堂、2020年、2,800円。
 その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価にあたっては、特に以下の基準で目標に到達したかを評価する。
 一課題（20%）：講義のポイントをおさえられているか。設題の趣旨に沿って答えているか
 一筆記試験（80%）：国際環境法についての基本的な知識を習得し、設題の趣旨に沿って答えているか

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

国際環境法は、国際法の発展科目になります。必要に応じて適宜、国際法の基本原則についても触れていきますが、すでに履修済みもしくは並行して履修すると、理解が深まります。

【Outline (in English)】

In this course, we will overview variety of environmental treaties, understand their basic structures and examine how Nations have responded to environmental issues.

In addition, through specific environmental cases, we will consider what should be protected and what actions are necessary to solve environmental problems.

This course will be given according to the lecture schedule, but the content and order of the topics may be changed according to the interests of the students.

By the end of the course, students should be able to understand as follows;

- ・ To be able to consider international environmental issues from a legal perspective
- ・ To be able to grasp the overall picture of each environmental treaty, understand its background, characteristics, problems to be solved, and remaining issues, and to be able to explain them
- ・ To be able to present own views on international environmental issues based on legal basis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content including completed the required assignments after each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process, Term-end examination(80%), short assignment(20%).

LAW300HA

労働環境法

水野 圭子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電通自殺事件に象徴されるように、労働の場において、労働時間、休憩、休暇といった労働条件によって形成される労働環境は極めて重要な問題を提起しています。このような労働者の健康、安全衛生、労働災害といった従来からの問題だけではなく、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティーハラスメントなど人格権に対する対策、少子高齢化社会を念頭に置いたワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境、障害を持つ労働者に対する合理的配慮など様々な新しい問題にも労働環境といった観点から考察することが求められています。パンデミック禍の感染症予防対策が取られる中、労働と環境がどのように変化するかという点についても検討します。
 このような労働環境を形成する法律と判例について基本的な知識と理解を習得することを目的とします。

【到達目標】

1. 「労働環境法」とかわりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」と関わりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ワークルール検定・法学検定レベル）を解答できるようになる。
3. その次の段階として、「労働環境法」と関わりのある労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題についても、難易度が高くないものであれば、解答できるようになる。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について、論理的に解説できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書とパワーポイントを利用し、講義形式で授業を行います。そのほか1、2回程度、ドキュメンタリーといった視聴覚教材を利用します。この場合は、リアクションペーパーの提出を求めます。今年度は、労災事件を担当した弁護士の方講演いただく機会を設ける予定です。

履修人数がそれほど多くないのであれば、講義内において、グループディスカッションをおこなう予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、「労働環境法」はどのような分野を対象とするか。パンデミック下における労働環境法とは	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」「労働法」の簡単な全体像の説明。

第2回	労働法の基礎知識と労働環境を構築する労働法の仕組み	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限度の法学に関する知識についての説明。労働環境を作る労働条件がどのようにまもられているのか。
第3回	過労死や過労自殺の発生原因とその予防について	過労死・過労自殺とはどのようなものか。どのように予防するのか。過労死・過労自殺の事例検討。
第4回	労働時間制度の概略・休憩時間、休日	労働時間規制について。法定労働時間と時間外労働 法定休日について。
第5回	労働時間制度と休息の確保 休憩時間・休日・休暇、柔軟な労働時間制度と休息	休憩時間・休日・年次有給休暇すなわち休むことについて。変形労働時間制やみなし労働時間制などの多様な労働時間規制と休息について。
第6回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害	労災保険は誰が保険料を払い、どのような場合に労働者に保険が給付されるのか。過労死や過労自殺の問題と労災認定の基準について。
第7回	過労自殺について 講演	電通事件を担当した弁護士の話を書く（都合により7回から日程が変更される場合があります）。
第8回	少子化対策に成功した諸外国のワークライフバランス政策	少子高齢化の問題と女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について検討する 少子化を克服することができた国では、どのような政策がとられてきたのかを検討する。
第9回	障害・マイノリティと労働環境・障害者雇用	現実に生じている労働力不足に対して、どのような労働政策が行われているのか障害者雇用について検討する。また障害を持った労働者に対する合理的配慮等について検討する。
第10回	高齢者雇用と外国人労働者	労働力不足と社会保障といった観点から、高齢者雇用と外国人労働者の雇用について検討する。
第11回	人格権侵害とハラスメント セクシュアルハラスメントとマタニティハラスメント	セクシュアル・ハラスメント、マタニティハラスメントに対する法的規制と判例。
第12回	人格権侵害とパワーハラスメント	パワーハラスメントに対する法規制と判例。
第13回	科学技術の発展と就業の変化	加速するIT技術の発展や通信、運輸の変化によって、労働はどのように変化しているのか。
第14回	パンデミックと労働	コロナ感染症の予防対策の中で、失業対策や雇用保障などどのような労働政策がとられたのか検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の終わりに、次回の該当箇所を指示するので、予習として、教科書の該当部分を熟読し講義に臨むよう準備すること。また、指示された判決については、図書館の判例データベース（D1-Law）を利用し実際に判決を読むことが望ましい。復習として、配布されたレジュメ、資料を確認し、理解すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋賢司『労働法講義 第2版』（中央経済社 2018年）3800円 改定がある場合は、新しいものを準備してください。

六法を用意すること。六法は今年度のものを準備してください。六法についてはガイダンスでも説明します。

【参考書】

浜村彰ほか『ベーシック労働法（第8版）』（有斐閣、2020年）2090円

【成績評価の方法と基準】

授業に付随して行われる小テスト（労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ワークルール検定・法学検定レベルを予定している）30%とレポート（「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について論じたもの）70%による評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

近年の経済的な変動や労働環境の変化もあり、学生の皆さんからは、労働法に対して、とくにアルバイトや労働時間関係など、身近な労働問題に対して強い関心が寄せられている。有給休暇の取得や時間外労働に対する割増賃金未払い、ハラスメントやなど、実用的な法知識についても同様である。このような点についても、各単元において対応することとした。

その一方で、コロナ下での解雇やアルバイト雇止めや労働時間の削減など、現在起きている労働問題にも強い関心が寄せられた。このような最新の問題についても、言及することを心掛けたい。

【その他の重要事項】

講義内容は、受講者の問題関心や質問、理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】

(Course outline) As symbolized by the Dentsu suicide case, the working environment created by working conditions such as working hours, breaks and annual paid vacations poses a very important issue in the workplace.

Measures to address not only conventional issues such as mental and physical health of workers, but also human rights such as power, sexual, and maternity harassment are also required to be considered from the viewpoint of improving the working environment.

In an aging society with a declining birthrate, a work environment with a good work-life balance is required. In addition, rational consideration for workers with disabilities is also an issue that has been required in recent years. These new issues will also be considered from the perspective of improving the working environment. We will also consider how labor and the environment will change as coronavirus infection prevention measures are taken. The aim is to acquire basic knowledge and understanding of laws and precedents that form such a working environment.

(Learning Objectives)

The objectives of this class are as follows: 1, 2, 3, and 4.

1. To understand the basic regulations and important precedents in labor law, especially those related to labor environment law.

2. To be able to answer basic questions on basic labor law regulations and important precedents related to the "Labor Environment Law".

3. In the next stage, students will be able to answer questions on laws and regulations and important judicial precedents in labor law related to the "Working Environment Law", as long as the questions are not too difficult to those on the examinations for certified social insurance labor consultants and labor standards supervisors.

4. In the next stage, students will be able to answer questions on laws and regulations and important judicial precedents in labor law related to the "Working Environment Law", as long as the questions are not too difficult to those on the examinations for certified social insurance labor consultants and labor standards supervisors. 4.

Students will be able to logically explain the basic laws and regulations and important precedents on labor law that will be covered in "Labor Environment Law".

(Learning activities outside of classroom)

At the end of the lecture, you will be instructed on the relevant part of the next lecture. Students are requested to prepare for the lecture by carefully reading the relevant parts of the textbook and handouts. In addition, when instructed to read judgments, it is advisable to actually read the judgments by using the case law database (D1-Law) in the library, since those in the textbook are digest versions. As a review, it is necessary to understand the definitions of legal terms, outline of important legal systems, and important legal frameworks of judgments by using the distributed resumes, materials, and textbook. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

The evaluation will be based on 30% on the confirmation test (basic questions on basic laws and regulations and important judicial precedents in labor law) given in conjunction with the class, and 70% on the report (a discussion of basic laws and regulations and important judicial precedents in labor law to be covered in "Labor Environment Law").

POL300HA

自治体環境政策論 I

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策学の視点で、都市空間における自然環境の保全、ヒートアイランド対策、下水道政策、都市公園政策など、自治体環境政策に関する多様なテーマについて検討する。さらに地域の未来を考えるために、第2次大戦後から現代までの自治体環境政策史について検討する。トピックとして、公害規制、廃棄物処理、都市の開発コントロール、景観政策、アーバンデザインなどを取り上げる予定である。この授業の目的は、学生が自治体環境政策の基礎知識や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・自治体による地域環境政策に関する知識を習得する。
- ・地域課題に関する政策思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパー（感想や意見）等の提出と応答やミニレポートの提出と講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「揭示版」）を活用しながら、授業の冒頭でも言及する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※ 2021 年度春学期における授業の実施形態に即して変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～ そもそも「政策」とは 何だろうか？	イントロダクションとして、自治体環境政策が公共政策であること をふまえて、「政策」の概念とその 基本構造を確認する。
第 2 回	自治体政策の風景	環境政策を含む自治体政策を風景 に喩えて、体系性と総合性という 視点から構図を確認する。
第 3 回	都市の緑を守る	都市空間における緑地保全につい て、里山、宗教空間、農地などの 緑資源について検討する。
第 4 回	都市の緑を創る	都市空間における公共施設や民間 施設の緑化について検討した後、 現代都市の緑戦略の方向性につい て総括する。
第 5 回	都市の水辺と地域の総 合プロデューサー	都市空間における水辺環境の保 全、水と緑を一体的にとらえる都 市環境政策と自治体の役割につい て検討する。
第 6 回	自治体政策のドラマと 問題構造	自治体政策をドラマに喩えて、政 策過程のモデルと、政策が対象と する公共問題の構造について確認 する。

第7回	ヒートアイランドの問題構造と都市政策	21世紀の都市問題であるヒートアイランドを手がかりとして、公共問題の構造と政策アプローチについて検討する。
第8回	自治体環境政策と社会資本整備～下水道	自治体環境政策における社会資本整備として、下水道について検討する。
第9回	自治体環境政策と社会資本整備～都市公園	自治体環境政策における社会資本整備として、都市公園について検討する。
第10回	自治体環境政策と環境規制	廃棄物や公害をケースとしながら、自治体環境政策における環境規制について検討する。
第11回	第1世代の自治体環境政策と高度経済成長の時代	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を目的として登場した第1世代の自治体環境政策について、当時の社会情勢とともに検討する。
第12回	地域の「環境再生」への挑戦	環境破壊の世紀であった20世紀に対して、21世紀の課題である地域の「環境再生」と政策について検討する。
第13回	第2世代の自治体環境政策から現代の景観政策へ	1960年代後半から80年代において、地域空間の質の高めるために登場した第2世代の自治体環境政策について、歴史的町並み保全を中心について検討し、さらに現代の景観政策に言及する。
第14回	アーバンデザインから考える都市の未来	第2世代の自治体環境政策の時代から始まったアーバンデザインについて、横浜の政策実践を回顧しながら、都市の未来について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、ミニレポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85%）＋積極的な参加姿勢（5%）＋ミニレポート（10%）で評価する。

※2022年度春学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

・地域社会や自治体を通して現代社会を理解する機会になるようです。
・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントなどの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていきたいと思います。

・対話型授業を取り入れながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいです。2020年度については、Zoomのチャット機能をかなり活用し、学習支援システムの「揭示版」を補完的に利用しましたが、2021年度は対面形式のため、感染リスクに配慮しながら「揭示版」を利用しました。2022年度も、授業の実施形態に即して対応を検討します。

【その他の重要事項】

・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを強く推奨します。

・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。

・ローカル・サステナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで履修する学生にとっても、地域社会に関連するテーマや「持続可能な地域社会」を理解するためには、自治体政策に関する基礎知識は必須です。

・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

In this class, from the viewpoint of public policy studies, we will examine the various themes about the environmental policy of local government, such as preservation of the natural environment in urban space, control of "Heat island", sewer policy, city park policy. Furthermore, in order to consider the future of the community, we will explore the history of local environmental policy from after the Second World War to the present age. The topic to take up will be pollution regulatory, waste administration, control of urban development, local scene preservation policy, urban design, etc. The purpose of this class is for students to learn about the basic knowledge of regional environmental policy and the method of policy thinking.

The goals of this course are to acquire knowledge about regional environmental policy of local government, and to gain the ability of think about regional policy issues.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Term-end examination:85%,Active class participation:5%,Sort reports:10%

POL300HA

自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策について総合的に検討する。特にグローバルな政策や再生可能エネルギー政策、環境政策統合、SDGs、交通政策、都市の持続可能性リスク、縮小都市やコンパクトシティ、都市と過疎地域の政策連携など、近年の重要なテーマに焦点を合わせる。この授業の目的は、学生が、「持続可能な地域社会」の創造への自治体の役割や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な自治体政策に関する知識を習得する。
- ・地域課題に関する政策型思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパー（感想や意見）等の提出と応答やミニレポートの提出と講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用しながら、授業の冒頭でも言及する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※ 2021 年度秋学期における授業の実施形態に即して変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～「持続可能な地域社会」とは？	イントロダクションとして「持続可能性・持続可能な発展」という概念を確認しながら、「持続可能な地域社会」という政策理念について検討する。
第 2 回	「持続可能な地域社会」の多様性～都市の「変容」と過疎地域の「存続」	「持続可能な地域社会」の社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という2つの方向性を提示する。
第 3 回	「グローバル」言説を再考する	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第 4 回	第 3 世代の自治体環境政策～地球温暖化の「緩和策」	グローバルな時代における第 3 世代の自治体環境政策として、地球温暖化の「緩和策」について検討する。
第 5 回	第 3 世代の自治体環境政策～地球温暖化への「適応策」	グローバルな時代における第 3 世代の自治体環境政策として、地球温暖化への「適応策」について検討する。
第 6 回	地域分散型エネルギーシステムと自治体政策	東日本大震災を契機として全国各地で始まった自治体のエネルギー政策の動向について検討する。

第 7 回	責任共有の政策論理と自治体政策	「環境ガバナンス」にかかわる多面的な主体（自治体、市民、企業、NPOなど）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第 8 回	持続可能性の多面的構成と「持続可能な地域社会」への政策規範・政策課題	持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成を確認しながら、「持続可能な地域社会」に向けた包括性・統合性という政策規範について、地域における具体的な政策課題とともに検討する。
第 9 回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」に向けて多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第 10 回	SDGs と自治体政策	国連で採択された SDGs の自治体政策への反映について検討する。
第 11 回	「持続可能な都市」への政策動向	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱や国内の動向を確認した後、政策実践のケースとして、地域交通政策などについて検討する。
第 12 回	21 世紀における都市の持続可能性リスク	災害や感染症などの発作的危機、人口減少社会や地球温暖化などの長期的なリスクを、21 世紀の都市が直面する脆弱性＝都市の持続可能性リスクととらえ、その回避やレジリエンスについて検討する。
第 13 回	縮小都市時代の自治体政策	人口減少社会における「縮小都市」問題を確立し、空き家・空き地対策やコンパクトシティ政策などについて検討する。
第 14 回	都市と農山漁村の地域間連帯への政策的展望	過疎地域の持続可能性問題を再確認し、都市－農山漁村の地域間連帯の動向とともに、生態系サービスや地域間の相互依存関係をふまえて、今後の政策のありかたについて展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、ミニレポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85%）+積極的な参加姿勢（5%）+ミニレポート（10%）で評価する。
 ※ 2021 年度秋学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

・各地の事例について、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解する方法として役立つようです。
 ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていきたいと思います。
 ・対話型授業を取り入れながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいです。2020 年度については、Zoom のチャット機能はかなり活用し、学習支援システムの「掲示板」を補完的に利用しましたが、2021 年度は対面形式のため、感染症リスクに配慮しながら、「掲示板」を利用しました。2022 年度も、授業の実施形態に即した対応を検討します。

【その他の重要事項】

・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。

・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。

・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで学ぶ学生にとっても、地域社会に関するテーマや「持続可能な地域社会」について理解するためには、自治体政策に関する知識は必須です。

・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

In this class, we will examine public policy of local government comprehensively towards “Sustainable community”. Especially, we will focus on some important themes in recent years, such as “Glocal policy”, renewable energy policy, environmental policy integration, “SDGs”, traffic policy, urban sustainability risk, shrinking city and compact city, cooperation policy between urban and rural areas, etc. The purpose of this class is for students to learn about the role of local government for creating “Sustainable community, and the method of policy thinking.

The goals of this course are to acquire knowledge about sustainable policy of local government, and to gain the ability to think about regional policy issues.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Term-end examination:85%,Active class participation:5%,Sort reports:10%

LAW300HA

アメリカ環境法

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【グ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

【到達目標】

社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に関係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えると、比較して検討できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。なお、この授業は、Hoppiを通じたオンデマンド方式で行われる予定です。リアルタイムのライブ型配信授業を主とします。授業の曜日・時限にZoomで授業を配信しますので、できる限り参加してください。ZoomのミーティングIDとパスコードは、こちらの「お知らせ」に前日までに掲示します。また、ライブ授業に参加できなかった方のために、パワーポイントと音声は、1週間だけ開示しておきます。なお、授業内容を詳しく書いたプリントを別途配布します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境NGOの果たす役割
第2回	アメリカ環境法の歴史	環境規制の始まりと現代的展開
第3回	連邦環境政策法（1）	環境影響評価の仕組み
第4回	連邦環境政策法（2）	具体的事例の検討
第5回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第6回	水質汚濁防止法	規制内容と具体的訴訟
第7回	土壌汚染対策に関連する規制	スーパーファンド法等
第8回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第9回	自然保護（1）	海、河川、湿地等の保護
第10回	自然保護（2）	森林の保護・国立公園制度
第11回	自然保護（3）	絶滅危惧種等の保護
第12回	エネルギー法	化石エネルギー、核エネルギーと法、自然エネルギーと法
第13回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第14回	軍と環境法及び、授業内試験を実施	軍に対する国内外での環境規制を学んだ後、授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたパワーポイント等で、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したパワーポイントと、まとめ PDF ファイルを Hoppi にて配布します。

【参考書】

諏訪雄三『アメリカは環境に優しいのかー環境意思決定とアメリカ型民主主義の功罪』（新評論、1996年）、畠山武道『アメリカの環境保護法』（北海道大学図書刊行会、1992年）。

【成績評価の方法と基準】

授業の最終回に実施される授業内試験により100%評価されます。

【学生の意見等からの気づき】

動画等を用いたわかりやすい授業をこれからも実施していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業を見るためのパソコン又はスマホを準備して下さい。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This course will give you the fundamental principles of United States environmental law. Among those, the National Environmental Policy Act, Superfund (CERCLA) and nature conservation law are highly evaluated. On the other hand, the prevention of air pollution is lagging behind the global tide.

< Learning Objectives >

The goals of this course is to develop a basic understanding of the internationally influential American environmental law. In addition, by learning the characteristics of American environmental law, you will be able to compare it with environmental law in Japan.

< Learning Activities outside of Classroom >

Students will be expected to prepare and review using the prints distributed in each class. Please study basic terms and legal logic with those prints. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

The grades of this subject will be evaluated by the in-class examination conducted in the 14th class (100%).

POL300HA

エネルギー政策論

菊地 昌廣

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水6/Wed.6

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なエネルギー資源の選択、エネルギー利用による地球温暖化、エネルギー資源の価格変動など、多様化する社会問題と経済問題に如何に対処すべきか等の課題、我々の生活の基盤となる電気エネルギーの自由化を踏まえた安定供給確保等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

【到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。講義に使用するパワーポイント資料は、事前に学習支援システムを介して配信する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題等本講義の議論点について概括するとともに、エネルギーを議論するときの基礎となる各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失等、議論の背景となる要因について議論する。
第2回	エネルギー消費と産業構造	GDPとエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までの国際的なエネルギー需給バランス等、エネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。

第3回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー、新エネルギー）	エネルギー利用効率向上のために採られてきた省エネルギー対策と国際社会から自立した化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーや新エネルギーの活用について議論する。
第4回	新たなエネルギー資源開発や化石エネルギー価格の変動要因	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレードなど新エネルギー資源の確保問題や、国際経済成長戦略と原油、天然ガス、石炭などの在来型化石燃料の価格変動要因との関連について、最近の情勢を分析しつつ議論する。
第5回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第6回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。
第7回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。
第8回	電力自由化政策と電力自由化のメカニズム	電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しているが、福島原発事故以降採られてきた電力自由化の動きと、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
第9回	エネルギー利用とリスク	地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国際社会が安心安全な環境で使用するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて、京都議定書と昨年のパリ合意の内容を比較しつつ議論する。
第10回	国際戦略としてのエネルギー需給問題	資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー供給戦略と我が国の利用戦略について歴史的視点から議論する。
第11回	エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性	エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の国内エネルギー政策の方向性について議論する。
第12回	エネルギー産業を介した地方創生方策	エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。
第13回	将来のエネルギー需給予測と消費展望	将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、今後の世界エネルギー需給についての将来展望について議論する。
第14回	講義内容のレビューと質疑応答	これまでの講義内容をレビューし、質疑応答を行うことにより、講義内容の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
毎回の講義で使用する資料等を必ず予習・復習をすること。

授業日前に次回講義で使用する資料を学習支援システムを介して配信する。受講生は、学習支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までにその内容をよく予習することを求める。

エネルギー問題に関する報道内容等に留意し、講義の論点についての事前の情報収集が授業内容の理解を促進させる。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【参考書】

本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。

- 1) 十市 勉 (2005) 『21世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
- 2) 小池康郎 (2011) 『文系人のためのエネルギー入門』（勁草書房）
- 3) 三浦隆利、他 (2008) 『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
- 4) 藤原淳一郎 (2010) 『エネルギー法研究』（松岳社）
- 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所（最新年度版）
- 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

【成績評価の方法と基準】

平常点：10点

期末試験結果90点（論述式試験による）

【学生の意見等からの気づき】

自らエネルギーに関連する内外の動きを敏感にとらえ、事前に学習支援システムで配布する講義レジュメ内容を予習しておくことが受講に効果的である。

【学生が準備すべき機器他】

事前に学習支援システムで配信する講義レジュメのプリント。

【その他の重要事項】

学習支援システムを有効に活用する。

【Outline (in English)】

Course outline: Through learning time trends and current statistic of energy data, to consider the energy policy to be used in future world.

Learning Objectives: To obtain the capability to explain fundamental technologies of energy and relationship between social configuration and utility of energy.

Learning activities outside of classroom: To be required pre- and post- learning of the resume of lecture which will be distributed through the Hoppii. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading criteria: Your overall grade will be decided based on term-end examination 90% and in class contribution 10%.

POL300HA

地球環境政治論

横田 匡紀

配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

備考(履修条件等)：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決やSDGsに向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員としてSDGsや持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGsなどを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権やバイデン政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター(国際機構、NGO、企業など)がどのような手段(国際レジームなど)で、どのような問題(気候変動問題やSDGsなど)に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点とSDGsとの関連についても言及し、SDGsに対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界
第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議からSDGsまで
第3回	気候変動ガバナンス(1)	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要

第4回	気候変動ガバナンス(2)	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント
第5回	地球環境ガバナンスの課題(1)：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題(2)：SDGs、プラスチック	SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧(Haze)
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、エネルギー政策、環境正義
第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(1)	NGOや企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(2)	NGOや企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約
第13回	地球環境政治の見方(1)	リアリズムとリベラリズム
第14回	地球環境政治の見方(2)	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワー・トランジション

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編『国際関係論(第3版)』弘文堂、2018年

【参考書】

- 環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』丸善出版、2018年
 リチャード・E. ソーニア、リチャード・A. メガンク編『グローバル環境ガバナンス事典』明石書店、2018年
 竹本和彦編『環境政策論講義』東京大学出版会、2020年
 高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021年
 亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年
 亀山康子・森晶寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015年
 新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015年
 角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国間交渉』法律文化社、2015年
 小西雅子『地球温暖化は解決できるのか』岩波ジュニア新書、2016年
 小西雅子『地球温暖化を解決したい』岩波書店、2021年
 小西雅子『気候変動政策をメディア議題に』ミネルヴァ書房、2022年
 太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2016年
 宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019年
 蟹江憲史『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房、2017年
 蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)』中公新書、2020年
 渡邊理絵『日本とドイツの気候エネルギー政策転換』有信堂高文社、2015年
 鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年
 服部崇『気候変動規範と国際レジーム』文真堂、2021年
 平田仁子『気候変動と政治』成文堂、2021年
 舛方周一郎『つながりと選択の環境政治学』晃洋書房、2022年
 ナオミ・クライン『これがすべてを変える上・下』岩波書店、2017年
 明日香壽川『グリーン・ニューディール』岩波新書、2021年
 J. リフキン『グローバル・グリーン・ニューディール』NHK出版、2020年

齊藤幸平『「人新世」の資本論』講談社現代新書、2021年
 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年
 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年
 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013年
 三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論（改訂版）』泉文社、2015年
 大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年
 西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021年。

今井宏平『国際政治理論の射程と限界』中央大学出版部、2017年
 山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年
 鈴木基史『グローバル・ガバナンス論講義』東京大学出版会、2017年
 西谷真規子編『国際規範はどう実現されるか』ミネルヴァ書房、2017年
 リチャード・ハース『The world（ザ・ワールド）：世界のしくみ』日本経済新聞出版、2021年
 スティーヴン・D. クラズナー編『国際レジーム』勁草書房、2020年
 南山淳、前田幸男編『批判的安全保障論』法律文化社、2022年
 白鳥潤一郎ほか『現代の国際政治』放送大学教育振興会、2022年

【成績評価の方法と基準】

課題類の提出を前提として、期末試験 90 %、平常点 10 % で評価する。期末試験については、オンディマンドのためレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。進度により講義内容を変更することがあります。課題提出と資料配布は学習支援システムを通じて行う。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations

Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Students will be able to understand the mechanisms of consensus building on global environmental issues from the perspective of international relations, using the Paris Agreement, climate change issues, and SDGs as examples.
- ・ To be able to understand the activities of various actors such as international organizations, environmental NGOs, and corporations in relation to global environmental issues.
- ・ To be able to understand recent global environmental governance issues such as SDGs and plastic pollution.
- ・ Understand the global environmental diplomacy of Japan and the United States
- ・ To be able to understand the current status of various environmental governance systems at the regional level in Europe and Asia.
- ・ To be able to understand the perspectives of international relations theory, such as global governance and global environmental governance.

- ・ Students will be able to understand the impact of the Trump and Biden administrations on global environmental policy.
- ・ To be able to understand the mechanism of consensus building on complex issues such as trade and environment, environment and security.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students should be able to understand each item in the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Assessments will be made on the basis of a final exam (90%) and a normal score (10%). The final exam will be a report test. Ordinary points will be based on the submission of small assignments and their contents. Feedback on small assignments will be provided on the class website upon request from students.

ARSA400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【G】

主催：国際文化

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2021 年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第2次世界大戦後の統合をめぐる政治史や EU の諸機構に焦点をあてるやり方があります（「ヨーロッパ統合論」「EU の政治と社会」）。経済学や経営学を学ぶ立場からは、同じく第2次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があります（「ヨーロッパ経済論」「Special Studies (Western Economic History B)」）。農業経済学の観点から EU の共通農業政策（CAP）を扱う授業も開設されています（「農業経済論 A」）。グローバル教養学部（GIS）には、連合王国の外交関係の観点から、対 EU 関係を論じている授業もあります（「UK: Society and People」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足を置きつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパとその外部の境界をなすとされるものに焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10 世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は、リアルタイム・オンライン授業（Zoom）です。
- ・授業時間（100 分）の前半 70-80 分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20 分）と講義（50-60 分）にあてています。
- ・授業時間（100 分）の後半 20-30 分程度を、Zoom を使ったグループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料は Google Classroom や学習支援システム-Hoppii をつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppii を利用し、小テストの受験（全員必須）や期末レポート（希望者のみ）の提出を行っています。
- ・授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化

4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12 世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16 世紀-17 世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目的の当りにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 簡単な小テストが、ほぼ毎週、宿題として出されます。単位を履修する全ての学生にとって、このテストへの参加は必須です。この小テストに解答するために、学生は、学習支援システム-Hoppii（インターネット上）を使う必要があります。
2. 大学設置基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているようです。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム-Hoppii や Google Classroom 上で PDF ファイル等のかたちで配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格（レターグレードで C マイナス以上）とします。

- ・期末テストは行いません 0%
- ・小テストの受験【全員必須；授業終了後、次回授業の開始時刻までの1週間を受験期間として設定するので、その間に必ず受験してください。Hoppii を使うため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます】45%
- ・運営への協力【希望者のみ；配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。オンライン授業の受講に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】10%
- ・グループディスカッション&学生間の共働【グループディスカッションへの参加や、Google Classroom 上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等】10%
- ・期末レポート【希望者のみ】35%。（ただし、教員に指名され期末レポートの内容を口頭発表した人には、特別点を加算します）

【学生の意見等からの気づき】

- ・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
- ・「成績評価の方法と基準」の「グループディスカッション&学生間の共働」は10%と低めの配点にしてあります。これは、オンライン授業につきものの、システム側の接続障害や、学生の操作ミスでうまく参加できないことが予想されているためです。グループディスカッションに熱心に参加してくれる受講者が多数派ですが、配点は10%であり、あまり点数にはなりません。ただし、対面授業ができない状況でも、講義に加え、学生同士の対話や交流ができる環境を整備するという意味で、重要だと考えています。
- ・学期の途中で、ご自身のレターグレード（成績）がどうなるかをメールで質問する方がいます。お気持ちは理解しますが、学習支援システム-Hoppii の「成績簿」で通知されている内容以上の回答はできかねますので、あらかじめご承知おきください。
- ・単位がとれないと困るという相談については、定期試験の欠席が認められるような疾病等の正当な事情がある場合に限り配慮を致します。この場合は、教員に直接メールを送信する前に、まずは所属学部の事務室にご相談ください。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教材の配布や小テストの受験は、すべて LMS（学習支援システム-Hoppii と Google Classroom）上で行うため、スマートフォンでも可だが、できればパソコンやタブレットを利用することが望ましい。
- ・ブレイクアウトルーム（学生数名でのグループディスカッション用）機能を含め、オンライン授業にともない Zoom を使います。そのため、できれば有線接続で、通信容量に制限のない状態で受講するのが望ましい。
- ・この科目を単位履修する場合、学習支援システム-Hoppii や Google Classroom といった LMS に、初回授業後、仮登録を各自行ってください。
- ・学習支援システム>「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることができます（ただし成績入力には時間がかかるため、タイムラグが生じます）。

・連絡はメールでお願いします。メールアドレスは学習支援システムを見てください。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in this course will be decided based on the following:

- Quizzes on LMS-Hoppii - 45%
- Discussion / Active contribution (Participating in class discussions via Zoom) - 10%
- Other kinds of contribution (Cooperation in class management to facilitate the discussion, etc.) - 10%
- Term paper (optional) - 35%

ECN200HA

ミクロ経済学 I

芦田 登代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考 (履修条件等)：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、需要曲線と供給曲線が導かれることを学ぶ。また、それが、現実の経済問題に対して果たしている役割を理解することで、家計・企業・政府が、どのような行動基準に基づいた行動をとっているのか、それぞれの最適な選択を理解することが目的である。経済学を初めて学ぶ人を対象に、ミクロ経済学の基本を、分かりやすく解説したい。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基本的な用語を理解し、説明できるようになる
- ・個々の経済主体の意思決定が、市場や制度を通してどのような影響をもたらしているのかを体系的に理解し、説明できるようになる
- ・ミクロ経済学の考え方をを使って、日常生活の中における事象を説明することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

復習の一環として、オンライン教材を用い、毎週数問のクイズを課題として出題します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要や進め方の説明、人間環境学部としてのミクロ経済学を学ぶ意義についての解説
第2回	経済学の十大原理	経済学の基盤となる考え方の整理
第3回	経済政策	科学的判断における相違・価値観の相違・認識と現実
第4回	相互依存と貿易からの利益	比較優位の理論
第5回	市場機能 (市場における需要と供給の作用)	競争市場、需要曲線と供給曲線
第6回	市場機能 (弾力性)	需要の弾力性、供給の弾力性
第7回	市場機能 (需要・供給および政府の政策)	価格規制、税金
第8回	復習	経済学の概念、市場機能の復習
第9回	市場と厚生 (効率性)	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性
第10回	公共部門 (外部性)	市場の失敗
第11回	公共部門 (公共財と共有資源)	様々な種類の財、フリーライダー問題、共有地の悲劇
第12回	公共部門 (税制の設計)	税と効率、税と公平、効率と公平のトレードオフ
第13回	復習	市場と厚生・公共部門の復習
第14回	試験・まとめ	試験・まとめ (市場の働きと限界を考える)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

N. グレゴリー・マンキュー (2019) 『マンキュー経済学：ミクロ編 [第 4 版]』 東洋経済新報社

【参考書】

大瀧雅之 (2018) 『アカデミックナビ 経済学』 勁草書房
アセモグル・レイブソン・リスト (2020) 『ミクロ経済学』 東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題 (30%) および期末試験 (70%) によって評価します。期末試験は、レポートあるいは対面での実施によるものなのか事前に周知します。

【学生の意見等からの気づき】

資料は web サイトに掲載し、授業時にも配布します。

【Outline (in English)】

This class introduces the basic microeconomic theories, focusing on supply and demand and the fundamental forces that determine an equilibrium in a market economy. The purpose of this class is to foster the logical thinking skill by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend about two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated according to the following process homework (30%) and term-end examination (70%).

ECN200HA

ミクロ経済学Ⅱ

芦田 登代

配当年次/単位：1～4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、それが現実の経済問題に果たしている役割の理解を深める。本講では企業理論や労働市場を中心に解説し、身近な出来事や、政治・経済の動向をもとに経済の仕組みを理解できるように授業を進める。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基本的な用語を理解し、説明できるようになる
- ・日本の経済の取り巻く問題や身近な出来事を経済学の考え方に基づいて理解し、説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

また、復習の一環として、オンライン教材を用い、毎週数問のクイズを課題として出題します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要や進め方の説明、経済学の考え方の復習
第 2 回	ミクロ経済学Ⅰの復習 1	市場機能
第 3 回	ミクロ経済学Ⅰの復習 2	公共部門の経済学
第 4 回	企業行動と産業組織 (生産の費用)	費用とは何か
第 5 回	企業行動と産業組織 (競争市場における企業)	競争の意味、利潤最大化と競争企業の供給曲線
第 6 回	企業行動と産業組織 (独占・独占的競争)	独占が生じる理由と弊害
第 7 回	企業行動と産業組織 (寡占)	寡占とは何か
第 8 回	復習	企業行動と産業組織の復習
第 9 回	労働市場の経済学 (生産要素市場)	企業の労働需要、労働供給、労働市場の均衡
第 10 回	労働市場の経済学 (勤労所得と差別)	均衡賃金に関する決定要因
第 11 回	労働市場の経済学 (所得不平等と貧困)	不平等の尺度、所得再分配に関する政治哲学、貧困を減らすための政策
第 12 回	復習	労働市場の経済学の復習
第 13 回	ミクロ経済学のフロンティア	行動経済学
第 14 回	試験・まとめ	企業行動と産業組織、労働市場の経済学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

N. グレゴリー・マンキュー (2019) 『マンキュー経済学：マイクロ編 [第 4 版]』 東洋経済新報社

【参考書】

大瀧雅之 (2018) 『アカデミックナビ 経済学』 勁草書房
アセモグル・レイブソン・リスト (2020) 『マイクロ経済学』 東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題 30%、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

資料は web サイトに掲載し、授業時にも配布します。

【Outline (in English)】

This class provides an introduction to microeconomic theory. The purpose of this class is to foster the logical thinking skill by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend about two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated according to the following process homework (30%) and term-end examination (70%).

ECN200HA

マクロ経済学 I**今 喜史**

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の日本経済は、どれほど深刻な状況にあるのか。政府の行う財政政策には景気を回復させる効果が見込めるのか。そして増え続ける日本の財政赤字はほんとうに持続可能なのか。これらの問いに答えるには、一国全体の経済を分析対象とするマクロ経済学の正確な理解が必要である。この講義は、国内総生産（GDP）などの統計データの意味や標準的な経済理論を学ぶことにより、受講者の一人ひとりが日本経済の全体像を把握できるようにマクロ経済学の思考力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①統計データを的確に使用し、日本の直面するマクロ経済問題を自分の言葉で説明することができる
- ②日本のマクロ経済政策の現状を理解し、財政の持続可能性について考察することができる
- ③マクロ経済学の理論に基づき、経済政策の是非について自分の意見を論理的に述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義を原則とする。説明はおもに板書に基づいて行い、補足的な資料はすべて学習支援システムに掲載したうえで教室にてプリントアウトしたものを配布する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済学への導入	社会科学としてのマクロ経済学の分析手法について理解する
第 2 回	一国全体の経済活動を測る指標	国民経済計算（SNA）の概要を学ぶ
第 3 回	40 年前と「豊かさ」を比べる	国内総生産（GDP）の歴史的な推移をデータから確認する
第 4 回	GDP が見落としているもの	環境への負荷や健康状態など、統計で金銭評価されにくい「豊かさ」を把握する方法について議論する
第 5 回	財政とマクロ経済	政府のマクロ経済政策が必要とされる理由を考える
第 6 回	ふたつのマクロ経済学	国内総生産の恒等式について、解釈する方法がひとつではないことを理解する
第 7 回	政府支出の「乗数効果」	政府支出の増加により景気が改善するはずだという主張の根拠（ケインズ経済学）を理解する
第 8 回	乗数効果の応用	簡単な数値例を用いて、政府支出の効果を計算しグラフに表現する
第 9 回	財政政策の有効性	政府支出を増やしても景気は回復しないと主張の根拠を理解する
第 10 回	政府の借金とは何か	財政政策にともない発生する政府の予算の問題を議論する

第 11 回	財政破綻に陥らないためには	財政赤字が持続可能ではない場合にどのような問題が生じるのかを理解する
第 12 回	経済成長の鍵は何か	日本の経済成長の歴史を、外国と比較する
第 13 回	資本蓄積による成長	経済成長のメカニズムを、新古典派経済学に基づいて理解する
第 14 回	技術革新による成長	持続的な経済成長が技術革新によって実現されることを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学（新版）』有斐閣、2020 年。
 福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣、2016 年。
 アセモグル・レイブソン・リスト（岩本康志訳）『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 % とする。なお、不定期で授業内に行う小テストに回答した場合には、ボーナス得点として成績評価に加算する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料では図表などを適度に織り交ぜ、経済学の予備知識がなくとも理解できるよう配慮する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course provides a concise introduction to macroeconomic issues, especially taking account of modern Japanese economy. Topics covered are the followings: How to measure the wealth of nations? What determines the long-run economic growth of nations? Why should we care about the government debt? Students are asked to form their opinion based on rigorous theoretical foundations and relevant empirical studies.

【Learning objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain what is controversial in macroeconomic policy debate today.
- Use fundamental government statistics such as the Systems of National Accounts adequately.
- Understand what is the meaning of the sustainability of government debts.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria】 Grading will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200HA

マクロ経済学Ⅱ

今 喜史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融緩和政策は政府によるマクロ経済政策の大きな柱であり、物価や利率などの変化を通じて私たちの暮らしに大きな影響を及ぼす。しかしその効果に対しては、現在でも賛否両論が存在する。この講義では、金融の基礎的な概念を理解したうえで、インフレ目標をはじめとする金融緩和の有効性と懸念される副作用について学ぶ。とくに、中国やヨーロッパ諸国の金融政策と比較しつつ、パンデミック下のインフレ懸念に対し金融政策がどのように対応するべきかを議論する。日本のバブル経済やアメリカ発の金融危機（リーマン・ショック）など、金融がマクロ経済を大きく揺るがした事例についても触れる。

【到達目標】

- ①銀行や証券などの金融システムが、マクロ経済においてどのような役割を果たしているのかを説明できる
- ②金融緩和政策の有効性と副作用について、経済理論と統計データに基づいて考察することができる
- ③国際的な観点から、日本のマクロ経済政策の課題を位置づけることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面講義を原則とする。説明はおもに板書に基づいて行い、補足的な資料はすべて学習支援システムに掲載したうえで教室にてプリントアウトしたものを配布する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	マクロ経済と金融政策をめぐる論点を整理する
第 2 回	景気変動の読み方	マクロ経済の姿を把握するための指標として国内総生産（GDP）の意味を理解する
第 3 回	金融の基礎知識	銀行のしくみや利率など、金融の基本概念を学ぶ
第 4 回	利率とはなにか	利率の決定メカニズムを、資金需要と資金供給のグラフを用いて理解する
第 5 回	日本銀行と「伝統的」金融政策	準備預金制度の概要を学び、金融緩和政策の意味を理解する
第 6 回	「非伝統的」金融緩和政策	量的緩和やマイナス金利など、日本銀行が採用した新たな政策手段の意図と効果を理解する
第 7 回	インフレ・デフレと貨幣	政府が「デフレからの脱却」を政策目標として掲げることを意味を考える
第 8 回	金融緩和の副作用	金融緩和がバブル経済の一因となったことを理解し、リーマン・ショックの経緯を学ぶ
第 9 回	国際金融と為替レート	外国為替市場のしくみを学び、円高や円安とは何かを理解する

第10回	金融政策と円高・円安	金利裁定の理論を学び、為替レートの決定要因を理解する
第11回	為替レートのマクロ経済学	為替レートの変化が国内の景気に与える影響を学ぶ
第12回	ヨーロッパの通貨統合	共通通貨ユーロを導入したヨーロッパの金融政策を日本と比較する
第13回	中国の資本規制	国際金融のトリレンマの考え方にに基づき、中国の通貨制度の将来を議論する
第14回	金融の視点からみるマクロ経済	講義全体を総括し、日本の金融政策の今後について展望する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学（新版）』有斐閣、2020年。
 福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣、2016年。
 アセモグル・レイブソン・リスト（岩本康志訳）『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%とする。なお、不定期で授業内に行う小テストに回答した場合には、ボーナス得点として成績評価に加算する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料では図表などを適度に織り交ぜ、経済学の予備知識がなくとも理解できるよう配慮する。

【その他の重要事項】

同じ担当者による春学期「マクロ経済学Ⅰ」とは独立した内容で講義を行うが、「マクロ経済学Ⅰ」も併せて履修することで理解が一層深まると思われる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Macroeconomics II gives students a thorough introduction to monetary policy issues. Starting from the basic concepts of monetary economics, we overview both the proponents and opponents of the current monetary policy conducted by the Bank of Japan. We also study some international macroeconomic policies, including the effectiveness of monetary policy under the flexible exchange rate regimes, capital controls, and currency unions.

【Learning objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain what is controversial in monetary policy today.
- Use appropriate statistics to evaluate historical events such as the Global Financial Crisis in the late 2000s.
- Understand fundamental theory of international macroeconomics and finance.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria】 Grading will be decided based on term-end examination (100%).

MAN200HA

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2
 備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGs やパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業はSDGsを達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球温暖化問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、サステナビリティ社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社に関する基礎的な知識を習得します。さらに、SDGsやカーボンニュートラルという事業環境の変化に立ち向かう企業の経営戦略を理解し、持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業経営は何か	講義の目的・進め方 株式会社の基本機能
第2回	製品・サービスの提供 ケーススタディ①サントリー	市場における優位性の獲得 ケーススタディ：スポーツドリンクの開発
第3回	株式会社の仕組みと課題 ケーススタディ②本田技研工業]	株式会社は誰のものか ケーススタディ：ステーションワゴン開発
第4回	大企業の機能と専門経営者の誕生 ケーススタディ③キヤノン	所有と経営の分離 ケーススタディ：デジタルカメラ開発
第5回	企業規模の拡大と組織 ケーススタディ④スズキ	規模の利益と経営の効率化 ケーススタディ：原付自転車開発
第6回	日本的経営の構造 ケーススタディ⑤黒川温泉（熊本県）	日本的経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生
第7回	経営戦略の基本 ケーススタディ⑥日清食品	長期的な企業価値向上戦略とは ケーススタディ：カップめん開発

第 8 回	企業による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第 9 回	デジタル革命と企業経営 ケーススタディ⑦ミツカン	AI・IoTの活用と経営変革 ケーススタディ：食品開発
第 10 回	競争戦略とマネジメント ケーススタディ⑧ユニクロ	市場競争力の本質 ケーススタディ：ファストファッションの成功要因
第 11 回	製品開発戦略 ケーススタディ⑨ジブリ	製品開発のコンセプトとプロセス ケーススタディ：創造力の源泉とは
第 12 回	株式市場と企業価値 ケーススタディ⑩ビール業界の企業間競争	企業価値の源泉とは何か ケーススタディ：アサヒが業界トップになった要因
第 13 回	SDGs と ESG 投資	SDGs の概要 非財務情報を反映した企業評価のあり方
第 14 回	シェアリングエコノミー時代の企業経営とは 日経ストックリーグへの挑戦	ビリーフドリブン消費者の台頭と共感を呼ぶ経営とは何か 学生が選ぶサステナビリティ企業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂、2021 年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文眞堂、2019 年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文眞堂、2018 年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂、2017 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文眞堂、2016 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：15 %

期末レポート：85 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021 年 9 月 28 日)』2021 年

「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020 年 3 月 2 日～12 日)』2020 年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319 号』2021 年

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this lecture, I will explain how corporate management should be in the 21st century, taking into account the changes in the external environment: the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the shift to a sustainable society.

This class aims to provide students with basic knowledge of international policy trends in sustainability and the ability to understand sustainability management in Japanese companies.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the special lecture report (15%) and the final report (85%).

MAN200HA

ビジネスヒストリー

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係やSDGs（持続可能な開発目標）とビジネスの関係について学びます。併せて、就職活動などで必要とされる企業研究のポイントについて説明します。

【到達目標】

日本企業の成長プロセスを振り返り、①企業のパーパス（存在意義）、②事業活動を通じて長年培ってきた「知の蓄積」の実像、③SDGsを先取りしたビジネスを理解し、現代社会で問われている企業活動の社会的意義や企業価値を的確に評価する知識を身につけます。併せて、就職活動で必須となる企業研究の方法論を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じてDVD等を視聴します。現代企業に求められているE（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）が、実際の企業活動の中でどのように実践されているのかを説明します。対面授業を基本としつつ、状況に応じてオンデマンド授業を交えながら講義を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ビジネスヒストリーを学ぶ意義
第2回	伊庭貞剛 [住友財閥]	「自利利他公私一如」の事業精神
第3回	鈴木馬左也 [住友財閥]	「以德招利」の経営
第4回	岡田良一郎 [大日本報徳社]	経済と道徳の両立を目指した社会企業家
第5回	金原明善 [金原治山治水財団]	日本版ソーシャルビジネスの先駆者
第6回	ウィリアム・メレル・ヴォーリズ [近江兄弟社]	「スチュワードシップ」に基づく経営の実践
第7回	高峰譲吉 [三共商店・現第一三共]	研究とビジネスを両立させたバイオベンチャーの先駆者
第8回	豊田佐吉 [豊田式織機・現トヨタグループ]	ニッパンのついた自動化を目指したイノベーション
第9回	鈴木道雄 [鈴木式織機・現スズキ]	社会の変化からオポチュニティを掴む経営構想力
第10回	大原孫三郎 [倉敷紡績・クラレ]	「労働理想主義」の実践
第11回	波多野鶴吉 [郡是製糸・現グンゼ]	「人財マネジメント」を通じた価値創造

第11回	矢野恒太 [第一生命]	相互主義による生命保険事業の確立
第12回	各務謙吉 [東京海上]	リスクマネジメント通じた社会課題の解決
第13回	島津源蔵 [島津製作所]	科学技術は社会の未来を創る
第14回	伊藤忠兵衛 [伊藤忠商「三方よし」の経営]	事]

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料と教科書を使用して必ず復習して下さい。企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などを参照して、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長谷川直哉『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命－』文真堂,2021年
毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史: CSR経営の先駆者に学ぶ』文真堂, 2016年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文真堂, 2013年

長谷川直哉著『スズキを創った男－鈴木道雄』三重大学出版会, 2005年

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：40%

期末レポート：60%

中間および期末レポートは教科書に掲載した企業家について課題を設定します。講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this class, I will explain how corporate management in the 21st century should be based on changes in the external environment, such as the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the transition to a sustainable society.

This class aims to equip students with the knowledge to accurately evaluate the social significance of corporate activities and corporate value, which are being questioned in today's society.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on mid-term report (40%) and final report (60%).

MAN200HA

経営学入門

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取組みについても触れるために、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・毎回講義は配布資料をもとに進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている企業のビジネスモデルの特徴やその課題について履修者と一緒に検討していくとともに、その解説も行う。
- ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 企業と経営－経営学とは何か－	講義の内容・進め方とともに、経営学を学ぶことの意義を説明する。
第2回	企業の種類－企業と何か－	企業の種類とその種類を説明する。
第3回	経営戦略－概念と特徴－	経営戦略の概念や特徴を説明する。
第4回	経営戦略－種類と策定方法－	経営戦略の種類とその策定方法を説明する。
第5回	経営戦略－新たな企業戦略の意義と内容－	現在企業に求められている新たな経営戦略（環境戦略、サステナビリティ戦略、地域戦略）を説明する。
第6回	経営組織－概念と種類－	経営組織の概念とその種類（形態）を説明する。
第7回	経営組織－形態と特徴－	経営組織の形態（基本と応用）とその特徴を説明する。
第8回	経営組織－新たな組織の展開－	第5回の経営戦略を実現していくための新たな経営組織（サプライチェーン、産業クラスター、コラボレーション）を説明する。
第9回	経営管理－機能と仕組み－	経営管理の2つの機能（経営機能と管理機能）とともに、企業経営の管理技法を説明する。

第10回	経営管理－経営資源の管理①－	企業の人的資源である「ヒト」、材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法を説明する。
第11回	経営管理－経営資源の管理②－	企業経営をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計（「カネ」）や「情報」の管理方法を説明する。
第12回	経営管理－新たな経営管理の方法－	第5回と第8回の講義内容も踏まえ、新たな経営管理の方法（環境マネジメント、マネジメント・コントロール）を説明する。
第13回	ケーススタディ	第12回までの講義内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらふ機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明してもらふ場合もありますので、メモできるもの（付箋など）も持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ①配付資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ②必要に応じて新聞・雑誌記事などのコピーも配布します。
- ③質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method in companies.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand the basis of business management system.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN200HA

環境経営と会計

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、企業などの組織が行った経済活動の状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者（企業内外のステークホルダー）に伝達するための情報システムである。その領域は、マイクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。本講義では、マイクロ会計のうち、企業を対象とした会計をもとに、環境会計またはサステナビリティ会計を学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業会計の基礎的なフレームワークを学習した後、環境経営やサステナビリティ経営の財務的・非財務的内容を理解し、分析できる能力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面で実施する。

・本講義では、企業会計（財務会計や管理会計）、環境会計、サステナビリティ会計の機能や構造を、環境省やGRI（Global Reporting Initiative）などで公表されているガイドラインや、有価証券報告書、環境報告書、サステナビリティ報告書、統合報告書を利用しながら理解することを目指す。また、必要に応じて関連する新聞や雑誌記事などを配布し、会計の仕組みをより詳細に理解していく。

・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容・進め方とともに、企業経営と会計－会計学とは何か－
第2回	会計の基礎概念と基本的技法	会計の基礎概念と基本的技法を説明する。
第3回	会計の仕組み①－貸借対照表の特徴と仕組み－	貸借対照表の特徴と構成要素（資産、負債、純資産）を説明する。
第4回	会計の仕組み②－損益計算書の特徴と仕組み－	損益計算書の特徴と構成要素（収益、費用）を説明する。
第5回	経営分析の方法	経営分析の必要性と、分析方法を説明する。
第6回	ケーススタディ①	第2回から第5回までの講義内容をもとに、企業の会計情報を分析し、その結果を説明する。
第7回	環境経営と環境会計	環境会計の概念と基本的機能、また、第5回までの講義内容との関係を説明する。
第8回	環境会計情報①	環境保全コストの定義、内容、測定方法を説明する。
第9回	環境会計情報②	環境保全効果と経済効果の定義、内容、測定方法を説明する。

第10回	環境経営分析	環境会計情報を活用した経営分析の方法を説明する。
第11回	ケーススタディ②	第7回から第10回までの講義内容をもとに、企業の環境会計情報を分析し、その結果を説明する。
第12回	環境会計情報の開示方法	環境会計の情報開示の意義とその方法（開示媒体）を説明する。
第13回	新たな環境会計 サステナビリティ会計	新たな環境会計（マテリアルフロー・コスト会計など）と、サステナビリティ経営のための会計システムを説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、今後の活動（ゼミナール活動など）で必要とされる研究・調査の方法の基礎基本を身に付けてもらうために、配布資料を用いて会計学の専門的で難解な用語、概念、技法を平易に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50%）
- ②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合もありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn environmental accounting and sustainability accounting based on the framework of corporate accounting.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand the basis of corporate accounting, environmental accounting, and sustainability accounting.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

ECN300HA

環境経済論 I

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済論を理解するのに必要なミクロ経済学などの事項を学び、具体的な環境政策、特に環境税や排出量取引などの経済的手段の仕組みや課題を志向できる力を涵養することを目標とする。

【到達目標】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。この授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どの様な政策が必要であるかを理論的に考える。具体的には、「市場の失敗」が発生するメカニズムおよびどの様な対策があるのかを考える。またこの授業では、以下の2つを最終目的とする。①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。②排出量取引制度を疑似体験し、制度設計に必要な思考力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境経済とは何か	環境経済学の位置づけ
第2回	消費者と生産者の理論	ミクロ経済学の基礎的な概念の紹介
第3回	市場均衡と市場の万能性	市場の役割と市場の効率性の理解
第4回	公共財と外部性	市場の失敗と政府の介入根拠の理解
第5回	環境政策の種類	外部不経済への対処方法の理解
第6回	コースの定理	当事者間の直接交渉による解決方法の理解
第7回	排出量取引	排出量取引制度の制度設計とその効果の紹介
第8回	政策手段の比較	環境税と排出量取引を比較検討
第9回	不確実性下の政策選択	不確実性が存在する際の環境政策の効率性
第10回	排出量取引制度の制度設計	世界の排出量制度の比較および国内の議論を紹介
第11回	ゲームで学ぶ環境政策①	コースの定理および排出量取引の制度設計を理解
第12回	ゲームで学ぶ環境政策②	時間的要素（世代間）を入れた場合の排出量取引の制度設計を理解
第13回	地球温暖化問題①	地球温暖化問題に対する各国の取り組みの理解
第14回	地球温暖化問題②	ポスト京都議定書の各国の取り組みの理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前に、配布資料および関連する文献に目を通しておくこと。また、時間外の課題を提出期限内に行うこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書
一方井誠治（2018）『コア・テキスト 環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）に加え、授業後に課す練習問題（30%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、該当なし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course introduces key concepts in environmental economic theory and policies to tackle environmental issues to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to 1) understand the key theoretical aspect of environmental issues and 2) propose economically efficient environmental policies.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, homework: 30%, in-class contribution: 10%.

ECN300HA

環境経済論Ⅱ

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、様々な環境問題に焦点をあて、どのような政策が必要であるか、経済学の視点から考える。また、実際の環境政策を概観・比較を行う。その際、経済学がどのように役立っているのかを明確にしなが、授業を進める。

この授業では、以下の2つを最終目的とする。

- ①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。
- ②環境政策を立案するために必要な思考力を身に付ける。

【到達目標】

経済学の基礎的な知識と環境問題に対する理解を深めることができる。

また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロ	授業の全体像および環境経済論Ⅱの内容と環境経済論Ⅰの復習
第2回	気候変動問題①	地球温暖の基礎知識
第3回	気候変動問題②	京都議定書とは何だったのか。
第4回	気候変動問題③	ポスト京都における各国の対策と日本：中期目標を中心に
第5回	気候変動問題④	パリ協定と今後の気候変動対策
第6回	廃棄物の経済学①	ゴミの有料化とは、
第7回	廃棄物の経済学②	どの程度の料金に設定するべきか
第8回	廃棄物の経済学③	有料化の方法とそれらの経済的インセンティブ
第9回	廃棄物の経済学④	自治体のゴミの有料化とレジ袋有料化
第10回	都市の環境問題①	放射性廃棄物をどのように処理するのか
第11回	都市の環境問題②	コースの定理と日本の公害病
第12回	都市の環境問題③	固定排出源における環境対策
第13回	都市の環境問題④	交通部門に対する環境規制
第14回	自主的な取り組み	道路混雑とロードプライシング
		日本経団連の自主行動計画と自主的取り組みの有効性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料および関連する文献を読むこと。また、グループディスカッションの内容を事前にリサーチし、準備すること。

【テキスト（教科書）】

日引・有村（2002）『入門 環境経済学』、中公新書。

【参考書】

有村・片山・松本（2017）『環境経済学のフロンティア』、日本評論社。
 細田・横山（2007）『環境経済学』、有斐閣アルマ。
 一方井（2018）『環境経済学』、新世社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）に加え、グループディスカッション（40%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、該当なし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Environmental issues are becoming severe as well as diverse as economies grow. This course introduces three major environmental issues (climate change, waste and air pollution) and policies implemented to tackle these issues to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) understand the nature of environmental issues and, 2) propose environmental policies need to tackle these issues.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts and relevant chapter from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, assignment/homework 20%, in class contribution: 10%

MAN300HA

環境経営論 I

金藤 正直

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経営とは、企業や自治体などの組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、ここでは、現在注目されているサステナビリティ経営の現状やその取り組みについても触れていく。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取り組みについても触れるために、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて経済的価値と社会的価値の向上を目指す方針（戦略）をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・本講義では、企業で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取り組みへの理解をさらに深める。
- ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 環境経営とは何か	講義の内容・進め方と、企業における環境経営やサステナビリティ経営の目的や意義を説明する。
第 2 回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営やサステナビリティ経営の現状を説明する。
第 3 回	環境経営の全体像	企業の実践例をもとに、環境経営やサステナビリティ経営の全体像を説明する。
第 4 回	経営戦略①	従来の経営戦略や企業の実践例をもとに、環境経営やサステナビリティ経営のための戦略の理論的特徴を説明する。
第 5 回	経営戦略②	企業が策定すべき環境経営戦略やサステナビリティ経営戦略（例えば、CSR 経営や SDGs 経営のための戦略）を説明する。

第 6 回 経営組織①	従来の経営組織や企業の実践例をもとに、第 4 回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の理論的特徴を説明する。
第 7 回 経営組織②	第 5 回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織（ネットワーク、コラボレーション、パートナーシップ）を説明する。
第 8 回 経営管理①	環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第 9 回 経営管理②	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム（サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第 10 回 環境経営と会計	環境経営やサステナビリティ経営を支援する会計システムを説明する。
第 11 回 ケーススタディ①	企業の実践的取組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。
第 12 回 ケーススタディ②	第 11 回での検討内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第 13 回 新たな環境経営	現在注目されている新たな環境経営やサステナビリティ経営（再生可能エネルギー、フードロス、健康経営、地域循環共生圏、地域再生、ソーシャル・ビジネスなど）を説明する。
第 14 回 講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけでなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配付資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけでなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけでなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の 2 点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50 %）
- ②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand the basis of environmental and social management system in companies.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営やサステナビリティ経営（再生可能エネルギー、フードロス、健康経営、地域循環共生圏、地方創生、ソーシャル・ビジネスなど）の方法を、経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら両経営の全体像を理解し、新たなビジネスモデルを検討していくことも目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指す。
- ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 新たな環境・サステナビリティ経営の現状	講義の内容・進め方と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営またはサステナビリティ経営の現状を説明する。
第2回	新たな環境・サステナビリティ経営の意義と方法	企業の社会的責任（CSR）、共有価値（CSV）、包括的成長（IG）、持続可能な開発目標（SDGs）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境・サステナビリティ経営の意義と方法（サプライチェーン・マネジメント（SCM）、産業クラスター・マネジメント（ICM）、バランス・スコアカード（BSC））を説明する。
第3回	サプライチェーン・マネジメント（SCM）	SCMの研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能なSCMの概念と仕組みを説明する。
第4回	産業クラスター・マネジメント（ICM）	ICMの研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能なICMの概念と仕組みを説明する。

第5回	バランス・スコアカード（BSC）①	BSCの研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能なBSCの概念と仕組みを説明する。
第6回	バランス・スコアカード（BSC）②	第2回から第5回の内容に基づくBSCの作成方法を説明する。
第7回	再生可能エネルギー事業	資源エネルギー庁で整理されている再生可能エネルギーの概念や現状とともに、国内の先進事例（飯田市や下川町など）とその特徴を説明する。
第8回	フードロス・マネジメント	農林水産省、消費者庁、環境省で公表されているフードロス対策の現状を紹介しつつ、国内のフードロス削減への実践例（フードドライブ、バイオマス利用、サルベージ・パーティ、3010運動など）とその特徴を説明する。
第9回	健康経営	経済産業省や厚生労働省の取り組みを紹介し、また、日本企業の先進的な取り組みとその特徴を説明する。
第10回	地域循環共生圏	環境省の取り組みを紹介しつつ、国内の先進事例を取り上げ、その特徴を説明する。
第11回	地方創生経営	内閣府・内閣官房の地方創生の取り組みを紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。
第12回	ソーシャル・ビジネス	途上国で展開されているソーシャル・ビジネスやBOP（Base of the Pyramid）の実践例やその課題を説明する。
第13回	新たなビジネスモデルの構想	第7回から第12回までの実践的な取組事例を1つ選定し、その事例を第2回から第6回までの内容をもとに検討しつつ、新たなビジネスモデルを提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

- ① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand a new environmental and social management system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%

2) Final report: 50%

MAN300HA

CSR 論 I

長谷川 直哉

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【グ】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現代社会において企業が直面する社会課題を取り上げます。企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ（SDGs）を巡る国際的な動向を整理し、企業と社会の関係性が時代とともにどのように変遷してきたのかを説明します。授業を通じて学生がサステナビリティ社会における企業の社会的責任を正しく理解する能力を涵養し、将来の職業選択にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

SDGsの登場によってサステナビリティがグローバル社会のキーワードとなった今、社会課題の解決に向けて、企業には幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGsやCSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティの意義やビジネスがどのように変わっていくのかを解説します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業の本質とは何か	講義の全体像と進め方 企業と社会の関係
第2回	グローバル経済の進展 とその影響	SDGsとパリ協定の登場によって 社会経済システムはどのように変 化するか
第3回	SDGs（持続可能な開 発目標性）と企業経営	SDGsが求める企業像とは何か 企業と社会の関係はどのように変 化していくのか
第4回	脱炭素革命（パリ協 定）の意義	パリ協定の本質とは何か 脱炭素革命は経営構造をどのよう に変えていくのか
第5回	欧州のサステナビリ ティ戦略①	欧州におけるサステナビリティ戦 略の変遷とケーススタディ
第6回	欧州のサステナビリ ティ戦略②	EUグリーンディールの内容と日 本企業への影響
第7回	外部講師による特別講 義①	企業のサステナビリティ担当者に よる講義（詳細が確定次第、学習 支援システムに掲示します）
第8回	責任投資原則と ESG 投資	責任投資原則が機関投資家の投資 行動と企業経営に及ぼす影響
第9回	サステナブルマネーの 動向①	サステナビリティを推進する諸原 則（責任投資原則、責任銀行原則、 持続可能な保険原則）について
第10回	サステナブルマネーの 動向②	経営構造の変革を迫るアクティビ ストの狙い

第11回	外部講師による特別講義②	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第12回	サステナビリティを巡る政策動向	コーポレートガバナンスコードの改訂と東証市場再編の意義
第13回	企業経営とサステナビリティの相克	企業不祥事に関するケーススタディ
第14回	サステナブルストーリーの構築	ビリーブドリブン消費者の台頭によってブランド戦略はどう変わるか

Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では1,000社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

Naoya.HASEGAWA (2020) "Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG"(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂、2017年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート： 30%（2社分）

期末試験： 70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the social issues that companies face in today's society. the growing interest in SDGs (Sustainable Development Goals) and CSR (Corporate Social Responsibility) is due to the fact that people feel that society is not moving in the right direction.

This class aims to deepen students' understanding of the relationship between society and corporations from the perspective of sustainability. Students will also gain knowledge that will be useful in their future corporate choices.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

MAN300HA

CSR 論Ⅱ

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【国】【サ】

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR 論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）や Business Ethics（企業倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割、企業のパーパス（存在意義）や経営思想について理解を深めることめざします。

【到達目標】

SDGs が求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決が求められる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が欠かせません。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の SDGs/CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方
第2回	社会構造の変化と企業が直面する課題	現代企業が直面する事業環境の変化について
第3回	近代産業の勃興と経済倫理 [1] 「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第4回	近代産業の勃興と経済倫理 [2] 「最大多数の最大幸福をどう生み出すか」	J. ベンサム・J. ミル「功利主義思想」と M. ウェーバー「資本主義の精神と倫理」について
第5回	企業社会の変容と CSR・SDGs の登場	ポスト資本主義社会における企業の役割とは何か
第6回	日本社会における企業倫理の形成 [1]	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第7回	日本社会における企業倫理の形成 [2]	戦後日本における企業責任の生成と展開
第8回	外部講師による特別講義 [1]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第9回	新自由主義から第三の道へ	新自由主義への反動と第三の道（新しい公共）の生成
第10回	ESG 経営の最新動向「ガバナンス編」	コーポレートガバナンスコード & 東証市場再編とガバナンス構造の変革

第10回	ESG 経営の最新動向「環境編」	脱炭素時代の企業評価のあり方（炭素利益率）
第11回	ESG 経営の最新動向「社会編」	ダイバーシティ、人権、働き方改革の実態
第12回	外部講師による特別講義 [2]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第13回	シェアリング・エコノミーの台頭と企業経営	大量消費時代の終焉とサブスクリプションビジネスの台頭
第14回	SDGs 時代に求められるパーパス経営	パーパス（存在意義）を起点にした経営構造改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景に SDGs に取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂, 2021 年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文眞堂, 2019 年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文眞堂, 2018 年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂, 2017 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文眞堂, 2016 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%（2 社分）

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネージャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021 年 9 月 28 日)』2021 年

「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020 年 3 月 2 日～12 日)』2020 年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319 号』2021 年

【Outline (in English)】

In this lecture, we will examine the aims of sustainability policy and changes in business strategy. We will consider what the role of corporations in a sustainable society is and what elements are necessary to sustainably increase corporate value.

This class aims to deepen students' understanding of SDGs and carbon neutrality in corporate management. Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

ECN300HA

国際環境政策 I

杉野 誠

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【グ】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国内の環境問題では、汚染者と汚染によって影響を受ける主体が比較的明確である。そのため、環境対策の制定が比較的容易である。一方、複数の国にまたがって影響を与える越境汚染（国際的な環境問題）では、多くの利害関係者が係るため、容易に環境対策を導入しにくい。本講義では、様々な国際的な環境問題を取り上げ、どの様な環境政策が必要かを考察していく。

【到達目標】

本授業では以下の到達目標を設定する。

- ①国際的な環境問題の本質を理解し、説明できる。
- ②国際的な環境問題に対して経済学的思考ができる。
- ③これらの問題に対して必要な政策を立案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロ	授業の内容および国際的な環境問題の解説
第2回	環境の価値とは	環境評価の手法と費用便益分析
第3回	環境保全技術と環境規制	ポーター仮説とは、環境規制は許や省エネ投資を促進するのか
第4回	グローバル経済と環境	開発と環境、人口問題と環境保全
第5回	環境と貿易①	汚染回避仮説とは
第6回	環境と貿易②	自由貿易協定（FTA）と環境保全 FTAは環境によいのか
第7回	環境と貿易③	公害輸出とリサイクル
第8回	国際的な自然資源管理①	再生可能資源の保護について
第9回	国際的な自然資源管理②	再生不可能資源（枯渇性資源）の保護について
第10回	気候変動問題①	京都議定書の目的と問題点
第11回	気候変動問題②	ポスト京都の議論と各国の姿勢・取り組み
第12回	気候変動問題③	パリ協定と今後の展望
第13回	国際協力の必要性	国際的な枠組みの重要性について ：国際炭素税や国際的な排出量取引制度を中心に
第14回	持続可能な発展	価値の変革：保有から共有へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料を事前に読み、理解できない点・疑問点を明らかにする。また課題を実施し、期限内に提出すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。
ただし、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日引・有村（2002）『入門 環境経済学』、中公新書。
有村・蓬田・川瀬（2012）『地球温暖化対策と国際貿易：排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』、日本評論社。
細田・横山（2007）『環境経済学』、有斐閣アルマ。
一方井（2018）『環境経済学』、新世社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）に加え、課題（30%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため、該当なし。

【Outline (in English)】

[Course Outline] Environmental regulations and policies are easily implemented for regional/domestic environmental issues. On the other hand, environmental regulations and policies are difficult to implement for international environmental issues. In this course we will investigate various international environmental issues we face today. This course introduces key concepts in implementing environmental economic policies to tackle local and global environmental issues to students taking this course.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to 1) understand the key theoretical aspect of environmental policies and 2) propose economically efficient environmental policies for global and local environmental issues.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for each class.

[Grading Criteria /Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, homework: 30%, in-class contribution: 10%.

ECN300HA

国際環境政策Ⅱ

久谷 一郎、土井 菜保子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【グ】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、環境政策およびエネルギー政策の国内外の状況、国際比較や国際協調のあり方をテーマとします。環境およびエネルギー問題について統計などの諸資料を活用しながら現状について客観的な理解を深めます。また、国内外の環境政策、エネルギー政策の経緯や潮流を理解することで、地球温暖化問題や環境問題と一体となっているエネルギー問題の解決のための国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて学びます。

【到達目標】

各種統計資料等に基づいた国内外の状況や国際比較への理解を通じて、各学生が将来に向けて現代社会の重要課題である環境問題や環境問題と一体となっているエネルギー問題について、データと事実に基づいて広い視野から主体的に考察できるようになること、そして、将来に向けて新たな問題意識の発掘や醸成および課題解決について思考、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

国際環境政策Ⅰで扱うことができなかった環境およびエネルギー問題について、スライドを利用しながら講義形式で解説します。第1回の授業で、環境・エネルギー問題に関する受講生の関心を聴取します。聴取した結果は、第2回以降の授業で取り扱うテーマや解説の軽重に反映します。最終回の授業では、各回の授業で扱ったテーマなどをもとに自由な質疑、議論を行います。本授業は2名の講師が前半と後半で分担しますが、各講師が担当する授業の最終回後、すなわち計2回のアクションペーパーを提出してもらいます。講義は対面を基本としますが、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の狙い、構成、成績評価としてのレポートの概要など
第2回	エネルギーセキュリティ（1）	エネルギー安全保障とは（概念と歴史的経緯日本のエネルギー安全保障問題）
第3回	エネルギーセキュリティ（2）	今日のエネルギー安全保障1（至近の情勢、注目点）
第4回	エネルギーセキュリティ（3）	今日のエネルギー安全保障2（至近の情勢、注目点）
第5回	エネルギーセキュリティ（4）	途上国のエネルギー安全保障（途上国固有の課題）
第6回	エネルギーセキュリティ（5）	安全保障の対策と国際エネルギーガバナンス（政策の選択肢、国際協力）
第7回	エネルギー市場（1）	国際エネルギー市場とエネルギー価格（市場の概要と課題）
第8回	エネルギー市場（2）	国内のエネルギー市場
第9回	エネルギー市場（3）	エネルギー・環境政策と市場
第10回	環境政策（1）	地球温暖化とエネルギー

第 11 回 環境政策 (2)	省エネ、日本の取り組みと世界動向
第 12 回 環境政策 (3)	脱炭素政策、EV 化、デジタル化
第 13 回 環境政策 (4)	ビジネス界の取り組み
第 14 回 まとめ	質疑、フリーディスカッションなど

[Grading criteria/policy]

A comprehensive judgment will be made based on a total of two report submissions (weight of 50% each). The minimum standard is to meet the deadline for submitting the specified report. In addition, the active participation in discussions during class will be positively evaluated.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業に用いるスライドは事前に配布するので、予め目を通しておくことで理解が深まります。復習では、授業を振り返るとともに、授業を通じて関心を持ったトピックスについて関連情報を収集し問題意識の醸成に努めることで、主体的に課題を発掘する力が養われることが期待できます。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。担当教員が作成した資料（スライド）をもとに毎回授業を進めます。

【参考書】

特定の参考書はありません。担当教員が作成した個々のテーマの資料（スライド）に参考とすべき書籍・論文があれば個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

合計 2 回のレポート提出（各 50 % の重み）をもとに総合判断します。定められたレポートの提出期限をまもることを最低基準とします。また、授業中の積極的な意見表明や議論への参加を加点評価します。

【学生の意見等からの気づき】

第 1 回授業における学生からの関心表明を踏まえて、授業にメリハリを付けます。
質問を受け付ける方法、機会をしっかりと提供します。
レポート課題の内容や回数・提出期限などの周知を、講義を通じて徹底します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

春学期開講の「国際環境政策 I」の履修を推奨します。ただし必須ではありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員 2 名は（一財）日本エネルギー経済研究所でエネルギー経済に関する研究活動に従事しています。本授業では、その研究活動を通じて得た最新かつ実践的な知見や考え方、分析方法などが反映されています。

【Outline (in English)】

[Course outline and learning objective]

Themes of this lecture series are on (1) environment and energy policies in Japan and the world, and (2) approaches for overcoming the challenges for so-called 3Es (Energy Security Enhancement, Economic Efficiency, and Environmental Protection). Those themes will be discussed from Japan's past experiences/current undertakings as well as other countries' approaches. Engagement of the international community to such a framework as UNFCCC is also an important theme to be analyzed in this lecture series.

The objectives of this lecture series are:

- to objectively understand the current environment and energy issues with the use of statistical data as well as policies analyses,
- to understand the global environment and energy policies from both historical and current perspectives, and
- to establish views for overcoming those challenges surrounding global environment and energy issues from multilateral/bilateral approaches as well as Japan's approaches.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

The slides used in the lectures will be distributed in advance, so you can deepen your understanding by reading them in advance. In reviewing the lecture, it is expected to cultivate the ability to proactively discover issues by collecting related information and expand your thought on topics of interest.

ECN300HA

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【国】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、ア）途上国経済の分析枠組み、特徴、イ）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。また学習支援システム（Hoppii）を通じたコメント／質問の提出も可能とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長を挙げたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。

第 5 回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚しい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚しい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第 10 回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第 11 回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第 13 回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第 14 回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすることができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書は当該部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 4 版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験

80%を予定する。仮にコロナウイルスの感染拡大により対面授業や期末試験が開催されない場合は、レポート課題を中心とした成績評価に変更する可能性がある。変更する場合の成績評価方法は、学習支援システムを通じて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%. If face-to-face classes and final examinations cannot be held due to the spread of coronavirus infection, the grading system may be changed to one based on report assignments. If this is the case, the grading method will be announced through the learning support system (Hoppii).

ECN300HA

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【グ】

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。また学習支援システム（Hoppii）を通じたコメント／質問の提出も可能とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	途上国経済を見る目	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐ	国際経済の主要な活動である貿易
	る議論	について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況(1)：中国(1)社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況(2)：中国(2)持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況(3)：インド-目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。

第 7 回	途上国社会・経済の概況 (4) : 映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国/地域の社会と経済 (5) : タイ-東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでも NIES に続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第 9 回	主要国/地域の社会と経済 (6) : ベトナム-戦場から市場へ	1960 年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを挙げる過程を概観する。
第 10 回	主要国/地域の社会と経済 (7) : ブラジル-南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび 21 世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第 11 回	主要国/地域の社会と経済 (8) : 南アフリカ-アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第 12 回	主要国/地域の社会と経済 (9) : ボツワナ-資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第 13 回	国際経済の中の域内協力	ASEAN (東南アジア諸国連合) を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第 14 回	まとめ: 途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前/事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他 (2008 年) 『経済発展の政治経済学』 (日本評論社)
渡辺利夫編 (2007 年) 『アジア経済読本 (第 4 版)』 (東洋経済新報社)

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験

80%を予定する。仮にコロナウイルスの感染拡大により対面授業や期末試験が開催されない場合は、レポート課題を中心とした成績評価に変更する可能性がある。変更する場合の成績評価方法は、学習支援システムを通じて連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%. If face-to-face classes and final examinations cannot be held due to the spread of coronavirus infection, the grading system may be changed to one based on report assignments. If this is the case, the grading method will be announced through the learning support system (Hoppii).

MAN300HA

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次/単位：2~4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを考える題材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスの視点から多様な企業活動を観察することで、環境問題に関する総合的な理解を深めるとともに、企業のビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れつつ、汎用性の高いツールとしてファイナンスや経営学の基本的な視点を学ぶことで、「企業を見る目」を養い、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、市場規模や構成、雇用などを巨視的な視点から理解すると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主要なテーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。併せて、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論／	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集める ESG 金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRR などの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。

第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：再生可能エネルギービジネス	太陽光発電や風力、バイオマス素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース2：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCO などを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第8回	ケース3 3Rビジネス1／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、3R からサーキュラーエコノミーに至るビジネス環境の変化を学ぶ。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第9回	ケース3 3Rビジネス2／企業分析プレゼン②	前回の続きとして、容器包装リサイクル、食品リサイクル、金属リサイクル等の各論を観察する。
第10回	ケース4：環境リスク管理ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第11回	ケース5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第12回	ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第13回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス1／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めている ESG 投資など「環境金融」の機能について考える。
第14回	まとめ	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスを含めて予備知識は一切不要です。復習による定着を重視して下さい。自分が関心を持つ業界／企業が環境問題にどう関わっているか、という問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。

講義が大企業等を素材にすることが多い分、毎回ベンチャー企業等を素材とするミニレポートを課題として課します（翌週までに提出）。また、チーム又は個人で企業分析・プレゼンしてもらいます。質疑、講師や他の受講生からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。毎回の準備学習・復習と宿題対応で2時間程度を標準としますが、これとは別にプレゼン準備には相応の時間が必要です。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が必要です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。また、毎回課す課題は、当日教室で配布します。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト
http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html
 このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

この講義では、一方通行の座学ではなく、ディスカッション等を通じた知識の定着を重視しており、授業に出席することが評価の大前提となります。そのうえで、企業分析・プレゼンテーション（50%）、毎回課すベンチャー企業などの環境ビジネスを素材とする課題（30%）、講義でのディスカッションへの貢献度（20%）などに基づき、総合的に判断します。なお、プレゼンテーション等に関して個別に指導を行う関係上、受講希望者が多い場合には人数調整を行うことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼン後の振り返りなど、ディスカッションや対話の時間をより充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

講義の性格上、対面式を原則とします。個別の事情がある場合には別途相談して下さい。分析・プレゼンの件数や対象は受講生数に応じて増減します。受講者が多い年はチームを編成して、最大6～7件程度になり、少ない場合は、受講者一人で1社を担当してもらいます。

教員は現役の銀行職員であり、環境ビジネスの調査企画、ESG評価等に関する実務経験を有しているほか、数多くの政府委員会に委員として参加しています。本講義は、こうした経験を基に構成されたプログラムです。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

The purpose of this course is to consider the relationship between environmental issues and the economy from the aspect of "environmental business." By rethinking environmental issues through analysis of corporate activities conducted in various fields such as renewable energy, energy saving, resource management, environmental risk management, etc., we aim to provide a multi-faceted view of the relationship between the environment and the economy.

【Learning Objectives】

By observing environmental businesses, you will be able to deepen a comprehensive understanding of environmental issues, analyze a company's business model, and discuss its growth potential and risks in detail. Develop corporate analysis skills by experiencing various corporate activities and learning the basic perspectives of finance and business administration. Improve presentation ability through company analysis and presentation.

【Methods】

First, understand the overall picture of the environmental business, such as market size, composition, and employment. Next, you will learn through case studies on themes such as energy, resource recycling, risk management, water, and natural capital conservation. At the same time, learn the basic idea of finance and basic analysis tools. In addition, by being in charge of individual company analysis and presentations, you will be able to experience the real image of environmental business using actual companies as materials, and to develop his presentation ability through feedback from faculty members.

【Learning Activities Outside of Classroom】

No prior knowledge is required, including finance. Emphasis is placed on fixing by review. There are many things you can get by attending a lecture with an awareness of how the industry / company you are interested in is involved in environmental issues.

Since lectures are often made from large companies, we will impose a mini-report on venture companies as an issue every time (submit by the next week). In addition, we will ask you to analyze and present the company as a team or as an individual. Many past students recall that this experience was useful, including questions and feedback from teachers and other students. The standard for each preparatory study / review and homework is about 1 hour, but apart from this, it takes a considerable amount of time to prepare for the presentation. It is necessary to actively participate in the creation of such analysis and presentation materials.

【Grading Criteria/Policy】

This lecture emphasizes the establishment of knowledge through discussions, etc., rather than one-way classroom lectures, and attending classes is a major premise for evaluation. After that, make a comprehensive judgment based on company analysis / presentation (50%), issues related to environmental businesses such as venture companies imposed each time (30%), and contribution to discussions in lectures (20%). increase. Due to individual guidance regarding presentations, etc., the number of participants may be adjusted if there are many applicants.

POL200HA

平和学

植村 充

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 6/Fri.6

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

安住の地を求めて移動する難民、混迷を極める内戦、頻発するテロ事件、そして感染症の世界的流行などのニュースに私たちは日常的に触れています。越境的に生じるこれらの諸問題を解決するには、事象の正確な把握とその分析が不可欠です。本講義においては、平和学がこれまでに積み重ねてきた知に触れ、これらの問題に対するアプローチを探ります。これによって国際社会に生じる問題に主体的に取り組む姿勢を身につけます。

【到達目標】

第 1 に、平和学の誕生から現在までの変遷、その特徴、他学問領域との関連、そして平和学における諸論点を横断的に理解します。また平和を希求する試みは、国際関係論とも強い親和性があるため、国際社会を構成する各主体（アクター）の特徴と関係性について理解します。第 2 に、それらの知識を活用して、紛争、平和構築、難民、多文化共生社会、といった具体的な課題に取り組む主体と手法の多様性を主体的に考察できるようにします。最終的に各受講者が世界の諸問題について自身で学びを深めていける能力を養成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を採ります。毎回、簡単なリアクションペーパーを課します。リアクションペーパーに書いて頂いた内容は次回の講義においてコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：平和学とは何か	平和学誕生の背景、その特徴、現代社会における役割と課題を概説する。特に「平和」とはどのような状態を指すのか、平和学が対象とする課題はなにかを理解する。
第 2 回	紛争と平和研究 (1)	主権国家体制の成立から現代にいたるまでの暴力発生様態の変容を理解する。従来、暴力の主な発生要因といえば国家間の戦争であったが、現代はより要因が多様化している点を理解する。
第 3 回	紛争と平和研究 (2)	崩壊国家と内戦の様相を植民地主義の歴史と各地域の事例を踏まえて概説する。
第 4 回	人道支援・人道的介入・平和構築 (1)	国家の崩壊や諸々の内戦に対して国際社会が用いてきたアプローチを理解し、具体的な事例からその問題点と展望を理解する。第 4 回は人道支援・人道的介入を考える。
第 5 回	人道支援・人道的介入・平和構築 (2)	内戦の終結した国にとって次なる課題は平和状態をいかに構築し、維持するかということである。第 5 回は国家建設をはじめとする平和構築のアプローチを考える。

第 6 回	国連と平和	国際平和を希求する目的をもって誕生した国連の平和に関する取り組みと現代的課題を理解する。
第 7 回	市民・NGO と平和	従来より平和研究における主要なアクターとして市民や NGO 活動の重要性が指摘されてきた。国境を越えた彼らの連帯と国際平和への関りについて理解する。
第 8 回	地域共同体と平和	国際社会を形成するアクターとして地域共同体の役割と性質を理解する。特にアフリカ連合 (AU) や欧州連合 (EU)、ASEAN を取り上げ近隣の紛争や難民危機についていかに対処してきたかを理解する。
第 9 回	差別・排除の克服と平和	世界では社会の分断をあおるような差別や排除が日々行われ、時に深刻な暴力的状況を生み出されている。ここでは差別・排除の生じる要因を理解し、解決への取り組みを考える。
第 10 回	グローバルな経済格差と開発援助	戦争の不在だけでは平和とは言えない。ここでは発展途上国と先進国の間にある経済格差に注目し、「積極的平和」などの概念も踏まえ、現在の課題と国際社会のアプローチを理解する。
第 11 回	人の移動と平和研究 (1)	現代社会において、人の移動は重要なトピックとなっている。ここでは特に世界各地で生じる難民問題について、難民発生メカニズムを理解し、日本そして国際社会がいかに難民問題に対応してきたかを理解する。
第 12 回	人の移動と平和研究 (2)	難民に限らず、世界には多様な理由で越境を行う人々がいる。日本でいえば技能実習生の問題など、脆弱性を持つ移動する人々の権利保障に焦点をあてる。
第 13 回	COVID-19 と平和研究 (1) 国際政治の観点から	COVID-19 の蔓延は、人々の生活を一変させた。日々の生活は勿論のこと、国家間レベルでも関係を緊張化させ、脆弱国家はより国内を不安定化させた。2020 年初頭より蔓延した COVID-19 は、どこまで国際政治を変容させたのか、概説する。
第 14 回	COVID-19 と平和研究 (2) 国内社会の観点から	COVID-19 の蔓延は、国内社会に在る脆弱性を有する人々の状況を特に悪化させた。どのような問題が認識され、対策が取られているのか、詳説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を適宜すること。また本講義で取り上げる国際社会における諸課題には、普段のニュースや他講義でも触れることがあると思います。主体的な取り組みのためにも、アンテナを張って積極的に知識を吸収してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。事前に読んで欲しい資料は授業支援システムに掲載します。

【参考書】

日本平和学会編 (2018) 『平和をめぐる 14 の論点 - 平和研究が問い続けること -』 法律文化社
 児玉克哉・佐藤安信・中西久枝 (2004) 『初めて出会う平和学 - 未来はここからはじまる -』 有斐閣アルマ
 長有紀枝 (2012) 『入門 人間の安全保障 - 恐怖と欠乏からの自由を求めて -』 中公新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%) と小レポート (30%) および出席・リアクションペーパー (20%) による。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講者から、講義の最後にリアクションペーパーを書くことによって理解が深まったとの意見を頂きました。自分で学習した知識をアウトプットするのは重要な学習方法ですので、積極的に記述を行ってください。また講義中に近年の研究動向を理解するために論文講読を行います。積極的に読み解いてください。

【その他の重要事項】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

We always hear the news about refugee issues, civil wars, and terrorism. To solve these cross-border problems, we need to understand the origin of these incidents precisely and analyze them critically. In this course, students study the knowledge accumulated in the research field of peace studies and research the methodological approach to these issues. By so doing, students acquire a positive attitude to work on the problems in international society.

In order to achieve the goal, firstly, students study what's kind of actors exist at the international level. After that, this course provides detailed information about the issues happening all over the world.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students gain knowledge about international issues and the perspective for analyzing these issues.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class, students will be expected to actively gather information related to the class and comprehend it well.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50 %, Short reports:30%, Reaction Paper: 20 %

POL300HA

人間の安全保障

植村 充

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 6/Fri.6

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【G】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1994 年に「人間の安全保障」という概念が提唱されてから、およそ 25 年が経過しました。この間同概念を基盤として、国際社会では多様な試みがなされてきました。安全保障の焦点を従来の国家安全保障から個人の人権や生命、そして生活に当てる試みが生まれたことで、何が達成され、また課題として残されているのか。本講義では、この「人間の安全保障」について関連学問分野に体系的に学習します。

【到達目標】

安全保障概念の変遷、人間の安全保障に対する国際機関・国家・NGO の政策、人間の安全保障という概念を基軸として見つめ直される諸課題について理解します。特に諸課題の現状を冷静に把握し、これを解決する手段として国際社会がどのような方策を立ててきたのかを学習します。これによって、越境的に生じる政治経済社会問題を学生自身が主体的に考察し、当事者の視点を踏まえて議論できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を採ります。毎回、簡単なリアクションペーパーを課します。リアクションペーパーに書いて頂いた内容は次回の講義においてコメントします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：人間の安全保障とは何か	「人間の安全保障」の概念が成立した経緯、その意義、他の学問領域との関連を概説する。
第 2 回	安全保障の歴史と概念の変容	従来、安全保障は伝統的に国家同士の戦争から国家の主権をいかに守るかという国家安全保障を想定してきた。しかしその後、安全保障の対象は多様化する。その多様化の歴史的経緯を理解する。
第 3 回	現代世界における人間の安全保障	1990 年代以降に確立された「人間の安全保障」概念が誕生してから 25 年が経過しようとする今、どのような成果を残し、課題を抱えているのかを理解する。
第 4 回	崩壊国家と内戦の様相	人間の安全保障の重要性が最も顕わになるのは、国家が国民の安全を保障できない、崩壊国家や内戦の場合である。ここでは、冷戦終結後に生じた内戦や脆弱な国家の出現とその原因を理解する。

第 5 回	人間の安全保障と国際法	人間の安全保障の概念は国際法の発展にも寄与してきた。特に国家主権や人道的介入、平和に対する権利など、従来の概念に対する影響を看過することはできない。ここでは人間の安全保障と既存の国際法の関係を理解する。
第 6 回	国際機関と人間の安全保障	人間の安全保障を推進する主体として、国際連合をはじめとする国際機関の活動は重要な論点である。特に国際連合が果たしてきた成果とその限界について理解する。
第 7 回	国際社会・NGO と人間の安全保障	国際社会を構成する日本以外の諸外国と NGO が人間の安全保障という概念に基づきいかに活動してきたか、理解する。
第 8 回	日本と人間の安全保障	1990 年代後半以降、人間の安全保障は日本外交の柱の一つとなってきた。この回では、人間の安全保障に対する国際社会への日本政府の取り組みを概説する。
第 9 回	貧困と開発援助の諸相	人間らしく生きるためには、暮らしの安定性と持続性が必要である。しかしながら、主に途上国で深刻な貧困状態が継続し、人間の安全保障に対する脅威の一つになっている。今回は、貧困の実態と開発援助の諸相を考える。
第 10 回	テロリズムと人間の安全保障	現代国際社会で人間の安全保障に対する著しい脅威として、世界各地で生ずるテロリズムがある。この回では、越境的に生じるテロの問題を理解し、国際社会の取り組みを考える。
第 11 回	難民・国内避難民問題 part1	世界各地には紛争や内戦によって移動を余儀なくされた避難民が多く存在する。この回では難民の発生要因、難民キャンプでの生活、解決策について考える。
第 12 回	難民・国内避難民問題 part2	2015 年に発生した欧州難民危機では地中海やバルカン半島を経由して多くの避難民が欧州地域に押し寄せた。大量の避難民を前に EU はいかに対処したか。各構成国の反応も踏まえつつ概説する。
第 13 回	COVID-19 と人間の安全保障	2020 年初頭より世界全体で蔓延した COVID-19 は、まさに「人間の安全保障」の視角が重要となる問題である。本講義では、現在世界で生じている COVID-19 にまつわる諸問題について概説する。
第 14 回	講義の振り返りとまとめ	第 13 回までの講義内容と議論をまとめながら、人間の安全保障に関する今後の展望を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「人間の安全保障」という概念は聞きなれないかもしれませんが、関連する諸課題は講義で説明するように我々の身近にあります。積極的に新聞やニュースに触れ、主体的な授業参加を奨励します。また適宜英語資料を用います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。講義前に読んで頂く資料がある場合には授業支援システムを活用します。

【参考書】

東大作編著 (2017)『人間の安全保障と平和構築』2017 年 日本評論社

高橋哲哉・山影進編 (2008)『人間の安全保障』2008 年 東京大学出版会

長有紀枝 (2012)『入門 人間の安全保障 -恐怖と欠乏からの自由を求めて-』中公新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、小レポート (40%)、出席およびリアクションペーパー (20%)。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度を受講者から、講義の最後リアクションペーパーを書くことによって理解が深まったとの意見を頂きました。自分で学習した知識をアウトプットするのは重要な学習方法ですので、積極的に記述を行ってください。また講義中に近年の研究動向を理解するために論文講読を行います。積極的に読み解いてください。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを利用します。講義までに読んでくる関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Twenty-five years have passed since the concept of "human security" was proposed in 1994. Various attempts have been made on the basis of this concept in international society. We consider what has been achieved and what is left as uncompleted agendas by shifting the focus from nation-states to people's human rights and lives. In this course, students study the concept of "human security" with a systematic method.

【Learning Objects】

At the end of the course, students are expected to gain knowledge related to the issues of "human security" and skills to identify the crucial point of it.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class, students will be expected to actively gather information related to the class and comprehend it well.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40 %, Short reports:40%, Reaction Paper: 20 %

MAN300HA

環境マネジメントスタディーズ I

池原 庸介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、気候変動による人類や生態系への影響が激化しており、「気候危機」という言葉が定着しつつあります。いよいよ2020年よりパリ協定がスタートし、脱炭素社会の実現に向けた取り組みが世界的に加速しています。本講では、気候変動問題に係る国際交渉や国内外の政策動向、そして非国家アクターと呼ばれる企業、投資家、自治体、そしてNPO（非営利組織）の取り組みについて理解を深めます。講義では、世界の最新動向を交えた解説を通じて、活きた知識を身につけます。

【到達目標】

気候変動問題を正しく理解し、2016年に発効した国際枠組み『パリ協定』の下で、世界が脱炭素社会の実現に向けてどのように取り組んでいるか、政府や企業、ESG投資家、NPOなど様々な切り口から包括的に理解すること。約3ヶ月間の学習で、気候変動問題に詳しくなり、他者に説明し議論できるレベルに到達することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、社会科学・自然科学の両面から気候変動問題およびその解決に向けた世界の取り組みについて全体像を概観します。講義形式で理解を深めてゆき、環境マネジメントスタディーズII（秋学期）のディスカッションにおいても議論に貢献できる十分な知識を涵養します。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	ガイダンス 深刻化する気候変動問題	講義の進め方 気候変動問題とは
オンライ	気候変動の科学① (テキスト第3章)	IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第6次評価報告書が示す将来予測、炭素予算など
オンライ	気候変動の科学② (テキスト第3章)	予測される気候変動の影響
オンライ	国連気候変動枠組み条約と国際交渉 (テキスト第4章)	国際的な気候変動交渉の流れ
オンライ	京都議定書と市場メカニズム (テキスト第4章)	法的拘束力を持つ削減目標と柔軟性メカニズム
対面	パリ協定の成立 (テキスト第4章)	国際合意の難しさ、全員参加型の気候変動対策、脱炭素に向けた取り組み
対面	パリ協定下での各国の政策動向 (テキスト第4章)	主要各国の気候変動・エネルギー政策

対面	日本の気候変動・エネルギー政策 (テキスト第4章)	日本の中長期目標とその課題、世界からの評価
対面	非国家アクターによる気候行動① (テキスト第5章)	非国家主体による取り組みの重要性、リマ・パリ行動アジェンダ
対面	非国家アクターによる気候行動② (テキスト第2,5,6章)	世界の産業界の動向、各種国際イニシアチブ
対面	非国家アクターによる気候行動③ (テキスト第2,5,6章)	ESG対応の観点から企業に求められる取り組み
未定	基本的知識の確認、定着化	小テスト実施
未定	世界のエネルギーの動向 (テキスト第7章)	『脱炭素』を実現する世界のエネルギーのあり方
未定	再生可能エネルギー普及拡大の動き (テキスト第7章)	各国の再生可能エネルギー政策、企業などによる再生可能エネルギーの活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前は、下記のテキスト（教科書）を用いて予習。そして授業後に、各回講義資料（ハンドアウト）を重点的に復習することで、その後の授業の理解度が格段に高まります。講義資料を表面的になぞるだけでなく、他者に教えるつもりで自分の言葉で説明できるよう心掛けると効果的です。これを継続することにより、春学期の3ヶ月間で、気候変動問題への理解度は高いと自負できるレベルに到達可能。

【テキスト（教科書）】

●池原 庸介『図解入門ビジネス最新カーボンニュートラルの基本と動向がよ〜わかる本』 秀和システム、2022年（¥2,200）

【参考書】

●WWF『生きている地球レポート2020』

※レポートは、ウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4402.html>

●WWF ジャパン『企業の温暖化対策ランキング』各編報告書（電気機器編、金融・保険業編など11編を発行済み）

※各編の報告書は、いずれもウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/214.html>

●梶屋 治紀『これからのエネルギー』 岩波ジュニア新書、2013年（¥902）

【成績評価の方法と基準】

①平常点（小テスト含む）：50%

②期末レポート：50%

①小テストでは、気候変動問題に関する基礎的事項や用語を理解しているかを問う。

②パリ協定の下での世界の脱炭素化に向けた動向、各主体の取り組みなどについて理解し、課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価。

【学生の意見等からの気づき】

・国際組織に勤務する担当教官の経験等に基づく国連会議の話題や企業の取り組み事例などが分かり易かったとの声が得られているため、今年度もそうした内容を積極的に取り扱います。

・授業で配布するハンドアウトは白黒印刷のため、グラフなどが読みにくい箇所があったとの声を受け、資料のPDFファイルを授業後に学習支援システムにアップロードすることとします。

・「大事な点は繰り返し丁寧に解説してくださったので、国際的な視点から日本の立場を理解することができた」といった意見が多数見られたため、その方針を継続します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム上に掲載する講義資料のPDFファイルを閲覧する場合はパソコンが必要。（スマホ画面では小さくて見難いため）

【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズII（秋学期）の履修予定者は、本科目を事前に履修することを推奨。

【Outline (in English)】

【Course outline】

As adverse effects of climate change become far more serious recently, a new term "climate crisis" has become widely used. With the implementation of the Paris Agreement started in 2020, climate actions toward a zero-carbon society are globally accelerated more strenuously than ever before. Students can learn about UN climate negotiations, climate policies in and outside Japan as well as ambitious efforts to address this issue by non-state actors such as businesses, investors, municipalities and NPOs, which are considered to play pivotal roles to realize decarbonization.

【Learning Objectives】

Through this three-months course, students are expected to get familiarized with the climate issues and their countermeasures, becoming able to discuss it with others.

【Learning activities outside of classroom】

Two-hours learning before/after the class, respectively. A textbook will be used for pre-learning. When learning after the class, you can use a handout to be allocated every week.

【Grading Criteria/Policy】

- ① Attitude, contribution, interim exam : 50% in total
- ② Term paper : 50%

MAN300HA

環境マネジメントスタディーズⅡ

池原 庸介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境マネジメントスタディーズⅠで学んだことをベースに、気候変動問題をはじめ、森林の伐採、水産物の過剰漁獲などの問題にも範囲を広げ、人間活動が地球環境や自然資本に与えている負荷の大きさを理解します。その上で、持続可能な社会の実現に向けて求められる解決策、課題等について、演習（ゼミ）形式で理解を深めます。

【到達目標】

人間活動が地球環境に与えている負荷の大きさを示す指標『エコロジカル・フットプリント』を用いて地球環境の実情を理解し、森や海を守り、気候変動問題を解決していくために何が必要かを自ら考え議論することができる。

企業の取組みについて調べ、発表を行うことで、プレゼンテーションスキルを向上。（調べるポイント等については、事前に授業の中で詳しく解説）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

人間活動、特に企業活動や生活者の消費行動が、どのようなかたちで地球環境に負荷を与えているかに焦点を当て、様々なトピックの資料を読みディスカッションを行う演習（ゼミ）形式で理解を進めていきます。グループ対抗での疑似交渉やロールプレイなども実施する予定です。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※下記の授業計画は、履修状況などに応じて変更や入れ替えを行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	ガイダンス	LPI（生きている地球指数）、EF
	エコロジカル・フット	を通じた地球環境の実情の理解
	プリント（EF）	
対面	企業の温暖化対策①	企業の取り組みを評価する際に重視すべき視点（長期目標、ライフサイクル的視点）
対面	企業の温暖化対策②	企業の取り組みを評価する際に重視すべき視点（再生可能エネルギー）
対面	企業の温暖化対策③	学生による発表とディスカッション
対面	企業の温暖化対策④	学生による発表とディスカッション
対面	企業の温暖化対策⑤	学生による発表とディスカッション
対面	企業の温暖化対策⑥	学生による発表とディスカッション
対面	企業の温暖化対策⑦	学生による発表とディスカッション
対面	持続可能な森林資源の活用に向けて①	森を守る調達・消費行動（紙パルプ調達とFSC認証）

対面	持続可能な森林資源の活用に向けて②	森を守る調達・消費行動（パーム油調達と RSPO 認証）
対面	持続可能な森林資源の活用に向けて③	ロールプレイとディスカッション（RSPO）
対面	持続可能な水産資源の活用に向けて①	海を守る調達・消費行動（水産物調達と MSC）
対面	持続可能な水産資源の活用に向けて②	海を守る調達・消費行動（養殖水産物調達と ASC）
対面	気候危機の解決に向けたエネルギーのあり方	エネルギーのあり方を各人が考え、グループ対抗で疑似交渉を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業に臨む予習としては、下記テキスト（教科書）を徐々に読み進めてください（特に第 2 章、第 6 章は発表準備に重要）。
- 授業後は、各回配布のハンドアウトをしっかりと復習してください。
- 【参考書】の『企業の温暖化対策ランキング』の報告書の中から関心のある業種を選び、読み込むことで、企業の取り組みレベルを見極める力が養われ、この分野の理解が深まります。
- 4 回～8 回の授業において、企業の温暖化対策に関する発表を実施します（各人 1 回）。⇒パワーポイントによる発表資料を準備※ 日ごろから、環境に関するニュースや記事などを読み、興味関心のある分野を増やしていくと効果的。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 池原 庸介『図解入門ビジネス 最新 カーボンニュートラルの基本と動向がよくわかる本』 秀和システム、2022 年（¥2,200）

【参考書】

- WWF ジャパン『企業の温暖化対策ランキング』各編報告書（電気機器編、食料品編など 11 編の報告書を発行済み）
※ 各編の報告書は、いずれもウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。
<https://www.wwf.or.jp/activities/2017/10/1392731.html>
- WWF『生きている地球レポート 2020』
※ レポートは、ウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。
https://www.wwf.or.jp/activities/data/lpr20_10.pdf
<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4402.html>

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（発表含む）：50%
- ②期末レポート：50%
- ①企業の気候変動対策について調査し発表（調査するポイント等については、授業内であらかじめ解説）。授業内の発言やディスカッションへの貢献も評価に反映。
- ②各回で取り上げた内容を通じ、エコロジカル・フットプリントをもとに地球環境の実情を理解し、与えられた課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価。

【学生の意見等からの気づき】

- 発表やグループディスカッション、ロールプレイなどを通じて、とても理解が深まったという声が多かったため、今年度も踏襲します。
- ディスカッションやグループワークをもう少し増やしてほしいという声もあったため、グループ対抗での交渉体験の機会を盛り込みます。

【学生が準備すべき機器他】

各回の講義資料は原則として、学習支援システム上に掲載。それらを見る場合はパソコンが必要。また、発表資料（原則としてパワーポイント）の作成にもパソコンが必要。

【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズ I（春学期）を事前に履修することを推奨。

【Outline (in English)】

【Course outline】

By referring to the Ecological Footprint indices, students can learn about to what extent human activities burden the global environment and natural capital from the viewpoint of climate crises, deforestation, depletion of fishery resources, etc. You can also foster better understanding of what are needed toward realizing a truly sustainable society through small-group discussion and role-playing methods.

【Learning Objectives】

By using Ecological Footprint indices, students are expected to get familiarized with the current status of the global environment and to consider and discuss effective measures to conserve terrestrial/marine environment as well as to address the climate crises.

【Learning activities outside of classroom】

Two-hours learning before/after the class, respectively. A designated textbook will be used for pre-learning (chapter 2 and 6 are especially important for preparing for a mandatory presentation). When learning after the class, you can use a handout to be allocated every week.

【Grading Criteria/Policy】

- ① Attitude, contribution, oral presentation (Power Point) : 50% in total
- ② Term paper : 50%

MAN100FA

簿記入門Ⅰ

大下 勇二

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

主催：経営

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰでは、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまで、具体的には複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法までを学習し、簿記入門Ⅱとあわせて日商簿記検定の3級程度のレベルへの到達を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の授業は対面授業を基本としています（初回のみ Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システムには、毎回テキストを要約した講義スライドと小テスト（全12回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第2回	簿記の意義としくみ (2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産（資本）について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第3回	簿記の意義としくみ (3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第4回	仕訳と転記 (1)	勘定の意義、勘定科目の分類、勘定記入を学習します。
第5回	仕訳と転記 (2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第6回	仕訳と転記 (3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」と「転記」について学習します。
第7回	仕訳帳と元帳 (1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第8回	仕訳帳と元帳 (2)	勘定記入、仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第9回	決算 (1)	決算の意味と手続き、試算表の作成、合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第10回	決算 (2)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きを学習します。
第11回	決算 (3)	精算表の仕組み、6桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第12回	現金と預金	現金・預金の記帳、現金出納帳、現金過不足、当座預金、その他の預金、小口現金の処理を学習します。
第13回	計算練習 (1)	小テストの解答を解説し、計算練習を実施します。
第14回	計算練習 (2)	小テストの解答を解説し、総合計算練習を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと講義スライド（パワーポイントのスライド）で予習・復習する形で学習を進めて下さい。テキストを良く読んでおき、テキストの例題・練習問題、ワークブックの問題を解くことが大切です。レポート、小テスト、最終試験の実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3級』（最新版）中央経済社。

『検定 簿記ワークブック 3級』（最新版）中央経済社。

【参考書】

最初の授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での「小テスト」（第1回～第12回）と「課題レポート」（1回程度）および定期試験期間内の「最終試験」の3つに基づいて評価します。各評価の配分は、小テスト（全12回）45%、課題レポート5%、定期試験による最終試験50%です。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解を深めながら授業を進めていきます。また、小テストの結果を定期的に観覧して、授業の理解をその都度確認する取組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびパワーポイント、さらに初回のオンライン授業ではのZoomを用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the book-keeping of an introductory level. Accounting based on Bookkeeping is called the language of business. Income statements and balance sheets published by companies are prepared based on accounting books that record their economic activities according to bookkeeping technique and certain accounting rules. This course deals with this bookkeeping technique from journal entry to settlement of accounts.

Learning objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basics of bookkeeping technique from journal entry to settlement of accounts, the double-entry system and basic accounting process.

Learning activities outside of classroom

Before/after each meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content. Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

MAN100FA

簿記入門Ⅱ

大下 勇二

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】

主催：経営

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。簿記入門Ⅱでは、簿記入門Ⅰで学習した仕訳から決算までの簿記の基礎を前提として、さまざまな取引を取り上げその具体的な処理を学習していきます。

【到達目標】

簿記入門Ⅱでは、簿記入門Ⅰで学習した簿記の基礎に基づいて、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを出発点として、具体的な各種取引の会計処理、帳簿組織の仕組み、決算整理と8桁精算表および決算書の作成方法を修得し、最終的に日商簿記3級程度のレベルへの到達を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

簿記入門Ⅱは対面授業を基本としています（初回のみ Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システムには、毎回テキストを要約した講義スライドと小テスト（全12回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	繰越商品・仕入・売上(1)	3分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を学習します。
第2回	繰越商品・仕入・売上(2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを学習します。
第3回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳、売掛金・買掛金、人名勘定、売掛金元帳・買掛金元帳などを学習します。
第4回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・仮受金、商品券等の処理を学習します。
第5回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、受取手形記入帳・支払手形記入帳、手形貸付金・手形借入金、電子記録債権・電子記録債務等の処理を学習します。
第6回	有形固定資産	有形固定資産の取得・売却、減価償却の計算と会計処理を学習します。
第7回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒れの処理、貸倒れの見積りと引当での処理を学習します。
第8回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金、配当等の処理を学習します。
第9回	収益と費用	収益と費用の未収・未払と前受けと前払いの処理とその意義、消耗品の処理等を学習します。
第10回	税金	税金の処理を学習します。
第11回	伝票	伝票を用いた記入方法を学習します。
第12回	財務諸表	決算手続き、決算整理の処理、8桁精算表および財務諸表の作成方法を学習します。
第13回	計算練習(1)	小テストの解答を解説し、計算練習を実施します。
第14回	計算練習(2)	総合計算練習を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストと講義スライド（パワーポイントのスライド）で予習・復習する形で学習を進めてください。テキストを良く読んでおき、テキストの例題・練習問題、ワークブックの問題を解くことが大切です。レポート、小テスト、最終試験の実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義3級』（最新版）中央経済社。

『検定 簿記ワークブック3級』（最新版）中央経済社。

【参考書】

最初の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での「小テスト」（第1回～第12回）、「課題レポート」（1回程度）および定期試験期間内の「最終試験」（1月実施）の3つに基づいて評価します。各評価の配分は、小テスト（全12回）45%、課題レポート5%、定期試験による最終試験50%です。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中で仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解の程度に注意しながら授業を進めていきます。また、小テストの結果を定期的に観察して、授業の理解をその都度確認する取組みをしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびパワーポイント、さらに初回のオンライン授業ではZoomを用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅲ/Ⅳなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the book-keeping of an intermediate level and the preparation of balance sheet(B/S) and income statement(P/L).In this course,we will take up various transactions and learn the specific processing based on the bookkeeping technique learned in "Introduction to Bookkeeping I".

Learning Objectives

By the end of the course,students should be able to understand the introductory accounting practices for merchant(Nishou-Boki-kentei 3-kyu level).

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting(on-line test)and mid-term report.Before/after each meeting,students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting(on-line test)(45%),mid-term report(5%),term-end examination(50%).

LAW200HA

行政法 I

横内 恵

配当年次/単位：1～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは、行政の活動を根拠づけたり規制したりする法の体系である。本講義ではそのうち、行政の組織のあり方や、行政法の基本原則、行政活動の類型などについて、具体例を示しながら解説する。

【到達目標】

行政の様々な活動を法的に理解・考察できるようになることを、本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式で実施する予定である。質問対応の機会については、履修者に対して、学習支援システムにおいてアナウンスを行う。提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、学習支援システムにおいて全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、行政組織の基礎概念	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 2 回	国の行政の仕組み、地方の行政の仕組み	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	法律による行政の原理	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	行政法の一般原則	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	行政の規範定立	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	行政行為（1）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	行政行為（2）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	行政契約（1）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	行政契約（2）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	行政指導	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	行政計画	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	行政の実効性確保手段	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 13 回	行政手続	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 14 回	まとめ	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書の該当ページをよく読んでください。オンデマンド授業の教材が掲載されたら、教科書や判例集とともに、スライドや解説ノートをよく読んでください。そして、復習を兼ねて、レポート課題に取り組んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書：北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第7版〕』（法律文化社、2019年）。（本体 2,700 円＋税）
・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例 50 ！』（有斐閣、2017）。（本体 1,800 円＋税）

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 45%、期末レポート 55%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

公務員試験の受験を考えていることは、本科目の履修を強く推奨します。

「行政法Ⅱ」の履修希望者は、先に本講義を履修してください。

2017年度以前に「行政法の基礎」の単位を修得済の場合、本科目の履修はできません。履修にあたっては、学習支援システムに掲載するオリエンテーション資料をよく読んでください。

【Outline (in English)】

Course outline : The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in administrative law.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to understand the basic concepts of administrative law.
Learning activities outside of classroom : The standard preparation and review time for this class is two hours each week.

Grading Criteria /Policy : Mid-term report (45%), Final report (55%).

LAW200HA

行政法Ⅱ

横内 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政法Ⅰ」の授業内容を前提として、違法または不当な行政活動を是正したり、国民の権利を保護したりするための救済制度について、具体的な事例を取り上げながら解説する。

【到達目標】

行政と国民の間の紛争をいかに法的に解決するかについて、論理的に考えられるようになることを本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式で実施する。質問対応の機会については、履修者に対して、学習支援システムにおいてアナウンスを行う。提出されたレポートから課題からいくつかポイントを取り上げ、学習支援システム上で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	当該テーマについて解説する
第2回	行政救済法概説	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第3回	取消訴訟：処分性	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第4回	取消訴訟：原告適格	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第5回	取消訴訟：判決の効力	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第6回	無効等確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第7回	不作為の違法確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第8回	義務付け訴訟と差止訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第9回	当事者訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第10回	民衆訴訟・機関訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第11回	国家賠償法：公権力の行使、公の営造物	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第12回	国家賠償法：違法性、故意・過失	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第13回	国家賠償法：規制権限不行使	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第14回	まとめ	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書の該当ページをよく読んでください。オンデマンド授業の教材が掲載されたら、教科書・判例集と同時に、スライドや解説ノートをよくよんでください。復習を兼ねて、レポート課題に取り組んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書：北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第7版〕』（法律文化社、2019年）。（本体2,700円＋税）
・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例50！』（有斐閣、2017）。（本体1,800円＋税）

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート45%、期末レポート55%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、「行政法Ⅰ」履修済みの人を主な対象とします。公務員試験の受験を考えている人には、本科目の履修を強く推奨します。履修にあたっては、学習支援システムに掲載するオリエンテーション資料をよく読んでください。

【Outline (in English)】

Course outline : The program gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in administrative law.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to understand the basic concepts of administrative litigation.

Learning activities outside of classroom : The standard preparation and review time for this class is two hours each week.

Grading Criteria /Policy : Mid-term report (45%), Final report (55%).

SOC200HA

現代社会論 I

佐伯 英子

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性等の問題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンドで講義ビデオを配信し、小課題を出します。学習支援システムにおいて、提出されたコメントシートや課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	理論と概念の重要性、社会学と持続可能な社会の構築、授業の進め方
第2回	「社会を社会的に考える」とは	社会的想像力
第3回	近代化と社会	分業、連帯、アノミー、社会的事実
第4回	個人と社会	社会的存在としての人間、アイデンティティ、社会化
第5回	資本主義	労働、階級、搾取
第6回	格差の再生産	ハビトゥス、文化資本、教育、文化的再生産
第7回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第8回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第9回	フェミニズム理論	知識とジェンダー、労働としての家事、感情労働、インターセクショナルリティー
第10回	ポストコロナリズム	オリエンタリズム、サバルタン、人種、多様性
第11回	社会変化	構造機能主義と紛争理論、社会運動論
第12回	情報化社会	格差、ジェンダー、人種、権力の理論を使って検討
第13回	現代日本社会と社会学理論	理論を使って社会を分析するとは

第14回 後半のまとめ、試験2 後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史 I』有斐閣

クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂

クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)、課題(10%)、試験(50%)から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

前回は引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間での学びの共有や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society.

【Course outline】

Specific topics to be covered include inequality, education, gender, race and ethnicity, and globalization. Each class consists of lectures, discussions, and activities, and it is essential that each student is prepared to participate actively.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Participation: 40%; Assignments 10%; Exams 50%

SOC200HA

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会」は、多くの場合その構成員全ての経験や考えを平等に反映したものではありません。この歪みのひとつがジェンダーであり、社会を理解し議論する上で欠かすことのできない視点です。この授業では、家族、教育、労働、政治を含む社会の様々な側面をジェンダーの観点から検討します。学生一人一人が講義内容を理解するだけでなく、理論や概念を使って社会問題について議論することから主体的に学び、考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

本科目では、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に与える影響を、基本的な理論と概念、国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探ります。日常生活や現代日本社会における制度、規範を多角的・多面的に分析することから新たな知見を獲得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジェンダーの視点で社会を分析する意義、本科目の進め方
第2回	ジェンダーとセクシュアリティ	性別と性差、ジェンダーの規範、家父長制、グラデーションとしての性
第3回	家族の歴史と現在	家族とジェンダー、異性愛規範、母性イデオロギー、婚姻制度
第4回	子ども	家庭において子どもは何を学び育つのか、社会化
第5回	学校教育、スポーツ	学校教育の歴史、機会の平等と結果の平等、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム、スポーツとジェンダー
第6回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第7回	科学、知識、医療	科学史の中の女性、ジェンダードイノベーション
第8回	賃金労働	少子化問題と労働問題、雇用体系、賃金格差、ワークライフバランス
第9回	リプロダクティブ・ライティ	生殖、性教育、セクシュアリティ
第10回	暴力	性犯罪と性暴力、法制度
第11回	表象と言葉	構築物としてのメディア
第12回	政治	民主主義、政治参画
第13回	フェミニズム	社会変革、持続可能な社会の構築
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

伊藤公雄・牟田和恵編 2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
千田有紀・中西祐子・青山薫 2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%); 課題(20%); 試験(50%)

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge and skills that enable them to examine various aspects of contemporary society (e.g., family, education, labor, and politics) from perspectives of gender.

【Course outline】

Lectures introduce historical changes and international comparisons, as well as theories. In addition to comprehending concepts and specific cases, students are required to complete assignments where they demonstrate their knowledge and ability to analyze social issues with gender perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SOC200HA

現代社会論Ⅲ

佐伯 英子

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。

社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることでできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会的想像力を身につけることでできる授業とすることを目指します。

【到達目標】

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。小課題では、理解した内容を身近な例を使って自分の言葉で説明し、学びを深めます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に対応した授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要とねらい、身体を社会的に分析する意義
第2回	身体社会学とは何か、階級と身体	労働、貧困、食、健康格差
第3回	人種	植民地主義、レイシズム、人種に関するカテゴリーの歴史的変遷
第4回	現代日本社会と人種	Blacks Lives Matter; 人種差別問題を自分たちの問題として考える
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体、身体の客体化、ステレオタイプ
第6回	ボディ・イメージ	身体の表象、「美」とされる姿の変遷、摂食障害、美容整形

第7回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	性自認と身体、異性愛規範
第8回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第9回	「正しい」と考えられている身体とは何か、逸脱は何を意味するか	障がい、医療化、障がいの社会モデル
第10回	優生思想	優生政策、優生思想は過去のものか、日本におけるハンセン病の歴史
第11回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ、生殖補助医療
第12回	いのちの終わりと生命倫理	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植
第13回	身体と未来	機械と人間の融合、ナラティブを変える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版（2012年）

小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択——今、考えたい脳死・臓器移植』岩波書店（2010年）

磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋社（2015年）

谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社（2008年）

柘植あづみ『生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』みすず書房（2012年）

マーゴ・デメット『ボディ・スタディーズ—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』（2017年）

アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体』春秋社（2004年）

毎日新聞『境界を生きる』取材班『境界を生きる 性と生のはざま』毎日新聞社（2013年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body. By completing this course, students are expected to be able to identify social issues pertaining to the theme of this class in their everyday lives and analyze them critically using sociological perspectives.

【Course outline】

We will consider topics including social class, gender, race, eugenics, and bioethics. After each lecture, students are expected to reflect on the contents and outline their thoughts on their comment sheets.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SOC200HA

NPO・ボランティア論

新田 英理子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がより良くありたいと願うように、社会をより良くしたいと願うときに、ボランティア、NPO（Nonprofit Organization）について、多面的、多角的に理解していることで、社会との向き合い方の幅を広げることができます。

日本において、NPO が一般的になってきたのは、ここ 20 年ほどです。

ボランティアは、「奉仕」を越えて、現代社会においてますます重要性を増しています。また、NPO・ボランティアと親和性の近い言葉として、市民社会・市民という言葉があります。

この授業では、NPO やボランティアを多角的、多様に理解すると同時に、SDGs 達成に向けて活動する、NPO の実践者、ボランティアの実践者からの情報提供も受けます。それらを通じて、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように向き合い、関わっていくのか、理解を深め、考える機会とします。

【到達目標】

- ・NPO の意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係などについて理解を深めるとともに、現代社会の持続可能性と持続可能性について考えます。

- ・ボランティアの意味、役割、これまでの歴史、NPO との関係について理解するとともに、SDGs とボランティア、SDGs と市民について、考えます。

- ・NPO・ボランティアが取り組んできた課題への理解を通して、社会の変化や現代社会の課題について問題意識をもち、自分たちひとりひとりができることについて考えます。

- ・今後のより良い社会のあり様を、どのように考えていけばよいのか。市民一人ひとりが、社会とどのように向き合い、関わるべきか、学生自身も含めて考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います（ZOOM のときは、ブレイクアウトセッションを行います）。

- ・毎回、小グループで話し合い、グループの意見をリアクションペーパーに書き、提出してもらいます。

- ・毎回、リアクションペーパー（感想・質問・意見）を提出してもらいます。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

- ・リアクションペーパーの質問については、次々回の授業の冒頭でコメントし、前回授業の振り返りの時間をとります。また、リアクションペーパーの意見等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や考えを学びあいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方について の説明
	SDGs に関する基礎知識	・私たちの生活と、持続可能性

第2回	NPOの基礎知識～NPOとは何か	・NPO歴史的背景 ・NPOの意味と意義 ・日本社会におけるNPO種類(NPO、NGO、CSOなど)
第3回	SDGsの基礎知識～SDGsとは何か	・SDGsの歴史的背景 ・SDGsの意味と意義 ・SDGsの担い手としてのNPO、ボランティアの意味
第4回	ボランティア・ボランティア活動とは何か?	・ボランティアの歴史的背景 ・ボランティアの意味と意義 ・個人、組織や法人格とは
第5回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して①	差別/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第6回	課題設定	5回の授業を通して、グループもしくは自身が解決したい、社会課題を設定します。
第7回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して②	環境問題(プラスチックごみ問題)と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例(クリーンアップ等)を通して、持続可能性について考える
第8回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して③	生物多様性と向き合うNPO・ボランティアの実践事例(希少種保全等)を通して、持続可能性について考える
第9回	市民社会とは何か	・市民社会とは ・行政組織や企業組織との違い ・マルチステークスホルダーの重要性
第10回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して④	外国にルーツをもつ人たちが抱える問題と向き合うNPO・ボランティアの実践事例(学習支援等)を通して、持続可能性について考える
第11回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して⑤	貧困/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例(路上生活者支援)を通して、持続可能性について考える
第12回	パートナーシップ	・パートナーシップによって課題を解決するとは ・NPO・ボランティアにとってのパートナーシップの概念を理解する
第13回	授業の振り返りと発表①	全体を通しての授業の振り返り ・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表
第14回	授業の振り返りと発表②と補足	全体を通しての授業の振り返り ・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表 ・補足

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします
 ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
 ・各回のレジュメ(パワーポイント資料)配布するので、授業後、各自授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してみること。疑問点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。
 ・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておくこと。
 ・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。
 ・各自で、関心のある分野のNPOの事例をインターネット等で調べたり、NPO支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみることをお勧めします。

【テキスト(教科書)】

テキストは指定しません。

【参考書】

「基本解説。そうだったのかSDGs」SDGs 市民社会ネットワーク発行 1000円
 「知っておきたいNPOのこと基本編」日本NPOセンター発行 500円
 その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれかを購入するか、各自でNPOに関する本や小冊子を手し、授業とあわせて理解や考察を深めるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の発言、リアクションペーパーの提出、参加姿勢など): 40%
 テスト・レポート: 60%
 なお、原則として、4回以上欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・現在もSDGsを達成するために活動しているCSOのネットワーク組織で活動をしています。
 ・また、20年間、NPOとしてNPOを支援し、活動を行ってきた経験をもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。
 ・学生による発表を随時取り入れたいと思いますので、授業計画を一部変更することもあります。

【Outline (in English)】

In this class, we will receive reports from NPO/volunteer practitioners, who understand NPOs and volunteer work from multiple points of view. Through such experiences, students in this class will have opportunities to deepen their understanding of such work and consider how they want to engage with society as citizens.
 Work to be done outside of class (preparation, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The lecturers are required to prepare for and review the lectures by using the materials introduced in the lectures.

After the class, each student should review the lecture content, understand the content well, and organize his/her own ideas. If you have any questions, please submit them in the reaction paper for the next class.

If you are absent from class, download the resumes from the class support system to grasp the contents of the class.

Students are expected to deepen their understanding of the contents of the class by reading the related contents in reference books, etc.

It is recommended that you research NPOs in your field of interest on the Internet, gather information at NPO support centers, etc., and actually participate in volunteer activities.

Grading criteria

Ordinary points (in-class comments, submission of reaction papers, participation attitude, etc.): 40

Tests and reports: 60

As a general rule, students who are absent four or more times will not be graded.

SOC200HA

フィールド調査論

笠原 良太

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、社会調査の基礎的知識を学んだうえで、調査票の作成とインタビュー調査を行い、社会調査の考え方を実践的に学ぶ。具体的には、量的調査・質的調査の方法論、調査倫理、問いの立て方などを講義形式で学んだうえで、質問紙調査の調査票作成ならびに受講生同士のインタビュー調査を演習形式で行う。以上の学習を通して、社会調査の意義と課題、可能性を理解し、社会・環境と人間に関する考察力・想像力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①メディアリテラシーおよびリサーチリテラシーを身につける
- ②既存調査の結果やインタビュー調査の結果を分析し、わかりやすく的確に報告できる
- ③社会・環境と人間に関するリサーチクエスチョンを持ち、社会調査（のデータ）を活用して解明・考察できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、グループワークまたは個人ワークも行う。提出されたリアクションペーパー、課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会調査の基礎（1） —ガイダンス、社会調査の概要	本授業の目的、進め方、成績評価について説明する。また、社会調査の歴史、種類、意義について講義する。
第2回	社会調査の基礎（2） —問題関心、「問い」の立て方	社会科学における「問い」の立て方、先行研究に関する情報収集の方法について講義する。
第3回	社会調査の基礎（3） —「因果関係」「仮説」	社会科学の基礎的用語である「概念」「変数」「因果関係」「仮説」について解説する。
第4回	社会調査の基礎（4） —調査方法の選択、フィールドの選定	リサーチクエスチョンの解明に最適な調査方法、フィールド選定の基準について確認する。
第5回	量的調査入門（1） —特徴と調査サイクル	サンプリング調査の設計・準備・実査・分析・報告のサイクルを、実際の調査事例を検討しながら学ぶ。
第6回	量的調査入門（2） —調査票の作成・ワーディング	調査票の作成方法を講義したうえで、簡易の調査票を作成し、受講生同士で確認・検討する。
第7回	量的調査入門（3） —実査・集計の方法	調査票の配布と回収、エディティング、コーディング、データ入力を実践的に学ぶ。また、実際の調査報告書をもとに集計と報告について講義する。
第8回	質的調査入門（1） —特徴と調査サイクル	実際の調査事例をもとに、量的調査との相違・共通点を確認する。

第9回	質的調査入門（2） —インタビュー調査の技法	インタビュー調査の設計・準備・実査・分析・報告のサイクルを、実際の調査事例（モノグラフ）を検討しながら学ぶ。
第10回	質的調査入門（3） —参与観察法	参与観察調査の設計・準備・実査・分析・報告のサイクルを、実際の調査事例（モノグラフ）を検討しながら学ぶ。
第11回	演習（1） —調査設計	受講生の問題関心に基づいたインタビュー調査を設計し、調査依頼書、調査票の作成を行う（グループワーク）。
第12回	演習（2） —実査・トランスクリプト作成	受講生同士でインタビュー調査を行い、トランスクリプトを作成する。（授業時間外の実査（グループワーク）・テープ起こし（個人ワーク）を要する）。
第13回	演習（3） —データの整理・分析	トランスクリプト作成のつづき。マスキングを施し対象者に内容の確認を行う。データを分析し、仮説の検証を行う。
第14回	演習（4）および総括 —フィールド調査の意義と可能性	データ分析・仮説検証のつづき。レポートとしてまとめる。総括として、フィールド調査の意義と可能性についてディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に配布したレジュメや資料等を予め読んで予習・復習をすること。授業内で実施するグループワーク・個人ワークの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が適宜資料・レジュメを配布する

【参考書】

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美、2016、『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。
佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 上』東京大学出版会。
佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 下』東京大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

平常点・講義中の課題（40%）、中間・最終課題の提出（60%）

【学生の意見等からの気づき】

2021年度の授業は、フィールド調査法の基本を学ぶうえでわかりやすい内容だったが、応用・発展内容を学びたい学生にはやや物足りない内容だった。今年度は演習形式でより発展的な内容とした。

【学生が準備すべき機器他】

PCを用いることがあるため各自用意すること

【その他の重要事項】

本授業は定員が30名程度である。受講希望者は第1回目の講義で決定する。グループワークを実施するため、欠席しないことが受講条件である。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to social research methodology for beginners. In this course, the instructor will explain how to establish the research question, quantitative/qualitative research methodology and ethics in social research. Students will conduct a pilot interview survey and establish the sociological thinking habit. The goal of this course is to acquire social research literacy. Students will write mid and final research papers, worth 60% of the grade. Regular attendance and active participation will be required.

SOC200HA

フィールド調査論

笠原 良太

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、社会調査の基礎的知識を学んだうえで、調査票の作成とインタビュー調査を行い、社会調査の考え方を実践的に学ぶ。具体的には、量的調査・質的調査の方法論、調査倫理、問いの立て方などを講義形式で学んだうえで、質問紙調査の調査票作成ならびに受講生同士のインタビュー調査を演習形式で行う。以上の学習を通して、社会調査の意義と課題、可能性を理解し、社会・環境と人間に関する考察力・想像力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

- ①メディアリテラシーおよびリサーチリテラシーを身につける
- ②既存調査の結果やインタビュー調査の結果を分析し、わかりやすく的確に報告できる
- ③社会・環境と人間に関するリサーチクエスチョンを持ち、社会調査（のデータ）を活用して解明・考察できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、グループワークまたは個人ワークも行う。提出されたリアクションペーパー、課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会調査の基礎（1） —ガイダンス、社会調査の概要	本授業の目的、進め方、成績評価について説明する。また、社会調査の歴史、種類、意義について講義する。
第2回	社会調査の基礎（2） —問題関心、「問い」の立て方	社会科学における「問い」の立て方、先行研究に関する情報収集の方法について講義する。
第3回	社会調査の基礎（3） —「因果関係」「仮説」	社会科学の基礎的用語である「概念」「変数」「因果関係」「仮説」について解説する。
第4回	社会調査の基礎（4） —調査方法の選択、フィールドの選定	リサーチクエスチョンの解明に最適な調査方法、フィールド選定の基準について確認する。
第5回	量的調査入門（1） —特徴と調査サイクル	サンプリング調査の設計・準備・実査・分析・報告のサイクルを、実際の調査事例を検討しながら学ぶ。
第6回	量的調査入門（2） —調査票の作成・ワーディング	調査票の作成方法を講義したうえで、簡易の調査票を作成し、受講生同士で確認・検討する。
第7回	量的調査入門（3） —実査・集計の方法	調査票の配布と回収、エディティング、コーディング、データ入力を実践的に学ぶ。また、実際の調査報告書をもとに集計と報告について講義する。
第8回	質的調査入門（1） —特徴と調査サイクル	実際の調査事例をもとに、量的調査との相違・共通点を確認する。

第9回	質的調査入門（2） —インタビュー調査の技法	インタビュー調査の設計・準備・実査・分析・報告のサイクルを、実際の調査事例（モノグラフ）を検討しながら学ぶ。
第10回	質的調査入門（3） —参与観察法	参与観察調査の設計・準備・実査・分析・報告のサイクルを、実際の調査事例（モノグラフ）を検討しながら学ぶ。
第11回	演習（1） —調査設計	受講生の問題関心に基づいたインタビュー調査を設計し、調査依頼書、調査票の作成を行う（グループワーク）。
第12回	演習（2） —実査・トランスクリプト作成	受講生同士でインタビュー調査を行い、トランスクリプトを作成する。（授業時間外の実査（グループワーク）・テープ起こし（個人ワーク）を要する）。
第13回	演習（3） —データの整理・分析	トランスクリプト作成のつづき。マスキングを施し対象者に内容の確認を行う。データを分析し、仮説の検証を行う。
第14回	演習（4）および総括 —フィールド調査の意義と可能性	データ分析・仮説検証のつづき。レポートとしてまとめる。総括として、フィールド調査の意義と可能性についてディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に配布したレジュメや資料等を予め読んで予習・復習をすること。授業内で実施するグループワーク・個人ワークの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が適宜資料・レジュメを配布する

【参考書】

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美、2016、『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣。
佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 上』東京大学出版会。
佐藤郁哉、2015、『社会調査の考え方 下』東京大学出版会。

【成績評価の方法と基準】

平常点・講義中の課題（40%）、中間・最終課題の提出（60%）

【学生の意見等からの気づき】

2021年度の授業は、フィールド調査法の基本を学ぶうえでわかりやすい内容だったが、応用・発展内容を学びたい学生にはやや物足りない内容だった。今年度は演習形式でより発展的な内容としたい。

【学生が準備すべき機器他】

PCを用いることがあるため各自用意すること

【その他の重要事項】

本授業は定員が30名程度である。受講希望者は第1回目の講義で決定する。グループワークを実施するため、欠席しないことが受講条件である。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to social research methodology for beginners. In this course, the instructor will explain how to establish the research question, quantitative/qualitative research methodology and ethics in social research. Students will conduct a pilot interview survey and establish the sociological thinking habit. The goal of this course is to acquire social research literacy. Students will write mid and final research papers, worth 60% of the grade. Regular attendance and active participation will be required.

SOC200HA

社会統計論

藤本 隆史

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、社会統計の基礎として、調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータの集計・分析の方法を学習する。

【到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。分析の目的（何を比べているのかなど）や分析の意味（どのようにしてその分析が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計・分析を行えるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、授業資料を配布し、指示された課題に取り組んで提出してもらおう。データの集計・分析には、エクセルを用いる。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。学期末に確認テストを実施する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第2回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第3回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第4回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第5回	確率分布および統計的推定について	確率分布の考え方と、標本統計量による母数の推定（点推定・区間推定）の考え方を学ぶ
第6回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方と作成方法を学ぶ
第7回	エラボレーションおよび関連係数	第3変数を用いたエラボレーションの考え方と、クロス集計表による変数の関連の測定方法を学ぶ
第8回	統計的検定の基礎およびカイ2乗検定	統計的検定の基礎知識と、クロス集計表を使った離散変数間の検定を学ぶ
第9回	平均値の差の分析（1）t検定	独立変数の値が2値の平均値の差の分析方法（t検定）を学ぶ
第10回	平均値の差の分析（2）分散分析	独立変数の値が3値以上の平均値の差の分析方法（分散分析）を学ぶ
第11回	相関係数	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ

第12回 回帰分析

連続変数間の因果関係の分析方法を学ぶ

第13回 集計結果のまとめ方

集計結果を利用・加工する方法を学ぶ

第14回 試験・まとめ

統計データの収集から分析に関する確認テストを実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

向後千春、2007、『統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学』技術評論社。

その他、講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業資料で指示した課題の提出を求める（60%）。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関する確認テストを実施する（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of statistics, which include how to read and use data to students taking this course, using statistical software, such as Excel. The goal of this course is to understand the basics of data analysis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content with handouts and so on distributed in class.

Grading will be decided based on class assignments (60%), and the term-end examination (40%).

SOC200HA

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

RSP 履修不可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
- ・第2回～第3回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
- ・第4回～第10回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
- ・第11回～第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
- ・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
- ＊第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
- ＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
4	話しあいの場をつくる	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）

5	話しあいの場をつくる	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・技術②オリエンテーション）
6	話しあいの場をつくる	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・技術③チェックイン）
7	話しあいの場をホール	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホール	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホール	意見の集約方法を学ぶ（講義・演習）
10	プログラムを組み立てる	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
11	ファシリテーション実践①	参加型の場（ミーティング）の運営を体験する（演習）
12	ファシリテーション実践②	参加型の場（対話型ワークショップ）の運営を体験する（演習）
13	ファシリテーション実践③	参加型の場（討議型ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
- ・第2回～第3回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）
 - ・第4回～第10回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）
 - ・第11回～第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』（北樹出版、2021年、1,600円＋税、978-4-7793-0652-5）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

- ・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
- ・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約40%）、レポート課題（授業内試験）（約30%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約30%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

2021年度はハイフレックス型の変則的な授業形態であったが、その中で採用した「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、今年度も各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システム（Hoppii）を使用します。

【その他の重要事項】

◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。◎RSP生は、本科目は履修不可です。火曜2限のファシリテーション論（C2240）を受講してください。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

short reports: 40%, term-end report: 30%, in class contribution: 30%.

SOC200HA

グローバル・コミュニケーション

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

【到達目標】

The aims of the course are:

- ・ to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- ・ to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- ・ to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- ・ to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- ・ to develop the process of cultural adaptation.
- ・ to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing, including research techniques and oral presentation skills. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Hosei Learning Management System (hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第 2 回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第 3 回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第 4 回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第 5 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第 6 回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第 7 回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture
第 8 回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第 9 回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第 10 回	Potential Problems in Intercultural Communication	Seeking similarities/ uncertainty reduction/ stereotyping/ prejudice/ racism/ ethnocentrism and power
第 11 回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第 12 回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management
第 13 回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming interculturally competent / The future of intercultural communication
第 14 回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials. Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in each class.

【参考書】

Jackson, Jane. (2020). Introducing language and intercultural communication (2nd Edition). Routledge.
James W. Neuliep. (2020). Intercultural Communication: A Contextual Approach (8th Edition). SAGE Publications.
Larry A. Samovar, Richard E. Porter and Edwin R. McDaniel. (2014). Intercultural Communication: A Reader (14th Edition). Wadsworth Publishing.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), a group project (20%), two short written assignments (20%), and a take-home exam (20%).

* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【Outline (in English)】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning. Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class.

Assessment will consist of in-class participation (40%), a group project (20%), two short written assignments (20%), and a take-home exam (20%).

ADE300HA

地域形成論

小島 聡

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の持続可能性に関する高度な学習への入門として、様々な視点から地域について検討する。特に、地域学のイメージ、地域に関する近現代史と現在の課題、ローカルキャリアとローカルプロジェクト、21世紀の都市コミュニティ、新たな実践としてのソーシャルイノベーションやソーシャルデザインについて取り上げる。この授業の目的は、学生が地域学の基礎について学びながら、自分のキャリアを考えることである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・地域社会に関する高度な専門学習に必要な基礎知識を習得する。
- ・現代日本における多様な地域問題と解決策のケースを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。またゲストスピーカーによる最新の情報提供も予定している。リアクションペーパー（感想や意見）等の提出と応答やミニレポートの提出と講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用しながら、授業の冒頭でも言及する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

※2021年度秋学期における授業の実施形態に即して変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「地域」の解剖学～「地域」のとらえかた	講義のプロローグとして、地域を空間スケールと時間スケールから多角的に俯瞰する。
第2回	地域の解剖学～「地域」「地域社会」の構造	環境、経済、社会、文化、政治など、人間活動の総体としての「地域」「地域社会」を構造的にとらえる。
第3回	地域と記憶～原風景から始まるライフストーリーとパブリックヒストリー	人々の生活史（個人的記憶）と地域史（社会的記憶）の関係性について検討し、オーラルヒストリーによる地域づくりについても言及する。
第4回	地域形成の近現代史 150年～明治の近代化から戦前期	19世紀後半から20世紀初頭の日本における地域形成史について検討する
第5回	地域形成の近現代史 150年～敗戦から高度経済成長期	20世紀半ばの日本における地域形成史について検討する。
第6回	地域形成の近現代史 150年～20世紀後半から世紀転換期・21世紀前半	20世紀後半から21世紀前半の日本における地域形成史について検討する。特に「東京一極集中」とその行方について考える。

第7回	郊外と住宅からみた都市の軌跡と現代	地域形成の近現代史の各論として、郊外と住宅の変遷に焦点をあて、さらに、21世紀前半の逆都市化・郊外の危機について検討する。
第8回	ローカルキャリアを生きる	地域にコミットする人間のキャリアについて、ゲストとともに考える。
第9回	現代都市のキーワードとしてのコミュニティ	高齢社会、格差社会、多文化共生社会など、いくつかの視点から、21世紀の都市コミュニティ問題について多角的に検討する。
第10回	都市コミュニティを耕す	ソーシャルキャピタルやサードプレイス、プレイスメイキング、コミュニティデザインなどの概念とともに、コミュニティカフェやこども食堂をはじめとする「居場所」づくりなどの地域実践について検討し、さらにコミュニティの拠点としての商店街の再生にも言及する。
第11回	ローカルプロジェクトとソーシャルイノベーション	地域の課題解決に関する実践について、ソーシャルイノベーション・ソーシャルデザインの視角から検討する。
第12回	持続可能な過疎地域と内発的発展	持続可能な過疎地域・農山漁村に向けた1970年代から21世紀前半に至る内発的発展論の展開について検討する。
第13回	過疎地域の挑戦～「懐かしい未来」に向けて	過疎地域の内発的発展・持続可能な発展に向けた挑戦の動向と可能性について検討する。
第14回	あらためて地域に向きあうということ	講義のエピローグとして、「定住人口」「交流人口」「関係人口」など、地域との多様ななかかわりについて考えながら、地域と向きあう人生について問い直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、ミニレポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85%）＋積極的な参加姿勢（5%）＋ミニレポート（10%）で評価する。

※2022年度秋学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

・日々、報道される地域に関する出来事は、現代社会の様々な課題と関係しているため、地域に関する学習を通して、時事問題に関するリテラシーを身につける機会になるようです。

・ゲストスピーカーの話は、地域人の取り組みをリアルに理解し、自分自身のローカルキャリアや学部での学びを考える機会になるようです。

・さらに、地域をめぐって考え、対話し、ワークする方法と機会を模索していきたいと思います。2020～2021年度については、Zoomのチャット機能を活用しながら、学習支援システムの「掲示板」を補完的に利用しましたが、2022年度も授業の実施形態に即した対応を検討します。

【その他の重要事項】

・ローカル・サステイナビリティコースおよび人間文化コースのコースコア科目・基幹科目として、コース履修の導入的かつ基盤的な位置にあるため、2つのコース登録者または履修予定者の履修を強く推奨します。

・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目、または人間文化コースの地域に関するコースコア科目とあわせて履修することを強く推奨します。

・ローカル・サステナビリティコースと人間文化コース以外にもサステナブル経済・経営コースなどでも、地域に関するテーマと関連する部分が多いので、それらのコースの登録者や登録予定者にも履修を推奨します。

・登録コースにかかわらず、どこかの地域で生活する現代人の基礎教養としての履修を推奨します。

【関連深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide an introduction to the advanced studies about “Sustainable community”. Especially, we will examine the various themes, such as the image of local studies, “Local career” and “Local project”, the modern history and the present agenda of community, the urban community in the 21st century, “Social innovation” and “Social design” as new practice. The purpose of this course is for students to consider one’s career while learning about the foundation of local studies.

The goals of this course are to acquire basic knowledge required for advanced studies about local community, and to understand various regional issues and the cases of solution over them in modern Japan.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Term-end examination:85%,Active class participation:5%,Sort reports:10%

ECN300HA

地域経済論 I

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義で受講生は、地域経済の基盤である産業とその担い手に焦点を当てて、地域の経済発展の基礎と論理について考察します。

【到達目標】

拡大するグローバル社会の中では、国家経済的な視点だけでなく、地域の主体性（ローカル・イニシアティブ）も同時に求められています。本講義では①地域の経済理論、②事例分析にもとづいた昨今の課題を通して、地域の経済に対する具体的な分析能力と企画立案能力を習得し、サステナブルで豊かな地域社会のありかたについて考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域の経済に関する理論と実践について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な範囲で対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「地域経済」とは何か、「豊かさ」とは何か、今なぜ地域経済を考えるのか
第 2 回	日本の地域構造	データ（人口・家族・所得・産業など）からみた地域経済と地域構造
第 3 回	身近な経済学	地域の環境・経済・社会・文化的側面から地域経済を読み解く
第 4 回	第一次産業（1）ぶどうとワインからみた地域経済	山梨県甲州市を事例として地域経済の展開について考える
第 5 回	第一次産業（2）地域づくりの実践と理論	ワインの共同醸造、観光果樹園、住民イベントから地域づくりを考える
第 6 回	第一次産業（3）持続的社會と地域産業の役割	熊本県水俣市の甘夏生産組合の歴史と現状から環境配慮型地域産業と「内発的発展論」について考える
第 7 回	第二次産業（1）日本経済と地域産業	産業地域社会論について考える
第 8 回	第二次産業（2）伝統織物生産地域の構造と展開	ライフヒストリーからみた小規模家族経営と日本経済について考える
第 9 回	第二次産業（3）在来的経済発展論の射程と課題	地域の経済発展とは何か？ 在来的経済発展論の射程と近代から「複線的発展論」を考える
第 10 回	第三次産業（1）商店街からみた地域経済	商業と地域の経済について考える

第11回	第三次産業（2）まちづくりの実践と理論	千葉県酒々井町、茨城県取手市などを事例として社会的企業の実践と理論について考える
第12回	第三次産業（3）地域鉄道からみた地域の経済	地域鉄道の経営事例と地域の経済について考える
第13回	地域の経済を考える視点と意義	ローカルの価値について考える
第14回	まとめ	地域の主体性とは何か。その意義と可能性について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「地域」や「産業」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

- 『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
- 「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
- 「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
- その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（用語説明30%、論述30%程度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の考えを知ることで講義内容が深まりました。引き続き毎回配布するリアクションペーパーを通して、相互的な講義を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

- 以下の6回分は、オンデマンド配信で実施します。
- 第1回（4月12日）、第2回（4月19日）、第6回（5月24日）、第8回（6月7日）、第10回（6月21日）、第12回（7月5日）

【Outline (in English)】

◆ Course outline

In this lecture, students will examine the fundamentals and logic of regional economic development, focusing on the industries that are the foundation of regional economies and their players.

◆ Learning Objectives

In the expanding global society, not only national economic perspective but also local initiative is required at the same time. In this course, students will learn (1) regional economic theory and (2) specific analysis and planning skills for regional economies through recent issues based on case study analysis, with the aim of thinking about the ideal sustainable and prosperous regional society.

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Be interested in newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to "region" and "industry", and if possible, actually visit, eat, and experience them through the five senses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be made on the basis of ordinary points (40%) and the final exam (explanation of terms 30%, essay 30%).

SOC300HA

地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【文】

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
2. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎日を送り、「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人たちに対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）などへの理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス「地域福祉」とは～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認 地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類（ICF）に基づいて、「本人と他者（地域社会）との関わり」を考える。
第2回	優生思想・差別・偏見と私たち	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ。

第3回	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。
第4回	認知症と地域福祉	認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。
第5回	高齢者と地域福祉	介護保険と高齢者を取り巻く現状をとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第6回	子ども・家庭と地域福祉①	児童虐待を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第7回	子ども・家庭と地域福祉②	子どもの愛着形成・社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。
第8回	障害のある人たちと地域福祉①	これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第9回	障害のある人たちと地域社会②～	これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害（各種依存症を含む）・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第10回	社会的孤立・生活困窮者と地域福祉	野宿生活者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ。
第11回	多様な性と地域福祉	13人に1人と言われるLGBTへの理解と、地域社会で共に生きる方策を探る。
第12回	外国人と地域福祉	日本に暮らす外国にルーツを持つ人の置かれている現状と、私たちが地域で共に生きるあり方について学ぶ。
第13回	地域福祉の推進主体）～社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO、民生委員・児童委員、保護司	住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ。
第14回	地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク	住民参画の方法として、福祉教育と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業時間内、また、課題において視聴覚教材を多用します。

高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』1～27巻（講談社）、『ヘルプマン！！』1～10巻（朝日新聞）

さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』（青泉社）
 柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』（小学館）他
 随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業映像の視聴と課題）が40%、途中に取り入れる小レポート（主に映像に関するもの）が10%、学期末レポート50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください（あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えられません）。

レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

授業についてのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。

授業は、映像を視聴し、それと共に課題に取り組み、その双方を持って出席とします。

【Outline (in English)】

This is a course on local welfare community. We deepen our understanding of difficulties of children, people with disabilities, elderly people, poor people and people who cannot use adequate social service in between different institutions/social services (such as inhabitants of “garbage residence”, “hikikomori” (isolating oneself from society), LGBT, foreign migrants etc.). Students will learn the techniques to support those people and analyze the welfare education practices and regional welfare plans that will transform the community.

SOC300HA

地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

【到達目標】

まずコモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主に講義形式で進める。また授業内容についてのリアクションペーパーを授業終了後回収する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。ただ開講時のコロナ感染状況が判断できないため、各回の授業形態については初回授業前に学習支援システムにおいてアナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コモンズとは何か？ (1)	コモンズの定義について説明する。
第2回	コモンズとは何か？ (2)	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
第3回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第4回	日本のコモンズ (1) 入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第5回	日本のコモンズ (2) 農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第6回	日本のコモンズ (3) 棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第7回	日本のコモンズ (4) 里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第8回	人と野生動物 (1) マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第9回	人と野生動物 (2) 獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。

第10回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたいうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。
第11回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (1)	グローバリゼーションによる食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第12回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (2)	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第13回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第14回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで授業において紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

参考文献は授業で毎回紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポートの内容を60%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を40%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

【Outline (in English)】

This class engages with studies on “local commons.” The goal of the lesson is to understand the content of the local commons and their sustainable use. As learning outside of class hours, I would like to review the class and read the literature introduced in the class. Regarding the method and criteria for grade evaluation, the content of the report submitted at the end of the semester will be evaluated as 60%, and the content of the reaction paper imposed after class will be evaluated as 40%.

ADE300HA

都市デザイン論

佐谷 和江

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①本講義では、都市デザインにおける「参加・協働」に焦点をあて、多様な人々が関わりながら都市をデザインし、実現していることを、具体的なケースを踏まえて理解する。
- ②また、市民として、都市にオーナーシップを持ち、関わるための考え方や手法を学ぶ。
- ③さらに、都市デザインに取り組む人々の考え方の背景や価値観を理解し、自分なりの価値を見出す。

【到達目標】

- ①都市をデザインする動機、プロセス、実現、その後の評価について学び、それを踏まえて、都市環境への洞察力を高める。
- ②都市デザインへの関わり方を具体的に知るにより、当事者として関わる意識を高める。また、足がかりを把握する。
- ③都市デザインの背景やそれを生み出す価値感を知るにより、デザインされた都市を評価するための判断基準を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・オンライン形式で行う。
- ・授業の前日までに Hoppii で授業の資料を配信する。
- ・講義を聞き、それに関連した質問に対して意見を述べてもらう。
- ・大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回	都市デザインと参加・協働	授業の概要や進め方を紹介する。また、都市デザインにおいて重要なキーワードを理解する。
2 回	都市全体のデザインとは？	市町村などの都市全体をデザインする方法について理解する。また、市民の関わり方について理解する。
3 回	景観デザインとは？	美しく秩序ある景観を形成するための方法について理解する。また、景観の基準を実現する取り組みについて理解する。
4 回	計画を承認するための仕組みのデザインとは？	計画を進めるためには市長や議会、審議会などが関わっており、これらの仕組みや市民の関わり方を理解する。
5 回	身近な地域でのデザインのデザインとは？	身近な地域で自分たちが環境に関するルールをつくることのできることを知るとともに、そのプロセスや結果について理解する。
6 回	身近な地域でのルールづくりがうまく行かない場合は？	身近な地域で自分たちでまちづくりを始めたが、結果がでないこともある。それらの事例分析からうまくいかなかった要因を知るとともに、それを回避する方法について理解する。

7 回	復興まちづくりとは？	東日本大震災の被災地で、復興に地域住民がどのように取り組んだか、また、その支援方法について理解する。
8 回	コミュニティのデザインとは？	孤独死や引きこもりなど、地域での孤独が問題となる中、コミュニティのデザインに関する行政の対応について理解する。
9 回	住まいのデザインとは？	住宅政策について知るとともに、多様な事業主体の関わりや、住まいづくりやマンション管理など住み手の主体的な取り組みについても理解する。
10 回	ひろばのデザインとは？	多様な意見がある中で、意見をまとめながらデザインしていくプロセスや、その結果としての環境について理解する。
11 回	地域での居場所のデザインとは？	衰退傾向にある商店街の中で、地域の居場所をつくったプロセスを把握するとともに、継続のための工夫を理解する。
12 回	地域での三世代の居場所づくりと運営とは？	高齢者施設を三世代の居場所へとデザインを変更したプロセスや、その運営について理解する。
13 回	市民活動への支援とは？	暮らしやすいまちにするために、市民活動を支援する取り組みについて理解する。
14 回	総括	1～13 回について総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。各ケースの URL を下記に示すので、事前に概要を把握する。

○第 2 回：練馬区都市計画マスタープラン

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/index.html>

○第 3 回：大田区景観計画

https://www.city.ota.tokyo.jp/kuseijoho/ota_plan/kobetsu_plan/sumai_machinami/keikan/keikankeikaku.html

○第 4 回：横須賀市土地利用調整審議会

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4805/tokei/chosei/chosei.html>

○第 5 回、第 6 回：横浜市地域まちづくり

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/>

○第 7 回：授業の事前に知らせる

○第 8 回：川崎市「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」
<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000097375.html>

○第 9 回：港区住宅基本計画

<https://www.city.minato.tokyo.jp/jutakuseisaku/kankyo-machi/sumai/kekaku/3jutakukihon.html>

○第 10 回：川崎市カッパークワガザ

<http://www.city.kawasaki.jp/miyamae/category/117-10-2-5-0-0-0-0-0-0.html>

○第 11 回：墨田区寺島・玉ノ井まちづくり協議会/玉ノ井カフェ

<https://www.facebook.com/teratama/>

<http://ameblo.jp/tamanoicafe/>

○第 12 回：新宿区落合三世代交流サロン

<http://wp.3sedai.com/>

○第 13 回：江戸川総合人生大学

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】

- ・都市のイメージケヴィン リンチ 岩波書店 新装版 (2007/5/29)
- ・都市計画とまちづくりがわかる本 彰国社 (2017/7/1)
- ・縮充する日本「参加」が創り出す人口減少社会の希望 山崎亮 PHP 新書 (2016/11/16)
- ・BIOCITY 〈2018 No.74〉特集エコロジカル・デモクラシーのデザイン ブックエンド (2018/4/1)

・新・公民連携最前線 PPP まちづくり <https://project.nikkeibp.co.jp/ppp/>
 ・COLOCAL リノベのススメ <https://colocal.jp/category/topics/lifestyle/renovation>

【成績評価の方法と基準】

レポート (50%)、平常点 (50%)

平常点は、毎回の授業後に提出してもらったコメントで総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

他の学生の意見が聞ける質問の時間を設け、様々な視点から問題を捉えることができたことが好評だったので、質問時間を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

● Course outline

① In this lecture, we will focus on "participation / collaboration" in urban design, and understand that the city is designed and realized while various people are involved, based on specific cases.

② Also, as citizens, we will have ownership in the city and learn the way of thinking and methods to get involved in the city.

③ Furthermore, we will understand the background and values of the way of thinking of people who work on urban design, and find their own value.

● Learning Objectives

The first goal is to learn about the motivations, processes, implementation methods and evaluations of urban design. And with that in mind, it's about giving you insight into the urban environment.

The second goal is to increase the awareness of the parties involved by learning how to get involved in urban design.

The third goal is to know the background of urban design and the sense of value that creates it, so that we can have the criteria to evaluate the designed city.

● Learning activities outside of classroom

You are expected to prepare and review the materials introduced in each lecture.

You are expected to understand the outline of each case in advance by referring to the Internet.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

● Grading Criteria /Policy

Reports (50%), Ordinary points (50%)

Ordinary points will be judged comprehensively based on the comments to be submitted after each class.

SOC300HA

環境社会論 I

黒田 暁

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考 (履修条件等)：人間環境学部生：コアとなるコース【口】

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境社会学は、環境問題の構造を明らかにしてその解決の道筋を探るとともに、人と自然のかかわりのこれからについて解明しようとする。本講義では、とくに「環境問題の社会学」/「環境共生の社会学」と大別される環境社会学の基礎理論を広い視野から学ぶとともに、生活を取り巻く環境の身近な問題を理解するための方法(論)の基礎を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

本講義の受講を通して、社会的な環境問題への基本的なアプローチ法を学び、説明できるようになること。環境問題を解決できる専門職業人としての基盤的知識・技能を修得できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、環境と社会のかかわりの動態を明らかにするとともに、両者の結びつきやその問題のあり方を論じようとする。まず、そのための有用なツールになりうる「環境社会学」の成り立ちとその視点が、どのようなものなのかについて、その諸アプローチを概観する。具体的には、環境社会学が「環境問題の社会学」と「環境共生の社会学」に大別されることを踏まえ、まず環境問題の発生原因とその対処の構造を把握することによって、「加害-被害構造論」「受益圏-受苦圏」「社会的ジレンマ論」といったキーワードについてレクチャーを行う(環境問題の社会学)。続いて、私たちが身の回りの環境をどのように利用・管理してきたか、そのかわりに注目しながら、「身近な生活をめぐるつながりとその不可視性」「コモンズ論」「自然再生事業」といったキーワードについてレクチャーを行う(環境共生・共存の社会学)。最後にこうした環境社会学の方法論と知見がどのように「環境政策・計画論」に結びつくのか、について取り上げ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルに沿って学びを深めていく。

【本講義は、オンライン授業(フルオンデマンド形式)を実施する予定です。詳細は学習支援システムの「お知らせ」などを参照すること】大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：環境社会学へのいざない	環境社会的なアプローチと講義の見取り図とその概要について示す。
第2回	環境社会学の成り立ちとそのまなざしとは	環境社会学の2つに大別されるアプローチに関する概要と、学としての環境社会学の成立の背景について講義する。
第3回	日本の環境問題の歴史とその構造(1)：「環境問題」はいつから？	日本社会と環境の関係の変化という観点から、日本の環境問題の出自とその歴史について概説する。江戸時代から戦後まで

- 第4回 日本の環境問題の歴史とその構造(2)：環境問題の現場から生まれた視点：被害構造論の胎動 戦後日本の環境問題の歴史について、水俣病の事例から環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について講義する。
- 第5回 環境問題を社会学する(1)：加害－被害関係で捉える 日本の環境問題の歴史を踏まえ、加害－被害論と、被害構造論について具体的に講義する。
- 第6回 環境問題を社会学する(2)：受益圏－受苦圏概念の定義とその適用 環境問題を加害－被害の構図、という視点から捉える受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
- 第7回 環境問題を社会学する(3)：事例から考える受益圏と受苦圏 受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
- 第8回 環境破壊と社会的ジレンマ(1)：なぜ環境問題が発生するのか 社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
- 第9回 環境破壊と社会的ジレンマ(2)：社会的不可視性の向こう側 私たちの身近な生活環境の事例を通じて、社会的ジレンマの実際にかんして検討する。
- 第10回 環境共生の社会学(1)：生活環境問題から身近な生活環境論の成立 環境問題の社会学から環境共生の社会学へ、生活環境主義の視点を取り上げ、講義する。
- 第11回 環境共生の社会学(2)：人びとと自然はどうか 日本自然环境とはどのように捉えられるのか、自然再生事業の事例から捉えなおす。
- 第12回 環境共生の社会学(3)：環境保全はなぜうまくいかないのか 「環境保全」が一般化したように思える一方で、なぜ「環境保全」がなかなかうまくいかないのか、コモンズ論の観点から検証する。
- 第13回 環境計画・政策に向けて(1)：環境ガバナンスの形成 「環境」をめぐる多様な立場と認識はどのように議論され、共有されていくべきなのか、政策科学としての側面ももつ環境社会学を論じる。
- 第14回 環境計画・政策に向けて(2)：環境社会学のスタイルに何を学ぶか 環境ガバナンスの実態について取り上げたいうえで、これまで学んだ環境社会学から引き出せる知見についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、環境問題を取りあげるニュースや新聞記事などに目を通しておくこと。復習としては、講義内容および毎回の講義で紹介される講義資料をもとに必ず振り返りを行うこと。参考文献を各自で入手し、講読すること。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布（HOPPI「教材」に掲載）

【参考書】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』第2版ミネルヴァ書房、2017年出版

【成績評価の方法と基準】

論述式の期末レポート（40%）＋平常点（講義受講後に小テスト課題を受けるなど）（60%）

【学生の意見等からの気づき】

担当講師は2021年度にはじめて本講義をフルオンデマンド形式で担当したため、まず本務校のオンライン学習システムとは異なるHoppiやOAtubeの活用（とその制限条件等）に慣れるまでに相当苦勞した。とくに講義序盤に講義動画や資料の掲載に時間が掛かる、掲載後のトラブルの発生など受講学生に迷惑を掛けてしまったことが反省点である。また、フルオンデマンド形式における講義時間（資料動画視聴時間との兼ね合い）や、毎回出す小課題の分量についても、経験がなく手探り状態であったため、受講学生の負担が過重になった側面があった。改善のための取り組みや工夫としては、本講義と秋学期「環境社会論Ⅱ」を1年間フルオンデマンド形式で経験し、受講学生とも応答して意見を聴いたため、上記のトラブルは極力減少させ、小課題の分量についても適量をはかって調整することができたと感じている。また本講義の途中から、受講学生からのアイデアを素に、ボーナス課題を講義中に設置・次回の講義時に受講者へのフィードバックをはかるなど、オンデマンド講義を少しでもインタラクティブにするための創造的な工夫に受講学生らとともに取り組み、一定の手応えを得ることができた。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用。

【その他の重要事項】

秋学期の「環境社会論Ⅱ」を履修しようとする学生は、あらかじめ本講義を履修しておくことが望ましい。「環境社会論Ⅰ」で環境社会学の基本的な視点やそこからの知見について学び、「環境社会論Ⅱ」では環境社会学に加えて地域社会学の視点と知見を合わせて事例の現場を臨的に検討しようとする位置づけである。※「環境社会論Ⅰ」の前もっての履修を必須とするものではありません。「環境社会論Ⅱ」から受講を始めても理解ができるような構成と内容にするつもりです。

【Outline (in English)】

Environmental sociology seeks to clarify the structure of environmental problems, to find ways to solve them, and to understand the future of the relationship between humans and nature. The purpose of this course is to learn the basic theories of environmental sociology, which are broadly classified as "sociology of environmental issues" and "sociology of environmental coexistence" and to acquire the basics of methods (theories) for understanding the environmental problems that surround our daily lives. As preparation for this lecture, students are required to read through news and newspaper articles on environmental issues. In addition, it is important to review the lecture contents and lecture materials introduced in each lecture. Students are expected to obtain and review reference materials by themselves. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading for this lecture will consist of (1) an essay-type final report (40%) and (2) a quiz assignment to be taken after attending the lecture (60%).

SOC300HA

環境社会論Ⅱ

黒田 暁

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【O】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境社会学と地域社会学という2つの社会学の領域が交差するところを、「環境と地域の社会学」の視点で考え、現実に発生している環境問題や、地域社会の抱える現代的な課題について説明しようとする。さらに、それらの問題群の解決のあり方を探ること、臨床的で実践的な社会学の知見を学びとることを目標としている。

【到達目標】

現代の環境と地域（社会）をめぐる諸課題に対して、社会的な「問い」を持ち、それを鍛え、かたちにしていくな過程を身に付けることを到達目標とする。環境問題を解決できる専門職業人としての基盤的知識・技能の習得を目指す。持続可能な自然環境及び地域社会に貢献できる能力を育むための知見を獲得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに現在の「環境問題」と「地域（社会）の課題」にどのようなものがあり、また問題の構造説明と課題解決に向けた「環境と地域の社会学」のアプローチとはどうあるべきか、概観する。本講義は、環境と地域をめぐるいくつかの重要キーワードに基づいたオムニバス式の構成で進められる。「災害」：2021年3月11日をもって東日本大震災から10年が経過したが、もはや「災害」を忘却することはかなわず、つねに私たちの生活の脅威になりうる存在となった。講師のフィールドワークの経験と事例紹介から、「災害としての津波被災」、「地域復興とは何か」ということを捉えなおし、つねに災害と社会が重なり合う「災間社会」の今後を見据える。「地域コミュニティ」：都市・地方ともにそれぞれの地域がコミュニティの課題を抱える現代において、その解決や共同に向けて何が必要とされているのか、「コミュニティ論」や「郊外社会（化）」を切り口に事例分析を試みる。「多様な関係性」：環境と地域社会のかかわりのバリエーションについて、「歴史的環境」や「半栽培」といった多彩なキーワードで読み解き、生物多様性と地域文化の多様性をつなぐとする試みに焦点を当てて実践的に考える。「地域社会と環境の危機」：現在進行形で、地域と環境の関係が断片化し、持続性が途絶えようとしている事象「縮小社会」「獣害問題」といった危機を捉え、私たちがどのように対応すべきなのか、議論を深めていく。「合意形成」：たった1つの正解が存在しない環境と地域の課題に対して、どのように分け入っていったらいいのか。「合意形成論」の観点から、社会科学的に問題解決・改善への道筋を探っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：環境と地域の関係を読み解く	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、環境と地域（社会）の関係性を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	環境と災害（1）：大震災から10年と「災間」にあるもの	東日本大震災によって生じた「被災」の諸相を概説し、とくに「津波被害」によって生じた「被災」の実態について、ケーススタディから述べる。

第3回	環境と災害（2）：「地域復興」とは何か	震災の「被災地」ではさまざまなアプローチや制度・しくみによって「復興」が目指されている。「復興」のメカニズムについて取り上げる。
第4回	環境と災害（3）：災間社会をどう生きるか	「震災から10年」が経過した現在と、つねに災害リスクと向き合う現代社会のこれからを位置づけ、ケーススタディで捉えなおす。
第5回	環境と地域のコミュニティ（1）：コミュニティの生成と現実	「地域」が強調され、「コミュニティ」が渴望される中で、私たちの生活の共同体は、実態としてどうなっているのか、ひもとく。
第6回	環境と地域のコミュニティ（2）：郊外化する地域社会の現在	地域コミュニティの現在を捉えるため、地域社会を構成する要素とその複合に着目し、それらが現在どのような動態にあるのかを示す。
第7回	環境と地域のコミュニティ（3）：都市農業の展開にみる環境と地域	東京都日野市における都市農業の展開と、「農のあるまちづくり」が抱える課題と可能性について、ケーススタディから論じる。
第8回	環境と地域の多様な関係性（1）：地域社会における歴史的環境のあり方	私たちを取り巻く生活環境としての「歴史的環境」の定義と実像について講義し、その来し方行く末を展望する。
第9回	環境と地域の多様な関係性（2）：「自然」と「野生」のあいだにある視点	自然環境と地域社会の関係性は一樣ではなく、「半栽培」という多様でインタラクティブな社会過程として捉えられることを示す。
第10回	環境と地域の多様な関係性（3）：世界遺産指定にみる自然と文化のリンケージ	奄美大島のケーススタディをもとに、自然と文化の関係性について、その諸相にわけいって考える。
第11回	地域社会と環境の危機（1）：縮小を余儀なくされる地域社会	現代において、予見から実態へと、急峻化する一方の人口減少傾向が、地域社会にどのような影響を及ぼすのか、検証していく。
第12回	地域社会と環境の危機（2）：縮小社会は地域と自然に何をもたらすか	「縮小社会化」が引き起こす地域と自然のあいだの軋轢としての獣害問題に注目して、講義を行う。
第13回	環境と地域の課題解決にむけた合意形成（1）：問題・課題解決の技法	自然環境と地域社会をめぐる現場において試みられる合意形成の方向性を整理・議論して実践的思考を深めていく。
第14回	環境と地域の課題解決にむけた合意形成（2）の事例について取り上げ、どのような解決の方向性があるのか、これまで培った経験や認識によって総合的に検討する	環境と地域のあいだのせめぎ合いの実例について取り上げ、どのような解決の方向性があるのか、これまで培った経験や認識によって総合的に検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、現在の社会で実際に起きている事象について、ニュースや新聞で自主的に情報を収集すること。そのために、平日頃から情報に対する知的好奇心のアンテナを拡げておくこと。復習としては、講義のあと、学んだことに対して、自分で咀嚼して理解しておくこと。また、とくに講義で触れた具体事例について、関心をもった事例を自分で調べてみたり、事例に対する自分なりの切り口についても考えてみたりすること。本授業の予習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書等は使用しない。必要に応じて、プリント資料を配布する。

【参考書】

西城戸誠・宮内泰介・黒田暁編、『震災と地域再生——石巻市北上町に生きる人びと』法政大学出版局、2016年出版ほか

【成績評価の方法と基準】

論述式の期末レポート（40%）＋平常点（講義中に課すワークシートなど）（60%）

【学生の意見等からの気づき】

担当講師は2021年度にはじめて本講義をフルオンデマンド形式で担当したため、講義動画や動画中に流す資料映像の音声トラブルの発生など、何回か受講学生に迷惑を掛けてしまったことが反省点である。改善のための取り組みや工夫としては、本講義と春学期の「環境社会論Ⅰ」を1年間フルオンデマンド形式で経験し、受講学生とも応答して意見を聴いたため、上記のトラブルは極力減少させ、小課題の分量についても適量をはかって調整することができたと感じている。また本講義では、ボーナス課題や前回講義の学生リアクションの紹介コーナーを講義中に設置し、展開するなど、オンデマンド講義を少しでもインタラクティブにするための創造的な工夫に受講学生らとともに取り組み、一定以上の手応えを得ることができた。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する

【その他の重要事項】

本講義を履修しようとする学生は、あらかじめ「環境社会論Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。「環境社会論Ⅰ」で環境社会学の基本的な視点やそこからの知見について学び、「環境社会論Ⅱ」では環境社会学に加えて地域社会学の視点と知見を合わせて事例の現場を臨床的に検討しようとする位置づけである。※「環境社会論Ⅰ」の前もっての履修を必須とするものではありません。「環境社会論Ⅱ」から受講を始めても理解ができるような構成と内容にするつもりです。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on the intersection of two sociological fields: environmental sociology and regional sociology. We will try to elucidate the environmental problems that are actually occurring and the contemporary issues of local communities from the perspective of "sociology of environment and community. In addition, we aim to learn the clinical and practical knowledge of sociology by exploring how to solve these problems. Students are required to read through news and newspaper articles on environmental issues. In addition, it is important to review the lecture contents and lecture materials introduced in each lecture. Students are expected to obtain and review reference materials by themselves. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading for this lecture will consist of (1) an essay-type final report (40%) and (2) a quiz assignment to be taken after attending the lecture (60%).

SOC300HA

環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という観点から講義する。そして、社会運動から見える現代社会や社会問題、環境問題への理解を深めることを目的とする。また、民主政治、政治参加、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うことを狙いとしている。

【到達目標】

環境問題に関わる社会運動の多様な形や活動の条件、活動の意味などを理解すること。地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計に関する理解を深めること。日本におけるエネルギーと社会、市民との関係について歴史的な経緯と今後の関係性についての多様な知見の存在を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解く。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について、日本の反原発運動の事例から講義する。続いて、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに答える。最後に再生可能エネルギーを求める市民運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第3回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第4回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動	チェルノブイリ原発事故と反原発運動、福島第一原発事故後の反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第5回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論（1）-水俣病	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第6回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論（2）-水俣から福島へ	水俣病を巡る社会運動と、福島第一原発事故に関わる人々の関係について考える。

第7回	運動のさまざまな「かたち」(1) - 理論	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第8回	運動のさまざまな「かたち」(2) - 事例研究	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第9回	どのように環境運動を展開するのか(1) - 資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第10回	どのように環境運動を展開するのか(2) - フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第11回	気候変動問題と再生可能エネルギー - 日本の現状 -	気候変動問題の概要と再生可能エネルギーが果たす役割と、日本の再生可能エネルギー導入状況について講義する。
第12回	再生可能エネルギーと環境運動(1) - 「市民風車」の誕生とその展開	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。
第13回	再生可能エネルギーと環境運動(2) - コミュニティパワーと社会的受容性	地域に資する再生可能エネルギー（コミュニティパワー）の普及と社会的受容性について講義する。
第14回	再生可能エネルギーと環境運動(3) - 3.11以降の環境運動の可能性	3.11以降の再生可能エネルギーを希求する市民の動きと、反原発運動などの環境運動との関連について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義中に参照した文献の講読、毎回の講義に対するコメントや課題提出などを含めて、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004年）

西城戸誠『抗いの条件 - 社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）

丸山康司・西城戸誠・本巢芽美（編著）『再生可能エネルギーのリスクとガバナンス：社会を持続していくための実践』ミネルヴァ書房（2015年）

丸山康司・西城戸誠（編著）『どうすればエネルギー転換はうまくいくのか』新泉社（2022年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）と平常点（追加レポートなど）30%

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

2020年度までに環境社会論Ⅱ（人間環境学部開講）を受講した方は、内容の重複がありますので、履修の際に留意してください（ただし、履修ができないわけではありません）。

2021年度以降の環境社会論Ⅰ、Ⅱを受講する必要はない。環境社会学、社会運動、地域社会学を踏まえた講義を実施する。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, the activities of citizen movements, NPOs/NGOs, and volunteer groups that are important for solving environmental problems will be discussed from the perspective of "social movements". The purpose of this lecture is to deepen the understanding of contemporary society, social problems, and environmental issues as seen through social movements. The course also aims to cultivate the civic qualities necessary for democratic politics, political participation, and the effective formation of peaceful and democratic nations and societies.

【Learning Objectives】 To understand the various forms of social movements related to environmental issues, the conditions for their activities, and the meanings of their activities. To deepen the understanding of the institutional design of citizen participation in order to build regional communality and publicness. To understand the existence of diverse knowledge about the historical background and future relationship between energy, society, and citizens in Japan.

【Learning activities outside of classroom】 Students are required to prepare and review the materials introduced in each lecture. The standard preparation and review time for this class is two hours each, including reading of the literature referred to in the lecture, comments on each lecture, and submission of assignments.

【Grading Criteria /Policy】 Periodic examinations:70% Ordinary points (additional reports, etc.) :30%.

SOC300HA

労働環境論 I

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「仕事を通して労働環境と生活を考える」

【到達目標】

本講では、仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。労働環境を考える前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の賃金や昇進、昇給、教育訓練、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関係する基本的な概念や現象を理解でき、職業人としての基本的な知識の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、新聞記事などを利用しながら、その時々話題になっていて、この科目に関係したアップトゥデートな諸問題をも随時紹介しつつ、本講との関連や現実社会への理解を深める。コロナの感染状況によって大学の行動方針に変更が生じ、授業実施方法の変更等がある場合、詳細は学習支援システムで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	労働環境論入門	労働環境論では何を学ぶのか、なぜ学ぶのか等について考える。
2	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
3	学校から職場へ	大学生の就職に焦点を当て、それが過去どう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
4	能力開発とキャリア	日本企業の教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
5	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルや就業意識が、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
6	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみる。
7	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に大きく影響する。それが時代とともにどう変化してきたのかを学ぶ。
8	賃金システム	労働条件の基本をなし、きわめて複雑な日本の賃金システムについてその基本を学習する。
9	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。

10	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加が大きな問題となっている。非正規雇用の現状や問題点について考える。
11	障がい者の支援	2016年に障がい者差別解消法が施行されて以降、障がい者の就職や就労支援の見直しがなされている。それに関する基本的な事項や現状について学ぶ。
12	コロナ禍と雇用問題	新型コロナウイルスの感染拡大は雇用にも大きな影響をもたらした。歴史上これほど全世界に大きな影響をもたらした疫病はなかった。その現状をふり返る。
13	日本の雇用慣行とは何か	他国と比較してもきわめてユニークな日本の雇用慣行の特徴は何か、そのメリット、デメリットを含め総合的にふりかえる。
14	日本の雇用システムのまとめ	これまで見てきた日本の雇用システムの全体をふり返り、その特徴をまとめ、日本の労働環境やそこで働く人々の生活のあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。より効率的に講義が理解できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を読み返し、疑問点を確認し授業中に質問する。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012年、2310円。

【参考書】

テキストでカバーできないテーマについては、随時、プリントやその週の関連する新聞記事等で補う。

【成績評価の方法と基準】

論述式試験もしくはレポート（80%）によりそれぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を見るときともに、平常点（20%、出席を含む）をも加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この科目に関連した時事的事象についてはほぼ毎時間紹介しているが、これには学生からの要望も多く今後も継続する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが経験するようなものばかりです。自分が問題に直面したときに思い出して、どうすればその問題を解決できるのか、それを考える手掛かりとなるような知識と知恵を身につけてください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The lecture aims at helping students understand various features of the Japanese employment system and, through it, relationships between work environment and private life through daily working life after graduation. For that, students will learn to acquire basic knowledge about various issues relating to employment starting from job searching to wages, promotion, job training, retirement, career changes, trade unions and so on.

【Learning Objectives】

This lecture will help students acquire basic knowledge about jobs and work. At the end of the semester, students will be able to understand basic things that they will face after starting working such as job searching, wages and promotion, in-house training, retirement, career change and trade unions and so on.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students should read materials provided in class before the lecture. Students also should re-read parts of the materials they could not understand well, make clear what they did not understand and be ready to ask questions about them in the next session. The supposed reading hours for this subject is two each before and after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Students will be assessed by putting several things together. However there are two main factors: one being a final examination or an essay (80%) and the other being attendance and participation in class discussion (20%). Here it will be checked whether students can understand and use special words used in employment issues, and whether and how well students understand contents of each session etc.

SOC300HA

労働環境論Ⅱ

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仕事を通して労働環境と生活を考える。

Thinking about work environment through jobs and work.

【到達目標】

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、いくつかの主要なトピックを取り上げ、労働環境について学ぶうえで必要な事柄についてより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的な事象を扱い、仕事や雇用に関する理解をいっそう深める。そして、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行を可能にする労働環境をつくるにはどうすればよいかを考えながら、卒業後の職業人として必要な知識の習得をめざす。

Based on what students learned in Work Environment I, the lecture will take up several important and current topics which are essential to learn about work environment and acquire deeper knowledge about work and employment. While thinking about what should be done to perform work smoothly and in compliances with the law, students will acquire fundamental knowledge necessary as a working adult after graduation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

就職、昇進、退職など、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1つのトピックにつき1～2回で授業を進める。コロナの感染状況によって大学の行動方針に変更が生じ、授業実施方法が変更されるようなことになった場合、その詳細は学習支援システムで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何か、それについて、なぜ、何を、どう学ぶのかを考える。
第2回	日本的雇用慣行 1	日本の雇用に関する種々の統計、図表を中心にしながら、日本的雇用慣行の特徴をさぐる。
第3回	日本的雇用慣行 2	前週に続いて、日本的雇用慣行をどう理解すればよいのか、近年の変化もふまえて学習する。
第4回	大学生の就職 1	過去数十年の間に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのかを考える。
第5回	大学生の就職 2	大学生の就職と、近年話題になっているグローバル人材の就職の過去と現状について学ぶ。
第6回	労働環境と安全衛生 1	職業あるいは仕事場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第7回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスに考える。

- 第 8 回 労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考
え方) 全体的な労働時間の短縮の背後で
進んでいる労働時間の二極化を中
心に、労働時間について考える。
- 第 9 回 労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働
時間制) 労働の規制緩和の一環として進め
られてきた裁量労働制と変形労働
時間制を中心に、ホワイトカ
ラー・エグゼンプション (残業代
ゼロ制度) や最近の高度プロ
フェッショナル制度、働き方改革
などをめぐる議論についても学
ぶ。
- 第 10 回 労働環境とジェンダー
1 日本は毎年のように国際機関から
雇用における女性の地位の低さを
指摘されている。なぜか、その現
状および対応策について考える。
- 第 11 回 労働環境とジェンダー
2 前週の学習に基づいて、とくに女
性管理職問題を取り上げ、問題点
と課題について学習する。
- 第 12 回 労働環境と差別 (年齢
差別禁止を中心に) 年齢差別を一例として、雇用にお
ける差別問題について考える。
- 第 13 回 震災と雇用 阪神淡路大震災、東日本大震災
で、一瞬のうちに多くの雇用が失
われることになった。震災で雇用
に何が起り、当事者や行政等は
どう対処したのかみていく。
- 第 14 回 労働環境論 II のま
とめ 本講で扱ったいくつかのテーマを
ふり返る中で、卒業後就職してか
らの労働環境や私たちの生活のあ
り方について考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。学期の初めに毎回使うテキストを指示する。授業は、労働環境論 I を受講済みであること、本講で指定されたテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前の学習と事後の復習が必須である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Before and after the lecture, students should read materials provided in class. The lecture will be given based on students already having finished Work Environment I and read materials provided. Students are supposed to read materials before and after the class for two hours each.

【テキスト (教科書)】

学期はじめに授業で使用するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本を教科書として使うことはしない。ただし、授業は労働環境論 I を修了していること、そこで使用したテキスト (下記の参考書) を読んでいることを前提に進める。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方 [改訂版]』有斐閣ブックス、2012 年、2310 円。

【成績評価の方法と基準】

論述式試験もしくはレポート (80%) によりそれぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等を見るときともに、平常点 (20%、出席を含む) をも加味して総合的に評価する。

Students will be assessed by putting several things together. However, there are two main elements: one being a final essay type examination or an essay (80%), and the other being attendance and participation in class discussion and so on (20%). In the exam or essay it will be checked whether and how well students understand contents of each session and whether they can correctly use special words and phrases used in this subject.

【学生の意見等からの気づき】

学生が現実即して理解しやすいよう、時事的な問題にも関連づけて授業をおこなう。毎時間、内容理解に関連する基本的な設問を提示し、学生が勉強しやすいようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

労働環境論 I で学んだ内容をベースに、いくつかのテーマに分けてそれらをより掘り下げて勉強する。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性雇用など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱う。

【Outline (in English)】

Based on what the lecture dealt with in Work Environment I, the lecture aims to take several topics so that students can acquire deeper knowledge about work environment. For that, the lecture will take up current topics and help students think what and how they should do to perform their job smoothly and in compliance with the law.

SOC300HA

NGO活動論

小野 行雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界が直面する問題を理解し、NGOの活動する場と方法を確認した上で、日本のNGO、国際NGO、「途上国」NGO等の現状を把握し、市民社会におけるNGOの役割、市民としての自分の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回授業後は学習システムを利用してふりかえりレポートを提出することを必須とする。次の授業では、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	グループづくりワークショップ
	NGOの基礎	NGOとNPOについて講義
第2回	NGOの支援方法	インド山岳民族支援をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」
第3回	開発と近代	インド山岳民族支援をめぐる介入と近代化についてグループ討議
第4回	NGOの資金	フィリピン支援事例についてシミュレーションワークショップとグループ討議
第5回	NGO ケーススタディ 1	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するワークショップ「ミッション・チョコレート」
第6回	NGO ケーススタディ 2	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するグループ討議
第7回	市民社会 1	社会における市民社会の位置と役割に関するワークショップと講義
第8回	市民社会 2	ボランティアと寄付について講義とグループ討議
第9回	日本のNGO 1	日本NGO史について講義と日本のNGOについてのグループ調査
第10回	日本のNGO 2	日本NGOについてのグループ調査発表と講義

第11回	世界のNGO 1	世界NGO史について講義と世界のNGOについてのグループ調査
第12回	世界のNGO 2	世界のNGOについてのグループ調査発表と講義
第13回	ゲスト講義	NGOで活動してきた方をゲストに迎えて講義と討論
第14回	NGOの役割	NGOの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。ふりかえりシートを重視するので、自身のそれまでの知識・経験を学んだことと結びつけていねいなふりかえりを時間をかけて行い学習システムにて提出すること
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。ふりかえりシートによるレポート80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

ふりかえりシート作成にあたり毎回ポイントを提示する

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートフォン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 Understanding modern issues of the world and situations of NGOs. Thinking of roles of NGOs and our own in the civil society, and developing the positive attitude toward the participation.

【到達目標（Learning Objectives）】

- 1 To understand modern issues of the world and the their relations.
- 2 To understand the past and present of the NGOs and civil society and acquire broad view of the world citizens.
- 3 To acquire a strong sense of citizenship and positive attitude to get involved in the society.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Prepare the class by skimming through the materials provided. After the class, take time to write a reflection paper. Try relating what you learned in the class to your previous knowledge and experiences.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation to the class and thoughtful reflection is important.

Reflection report after every class 80%

Term-end report 20%

SOC300HA

ローカルスタディーズ I

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【O】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題について考える。

【到達目標】

「農山村（中山間地域）」の現状や課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では「地域」を「農山村（中山間地域）」に絞り、農山村の根幹的産業である農林業や農山村の集落の現状と課題について理解することを目標にする。さらに、その学習だけでなく、その問題解決までも構想できるようになることも目標にする。本授業では、テキストとして、①日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）、②日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）を使い、毎回、それぞれ1章分を受講生に発表をしてもらい、その解説と説明をしようとして、全員で討論を行う。ゼミ形式を導入するため受講者の定員を30名程度とする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第1回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。ただ開講時のコロナ感染状況が判断できないため、各回の授業形態については初回授業前に学習支援システムにおいてアナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第2回	テキストの輪読・発表・討論（1）	『むらの社会を研究する』の「村落空間」をとりあげる。
第3回	テキストの輪読・発表・討論（2）	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとっての資源とは」をとりあげる。
第4回	テキストの輪読・発表・討論（3）	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集団的土地利用」をとりあげる。
第5回	テキストの輪読・発表・討論（4）	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」をとりあげる。
第6回	テキストの輪読・発表・討論（5）	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」をとりあげる。

第7回	テキストの輪読・発表・討論（6）	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」をとりあげる。
第8回	テキストの輪読・発表・討論（7）	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」をとりあげる。
第9回	テキストの輪読・発表・討論（8）	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」をとりあげる。
第10回	テキストの輪読・発表・討論（9）	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」をとりあげる。
第11回	テキストの輪読・発表・討論（10）	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多面的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」をとりあげる。
第12回	テキストの輪読・発表・討論（11）	『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」をとりあげる。
第13回	テキストの輪読・発表・討論（12）	『むらの社会を研究する』の「戦後農政の展開とむら」、『むらの資源を研究する』の「家族構成の変化と兼業化」をとりあげる。
第14回	テキストの輪読・発表・討論（13）	『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」をとりあげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で内容も読んで、予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）
日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）
ただ上記テキストは絶版のため、授業で扱うテキスト部分のみ、学習支援システムにおいて配布する。

【参考書】

参考文献は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（発表内容、討論への参加姿勢など）を50%として評価する。さらに学期末に課すレポートを50%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

【その他の重要事項】

受講者が30名程度を超過する場合、初回授業にて選抜する。

【Outline (in English)】

Studies on the present conditions and the problem of the farming and mountain villages

SOS300HA

ローカルスタディーズⅡ

坂本 昭夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

悪化する海洋環境、地球環境。その原因を一つづつ解析し、現状の問題点を洗い出し、未来へきれいで豊かな地球、海洋を残すためのアイデアを引き出したいと思います。海洋漂着ゴミ、プラスチック、マイクロプラスチック、干潟や海藻の役割、農業問題、日常生活に潜む環境汚染等そして人体への影響等を解析。

【到達目標】

海洋に漂う無数のマイクロプラ。そのプラが生物に対してどのように影響しているのか、またどのように我々に影響するのか。そしてその結果現在どうなっているのかを探り出します。海洋、ゴミ、プラスチック、可塑剤（添加剤）、農業等の問題点を探り、これからの時代、自分の未来環境をどう考慮するかを勉強しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主にPPTを使用しDVD視聴等で進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。また動画配信にリアルタイムのディスカッションなどを組み合わせる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	海洋環境概論	現状の海の状態を把握
2	東京湾における生物体系を知る	生物の状態、そして問題点を探ります。
3	海洋ゴミ問題①	現状に海洋ゴミに関し探ります。『概要』
4	海洋ゴミ問題②	講義3に続き、海洋ゴミ問題に関しますが、深く掘り下げデータ共有いたします。
5	震災ゴミ	2011年東北震災における漂着ゴミに関し探ります。
6	プラスチック	プラスチックとは？を探ります。
7	マイクロプラスチック	5mm以下に小さくなったプラスチックの現状を探ります。
8	海洋温暖化に伴う赤潮、青潮発生メカニズム	赤潮、青潮発生に関するメカニズムを探ります。
9	海草 アマモ	海草の役目と海洋環境改善策を探ります。
10	海洋ゴミ	海洋ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には『ゴミ特番』を視聴します。
11	河川ゴミ	河川ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には市民団体の1年の活動を振り返ります。
12	海藻 ワカメ	海藻 その役目と海洋環境改善策を探ります。

13	農業	農業がどのように地球環境、生物環境を破壊しているかを探ります。
14	総括	1～13までの総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『授業前・授業後に各2時間ずつ』復習に関しては、講義内で使用したPPT等を参考の上、改めて見直しする必要があり、最後のレポート提出には、各講義における見直しは不可欠と判断いたします。ただし講義毎に講義テーマが変わり、多岐にわたる内容から講義一つ一つをすべて完全理解することはかなり難しいと判断しております。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

ありません。

【成績評価の方法と基準】

13回目の講義において、レポート課題を発表し、最終講義（第14回）にレポートを回収し評価といたします。成績評価はこのレポートのみ。レポートで100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

ありません。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当します。

【Outline (in English)】

Deteriorating marine environment, global environment. I would like to analyze the causes one by one, identify the current problems, and draw out ideas for leaving a clean and affluent earth and ocean for the future. Analyzes marine debris, plastics, microplastics, the role of tidal flats and seaweed, pesticide problems, environmental pollution hidden in daily life, and the effects on the human body. (Learning Objectives) Countless micro plastics floating in the ocean.

How the plastic affects living things

How will it affect us?

And as a result, we will find out what is happening now. Explore the problems of marine debris, garbage, plastics, plasticizers (additives), pesticides, etc., and learn how to think about your future environment in the future. (Learning activities outside of classroom) Regarding the review of "2 hours each before and after class", it is necessary to review it again with reference to the PPT etc. used in the lecture, and it was judged that the review in each lecture is indispensable for the final report submission. increase. However, the theme of the lecture changes from lecture to lecture, and we judge that it is quite difficult to fully understand each lecture from a wide variety of contents. (Grading Criteria /Policy) In the 13th lecture, the report assignment will be announced, and the report will be collected and evaluated in the final lecture (14th). Grade evaluation is only for this report. 100% rated in the report

SSS300HA

災害政策論

中川 和之

配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、これら災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。

そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】

①災害とは何かを、事例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回リアクションペーパーとして学習支援システムに記入する。次の授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進める。1 回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。教室の対面でも密を避けるために Zoom の課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。

第 2 回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科 1	地球の 46 億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。
第 3 回	身近な景観と災害＝理科 2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホや pad、PC などで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。GW 期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。
第 4 回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と 1995 年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第 5 回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。
第 6 回	3つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。

- 第7回 災害報道・災害情報 かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNSなどの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。
- 第8回 これからの備え＝「己」がどこまで分かった政策なのかを考える 南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。
- 第9回 近年の風水害から、課題を考える 2020年7月豪雨や台風10号、2019年台風15号や19号、2018年西日本豪雨や台風21号、2017年九州北部豪雨や2016年台風10号、2015年9月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
- 第10回 近年の地震災害から、課題を考える 2019年山形県沖地震、2018年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016年熊本地震や2016年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2度の震度7に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
- 第11回 近年の火山噴火災害から、課題を考える 登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
- 第12回 市民防災・ボランティア この国で避けられない自然災害の前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
- 第13回 災害と恵み・防災教育・ジオパーク 自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ること、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
- 第14回 試験レポート 「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験(レポート)を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホやPC、何でも持ち込んでもOK。
- 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、学習支援システムも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。
- 【テキスト(教科書)】
授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、学習支援システムに掲載する。
- 【参考書】
授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画(その地域で地区防災計画があればそれも)は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。
- 【成績評価の方法と基準】
平常評価(学習支援システムでのテスト・アンケートを使ったリাবেて授業内容の理解を評価)40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価20%、期末試験(試験レポート)評価40%。
- 【学生の意見等からの気づき】
災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、Zoomのブレイクアウトルームやチャットの活用でディスカッションの時間を持ちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。
- 【学生が準備すべき機器他】
オンライン参加の場合はパソコンが望ましい。講義室で参加する場合も、スマホを使うこともある。
- 【その他の重要事項】
試験レポートの作成時には、時間内であればどのような資料を参考に書いても良い。

【実務経験のある教員による授業】

通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与。その後も、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組み、内閣府の「TEAM 防災ジャパン」のアドバイザーも務める。一方で、災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当してきた。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.

2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.

3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.

【Learning Objectives】

1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.

2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.

To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.

4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.

【Grading Criteria /Policy】

Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

SOC300HA

社会開発論

新村 恵美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【G】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。開発、国際協力分野における社会的側面の重要性はSDGsの随所に見られる。しかしSDGsで言及されるように、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。本科目では、SDGs、世界の現状、社会開発の枠組みを学び、先進国の私たちの役割を考察する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

- 1、SDGsに関連づけながら、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。第1に、社会開発の概要として、様々な理論や国連・政府の枠組みから社会開発を概観する。第2に、社会開発で取り上げられる課題を分野別に理解し、最後に社会開発とそれによる社会変容の事例を取り上げて検討する。各回で、SDGsの関連する目標に照らし合わせ、それぞれの指標も確認する。授業計画の内容欄に、該当するSDGsの目標番号【】で記す。

学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 社会開発の概要 1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。【SDGs全体】
2	社会開発の概要 2 国連とSDGs	国連のSDGsの枠組み、内容と指標を概観する。【SDGs全体】
3	社会開発の概要 3 国連と人間開発	国連の「人間開発」の概念を学び、人間開発指数(HDI)、ジェンダー開発指数(u) (GDI)などの主な国際指標を理解する。【SDGs #1, 2, 3, 4 & 5】
4	社会開発の概要 4 日本政府による社会開発	社会開発を行う主体としての、国際機関、各国政府の活動について概観する。【SDGs #17】
5	社会開発の概要 5 市民、NGO	NGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。【SDGs #16】

6	社会開発の分野 1 途上国の貧困	バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。【SDGs #1 & 11】
7	社会開発の分野 2 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。【SDGs #1】
8	社会開発の分野 3 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。【SDGs #10】
9	社会開発の分野 4 フェアトレード	「不公正な」貿易は途上国において何をもたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。【SDGs #8 & 10】
10	社会開発の分野 5 人口問題と国際協力	高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。【SDGs #3 & 5】
11	社会開発と社会変容 1 教育・識字の役割	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることを意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。【SDGs #4】
12	【グループ発表】 課題レポートの発表	課題で取り組んだ内容について、グループに別れて話し合い、発表する。
13	社会開発と社会変容 2 ネパールの債務労働者	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。【SDGs #8】
14	期末のまとめ	全体の内容のまとめを行い、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習します。
各回の配布資料に、テーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めます。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布します。
授業内容が依拠する引用文献は、資料にリスト化します。

【参考書】

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
高柳彰夫・大橋正明編（2018）『SDGsを学ぶ-国際開発・国際協力入門』法律文化社
南博・稲場雅紀（2020）『SDGs-危機の時代の羅針盤』、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：30%
期末試験：40%
毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当しています。2020,2021年度はオンデマンド授業となりましたが、事前に学生に周知した上で、提出したレポートを互いに見合い、コメントし合う機会を設けました。学ぶことが多かったというコメントが多くみられました。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業となっても、レポート提出などでパソコンを使用し、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to learn the theory and practice of social development.

It is structured as follows:

1. Students will review the definition and the history of social development, the theories that influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc.

2. Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).

3. Several case studies are introduced so that students can discuss the practice of social development.

Students are expected to be cooperative and active during group discussions and presentations.

【Learning Objectives】

1. To acquire basic knowledge of the concept of social development;

2. To understand "poverty" not in terms of dichotomies, such as developing countries and developed countries, people concerned and supporters, and without othering people who are in different positions from oneself; and

3. Use your imagination to realize that social development is something that brings about human change.

【Learning activities outside of classroom】

not applicable

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on

1. Mid-term report(30%),

2. Final exam(40%), and

3. submission of feedback paper in each class(30%).

SOC200MA

開発教育

福田 紀子

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

主催：キャリアデザイン

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準 / Sphere Standards）、SDGs のテキスト、Microaggressions in Everyday Life のテキストから人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重を理解します。特に世界で脅威となった「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」に私たち自身の生活が大きく影響される今、関連する「人道支援の国際基準 スフィア基準（Sphere Standards）」の中の Coor Humanitarian Standard から公共サービスの質と説明責任について人道支援のコンテキストから学びます。

また特に日本での参加の文化を阻害するものについては Conflict Resolution を学びながら考えます。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、ジェンダー等脆弱性の理解、パワーの所在、気付きにくい差別、参加とエンパワーメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワーメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートの中からも、議論を展開したり、関連情報について取り上げていきます。その中でのディスカッション、フィードバックは日本語で行います。課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation self-introduction Humanitarian- Standards-and- Coronavirus-2020- ONEPAGER	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。 人権とは。人道支援の国際基準ス フィア基準関連の文書を読みます
2	Disaster & Humanitarian Response Basic Concept and Background	災害とは何か、人道支援とは何か、 人道支援の背景 ～歴史と国際基準
3	Sphere Standard 1 Sphere's structure 4 Principles of Humanitarian Response	スフィアの構造と前提となる人道支 援の4原則について

4	What's Sphere ～ Vulnerability and Capacity	「スフィアとは」～脆弱性と能力に ついて
5	Gnder Issues ～ Image and reality	人権問題の共通理解としてジェン ダーの課題について
6	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ①	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウント ビリティ”を必須基準（CHS）から 学びます。①～③
7	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ②	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウント ビリティ”を必須基準（CHS）から 学びます。④～⑥
8	Sphere Handbook' quality & Accountability with CHS ③	人道支援団体の国際基準 Spherega が示すサービスの質と“アカウント ビリティ”を必須基準（CHS）から 学びます。⑦～⑨
9	Activity ～ a case of the Shelter for affected people on Disaster	日本の避難所の場面から CHS の課 題と対応を考えます
10	Microaggressions in Everyday Life 1	前提としての Power, Intersectionality について理解し ます
11	Microaggressions in Everyday Life 2	テキストから Microaggressions の 3つの類型を捉えます
12	Microaggressions in Everyday Life 3	Microaggressions への対応、差別 や暴力を捉える枠組みについて知り ます
13	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な 知識・スキル・姿勢と参加を阻害す る要因について考えます
14	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ②	日本における参加を阻害する文化価 値観を超えるため変化の要因やアド ボカシーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ/パートナーとの発表の準備が必要となります。国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Handbook
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
(参考) Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf
Microaggressions in Everyday Life /
Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;
[http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/
ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf](http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf)
『2030年未来への選択』（西川潤）
『ワールドスタディーズ-教え方学習方ハンドブック』『参加型で考える
12のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート50%
翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業、オンラインの場合
の記録など）25%
レポート25%

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアク
ティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを
読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で
掴むことが必要です。不消化感を感じる時もあると思いますが、その
感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有
から生まれる学びがあればと願います。

ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、スキルと態度）を高める機会として行ってください。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。Accountability など、慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への出席を重視します。部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席確保を前提に授業に望んで下さい。

【Outline (in English)】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.

Students are expected to read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.

Main text would be the Sphere Standards-Humanitarian Charter and Minimum Standards of Humanitarian Response.

SOC300HA

国際社会学

新藤 慶

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【グ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本における在留外国人の現状と課題を、特に政策・教育・労働の観点から把握する。このことを通じて、国際社会学における主要テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

本授業を通じて、在留外国人の移動と生活の実態を総合的な観点から理解することで、今日、世界的に生じているトランスナショナルな現象について理解し、自分なりに考察を進めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、資料に基づいた講義によって進める。ただし、リアクションペーパーに質問事項を記載してもらうことで、その質問に答えながら、受講生の関心に基づいた授業展開ができるよう心がける。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	移民という現象	移民が生じるメカニズムについて講義する。
第2回	日本における移民(1)	日本における移民受け入れの歴史と高度人材について講義する。
第3回	日本における移民(2)	単純労働者としての移民や福祉国家を支える移民について講義する。
第4回	移民の経済的影響(1)	移民受け入れによる労働条件の変化について講義する。
第5回	移民の経済的影響(2)	移民受け入れの経済成長や社会保障への影響について講義する。
第6回	移民の社会的影響(1)	移民受け入れの地域社会への影響について講義する。
第7回	移民の社会的影響(2)	移民受け入れと治安や犯罪との関係について講義する。
第8回	移民と統合(1)	移民の文化的権利と社会統合の関連について講義する。
第9回	移民と統合(2)	移民の居住者としての権利と社会統合の関連について講義する。
第10回	エスニシティと教育(1)	在日外国人の教育機会をめぐる歴史的背景について講義する。
第11回	エスニシティと教育(2)	公立学校や外国人学校での外国につながる子どもに対する教育について講義する。
第12回	エスニシティと教育(3)	ニューカマー二世世代の大学進学について講義する。
第13回	外国人労働者政策の展望	外国人労働者政策の現状と展望について講義する。
第14回	国民国家とシティズンシップの変容	国民国家とシティズンシップの変容について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。まず、授業で紹介した文献等で学習を深めることが挙げられる。それに加えて、国際社会学が扱う対象は、現代社会のさまざまなところで見つけることができるため、普段から国際社会学的な関心を持ちながら生活することも重要となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義資料を配布する。

【参考書】

宮島喬ほか編, 2015, 『国際社会学』有斐閣。
永吉希久子, 2020, 『移民と日本社会』中央公論新社。
小内透編, 2009, 『講座トランスナショナルな移動と定住』（全 3 巻）, 御茶の水書房。
鈴木江理子編, 2021, 『アンダーコロナの移民たち』明石書店。

【成績評価の方法と基準】

論述試験（70%）+ 毎回のリアクションペーパー（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、写真や図のさらなる活用の要望が出されていたので改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の実施が難しい場合には、Zoom 等を使った授業やオンデマンド型の授業を行うので、そのための機器や接続環境が必要になる可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an understanding of the current situation and issues facing foreign residents in Japan, particularly from the perspectives of policy, education, and labor. The purpose of this course is to deepen the understanding of transnational migration and settlement, a major theme in international sociology.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To understand the reality of the movement and lifestyle of foreign residents from a comprehensive perspective.
- B. To understand the transnational phenomena occurring globally.
- C. To discuss transnational phenomena.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to prepare and review the materials distributed in each lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on term-end examination (70%) and reaction papers for each class (30%).

EDU200MA

文化経営論

武田 知也

配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

主催：キャリアデザイン

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年 2 月 26 日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から芸術文化事業は「不要不急」のものとして、スポーツイベントなどと共に開催や活動の自粛を政府から要請されました。一方で、芸術文化を希求する多くの人たちからも声があり、これを機に日本社会における芸術文化の立ち位置が改めて可視化されたとも言えます。

本授業では、この状況で起きたいいくつかの事例を参照しながら日本における芸術文化の現在地を紐解くところからはじめ、芸術と社会の関わりを考察していきます。

【到達目標】

芸術文化を担う様々な主体（創り手・企業・行政・NPO等）の現状、取り組み事例、その背景や歴史を概観した上で、芸術と社会をつなぐマネジメント・プロデュースの視点から学修します。芸術そのもの、クリエイティブ産業、まちづくり、福祉、教育など芸術文化と学生自身の生活との多岐にわたる関わりに新たな気づきを獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンドでの講義を予定しています。毎回リアクションペーパー（小レポート）の提出を求め、授業の理解度、社会的な問題意識や関心を把握しながら進めます。また、毎回の授業の際に、その前の回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。初回は授業概要の説明と意識調査を主としたアンケートを行いますので必ず出席してください。ヴァーチャルあるいはリアルでのフィールドワークを課すことも検討していきます。

具体的には、授業支援システム内で随時指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	コロナ禍と芸術文化	新型コロナウイルスによって様々な影響を受けた芸術文化事業の状況を概観する
第 3 回	芸術文化と文化政策①	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史を概説。
第 4 回	芸術文化と文化政策②	オリンピックを軸として振興を目指してきた 2020 年までの最新の文化政策の動向を探る。
第 5 回	芸術文化と行政（地方自治体）	都市と芸術文化（創造都市）、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第 6 回	フィールドワーク	ここまでの学びを通じた、オンライン、あるいはリアルでのフィールドワークを行う。特徴や課題を調査、検討する。（フィールドワークの具体的な内容については授業内で指示）
第 7 回	芸術文化と企業	産業としての芸術文化、また企業メセナを中心とした企業による芸術文化支援、関係を学ぶ。
第 8 回	芸術文化と NPO、ソーシャルアクション	芸術文化を通じた NPO の多彩な活動を学ぶ
第 9 回	アーティストとは何か①	そもそもアーティストとは誰か？ なにをする人たちのなか？ アーティストという存在を考える
第 10 回	アーティストとは何か②	舞台芸術を中心とした多彩なアーティストの作品群を通して、社会との交わりを考察する
第 11 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース①	芸術文化にまつわる「お金」の構造、仕組みを学ぶ（主に舞台芸術）
第 12 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース②	マネジメント、プロデュースの実践を知る（主に舞台芸術）
第 13 回	芸術文化とキャリア形成	芸術文化と関わる多様なキャリア形成と課題を知る。

第14回 授業内試験 自身と芸術文化の関わりについて考察
まとめと解説 まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べたり、芸術文化事業（劇場、美術館、ライブ、フェスティバル等）の現場に足を運び、フィールド調査を行い、レポートにまとめてもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、授業中に資料の送付、読むべきリンク先の指示をします。

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

最終試験（30%）と授業内の小レポート（リアクションペーパー）、課題レポートなどの平常点（70%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使用する資料から更に調査・研究に繋がる資料をなるべく数多く提示したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット、授業システムへの登録

【その他の重要事項】

新卒時は法政大学からアートNPOに就職し、その後フェスティバルトーカー（国際舞台芸術祭）、ロームシアター京都（公立劇場）、さいたま国際芸術祭2020（国際芸術祭）などで企画・制作、キュレーターなどを担い、2021年に自身が代表を務める法人を設立し現在に至っています。そのような経験を元に、現在の文化芸術を取り巻く状況と学生諸君の生活との接点を見出すような授業を展開できればと考えています。

【Outline (in English)】

On 26 February 2020, in order to prevent the spread of the new coronavirus, the Japanese government requested that arts and cultural activities, along with sporting events, be refrained from being held as "unnecessary". On the other hand, many people who are interested in art and culture have also voiced their opinions, and it can be said that this occasion has made the position of art and culture in Japanese society visible again.

In this class, we will begin by unravelling the current state of arts and culture in Japan by referring to some of the cases that occurred in this situation, and examine the relationship between art and society.

(Learning Objectives)

Students will study from the perspective of management and production that links the arts and society, based on an overview of the current status of the various actors (creators, companies, government, NPOs, etc.) responsible for arts and culture, examples of their initiatives, and their background and history. Students will gain new insights into the diverse relationships between arts and culture and their own lives, including the arts themselves, creative industries, community development, welfare, and education.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be asked to research the actual development of the case studies introduced in the class, visit the sites of arts and culture projects (theaters, museums, live performances, festivals, etc.), conduct field research, and summarize their findings in a report.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Comprehensive evaluation will be made based on the final examination (30%) and regular marks (70%) such as in-class small reports (reaction papers) and assignment reports.

SOC200HA

ファシリテーション論

徳田 太郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

RSP 優先

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

- ・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
- ・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
- ・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
- ・第2回～第3回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
- ・第4回～第10回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
- ・第11回～第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
- ・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
- ＊第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
- ＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーション・ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
4	話しあいの場をつくる	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）

5	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ(講義・演習)
6	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ(講義・演習)
7	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ(講義・演習)
8	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ(講義・演習)
9	話しあいの場をホールドする技術③意見の吟味	意見の集約方法を学ぶ(講義・演習)
10	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ(講義・演習)
11	ファシリテーション実践①	参加型の場(ミーティング)の運営を体験する(演習)
12	ファシリテーション実践②	参加型の場(対話型ワークショップ)の運営を体験する(演習)
13	ファシリテーション実践③	参加型の場(討議型ワークショップ)の運営を体験する(演習)
14	まとめ	まとめ(講義)および授業内試験(レポート)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・第2回～第3回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。(予習・復習各120分程度)

・第4回～第10回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。(予習・復習各120分程度)

・第11回～第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。(予習・復習各120分程度)

【テキスト(教科書)】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』(北樹出版、2021年、1,600円＋税、978-4-7793-0652-5)。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』(岩波書店、2009年)
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』(日本経済新聞出版社、2016年)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題(各回の振り返りシート)の質と量(約40%)、レポート課題(授業内試験)(約30%)、発言や質問・演習など授業への参加度(約30%)から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

2021年度はハイフレックス型の変則的な授業形態であったが、その中で採用した「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、今年度も各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システム(Hoppi)を使用します。

【その他の重要事項】

◎グループでの話しあいを中心とした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください(第1回授業はオンラインで実施します)。

◎上記の通り受講者数を限定する際には、社会人学生(含むRSP生)を優先的に受け入れます。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.

2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.

3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 40%, term-end report: 30%, in class contribution: 30%.

SHS300HA

科学技術社会論 I

金光 秀和

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術と社会は相互に複雑に作用し、その相互作用からさまざまな社会問題が生じています。本講義では、そうした問題が生じる背景や原因について、具体例を取り上げながら、専門家と市民の両方の観点から考察できるようにすることを目指します。それを通して、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方の基礎づくりを行います。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。
 ・科学技術がもたらす社会問題について、具体例を挙げながら説明できる。
 ・科学技術がもたらす社会問題について、専門家および市民の立場から考察できる。
 ・科学技術がもたらす社会問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッション（ケースメソッド学習）を行うなど、対話を意識した運営を行います。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第2回	ケースメソッド授業①	事例を通して、専門家としての意思決定を疑似体験し、そのあり方を考察します。
第3回	巨大技術システムがもたらす問題	スペースシャトル・チャレンジャー号事故を取り上げて、巨大技術システムがもたらす問題について説明します。
第4回	ケースメソッド学習②	事例を通して、先端技術がもたらす可能性のある問題について考察します。
第5回	ケースメソッド学習③	先端技術がもたらす可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。
第6回	ケースメソッド学習④	先端技術がもたらす可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第7回	科学技術社会における専門家の役割	専門家のあり方について、プロフェッション概念などをとて説明します。
第8回	科学技術とリスク	具体例を取り上げながら、科学技術とリスクの問題について説明します。

第9回	科学技術社会における市民の役割	科学技術の発展と市民の役割について、具体例を取り上げながら考察します。
第10回	ケースメソッド学習⑤	事例を通して、企業が直面する可能性のある問題について考察します。
第11回	ケースメソッド学習⑥	企業が直面する可能性のある問題について、専門家の立場から考察します。
第12回	ケースメソッド学習⑦	企業が直面する可能性のある問題について、市民の立場から考察します。
第13回	これからの科学技術と私たち	これからの科学技術について専門家と市民の協働の観点から考察します。
第14回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

金沢工業大学・科学技術応用倫理研究所編『科学技術者倫理：本質から考え行動する』白桃書房、2017年
 札野順編著『新しい時代の技術者倫理』放送大学教育振興会、2015年
 小林傳司『誰が科学技術について考えるのか：コンセンサス会議という実験』名古屋大学出版会、2004年
 日本科学協会編『科学と倫理：AI時代に問われる探求と責任』中央公論新社、2021年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50%）。また、第14回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology and society interact with each other in a complex manner, and various social issues arise from this interaction. The aim of this course is to enable students to consider the background and causes of such issues from the perspectives of both experts and citizens, taking up specific examples. By doing so, students will build a foundation for thinking about how to deal with future social issues related to technology.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social issues brought about by technology, giving specific examples.
- Examine social issues brought about by technology from the perspective of experts and citizens.
- Think critically about the social issues that technology can bring about.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

SHS300HA

科学技術社会論Ⅱ

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を生きる上で科学技術は不可欠の存在です。しかし、科学技術は常に新しい事態をもたらし、時にそれを振興すべきか規制すべきかといった意思決定を迫ります。本授業では、科学技術をめぐる社会的決定に参加する一市民あるいは専門家として、科学技術が関係するこれからの社会問題に対処するための考え方、態度、行動について具体例を通して学びます。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

- ・科学技術がもたらす光と影について、具体例を挙げながら説明できる。
- ・科学技術がもたらす新しい事態について、批判的に思考できる。
- ・本授業で扱う事例について、自らの意思決定を他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第2回	科学技術と社会をめぐ る諸理論	パラダイム論、社会構成主義、 モード論などについて説明しま す。
第3回	「水俣病」から学ぶ	水俣病を取り上げながら、科学お よび科学者の役割などを考察しま す。
第4回	「遺伝子組み換え作物」 から学ぶ	遺伝子組み換え作物を取り上げな がら、フレーミングの問題などを 考察します。
第5回	「BSE 問題」から学ぶ	BSE 問題を取り上げながら、専 門家と市民の協働などを考察しま す。
第6回	「Winnipeg 事件」から学 ぶ	Winnipeg 事件を取り上げながら、 最先端技術と法の関係について考 察します。
第7回	「地球温暖化」から学 ぶ	地球温暖化を取り上げながら、通 訳不可能性や合理性などについて 考察します。
第8回	「動物実験」から学ぶ	動物実験を取り上げながら、二重 基準や自然さからの議論などにつ いて考察します。
第9回	「チャレンジャー号事 故」から学ぶ	チャレンジャー号事故を取り上げ ながら、巨大技術システムの問題 を考察します。

第10回 「モーゼスの橋」から学ぶ	モーゼスの橋の事例を取り上げながら、技術の政治性の問題を考察します。
第11回 事例分析に向けて	各自で実施する事例分析について、方法論やアプローチの仕方を説明します。
第12回 プレゼンテーション「事例分析」	各自で実施した事例分析について、クラス内で発表・議論します。
第13回 これからの科学技術と私たち	これからの科学技術にどのようにかかわるのかについて考察します。
第14回 試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005年
伊勢田哲治 [ほか] 編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013年
藤垣裕子責任編集『科学技術社会論とは何か』（科学技術社会論の挑戦1）東京大学出版会、2020年
平川秀幸『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』（生活人新書）日本放送出版協会、2010年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50%）。また、第14回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology is an essential part of living in modern society. However, technology always bring new situations and sometimes force us to make decisions about whether to promote or regulate them. In this course, we will learn how to deal with future social problems related to science and technology as a citizen or an expert who participates in social decisions about science and technology through specific examples.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the light and shade brought about by technology, giving specific examples.
- Think critically about new situations brought about by technology.
- Explain their own decision-making to others regarding the cases covered in this course.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

PHL200HA

西欧近代批判の思想

越部 良一

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、西欧の近代とその思想に、批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の目的は、西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること、これにより、西欧近代の影響を大きく受けている現代の日本社会を広く理解する視点を獲得することである。

【到達目標】

西欧近代批判として、この授業では主として2つの視点から学んでゆく。一つは、西欧の古典思想からの視点であり、もう一つは西欧近代思想自身からの視点である。これにより、西欧近代への批判を、人間を超えた存在（アイデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判という方向で把握し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

ただし、最初の三回の授業は、受講者数による密を避けるため、そして教室変更の可能性があるため、学習支援システムのオンライン授業（資料配布型）で行う。

まず、西洋思想の源泉であり、古典であって、近代西欧批判の視点を提供するものとして、古代ギリシャのプラトンの哲学と聖書（キリスト教）の思想を取り上げ、次に近代西洋の代表的思想として、功利主義、デカルト、ヘーゲルなどをみていく。そのうえで、そうした近代思想と批判的に対峙するものとして、キルケゴール、ニーチェなどの思想をみてゆきたい。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	この講義の全体の概観、試験のやり方など
第2回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代とは何か
第3回	プラトンの思想Ⅰ	人間の魂の在り方と正義
第4回	プラトンの思想Ⅱ	様々な国家体制と民衆制（民主制）批判
第5回	聖書の思想	人の戒めを超える神の命令
第6回	功利主義の思想	最大多数の最大幸福
第7回	デカルトの思想	自然支配者としての人間
第8回	ヘーゲルの思想	人間理性は絶対者（神）である
第9回	マルクス主義	マルクス主義における人間中心主義
第10回	キルケゴールⅠ	現代の批判（神を見失うことと主体性の喪失）
第11回	キルケゴールⅡ	ヘーゲル哲学批判（人間精神は神でない）
第12回	ニーチェⅠ	「神は死んだ」（「ニヒリズム」としての近代西洋批判）
第13回	ニーチェⅡ	近代西洋の大衆化批判

第14回 授業のまとめ 授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。対面授業では、適宜、教室でプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末の筆記試験（60%くらい）によって成績を評価する予定である。
期末の筆記試験は教室で最終授業内に行う予定である。ただし、受講者数によっては定期試験期間内に行うかもしれない。6月下旬頃の授業でのアナウンスに注意してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているから、近現代の日本の思想状況と照らし合わせる視点を背景にしながら講義するつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the modern Western thought and the philosophical critique to it in the history of Western civilization. The aim of this course is to understand some of the modern Western thoughts and some of the philosophical critiques to them. It also enhances students' understanding of the modern Japanese society greatly influenced by the modern West.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL200HA

仏教思想

宮部 峻

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、近現代日本の仏教思想への理解を深めることを目的とします。

仏教は、日本においても長い発展の歴史を持つ宗教の一つです。「家の宗教」という言葉に代表されるように、日本に住む多くの人が、自覚的に信仰していない宗教なのかもしれません。しかし、葬式やお盆などに代表されるように、仏教は、今なお日本の生活に深く根ざしていると言えるでしょう。

日本の生活に根ざしながらも、近現代日本の仏教は、教義、儀礼や実践、教団組織などを近代化させながら発展しました。こうした展開は、仏教が「寺院から出て行く」過程でもあったと言われることもあります。仏教が「寺院から出ていく」歴史は、多くの人にはあまり馴染みがないかもしれません。本講義では、仏教が「寺院から出ていく過程」を学ぶことで、近現代日本の仏教思想の発展の歴史に対する理解を深めていきます。それを通じて、今日の仏教のあり方を考えていくヒントを提供します。

【到達目標】

近現代日本の仏教思想について、歴史的事例をもとに論じることができる。

また近現代日本の仏教思想の展開を学ぶことにより、自らの「仏教」イメージを相対化するとともに、今日の仏教のあり方について認識を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行います。適宜、ディスカッションも設けます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容と受講方法について
第2回	仏教の近代化（1）	日本の仏教の近代化について、教団の近代化を中心に学ぶ
第3回	仏教の近代化（2）	日本の仏教の近代化について、政治・国家との関わりを中心に学ぶ
第4回	仏教と社会事業（1）	仏教の社会事業が生じた歴史的背景について、1920年代の社会問題を中心に学ぶ
第5回	仏教と社会事業（2）	仏教の社会事業の制度化について学ぶ
第6回	仏教と戦争（1）	仏教と戦争の歴史について、日清・日露戦争期の仏教者の発言と活動を中心に学ぶ
第7回	仏教と戦争（2）	仏教と戦争の歴史について、アジア・太平洋戦争期における仏教の戦争協力を中心に学ぶ
第8回	仏教と平和（1）	仏教者の非戦・反戦について、日清・日露戦争、アジア・太平洋戦争期を中心に学ぶ

第9回	仏教と平和(2)	仏教者の非戦・反戦について、戦後の平和運動を中心に学ぶ
第10回	仏教と差別	仏教と差別の問題について近現代日本の歴史から学ぶ
第11回	仏教とジェンダー	仏教とジェンダーの問題について、日本仏教における女性の問題を中心に学ぶ
第12回	仏教とソーシャル・キャピタル	仏教とソーシャル・キャピタルについて、仏教者の社会貢献を中心に学ぶ
第13回	仏教と死	仏教と死の問題について、近年の死生学の議論を中心に学ぶ
第14回	まとめ	本講義を通じて学んだ歴史的事例をもとに、近現代日本の仏教思想の課題を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

島蘭進, 2012, 『現代社会とスピリチュアリティ』 弘文堂。
吉永進一・大谷栄一・近藤俊太郎編, 2016, 『近代仏教スタディーズ』 法蔵館。
大谷栄一編, 2019, 『ともに生きる仏教』 筑摩書房。

【成績評価の方法と基準】

レポート(50%)、平常点(50%)
平常点は、授業への参加状況および毎回の授業後に提出するリアクションペーパーで総合的に判断します。
レポートは、各回で取り上げた事例から一つ以上選んでいただき、各回で示した参考文献をもとに近現代日本の仏教思想が成し遂げたことと課題について論じていただきます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand the history of modern Japanese Buddhism. Japanese Buddhism has modernized their theology, practice, institutions. This lecture helps students to acquire the knowledge about the history of modern Japanese Buddhism. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT200HA

日本詩歌の伝統

日原 傳

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3
備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」「川柳」等を実作する機会も設ける予定である。

【到達目標】

- ・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にほぼ毎回俳句の実作を提出してもらい。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

※2021年度はオンデマンドで授業を行なう予定である。

※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	俳句の三要素 俳句形式の特質	俳句の約束事～定型・季語・切れ 俳句の片言性
第2回	季語の重層性	俳句のみなもと（和歌・連歌・俳諧）、俳諧の発句、季題と季語、歳時記の世界／実作（俳句）
第3回	切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第4回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第5回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第6回	子規の俳句革新	子規の生涯、子規山脈、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第7回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌・俳句）
第8回	漢詩と俳句／俳句と川柳	漢詩の影響を受けた俳句、俳句と川柳の違い／実作（俳句・川柳）
第9回	子規の後継者（碧梧桐と虚子）	碧梧桐と虚子、新傾向俳句・自由律俳句、「ホトトギス」黎明期／実作（俳句）
第10回	虚子とその弟子たち	「ホトトギス」黄金期、4S、秋桜子の「ホトトギス」批判、連作、新興俳句運動／実作（俳句）
第11回	戦後の俳句	社会性俳句・前衛俳句・伝統回帰／実作（俳句）
第12回	現代俳句	鑑賞（平成・令和に詠まれた俳句）／実作（俳句）
第13回	国際俳句／海外俳句	外国の歳時記、鑑賞（国際俳句）、鑑賞（海外俳句）／実作（俳句）

第14回 文人俳句 鑑賞（文人俳句）
実作（俳句）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で紹介された資料を導きに自分の好きな作家を見つけ、その作品を読む。
- ・自作の俳句（毎回2～3句ほど）を作って提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】

- 小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
- 山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
- 『合本 俳句歳時記 第五版』（角川書店）
- 平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
- 藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
- 片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）
- 日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）
- 岸本尚毅『文豪と俳句』（集英社新書）
- 佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）
- Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）
- 馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）
- 岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（授業への参加姿勢・提出作品）40%
- 自信作10句（春学期に作った自作10句）10%
- 期末試験またはそれに代わる最終レポート50%

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作について解説する時間を多くとりたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write haiku poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports: 10%, in class contribution: 40%

ART200HA

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視点からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、とても密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いていただきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、志望理由を簡潔に書いていただきます。それにより選抜を行う可能性もあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第3回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第4回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第5回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、など、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第6回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第7回	歌舞伎のせりふ	間かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第8回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第9回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。

第10回	日本人の抒情性 家庭悲劇のドラマツルギー (1)	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。『平家物語』の原話「敦盛最期」から歌舞伎『熊谷陣屋』へ。
第11回	日本人の抒情性 家庭悲劇のドラマツルギー (2)	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。「敦盛最期」から能『敦盛』へ。最終的に、同じ原話から生まれた歌舞伎と能のそれぞれの作品を比較考察します。
第12回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第13回	総括	春学期の学習内容の復習をします。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第14回	期末試験(記述式)と復習	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URL および関連動画については、必ず予習・復習をしてください。日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 日本人の美意識-1』 TBSブリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%

参加態度(授業に関係のない私語などには厳しく対応します。)ジャーナル(各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムに提出していただきます。)

【期末試験】50%

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業はBT0309教室にて実施する。学習支援システムを利用する。

Zoom 講義でも頻りに動画共有を行うので、使用機器(PC利用のこと)とネットワークの安定性を事前にご確認ください。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You can learn basic knowledge about each genre of mainly traditional performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

ART300HA

比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考(履修条件等)：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か? 「伝統」とは何か? 「日本的なるもの」とは何か? 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書きいただきます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演(3)	平成中村座海外公演について考察します。
第3回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第4回	ギリシャ悲劇：ソフォクレス作『オイディプス王』	オイディプス王の物語とギリシャ悲劇の特色を学びます。
第5回	ジャンル横断的考察(1)	能と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第6回	ジャンル横断的考察(2)	文楽と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第7回	ジャンル横断的考察(3)	歌舞伎と落語：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第8回	ジャンル横断的考察(4)	歌舞伎と映画：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第9回	翻案劇とは何か?	日本におけるシェイクスピア受容を中心に、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第10回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。

第 11 回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。
第 12 回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第 13 回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察をまとめます。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第 14 回	復習と期末試験	13 回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義スライドを初めとして、配布資料・URL および関連動画については、必ず予習・復習をしてください。

日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。オンラインでも楽しめる動画があります。講義でもご紹介します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義スライドほか、プリント教材。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBS プリタニカ

野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書

青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】 50 %

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します。）

ジャーナル（各回の講義内容について考えたことを簡潔にまとめて、学習支援システムに提出していただきます。）

【期末試験】 50 %

記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309 教室での授業です。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも演劇情報を提供します。

・ただし、能や歌舞伎など伝統芸能の基礎知識を前提に授業を進めるので、春学期の「比較演劇論 I」と併せて履修することを強く勧めます。

【Outline (in English)】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favor or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures. You are encouraged to enhance your insight into performing arts. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the lecture. Grading will be decided based on participations, journal writing and final exam: participations & journals(50%) and final exam(50%).

ART200HA

日本美術史論

豊田 和平

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、まず江戸時代（近世）までの伝統的絵画の歴史を概観する。ついで近代日本画に焦点をあわせ、その歴史をたどる。近代日本画は、伝統的絵画にくわえて明治時代以降本格的に流入した西欧の絵画をも自由に学ぶことで、新時代にふさわしい新しい日本画の創造を目指した。近代日本画作品と豊富な資料をもとにして、近代日本画の美術史的な意義を考察し、わが国の美術史に対する理解と愛着を醸成する。

【到達目標】

学生個々のこれまでの学習体験により、日本美術史に対する知識に不均衡があることが予想されるため、まず日本美術史に対する教室内での共通認識を深める。私たちの先人が生み出してきた絵画の歴史についてたどることで、わが国の伝統と文化の特色の一端を味わい理解することを目標とする。諸資料の講読などによってさまざまな近代日本画の用語と基礎知識を理解し、日本美術に対する教養を身につけることを目的とする。さらに授業で取り上げる絵画に関する意見を表現するトレーニングなどを通して、美術作品の読解力や近代日本画の意義を論じる力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の形態については、講義形式による対面授業を実施する。

なお、大学の行動方針レベルの変更等に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで適宜通知する。

授業では、近世以前の日本美術史、特に絵画の各様式における作品例を概観する。そのうち近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

また、授業で取り扱う近代日本画に関する意見を表現するトレーニングとして、適宜課題提出を予定している。課題提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／日本美術のながれ～日本美術の“特色”は何か	オンデマンド授業への対応に伴うガイダンスを実施し、その後本講義の導入として、日本美術の特色と言えるものは何か、検討する。
第 2 回	日本美術のながれ～古墳時代から奈良時代の絵画	前回に引き続き、導入として主として古墳時代から奈良時代における絵画の代表例を概観する。
第 3 回	日本美術のながれ～平安時代から鎌倉南北朝時代の絵画	主として平安時代から鎌倉南北朝時代における絵画の代表例を概観する。
第 4 回	日本美術のながれ～室町時代から安土桃山時代の絵画	主として室町時代から安土桃山時代における絵画の代表例を概観する。

第 5 回	日本美術のながれ～江戸時代の絵画	江戸時代における絵画の代表例を概観する。
第 6 回	日本美術の一系譜としての“近代日本画”	近代日本画というジャンルが、日本絵画史上に有する意義を考察する。さらに日本の絵画の伝統的な技法、材料や装丁方法などを概観し、“すがた、かたち”の面から日本画に関する基礎知識を共有する。
第 7 回	“日本画”のイメージ～重要文化財指定などによる“歴史化”	文化勲章を受章した近代日本画家や、重要文化財に指定された近代日本画作品を通して、現在実際に近代日本画がどのように評価されているかを概観する。
第 8 回	近代日本画の誕生	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。これに関連して、明治 10 年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第 9 回	東京美術学校の創設	東京美術学校開校前後の近代日本画壇の状況を概観する。
第 10 回	近代日本画の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治 40 年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第 11 回	近代日本画の勢力～官展の京都画壇	明治末、とりわけ明治 40 年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第 12 回	大正期の近代日本画～あたらしい絵画への動き	大正期の日本画壇、特に日本美術院の再興、金鈴社と国画創作協会の結成について、それらの意義を考察する。
第 13 回	大正期の近代日本画～官展の改革	大正期の日本画壇、特に帝国美術院設置と帝展の開催について、それらの意義を考察する。
第 14 回	大正期の近代日本画～名品と佳作	大正期から昭和初期にかけてうみだされた近代日本画の名品、佳作を鑑賞、検討する。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is to learn about positioning of modern Japanese paintings in Japanese art history by contrasting with traditional painting until the Edo period.

(Learning Objectives) Through lectures, students will deepen understanding of Japanese traditions and culture.

(Learning activities outside of classroom) Before/after lecture, students will be expected to spend four hours to understand the texts.

(Grading Criteria/Policy) Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%) and term-end report(70%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。授業に際して配布されるプリント等を使用して必ず予習・復習をすること。このプリント等の内容をしっかりと理解することが重要となる。特にプリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。

【テキスト（教科書）】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ—講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか関連のある美術展覧会等の情報とともに、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業期間の半ばに、中間レポートの提出を実施する。ここまでの作品検討、史料購読によって近代日本画の用語と基礎知識などが正しく理解できているか、確認する。授業の最終回に、期末試験を実施する。近代日本画の用語や基礎知識を使って絵画や画家を評価し、近代日本画の歴史的意義を論じることができているか、確認する。成績評価は、以上二つの要素によって実施する。両者の配分は、中間レポートの成績を 30 %、期末試験の成績を 70 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

【その他の重要事項】

・授業では、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上はそれら用語も丹念に調べ、積極的に参加することを期待します。

ART200HA

西洋美術史論

板橋 美也

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのジャポニスムの歴史を通して、「日本」がどのように表象されてきたのか、そして異文化理解のあり方について考察します。

【到達目標】

現在では日本のアニメや食べ物などが海外に広く浸透しましたが、今からおよそ1世紀半前の日本の開国直後、ジャポニスムと呼ばれる現象が起こり、日本の事物に対する高い関心が欧米諸国で湧き起りました。この時期、様々な欧米諸国との通商関係の成立とともに、多くの人や物が日本から流れ出し、特に日本の美術工芸品が欧米で大きな注目を集めました。そして、欧米諸国の芸術家たちは、自分の創作活動のインスピレーションの源の一つとして日本の美術工芸品を眺め、また、各々の支持する美術・デザイン思想の裏付けとして日本の美術工芸品について論じたのです。本講義は、1860年代から1930年代までの時期、このジャポニスムという現象が、世界に覇権を広げた帝国としての威容を誇っていた国、そして産業化・近代化による弊害にいち早く気づくこととなった国としてのイギリスで、どのような美術・デザイン思想と関連しながら変遷を遂げ、その中で日本がどのように眺められてきたのかを考えます。そして、現代の文化の多様性をめぐる問題と関連付けながら、ある文化が他文化の諸要素を取り入れるときに生じる異文化間交流のあり方について自分の考えを述べるができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、まず、「日本美術」の諸要素をイギリスの芸術家たちが取り入れた際に前提としていたイギリス側の背景（当時の社会状況や美術潮流）を解説します。そのうえで、その社会状況や美術潮流に身を置いていた芸術家・批評家による「日本美術」観を、彼らの発表した文章や作品を通して考えます。また、講義内容を踏まえて自分の考えを簡潔にまとめたリアクション・ペーパーを随時書き、提出してもらいます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	(1) ジャポニスムとは? (2) 授業の進め方 (3) 成績評価
第2回	ジャポニスム前史 (1)	シノワズリーからジャポニスムへ (磁器・漆器を中心に)
第3回	ジャポニスム前史 (2)	シノワズリーからジャポニスムへ (建築・室内装飾・織物などを中心に)
第4回	デザイン改革運動におけるジャポニスム (1)	デザイン改革運動の背景説明
第5回	デザイン改革運動におけるジャポニスム (2)	Christopher Dresser その他の「日本美術」観を分析

第6回	ゴシック・リヴァイ ヴァルにおけるジャポ ニスム (1)	ゴシック・リヴァイ ヴァルの背景 説明
第7回	ゴシック・リヴァイ ヴァルにおけるジャポ ニスム (2)	William Burges その他の「日本 美術」観を分析
第8回	唯美主義におけるジャ ポニスム (1)	唯美主義の背景説明
第9回	唯美主義におけるジャ ポニスム (2)	James McNeill Whistler 其他の「日本美術」観を分析
第10回	アーツ・アンド・クラ フツ運動におけるジャ ポニスム	アーツ・アンド・クラフツ運動の 背景説明と、同運動の影響下のも と日本の美術工芸品の諸要素を取 り入れた芸術家たちによる「日本 美術」観の分析
第11回	日英博覧会	1910年にロンドンで開催され た日英博覧会での日本政府による 「日本美術」の表象とその受容に ついて分析
第12回	民芸運動をめぐる日英 交流 (1)	民芸運動の背景説明
第13回	民芸運動をめぐる日英 交流 (2)	Bernard Leach 其他の「民芸」 観を分析
第14回	試験と解説	授業内容に基づいた試験と解説を 行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義を聴きながらとったノートをもとに、よく復習をしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

世田谷美術館編、『JAPANと英吉利西（いざりす）日英美術の交流 1850-1930』展、世田谷美術館、1992年
谷田博幸、『唯美主義とジャポニスム』、名古屋大学出版会、2004年
小野文子、『美の交流—イギリスのジャポニスム』、技報堂出版、2008年

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（リアクション・ペーパー）（70%）と期末試験（30%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受験で世界史を選択しなかった人も分かるように工夫します。

【Outline (in English)】

By looking at the history of Japonisme in Britain, this course encourages students to think about how "Japan" has been represented and how we can understand other cultures. By the end of the course, students should be able to express their own opinions on intercultural exchange and cultural diversity. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be decided based on participation (70%) and the final exam (30%).

PHL200HA

応用倫理学

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学について生命倫理と動物倫理を中心に学ぶ。

【到達目標】

応用倫理学の概要と、特に医療倫理（生命倫理）と動物倫理の議論を理解し、自分なりに現代社会における倫理を考えることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。メールで意見を募り、それを授業に反映させる。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	応用倫理学について	応用倫理学の特徴について説明する。
2	インフォームドコンセント：専門家と素人の関係	医療倫理のキーワードであるインフォームドコンセントについて説明する。
3	美容整形とスマートドレッジ：治療と改造	美容整形とスマートドレッジを題材に治療と改造の線引きについて考える。
4	遺伝子治療と脳手術：治療と改造	遺伝子治療と脳手術を題材に治療と改造の線引きについて考える。
5	脳死と臓器移植：先端技術の倫理	脳死と臓器移植を題材に先端技術がもたらす倫理問題について説明する。
6	安楽死と尊厳死：生と死の倫理	安楽死と尊厳死を題材に生と死について考える。
7	出生前診断と優生思想：生命の価値	出生前診断と優生思想を題材に生命の価値について考える。
8	法律上のペットの位置づけ	ペットを題材に動物倫理について説明する。
9	工場畜産と動物実験：動物解放論	工場畜産と動物実験を題材に動物解放論について説明する。
10	肉食とベジタリアン：文化とライフスタイル	肉食を題材に動物の福祉と食について考える。
11	生態系保全と動物愛護運動の対立と協働	環境倫理学における全体論と個体主義について説明する。
12	「自然の権利」と「動物の権利」	環境倫理学における自然と権利と動物の権利の違いについて説明する。
13	その他の応用倫理学：情報倫理学	情報倫理学の概説を行う。
14	その他の応用倫理学：ビジネス倫理学	ビジネス倫理学について「内部告発」を中心に紹介する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

医療や動物に関するニュースを把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年。

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年。

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年。

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第1章から第3章）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）と書評レポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with bioethics and animal ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on bioethics and animal ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL200HA

環境倫理学 I

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。メールで質問を募り、授業に反映させる。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と倫理学理論	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	環境問題と現代社会	環境問題が「現代社会」の仕組みに由来する問題であることを示す
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	土地倫理	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	生物多様性の価値	生物多様性はなぜ保全すべきなのかについての議論を紹介する
6	自然の権利訴訟	アメリカと日本における自然の権利訴訟の概要を紹介する
7	加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
8	鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
9	環境倫理学の隣接分野	環境倫理学の隣接分野（社会学、経済学、法学など）の議論を紹介する
10	公害と環境正義	公害の歴史をふりかえり、環境正義の観点から分析する
11	リスク論	リスク論の概要を紹介する
12	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電についての論点を紹介し議論する
13	災後の環境倫理学：復興のありかたについて	震災復興についての論点を紹介し議論する
14	人新世の環境倫理学	人新世と気候工学について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（序章、第4章～第10章）

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年（第1章と第2章の内容が関連します）

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50点）と書評レポート（50点）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL300HA

環境倫理学Ⅱ

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市の環境倫理」について学ぶ。その中で、哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論などを紹介する。さらに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけれられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と哲学・倫理学	環境問題に対する哲学・倫理学のアプローチについて説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュルの環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論:ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二、桑子敏雄、亀山純生の議論を紹介する
7	都市論:ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する。
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップ概論	アメニティマップの作り方を説明する
10	アメニティマップの作成例	過去につくられたアメニティマップを紹介する
11	環境と観光	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
12	世界遺産とエコツーリズム	世界遺産とエコツーリズムについて概説する
13	アメニティマップの講評	作成したアメニティマップについて講評し議論する
14	ローカルからグローバルへ	「地域環境保全」から「地球環境保全」への道筋をさぐる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年（第11章～第14章）

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

（第3章と第6章の内容を扱います）

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

マップ作成（50%）と期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】

This course deals with urban environmental ethics. At the end of the course, students are expected to understand human environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, amenity map:50%, term-end examination:50%.

HIS300HA

日本環境史論 I

根崎 光男

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【文】

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：人と自然の環境史

本講義では、人と自然環境との歴史的なかわりを、近世日本の政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の環境史研究の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につける方法を紹介していく。また資料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫する。

【到達目標】

この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の論理的構成方法を学び、自然・環境などにかかわる根拠資料を読解するので、資料読解のほか、環境史を論理的に説明できる。また人と自然とのかわりを歴史的に知るために、地域性や時代性を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた環境史の具体像を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で進め、その理解を深めるためレポートを提出してもらう。また、レポート提出後の授業において、提出されたレポートからいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境歴史学とは	環境歴史学の歩みとその役割について学ぶ
第2回	人の暮らしと山林利用	人の暮らしと山林利用の関係について学ぶ
第3回	山林荒廃と人間社会への影響	山林荒廃の要因を地域の多様な事例を通して学ぶ
第4回	自然をめぐる環境思想	近世の環境思想を山林荒廃の論理から学ぶ
第5回	山林保護をめぐる政策と地域慣行	幕府の山林保護政策の歩みとその具体的な内容について学ぶ
第6回	持続可能な山林保護の諸相	幕府・諸藩・地域社会で実践された山林保護の諸相について学ぶ
第7回	植林をめぐる政策と地域性	各地域で実践された植林政策の歴史の多様性について学ぶ
第8回	共有資源の利用と紛争	山野河海の利用をめぐる幕府の裁定方針について学ぶ
第9回	山野河海の入会慣行	山野河海の入会利用の多様なあり方と入会権の特質について学ぶ
第10回	狩猟の歴史と自然環境保全	狩猟の歴史と自然環境保全とのかわりについて学ぶ
第11回	狩猟の文化と地域社会	狩猟文化の歩みと地域社会とのかわりについて学ぶ
第12回	農業と害鳥獣対策	鳥獣被害対策と領主・地域社会の対応関係について学ぶ

第13回 人間と鳥獣との共生関係 人間と鳥獣との多様な関係から共生のあり方について学ぶ

第14回 公害と領主・地域社会 公害の多様性と領主・地域社会とのかわりについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。テーマに関連する参考文献を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

【参考書】

『生類憐みの世界』（根崎光男、同成社、2006年）

『犬と鷹の江戸時代』（根崎光男、吉川弘文館、2016年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80%）、レポート（20%）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoomに接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of the relationship between humans and the natural environment in the early modern period based on politics, economics, society and culture.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese environmental history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS300HA

日本環境史論Ⅱ

根崎 光男

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【文】

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境史

本授業では、江戸の都市環境の全体像を、政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は近年の環境史の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につけられるようにする。また資料の読解によって「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】

この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の理論的構成方法を学び、都市・環境などにかかわる根拠資料を解説するので、資料読解のほか、江戸の都市環境史を論理的に説明できる。また江戸という地理的条件や日本の伝統的な生活文化を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史や文化の具体像を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で進め、その理解を深めるためレポートを提出してもらう。また、レポート提出後の授業において、提出されたレポートからいくつかのポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー江戸の都市環境について	江戸の町の歴史の基礎とその特質を学ぶ
第2回	江戸の都市化と地域の特色	江戸の町の都市化を開発・人口増大などの環境変化から学ぶ
第3回	都市環境の変化と都市計画	江戸の都市計画を環境思想などの視点から学ぶ
第4回	行政と地域社会	江戸の行政組織の多様性とその特質、および問題点を学ぶ
第5回	町の運営と地域コミュニティ	江戸の町の運営と地域コミュニティのありようを学ぶ
第6回	市民生活と住環境	住民の住環境の歴史的変遷を通して身分差別のありようを学ぶ
第7回	市民生活と衣食環境	衣食のありようやそれを支えた江戸周辺地域との関係性を学ぶ
第8回	産業の発達と地域社会	物直し産業の業態と同業組織の特質について学ぶ
第9回	巨大都市とゴミ問題	ゴミ問題の発生と住民生活との関係について学ぶ
第10回	江戸のゴミ処理システム	幕府のゴミ処理システムの運用と課題を学ぶ
第11回	火災と地域社会	災害都市江戸のありようを学ぶ
第12回	江戸の消防と防火対策	江戸の火災と幕府・町方の消防組織のあり方と多様な防火対策について学ぶ
第13回	江戸の生活文化と都市空間	江戸の住民生活と信仰・娯楽との関係性を癒し空間の視点から学ぶ

第14回 試験と総括

期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。テーマに関連した参考文献を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

【参考書】

『「環境」都市の真実』（根崎光男著、講談社＋α新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80%）、レポート（20%）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoomに接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers various environmental problems with the urbanization of Edo and the solutions based on politics, economics, society and culture.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese environmental history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論 I

梅原 秀元

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【文】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学が環境を環境史として積極的に研究対象とするようになってから、まだ半世紀も経っていない。しかし、他方で、環境史の研究の対象・方法は日々革新を遂げている。本講義では、地理的にはヨーロッパを、時間的には近現代を対象として、環境を歴史的に考えるとはどのようなことかを学ぶ。

【到達目標】

ヨーロッパ環境史について、まず、ヨーロッパにおける戦後の歴史学の展開について概観し、その中で環境やそれに関連するテーマがいつ頃、どのように扱われるようになったのかを理解する。次に、とくに近現代に焦点を絞った場合、環境の歴史を考える上で避けて通ることのできない、近現代のヨーロッパ経済の変化について西洋経済史の成果から学ぶ。

これらの基礎作業ののち、近現代のヨーロッパの環境の歴史を、マクロの視点から検討する。この作業を通じて、ヨーロッパの環境の歴史について理解を深めるとともに、それとの対比で、今の世界や日本における環境について考えるための参照軸を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、基本的には、対面で行う。受講する場合には、教室に来て講義を受けることになる。

ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、大学の方針に従って、リモートまたはオンデマンドに移行することもある。

講義は、パワーポイントを使ってスライドを示しながら行う。適宜、黒板に必要と思われる事項を書くこともある。

こうした講義形式の場合、受講者はノートを取ることが非常に難しいので、スライドにかかっていることを極力プリントにして、事前に配布することになっている。

受講者は、講義中に講師が話したことの中で大事だなと思うことを、プリントにメモすることでノートになる。

プリントは、毎回、紙の状態でも配布することを予定している（講義前に、PDF データとして配布することも考えている）。

毎講義後、一定期間中にリアクションペーパーを「学習支援システム」から提出すること。本講義では、これをもって出欠確認も行うので、必ず提出してほしい。

本講義の内容に特化した教科書のようなものはないので、受講生は、プリントやスライドをもとに講義を聴きながらあれやこれやと考えて、リアクションペーパーに書いてほしい。リアクションペーパーに基づいて、次の回の時に復習を行う。

詳しいことは、第 1 回講義の際に説明する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンティールング	講義の構成などを提示するとともに、本講義のテーマを「ヨーロッパ」「環境」「史」に分解し、テーマがいったい何を意味しているのかを議論する。

第 2 回	歴史学の成立－20 世紀のヨーロッパにおける歴史学について（1）	19 世紀後半以降のヨーロッパにおける歴史学の確立と展開を検討する
第 3 回	政治の向こうへ－20 世紀のヨーロッパにおける歴史学について（2）	20 世紀前半における、社会史と呼ばれる新しいアプローチの出現とそれ以後の歴史学の展開について検討する
第 4 回	政治の向こうへ－20 世紀のヨーロッパにおける歴史学について（3）	主にイギリスの社会史について概観する
第 5 回	政治の向こうへ－20 世紀のヨーロッパにおける歴史学について（4）	主にドイツの社会史について概観する
第 6 回	環境史への入り口	第 2－5 回の講義を踏まえて、環境史とはどのような研究領域なのかを検討する
第 7 回	森と木と（1）	ヨーロッパにおける森林と木材産業についての歴史を 2 回にわたって概観する
第 8 回	森と木と（2）	ヨーロッパにおける森林と木材産業について。後編。
第 9 回	呼吸できない？（1）	19－20 世紀における大気汚染の歴史について概観する
第 10 回	呼吸できない？（2）	引き続き、大気汚染について概観する
第 11 回	寒い？！－気候の歴史（1）	気候の歴史について概観する（1）
第 12 回	寒い？！－気候の歴史（2）	気候の歴史について概観する
第 13 回	疫病と環境 コレラを例に	疫病と環境について、コレラを例に考える。
第 14 回	総括	講義を踏まえて、人間と環境の関係を動かした・動かすものについて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、19・20 世紀のヨーロッパ史をベースにしている。高等学校の世界史の教科書などで該当部分を読んでおくだけでも、講義の理解の助けとなるだろう。その他、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと背景がわかってよい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜レジュメを配布する。

【参考書】

講義中に指示するので、それを参考に各自で読んでほしい。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーによる平常点（0－10％）と学期末のレポート（90-100％）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として講義を進めますが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人にもわかりやすいようにするので、ためらわずに履修してください。
・秋学期のヨーロッパ環境史論 II も合わせて受講できるとよいです。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース（旧・国際環境協力コース）、人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【Outline (in English)】

The environmental history is very young discipline. It is not until 1990s years that historians have dealt with environment. Before the background the lecture tries to explore some topics from the history of environment in modern Europe to learn how to study and discuss environment historically.

(Work to be done outside of class (preparation, etc.))

This lecture is based on the history of Europe in the 19th and 20th centuries. If you read the relevant part in a high school world history textbook, it will help you understand the lecture. (Grading criteria)

Based on the normal score (0-10%) by the reaction paper and the report at the end of the semester (90-100%).

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

梅原 秀元

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【文】

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、19・20世紀のヨーロッパ、とくにドイツを中心とした地域における環境の歴史について、いくつかのテーマを選んで議論する。

【到達目標】

本講義では、19・20世紀のドイツを中心とする地域の環境をめぐる諸問題から、環境と人間の経済活動・資源（森林と木材）、都市と環境（都市と生活環境）、労働と環境、科学技術と環境、ナチスと環境、環境と政治 というテーマを通じて、環境と私たち人間の営みとが、どのような関係を作っていたのか、その関係が作られていく中で、それぞれがどのように変わっていったのか／変わらなかったのか、それぞれがどのように影響しあったのか、といったことを一緒に議論・考える。それを通して、現在の環境をめぐる問題を考える際の手掛かりを身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、基本的には、対面で行う。受講する場合には、教室に来て講義を受けることになる。

ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、大学の方針に従って、リモートまたはオンデマンドに移行することもある。

講義は、パワーポイントを使ってスライドを示しながら行う。適宜、黒板に必要と思われる事項を書くこともある。

こうした講義形式の場合、受講者はノートを取ることが非常に難しいので、スライドにかかっていることを極力プリントにして、事前に配布することになっている。

受講者は、講義中に講師が話したことの中で大事だなと思うことを、プリントにメモすることでノートになる。

プリントは、毎回、紙の状態配布することを予定している（講義前に、PDFデータとして配布することも考えている）。

毎講義後、一定期間中にリアクションペーパーを「学習支援システム」から提出すること。本講義では、これをもって出欠確認も行うので、必ず提出してほしい。

本講義の内容に特化した教科書のようなものはないので、受講生は、プリントやスライドをもとに講義を聴きながらあれやこれやと考えて、リアクションペーパーに書いてほしい。リアクションペーパーに基づいて、次の回の時に復習を行う。

詳しいことは、第1回講義の際に説明する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンティールング	ドイツ近現代史研究とそこでの環境について概観するとともに、本講義についての概要を説明する。
第2回	19世紀のドイツ	19世紀のドイツ史について概観する
第3回	20世紀のドイツ	20世紀のドイツについて概観する
第4回	「おらが森」と「私の森」－森林を巡って（1）	18世紀末から19世紀初めのドイツにおける森林とその利用をめぐる問題について、検討する。

- 第5回 森と産業- 森林を巡って (2) 19世紀初頭にドイツにも到来し、19世紀後半以降著しく進む工業化を背景にして、経済と木材・森林の関係を考える
- 第6回 19世紀初頭バンベルク市におけるばい煙問題 ドイツの環境をめぐる争いの初期の事例から、環境問題がどのように論じられたのかを学ぶ
- 第7回 ルール地方の煙 (1) ルール工業地帯の成立とそれともなうばい煙問題について検討する
- 第8回 ルール地方の煙 (2) ルール工業地帯の成立とそれともなうばい煙問題について検討する
- 第9回 ルール地方の煙 (3) ルール工業地帯の成立とそれともなうばい煙問題について検討する
- 第10回 ナチスと自然保護- ナチスと自然 (1) ナチス期の環境保護について検討する。この回は、19世紀末から20世紀初めにかけてのドイツにおける自然保護運動について概観する
- 第11回 ナチスと自然保護- ナチスと自然 (2) ナチス期における自然保護について、帝国自然保護法 (1935年) を中心に検討する。
- 第12回 ナチスと自然保護 (3) ナチス期の自然保護について、1945年の敗戦までの状況について検討する。
- 第13回 原子力開発を巡って- 1960年代以降の西ドイツにおける環境と政治 戦後西ドイツにおける反原発運動を取り上げ、その後のドイツの環境政党の出現や市民運動の展開について考える。
- 第14回 総括 19世紀から20世紀にかけてのドイツにおける環境・自然保護について、全体的な総括を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

近現代ドイツ史の概観については、矢野久／アンゼルス・ファウスト (2001) 『ドイツ社会史』 (有斐閣) が参考になる。また、高校での世界史の教科書で、19・20世紀のドイツについての部分を読むことも、本講義の理解の助けになるだろう。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

適宜レジュメを配布する。

【参考書】

参考書として、以下のようなものがある。
ただし、これらは、必ずしも買う必要はない。
大学図書館や公立図書館で借りるなどして読むことができれば、講義の理解の助けになるだろう。
19・20世紀のドイツ史：
矢野久／アンゼルス・ファウスト (2001) 『ドイツ社会史』 (有斐閣)
ドイツ環境史について
フランク・ユケッター (2014) 『ドイツ環境史 エコロジー時代への途上で』 (昭和堂)
フランツ＝フランツ・ブルュッケマイヤー／トーマス・ロンメルスバハラー (2007) 『ドイツ環境史 19世紀と20世紀における自然と人間の共生の歴史』 (リーベル出版)
ナチス期の農業について
藤原辰史 (2012) 『ナチスドイツの有機農業』 (柏書房)
ナチス期の環境について
フランク・ユケッター (2015) 『ナチスと自然保護 景観美・アウトバーン・森林と狩猟』 (築地書館)
戦後西ドイツにおける原子力開発および反原発運動について
ヨアヒム・ラートカウ／ロータル・ハーン (2015) 『原子力と人間の歴史 ドイツ原子力産業の興亡と自然エネルギー』 (築地書館)
ヨアヒム・ラートカウ (2012) 『ドイツ反原発運動小史 原子力産業・核エネルギー・公共性』 (みすぶ書房)
がある。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー (0 - 10%) と学期末のレポート (90 - 100%)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めます。高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人にもわかりやすいようにすすめるので、ためらわずに聞きに来て下さい。
・春学期にヨーロッパ環境史論 I を履修しているとよいです。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース (旧・国際環境協力コース)、人間文化コース (旧・環境文化創造コース)

【Outline (in English)】

This lecture deals with some topics from the history of environment in Europe, especially German in the 19. and 20. century.

(Learning Objectives)

This lecture explores from various topics related to the environment of the region centered on Germany in the 19th and 20th centuries, the environment and human economic activities / resources (forest and timber), city and environment (city and living environment), labor and environment. On this basis the lecture deals with the relations of science and technology and the environment, Nazis and the environment, environment and politics in the Federal Republic Germany (West Germany). Through it this lecture discuss, which relations were created between the environment and our human activities, and the relations were created, how they changed or did not change during their creation and how they influenced each other.

By these discussion this lecture tries to gain clues when we the problems surrounding the actual themes about the environment.

(Work to be done outside of class (preparation, etc.))

This lecture is based on the history of Europe in the 19th and 20th centuries. If you read the relevant part in a high school world history textbook, it will help you understand the lecture. (Grading criteria)

Based on the normal score (0-10%) by the reaction paper and the report at the end of the semester (90-100%).

CUA200HA

環境人類学 I

橋爪 太作

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀を生きる私たちは、世界規模の気候変動、新型コロナウイルスなどの人間を超えた自然の力に対処することを余儀なくされています。この授業では世界各地の人間と自然環境の関わりについて探求してきた人類学の成果を学ぶことを通じて、私たち自身の自然観を相対化するとともに、人新世と呼ばれる新たな自然と向き合うヒントを探ります。

【到達目標】

本授業では人間と自然の関係をどう捉えるかという問題について、文化人類学が明らかにしてきた多様な事例からアプローチすることで、SDGs、脱炭素など現代の我々が直面する環境問題に対し、グローバルかつクリティカルな思考で取り組む能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は写真・映像などのヴィジュアルな資料を随時活用します。さらに途中いくつかの講義では、これらの資料に対しこちらからいくつかの「問い」を投げかけ、グループディスカッションを行います。ディスカッションへの参加とその後のリアクションペーパー提出は評価に含まれます。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション (1)	講義の概要説明と成績評価の説明。
第 2 回	イントロダクション (2)	いま、自然と人間の関係を人類学的に考える意義について論じます。
第 3 回	稲作と焼畑と「日本人」	自然環境が文化に与える影響という環境人類学の古典的な議論から、日本人というアイデンティティの成り立ちを考えます。
第 4 回	最初の豊かな社会	焼畑や狩猟採集などの「原始的」な自然環境利用について紹介します。
第 5 回	理想郷の戦争 (1)	南太平洋ニューギニア高地の人々による伝統的戦争を記録した映画 <i>Dead Birds</i> を観たあと、内容について議論します。
第 6 回	理想郷の戦争 (2)	映画に描かれた事例から、自然の豊かさや社会のあり方の関係について考えます。
第 7 回	自然と政治	焼畑耕作を行う山地民と水田耕作を行う平地民が対立してきた東南アジアの歴史から、自然と政治の関係を考えます。
第 8 回	誤解されてきた景観	西アフリカの森林/サバンナ地帯で調査を行い、人間によって作られる「アフリカ版里山」の存在を明らかにしたフェアヘッドとリーチの研究を紹介します。
第 9 回	シシ神の森の再生 (1)	自然と人間の現代的な関わりについて描いた作品として、宮崎駿監督作品『もののけ姫』を観ます。
第 10 回	シシ神の森の再生 (2)	映画の内容から私たち自身の自然への向き合い方を捉え直します。

第 11 回 廃墟化した世界の中で生きる

人間の経済活動により廃墟と化した自然と、にもかかわらずしぶとく生きる人々を描いたアナ・ツインの著書『マツタケ』について紹介します。現代の人類学が作り上げつつある、自然と人間の関係についての新たな考え方を紹介します。

第 12 回 多種多様なつながり

南太平洋ソロモン諸島のフィールドから、豊かな自然と不穏な未来への予感の中で生きる人々の姿を紹介します。

第 13 回 不穏な未来と向き合う

ここまで紹介した議論を通じて、人新世と呼ばれる生まれつつある新たな自然と向き合うためのヒントを探ります。

第 14 回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使用する資料はあくまで概略的なものです。授業中に説明されたことを自身の頭で理解するためにも、毎回ノートを取りましょう。また回によっては事前資料を配付しますので、次回までに必ず読んでおくようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)

グループディスカッションへの参加 (6%)

ディスカッション後の小レポート提出 (24%)

期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学 I では、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii(学習支援システム) と Google クラウドルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【Outline (in English)】

-Course outline

Living in the 21st century, we are forced to cope with the forces of nature beyond human control, such as climate change and COVID-19. In this class, we will learn about the findings of anthropological studies that have explored the relationship between humans and the natural environment in various parts of the world, in order to relativize our own view of nature. We will also look for hints on how to deal with the new nature called the Anthropocene.

-Learning Objectives

In this class, we will approach the issue of how to understand the relationship between humans and nature from a variety of examples revealed by cultural anthropology, with the goal of cultivating the ability to tackle the environmental issues we face today, such as the SDGs and decarbonization, with global and critical thinking.

-Learning activities outside of classroom

The material used in class is only an outline. In order to understand what is explained in the class, please take notes each time. Please be sure to read the handouts before the next class.

-Grading Criteria/Policy

Attendance (20%)

Participation in group discussion (6%)

Submission of a short report after the discussion (24%)

Final report (50%)

CUA300HA

環境人類学Ⅱ

藤原 江美子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【G】【U】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱでは、人間と自然の関係について探求してきた人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景のもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。また、環境人類学的アプローチを用いて身近な環境問題について議論し、文化的側面を理解することの重要性についての理解を深めます。

【到達目標】

本講義では、身近な環境問題について社会文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係についての知識とグローバルな視点を深めることに加え、クリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と試験の説明、成績評価の方法について説明します。
第2回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第3回	人と森(1) 生業	人間と自然環境との相互関係について、インドネシアにおける人間の生業（とくに焼畑）に着目した研究を紹介します。
第4回	人と森(2) 文化・社会	人間と自然環境との相互関係を、人間の生業と結びつく文化的・社会的側面から理解します。
第5回	人と資源(1)	インドネシアの天然資源開発を例にそこで生じている環境問題について紹介します。
第6回	人と資源(2)	ポリティカル・エコロジーの視点を紹介します。
第7回	中間試験	中間試験を行います。
第8回	人と開発(1)	人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第9回	人と開発(2)	多民族地域社会における土地をめぐる人々の軋轢の事例をもとに地域レベルにおける土地開発の影響について理解します。
第10回	人と開発(3)	国家政策と土地の権利をめぐる人々の軋轢の事例をもとに国家レベルにおける土地開発の影響について理解します。
第11回	人と森と資源(1)	コモンズ論の視点を紹介します。
第12回	人と森と資源(2)	環境問題や環境保護運動への様々な視点を紹介します。

第13回 人と森と資源(3) 大量消費社会が生み出す環境問題について講義し、私たちの生活といかにつながっているかを講義します。

第14回 期末試験 期末試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します。

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii（学習支援システム）と Google クラウドルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【Outline (in English)】

"Environmental Anthropology II" is an introductory course to learn environmental anthropology and related discussions on human-environment relations.

Outline and objectives of the course

In Environmental Anthropology II, students will learn about the diverse relationships between humans and the environment based on various cultural backgrounds, referring to ethnographies and theories by anthropologists who have explored the relationship between humans and nature. We will also discuss environmental issues in our daily lives using an environmental anthropological approach, and deepen our understanding of the importance of understanding cultural aspects.

【Goal】

This lecture aims to deepen students' knowledge of the relationship between humans and the environment and their global perspectives, as well as to develop their critical thinking skills by reconsidering familiar environmental issues using a socio-cultural anthropological approach.

【Work to be done outside of class (preparation, review, homework, etc.)】

Students are expected to prepare for and review the material presented in each lecture.

(Preparatory study) Detailed lesson plans will be distributed at the first class, so please refer to them each week and read the literature used in each lecture before the class.

(Review) Questions for the midterm and final exam will be based on the literature used in the lectures and the lecture content. Students are encouraged to take notes during the lecture and to review the literature and lecture notes after the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading method and criteria】

Students will be required to submit a reaction paper during the lecture (30%) and take a written exam at the mid-term and final (70%).

CUA300HA

環境人類学Ⅲ

難波 美芸

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【文】

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅲは、担当教員による講義（オンデマンド）と、学生によるディスカッション（学習支援システムを用いる）で構成される講義とゼミ一体型の授業のため、定員は40名を上限とします。定員オーバーの場合は初回授業の際に抽選方法をお知らせしますので、必ず初回授業を確認してください。質問がある方はメールで連絡をしてください。

2022年度のテーマは開発と環境の人類学です。開発と聞くと、先進国が途上国で行う「開発」援助や、都市「開発」といったより身近な国内のケース、あるいはアプリケーションの「開発」といったものを思い浮かべるかもしれませんが、人間は開発を通して、環境に様々な形で手を加え、人間社会・文化を築き上げてきました。人間と環境の関係は開発を通してどのように変化してきたのでしょうか。また、開発によって環境をゼロから構築することは可能でしょうか。開発による環境への影響が世界各地で報告されているなか、近年では持続可能な開発の必要性も強く訴えられ始めていますが、そこでは地域的に異なる文化や価値観、認識はどのように捉えられているのでしょうか。

この授業では、人類学的な視点を用いて、(1) 開発によって変化する人間と環境との関係を理解するとともに、(2) 「持続可能性」や「SDGs」などの理念が果たして普遍的な価値を有するのかを批判的に考え、(3) 改めて「開発」とはなんなのか、「環境」とはなんなのかを考えます。この授業では、担当教員の調査対象地である東南アジアのラオスを始め、世界各地の民族誌的事例を扱うと同時に、受講生の身近な経験から、人間がいかんして環境に働きかけ、多様な生を築いているのかを考えていきます。

【到達目標】

- ・人間と自然、環境との関係についての先入観を捨て、人類学的な視点から自らに引き寄せて理解し、考える。
- ・開発の人類学の基本的な視点を身につける。
- ・開発によって変えられる人間と環境との関係について多角的な視点から理解し、今日の私たちが置かれた状況について考える能力を身につける。
- ・途上国において行われている開発援助の実態を理解し、自らの問題として引き受け、批判的に考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業形態：講義スタイルの授業（オンデマンド）に加えて、学習支援システムの掲示板を使用したディスカッション、文献購読、映像作品の視聴を行います。

・双方向的なコミュニケーション：リアクションペーパーに対するフィードバックを中心に授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
2	環境と開発①	人類学における開発と環境
3	環境と開発②	「手付かずの自然」は存在するか？

4	環境と開発③	農業開発と被開発地域の環境への影響（文献購読）
5	環境と開発④	文献解説
6	開発の歴史①	なぜ我々は「発展」しなければならないのか？ 進歩史観から学ぶ啓蒙思想
7	開発の歴史②	アニミズム
8	人間と自然	映画と参考文献からディスカッションを行う
9	先住民と土地の関係①	映画の解説とディスカッションの振り返り
10	先住民と土地の関係②	映画の解説とディスカッションの振り返り
11	事例研究①	ラオスの環境と開発
12	事例研究②	環境ジェントリフィケーション
13	SDGsの"D"	SDGsを批判的に捉える
14	まとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
- ・授業内容の理解度を上げるための参考図書の精読。
- ・授業内で課された課題の提出。

【テキスト（教科書）】

特に指定の教科書は用いない。

【参考書】

- (1) 関根久雄編『持続可能な開発における〈文化〉の居場所：「誰一人取り残さない」開発への応答』（2021年）春風社。ISBN:978-4861107115
- (2) 『現代思想』『人類学の時代』2017年3月臨時増刊号 Vol.45 - 4、青弓社。ISBN:978-4791713387

【成績評価の方法と基準】

授業（ディスカッション）への参加・貢献：40%

リアクションペーパー：40%

小課題：20%

【学生の意見等からの気づき】

インタラクティブな授業を求める声が大きかったため、オンラインツールを用いたディスカッションと授業内でのフィードバックを重点的に行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して随時変更点や授業形態等について連絡をするため、必ずメールの通知が行くように設定してください。

【その他の重要事項】

他の人類学科目を履修済みであることが望ましいですが、その限りではありません。1年生も積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a set of key questions and challenge in the anthropological study of the environment and development. Anthropology of environment is a study of different cultures and societies which are constituted of not only human but also various non-human entities such as artifacts, animals, ghost and spirit. With reference to ethnographic cases of development from around the world, including Laos, where the course instructor has conducted a long-term anthropological fieldwork, this course will provide students diverse anthropological approaches to understand various human/non-human relations and how they are changed and affected by developmental projects and to use these approaches to think about our own lives.

Grading criteria is based on individual goals and class participation: Active participation in web forum (40%), Commentary papers (40%) and Assignment (20%). Out-of-class learning is necessary for students, e.g. reading reference books and doing research for assignment. Students should plan to spend two hours out of class working independently every week before and after a class.

TRS200HA

環境表象論 I

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にとり捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために1992年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も2005年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。

・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながる人が多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とした、ふつうの講義形式です。（初回のみ全オンラインとし、履修者が200名を超える場合は、オンライン参加も含めて2回目以降の受講の方法を柔軟に考えます。）テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	ユネスコの「世界遺産」概説 その2	前回の補充（授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など）

第4回	文化財保護法の既存の文化財との比較（1）	日本の文化財の種類、内容
第5回	文化財保護法の既存の文化財との比較（2）	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第6回	文化的景観の多面的効用（1）	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第7回	文化的景観の多面的効用（2）	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材/「原風景」
第8回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（1）	重要文化的景観第1号のまちな市民活動の歴史、特色
第9回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（2）	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第10回	精神文化と一体の景観（1）	熊野三山（世界文化遺産「紀伊半島の霊場と参詣道」）
第11回	精神文化と一体の景観（2）	沖繩の御嶽、富士山
第12回	精神文化と一体の景観（3）	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第13回	精神文化と一体の景観（4）	古典文芸が創った名所の例として、松島・鞆の浦
第14回	総集編	初回～13回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第1部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 75%、毎回の小テスト 25%。

【学生の意見等からの気づき】

21年度は休講でしたが、20年度のオンデマンドスライド教材は、文章の説明がわかりやすい（読みやすい）という声や、画像が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる（実際に行ってみたくなる）といった感想が少なくありませんでした。一方、回によって分量が異なり、ハードな回もあったようで、今年度はその点の改善を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサステイナビリティの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関する人々には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

人間・文化コース、ローカル・サステイナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building, from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.

Goal

・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 75%, each quiz 25%

TRS300HA

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「生きて変化する文化財」／「五感」が形づくる表象・風景

「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特徴ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

- ・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
- ・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できる。
- ・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「環境表象論Ⅰ」と同様の予定です。（初回のみ全オンライン、2回目以降は教室での対面授業を基本としますが、履修者が200名を超える場合は、オンライン参加も含めた柔軟な受講方法を考えます。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「環境表象論Ⅰ」の概要の復習も兼ねて
第2回	季節の周期変化と文化的景観	循環する自然に即した生活文化の遺産
第3回	有機的に進化する景観（1）	沖縄県竹富島の紹介前編
第4回	有機的に進化する景観（3）	竹富島の紹介後編
第5回	伝統継承の階層的発流	「文化財」概念の進化への日本民族の好適性
第6回	「五感」のエコロジーと文化的景観	「五感」の視点の概説
第7回	光と影・闇（1）	「光環境」・灯りに配慮したエコなまちづくり
第8回	光と影・闇（2）	丹保文化における「闇・影」、エコの視点からの重要性
第9回	音風景とは何か（1）	概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第10回	音風景とは何か（2）	前回の続き
第11回	「残したい日本の音風景100選」から（1）	「自然」の音風景（波、潮騒、滝、風等）の文化的意味
第12回	「残したい日本の音風景100選」から（2）	生き物の声の音風景と、聴ける場所の環境の価値
第13回	「残したい日本の音風景100選」から（3）	伝統的な生業に関わる音風景 その他

第14回 総括—人間の「身体 環境表象論Ⅰのポイントも含めた性」(内なる環境) 重 まとめ
視と感覚環境のまちづくり

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】

環境表象論Ⅰと同じ。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 75 %、毎回の小テスト 25 %。

【学生の意見等からの気づき】

環境表象論Ⅰとはほぼ同様です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サステイナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses"

For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (= the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.

Goal

- ・ This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"
- ・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").
- ・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and inconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 75%, each quiz 25%

BSC200HA

サイエンスカフェⅠ

石井 利典

配当年次/単位：1~4年 / 2単位

開講semester：春学期授業(Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

備考 (履修条件等)：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習にまず取り組みます。さらに、よりクオリティの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学についてもできるだけ理解を深めていきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要な、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

提出された課題(確認テストなど)からいくつかのポイントを取り上げ、課題提出後の授業、または学習支援システム、Google classroomにおいて、全体に対してフィードバックを行います。

2022年度の授業は、すべて対面での開講を予定しています。ただし、第1回講義は、そのときのCovid-19感染状況に応じた大学の行動方針レベルでの授業形態で実施します。事前に授業形態(対面 or オンライン)を学習支援システムやGoogle classroomで予告しますので、必ず確認してください。また、春学期開講後にも、授業形態を変更する可能性があります。この変更も授業内、学習支援システム、Google classroomで事前に予告します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1章 原子とは何か	原子の構造と性質、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液 pH の計算、酸と塩基の反応、中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元(1)	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元(2)	COD (化学的酸素要求量) 値およびDO (溶存酸素量) 値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎(1)	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎(2)	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物(1)	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物(2)	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物(3)	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物(4)	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム

第12回 第7章 酵素	酵素, 補酵素, 補欠分子族のはたらき
第13回 第8章 核酸	DNAとRNAの構造, 遺伝子発現のしくみ
第14回 期末テスト, まとめ	第1回講義～第13回講義の内容に関する筆記テスト, およびまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。授業終了後に10分間程度で解答できる確認テストをオンラインで実施します。提出は必須ではありませんが、提出されたものについては採点し、成績評価時に加点します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを使用します。授業で取り扱うすべてのプリント類は、学習支援システムまたは Google classroom から各自ダウンロードしてください。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

入手先は、<http://www.textkyoukyuu.or.jp/kaiin/tokuyaku13.html>

【成績評価の方法と基準】

講義内で実施する確認テスト（10分間程度で解答×13回）：20%、期末テスト（60分間で解答×1回）：60%、課題レポート（800字程度×2）：20%の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Google classroom とにアクセスできる情報機器と通信環境が必要です。

受講予定者は、Google classroom のメンバーへの登録が必須になりますので、第1回講義がスタートする前にメンバー登録をお願いします。メンバー登録方法・登録可能期間は学習支援システムで予告します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to understand basic theory of chemistry and biochemistry for "Environmental chemistry I", "Environmental chemistry II" and "Environmental chemistry III".

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:60%, Short reports:20%, in class contribution:20%

BLS200HA

サイエンスカフェ II

宮川 路子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生は高校の生物学の知識を基本として、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

対面講義とオンデマンド講義により授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。心臓について。血管について。循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞

第11回 神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回 感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚 ビデオ鑑賞
第13回 発達	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞・
第14回 まとめ（授業内試験またはレポート提出）	講義のまとめ、授業内試験またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終講義における授業内試験、または学期末に提出を求めるレポートにより評価を行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

Learning Objectives

Students will acquire a broad knowledge of histology and physiology necessary to understand the structure and mechanisms of their own bodies and to nurture good health.

The ultimate goal is to maintain and improve health and prevent diseases, which are important for students to live in the future.

Learning activities outside of classroom

Be curious about and observe your own body on a daily basis. Collect knowledge on related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the semester (100%).

BAB200HA

サイエンスカフェⅢ

鈴木 倫太郎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、受講者が生態学の基礎とともに、地球環境と生態系の成立ちに関する知識の獲得と理解を第一の目的とします。次に、受講者はその理解を基に、人と生態系の繋がり、自己と地球環境との繋がりについて調べ、考察します。また、具体的な事例としてサンゴ礁生態系について取り扱います。本授業の受講者は、これらの過程を経て、現在の地球環境の状況を踏まえ、今後の予測される地球環境と生態系の変化についての情報を理解する能力と、自らの考えを有する力を養うことを目標とします。

【到達目標】

本授業では、以下の点と到達目標とします。

1. 地球環境と生態系の成立ちを理解します。
2. 生態学的基礎知識を獲得します。
3. 生態系と自らの生活との繋がりについて、調べ、考え、理解します。
4. 地球環境と生態系に関する知識を基に、今後の地球環境の変化に対応する考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形態で行い、対面とオンラインのいずれかで実施します。また、講義内容に伴うアクションペーパー、レポート作成と提出を適宜求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと序論	講義内容の紹介と進め方、生態学の考え方。
2	地球環境の形成	地球の歴史と生き物が住む地表環境の形成
3	地球環境の形成と生物	地球の環境の変化と生物の進化
1		バクテリアから人間まで
4	地球環境の形成と生物	生物とは？ 生物学の基礎知識
2		生物が棲む場の条件と形成 大気・海洋
5	生態学1 生態系	生態系の成立ちと単位 個体群と生物群集
6	生態学2 物質循環	共生と物質循環 植生・土壌
7	生態学3 生物多様性	生物多様性 生態系の種類と分布
8	生態学4 生態系サービス	生態系サービス -生態系が果たす様々な機能とその恩恵-
9	サンゴ礁の成立ち	サンゴ礁環境の成立ち -なぜ？ サンゴ礁の海は青いのか-
10	サンゴ礁生態系	造礁サンゴの生態とサンゴ礁生態系
11	サンゴ礁環境	地球環境の変化とサンゴ礁生態系の変化
12	地球環境の変化と生態系	地球温暖化と生態系の影響
13	地球環境と生態系保全	生き物を守る理由とは？ 生態系保全の考え方
14	試験・まとめと解説	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要な資料は適宜紹介します。

【参考書】

- ・「生態学入門-生態系を理解する- 第 2 版」原口 昭 編著 生物研究社 2015 年
- ・「トマトはなぜ赤い—生態学入門」三島二郎著 東洋館出版社 1992 年
- ・「小学館の図鑑 NEO 地球」小学館 2021 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法

- ・期末テスト 60 % (筆記) ・レポート課題の評価 40 %
- 期末テストでは、講義で取り扱った内容についての理解 (到達点目標 1~4) を問う問題を設定し、その解答する筆記テストを行い、その点数を成績評価の評価点とします。期末テストでの評価は、全体評価点の 60 % とします。
- レポートは、講義内容に沿ったテーマを設定し、各自が作成したレポートを提出してもらいます。提出されたレポートは 5 段階で評価し、その点数を成績評価における評価点とします。レポートの評価は、全体評価点の 40% とします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の習得だけでなく、生態学の社会への応用や環境保全の現場の事例を紹介しながら、理解を深める授業を実施します。

【実務経験のある教員による授業】

- ・国立研究開発法人 国立環境研究所 地球環境研究センター 衛星観測研究室 高度技能専門員
 - ・公益財団法人 日本生態系協会 グランドデザイン総合研究所 主任研究員
 - ・公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン (WWF ジャパン) サンゴ礁保護研究センター長
 - ・非営利活動法人 喜界島サンゴ礁科学研究所 研究員 (現在)
- サンゴ礁環境の研究業務、生態系環境保全に関する実務経験があります。授業では、これらの実務経験で得た知識と、生態学の社会貢献の具体的事例についても紹介します。

【Outline (in English)】

The primary aim of this course is to provide students with a basic understanding of ecology and a knowledge of the global environment and the origins of ecosystems. Secondly, building on this understanding to investigate and reflect on the connections between people and ecosystems, and between themselves and the global environment. Furthermore, this course will focus on coral reef ecosystems as a concrete example. Through these processes, the students in this course aim to develop the ability to understand information and to have their own ideas about the current global environment and about the expected future changes in the global environment and ecosystems.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Understanding the formation of the global environment and ecosystems.
2. Acquisition of ecological basic knowledge.
3. Verify the connection with your life.
4. Acquisition of ways of thinking in response to global warming.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following term-end examination: 60%, reports :40%.

GEO200HA

自然環境論 I

杉戸 信彦

配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれをとりまく自然環境（地形や気候、植生、水循環ほか）は、地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決してない。本授業では、日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化）との関わりのなかで時空間を歩き来しつづ見つめなおす。

【到達目標】

自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できる。人間社会が自然環境に左右される側面を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

自然地理学のアプローチを通じ、強く関連しあう自然界の諸要素を系統的かつ平易に解説する。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	自然環境と人間社会	自然地理学、環境決定論、環境可能性論
第 2 回	大気大循環	風の時空間スケール、地球のエネルギー収支、3 つの循環、偏西風
第 3 回	海洋大循環	表層循環、深層循環
第 4 回	気候の要素・因子・区分	緯度、海流、地形、ケッペンの区分、アリソフの区分
第 5 回	日本列島の気候 (1)	気団、海流、四季
第 6 回	日本列島の気候 (2)	偏西風蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候
第 7 回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、珪藻、花粉
第 8 回	気候変動と海水準変動 (1)	気候と生活、氷期と間氷期、酸素同位体比、海水準変動
第 9 回	気候変動と海水準変動 (2)	気候変動の要因、昨今の温暖化
第 10 回	プレートテクトニクス	地球のしくみ、プレートテクトニクス、標高分布、変動帯と安定地塊
第 11 回	日本列島の地形環境	島弧海溝系、地形の時空間スケールと種類、地形をつくる力、日本列島の現在の地形形成環境、日本列島の地形と地質
第 12 回	日本列島の地震発生環境	プレート境界の地震、活断層の地震
第 13 回	土壌・水文	さまざまな土壌、風化土壌と堆積土壌、地球上の水、水循環・水収支・滞留時間、地下水

第14回 植生・動物相

暖かさの指数、日本列島の植生、気候変動と植生、自然植生とその衰退、植生遷移、日本列島の動物相、気候変動と動物相

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）・期末レポート（60%）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

The natural environment (topography, climate, vegetation, water circulation, and so on) around human society varies in each place worldwide. Their origins are reasonable in terms of science, and they have reached the present status through various global, regional, and local changes in the history of the earth. We examine spatial variation, mechanism, and history of the present-day natural environment in the Japanese island, with in mind the relationship between the natural environment and human society (life, industry, culture, and so on).

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain spatial variation, mechanism, and history of the natural environment, and (2) to explain influence of the natural environment on human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (40%) and the final report (60%).

GEO200HA

自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて成立してきた。本授業では、いかなる社会もその大地の個性に根ざして成り立っていることを意識しながら、「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

【到達目標】

大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できる。土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

背景となる自然地理学的知見を概観したうえで、地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査データを含むスライドも活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会	自然環境と人間社会、土地条件、土地利用、東京の自然史
第2回	「湿潤変動帯」日本列島(1)	地球のエネルギー収支、大気大循環、海洋大循環、気候因子、日本列島の気候環境
第3回	「湿潤変動帯」日本列島(2)	プレートテクトニクス、島弧海溝系、地形のスケールと種類、地形形成営力、日本列島の地形形成環境
第4回	地図	地図の歴史、測地系、地図投影法、一般図と主題図、縮尺と事象、空中写真、1:25,000地形図
第5回	地理院地図	数値標高モデル（DEM）、GNSSと電子基準点、地理情報システム（GIS）、地理院地図、今昔マップ
第6回	河川地形の成り立ちと土地利用(1)	扇状地、天井川、土地利用
第7回	河川地形の成り立ちと土地利用(2)	氾濫原、三角州、土地利用
第8回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用、海底地形
第9回	変動地形・火山地形の成り立ち	断層変位地形、離水海岸地形、マグマの組成・噴火様式・火山体、山体崩壊
第10回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、気候変動、地殻変動、土地利用
第11回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、段丘面に基づく隆起量の見積もり

第12回	山地の成り立ち	山地の形成、風化と侵食、地形輪廻、氷河地形
第13回	関東平野の地形発達史と古地理	段丘面の分布と成り立ち、沖積面の分布と成り立ち
第14回	人間社会が土地に及ぼす影響	江戸・東京の地形と土地利用、埋立て・干拓、造成、鉄穴流し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）・期末レポート（60％）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

The land is our stage of life, on which human society stands. It is true that the land does not seem to change, but the land has changed repeatedly and reached the present styles through various geomorphic processes such as river flood and crustal deformation in the recent geologic time. We examine the geomorphic environment in the Japanese islands, one of the tectonically active and intensely denuded regions in the world, in order to recognize how land conditions are related to human society.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain spatial variation, mechanism, and history of landforms, and (2) to explain issues of human society from the perspective of land conditions and land use. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (40%) and the final report (60%).

GEO200HA

自然環境論Ⅲ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の自然環境を大きく特徴づける「変動地形」。変動地形は大地震と密接に関わって成立している。変動地形の研究は、日本列島の自然環境の理解のみならず、大地震が発生する場所や歴史の理解、また長期予測において不可欠である。本授業では変動地形の成り立ちを理解し、日本列島の自然環境および地震発生環境の地域的個性、ひいては人間社会のあり方を見つめなおす。

【到達目標】

変動地形と古地震の調査法を説明できる。

日本列島の地震発生環境の地域的個性を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

背景となる地形学的知見を概観したうえで、変動地形学・古地震学のアプローチを通じて日本列島の地形的枠組みと地震発生環境の理解をはかる。講義形式。国内外における地殻変動の具体像を示すスライドも活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本列島の地震発生環境	島弧海溝系、プレート境界、活断層、活火山
第2回	変動地形と古地震の調査法	地形学・地質学、史料地震学、地震考古学、地震学・測地学
第3回	地震発生繰り返しモデル(1)	地震の歴史を復元する取り組み、変位量分布の規則性と固有地震モデル
第4回	地震発生繰り返しモデル(2)	時間-変位ダイアグラム、時間予測モデル、変位予測モデル、長期評価
第5回	活断層の認定	地震規模と地表変位、活断層地形判読
第6回	相模トラフの地震	1923年大正関東地震、1703年元禄関東地震ほか
第7回	南海トラフの地震	1944・1946年昭和、1854年安政、1707年宝永ほか
第8回	琉球海溝の地震	地震発生可能性、1771年明和ほか
第9回	日本海溝の地震	2011年東北地方太平洋沖地震、869年貞観地震ほか
第10回	千島海溝の地震	17世紀型超巨大地震ほか
第11回	地震と活断層(1)	活動期と静穏期、1995年兵庫県南部地震と六甲・淡路断層帯ほか
第12回	地震と活断層(2)	2016年熊本地震と布田川-日奈久断層帯ほか
第13回	日本列島の活断層(1)	糸魚川-静岡構造線断層帯、東北日本の活断層、歴史地震

第14回 日本列島の活断層(2) 西南日本の活断層、歴史地震

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)・期末レポート(60%)。平常点はリアクションペーパーによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

知識と思考力に加え、基礎力や応用力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

The existence of tectonic landforms is one of the most significant features on the natural environment of the Japanese islands. These tectonic landforms have mainly developed related to recurrent large earthquakes. We examine spatial variation, mechanism, and history of tectonic landforms as well as the seismogenic environment in the Japanese islands, in order to understand the natural environment of the Japanese islands and to improve our social resilience.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain research methods in tectonic geomorphology and paleoseismology, and (2) to explain the seismogenic environment in the Japanese islands. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (40%) and the final report (60%).

INE200HA

エネルギー論 I

北川 徹哉

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考(履修条件等)：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. エネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。質問は随時受け付ける。また、レポート課題のフィードバックについては授業最終回に時間を設けたり、動画配信などにより実施する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーと環境、エネルギーの姿
第2回	エネルギーの量を表すもの、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第3回	電力の需要と供給	発電・送電・配電・消費、電力需給のバランスとコントロール、電力送配電の事故
第4回	電力供給の源	発電機は何をするものか
第5回	電力供給のさらなる源(熱エネルギー)	エネルギー保存、サイクルとは何か、熱力学の法則
第6回	エネルギー使用と仕事	カルノーサイクルの構成、仕事、効率
第7回	エントロピー	エントロピーとはどのようなものか
第8回	熱エネルギーの移動と出入り	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第9回	熱から電力への変換	熱と水の関係、発電で用いられるサイクル
第10回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第11回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第12回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第13回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分
第14回	エネルギーの資源、流通、消費	世界のエネルギー情勢、1次エネルギーと2次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義での資料などを用いて予習・復習をすること。
 次の内容を事前に学習しておくこと。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位，第4回：ジュールの実績，第5～8回：前回の講義内容の見直し，第9回：水の性質，第10～13回：我が国の電力会社と発電所，第14回：エネルギーの時事問題
 本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100％）：各種エネルギーの特性に関する課題により，到達目標の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

エネルギー分野は広範囲の内容を含み，楽しく学べます。わからないところは質問しましょう。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations, and on the energy demand-supply relationship. Special attention is paid to the electricity power generations using the heat produced by fossil and nuclear fuels.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to learn about the energy supply and consumption in our society,

B. to understand the characteristics of various resources and the energy conversion systems from the view points of thermodynamics, and

C. to obtain the knowledge on the international and domestic trends of energy development and trading.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

BOM200HA

環境健康論 I

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国である一方で、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。今後高齢化社会が進むにつれて、課題とされる健康寿命の延長に何か必要であるか？健康で過ごすにはどうすればよいか？適度な運動、自然素材の食事、十分な睡眠など、自らが考え実践できることは沢山ある。

本講義では、普段何気なく過ごしているその内容に焦点をあて、いかに生活習慣が大事であるかを、がんに関する多目的コホート研究などの資料をもとに考察していく。

【到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. ホメオスターシスと病気の関連性について述べるができる。
3. 日本人の死因について述べるができる。
4. 人間のがんに関わる要因について説明する。
5. 創傷の治癒過程について説明できる。
6. 免疫の働きと役割について説明できる。
7. 腸内細菌と免疫系の関係を述べるができる。
8. 食べることの重要性を述べるができる。
9. 治癒を促進する食品が説明できる。
10. 治癒と排出の関係を説明できる。
11. 治癒を妨げるものを列挙できる。
12. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
13. 自らの健康感を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス:講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	ホメオスターシスと病気 - 病気になる人となり - にくい人 -	人間に備わっているホメオスターシスの意義について説明し、病気との関連性を検討する。
第3回	がんの基礎知識 I	人のがんに関わる要因について説明する。 がんに関する多目的コホート研究から飲酒、喫煙に関わる内容を解説する。

第4回	がんの基礎知識Ⅱ	人のがんに関わる要因について説明する。 がんに関する多目的コホート研究から食生活、運動習慣に関わる内容を解説する。
第5回	免疫系と自律神経系：免疫力アップは腸内細菌の元気から	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを説明する。また免疫系と自律神経系との関わりを腸内細菌の働きと合わせて考察する。
第6回	治癒の本質：治癒の3局面（反応・再生・適応）	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治す能力（自然治癒力）について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第7回	創傷の治癒：線維の増殖、瘢痕の成熟、組織修復による合併症	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを解説する。
第8回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるのだろうか？	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について解説する。
第9回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性を解説する。
第10回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	人間は日々の摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気との関連性を解説する。
第11回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。
第12回	有害物質から身を守る	水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさげ上手に生活をおくる方法を検討する。
第13回	ところが治癒に果たす役割：治癒とところの相関関係（笑いが地球を救う）	精神的および感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、ところが治癒系に与える影響について解説する。
第14回	成熟した成人になるために：治療は外から、治癒は内から	治療(cure, treatment)と治癒(healing)の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
講義の前日 22 時まで、学習支援システム上に資料を掲載する。
受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する

【参考書】

健康・体力づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書
標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど） 80%
- 2) 授業への参画状況 20%

- ・課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
- ・授業に出席しても課題が提出されていない場合は、欠席扱いとする。
- ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合があるが、オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。また配布資料、課題の提出は学習支援システムを通じておこなう。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。
授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。
それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
また、オフィスアワーとして毎週木曜日 15 時～16 時 40 分の 100 分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

E-mail : asahina@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

Japan is well-known for the best longevity in the world. However, as oppose to the reputation from the world, it is unfortunate that there are not many Japanese people who can actively enjoy till their end-stage of life. It has been known that the healthy life can be obtained by quality life activities such as moderate exercise or physical activity, quality sleep and rest, and well-balanced diet. This course will provide the knowledge and skills necessary to prevent from illness and acquire such a healthy life. Upon the completion of this course, students will be able to learn and enjoy such a lifestyle.

【Learning Objectives】

Students will be able to understand the relationship between the environment and health in order to build a sustainable environmental society.

To be able to explain the relationship between homeostasis and disease.

To be able to explain the factors related to cancer in humans.

To be able to explain the healing process.

To be able to explain the function and role of immunity.

To be able to explain the foods that promote healing.

To be able to explain the role of the mind in healing.

To be able to describe one's own sense of well-being.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 80%.

2) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be “D” or “E”.

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

BOM200HA

環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学領域外の医学・医療体系の総称」である。近年、NCCIH（アメリカ国立補完統合衛生センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個別性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。またアメリカ、ヨーロッパ諸国を中心として、世界各国の伝統医療の見直しが行われ、多くの人が日常的にとり入れ、その効果を実感している。

本講義では、世界におよそ 600 種あると言われている補完代替医療のうち、代表的ないくつかの伝統医療を取り上げ、その特徴や功罪などを説明する。また、必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を追究する。

【到達目標】

1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
4. 代表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。
6. 東洋医学の根幹である「気」の概念を理解できる。
7. 陰陽論、五行学説について概説できる。
8. 鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明できる。
9. ホメオパシーの特徴、長所および短所を説明できる。
10. エネルギー療法について実践例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分におこない、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムをつうじて周知する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	補完代替医療の健康観 I	NCCIH（アメリカ国立補完統合衛生センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第 3 回	補完代替医療の健康観 II	ドイツのがん治療の現状を DVD を視聴しながら解説する。
第 4 回	補完代替医療システム :中国伝統医学 I	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。

第5回	補完代替医療システム :中国伝統医学Ⅱ	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第6回	補完代替医療システム :中国伝統医学Ⅲ	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第7回	補完代替医療システム :中国伝統医学Ⅳ	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として7種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第8回	補完代替医療システム :ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第9回	補完代替医療システム :インド伝統医学 (ヨーガ)	インド地域を中心として発達した5000年の歴史があるヨーガについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第10回	精神・身体相互介入による医療 :瞑想法、呼吸法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禪」との関連性を解説する。
第11回	生物学的療法 :マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われて、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第12回	手技および身体を介する療法 :按摩・指圧・マッサージ	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。
第13回	手技および身体を介する療法 :カイロプラクティック、オステオパシー、オステオパシー、リフレクソロジー	カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジーについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第14回	エネルギー療法 :ヒーリングタッチ	ヒーリングタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

講義の前日22時までに、学習支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

【参考書】

- 『補完代替医療入門』 上野圭一著 岩波アクティブ新書
 『ホメオパシー医学への招待』 松本丈二著 フレグランスジャーナル社
 『標準東洋医学』 仙頭正四郎 金原出版
 『近代中国の伝統医学』 ラルフ・C・クロイツァー著 創元社
 『傷寒論を読もう』 高山宏世著 東洋学術出版社
 『アーユルヴェーダとヨーガ』 上馬場和夫著 金芳堂
 『ヨーガ根本教典』 佐保田鶴治 平河出版社
 『人はなぜ治るのか』 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど） 80%

2) 授業への参画状況 20%

- ・課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
- ・授業に出席しても課題が提出されていない場合は、欠席扱いとする。
- ・出席が授業実施回数の2/3に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるためDもしくはE評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合があるが、オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。また配布資料、課題の提出は学習支援システムを通じておこなう。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週木曜日15時～16時40分の100分を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

E-mail : asahina@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The body can heal itself. Natural healing is not a miracle but a fact of biology - the result of the innate healing system in the human body. The opportunity to experience this spontaneous healing can be increased by giving proper exercise and adequate rest to the body. In this lecture, from the perspective of oriental medicine, students learn about the natural healing system.

【Learning Objectives】

Explain the health perspective of complementary and alternative medicine.

List representative complementary and alternative medicine and outline their contents.

Compare modern Western medicine and complementary and alternative medicine, and explain the characteristics of each. Understand the concept of "qi," the foundation of Oriental medicine.

To be able to explain the characteristics, effects and usage of acupuncture and moxibustion therapy.

To be able to explain the characteristics, advantages and disadvantages of homeopathy.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 80%.

2) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

PLN200HA

気候変動論 I

松本 倫明

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【G】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。

春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体的には（1）気候変動科学のこれまでの経緯、（2）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（3）温暖化予測の概要、（4）大気と海洋の循環と熱収支、（5）炭素循環、（6）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第3回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第4回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第5回	地球温暖化の概要（4）	将来取り得る選択肢についての議論
第6回	大気の種類	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第7回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第8回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第9回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第10回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。

第11回 温室効果

温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線の吸収と放射など。

第12回 放射平衡

大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。

第13回 炭素循環

二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。

第14回 まとめ

授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中や Hoppii を用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

EAE200HA

気候変動論Ⅱ

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【G】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見を学ぶ。

秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても学習する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体には（1）気温の変化とその測定方法、（2）温室効果ガスの増加とその原因、（3）エアロゾルの影響、（4）降水・積雪への影響、（5）海洋への影響、（6）気候変動の予測と不確実性、（7）適応策・緩和策、（8）古気候学について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。最新の研究や観測の結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動論Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（1）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（2）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（1）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（2）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。

第12回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を紹介する。
第13回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第14回	まとめ	講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中や Hoppii を用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。履修者数が多くない場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストでは携帯電話やスマートフォンを用いる。

【Outline (in English)】

Course outline: Advanced knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about global warming. In the fall semester, we lean on the detail of climate change.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

DES300HA

自然環境政策論 I

三村 起一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような政策を進めなければなりません。

自然環境政策論 I（春期）では、自然環境にかかる様々な背景事象や対策等について関係法令も含め学ぶことにより、自然環境問題について理解を深めることを目指します。

【到達目標】

保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題、さらにはそれらを解消するための取組について理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

日本における自然環境保全制度について、半期終了後にはその全体像が把握でき、到達目標をかねるよう、各制度の歴史的背景や課題、具体的な対策やその達成状況等を国内外の実例やエピソードを交え説明し、知識と問題意識の共有を図っていきます。

また、課題提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと序論	講義の進め方、自然環境の概念、環境問題の難しさ
2	自然環境の保全とは何か	自然環境に関する国内外の動向
3	希少野生生物の保護	種の保存法を中心に各種施策をレビュー
4	外来生物対策	外来生物法、カルタヘナ法について
5	一般鳥獣に関する課題 1	鳥獣施策のあゆみ
6	一般鳥獣に関する課題 2	鳥獣法について
7	ペットに関する課題	動物愛護法、ペットフード法について
8	国立公園に関する話題 1	国立公園制度のあゆみ
9	国立公園に関する話題 2	自然公園法について
10	原生的な自然環境の保全	自然環境保全法について
11	自然の再生に関する課題	自然再生法、エコツーリズム推進法について
12	生物多様性の保全 1	生物多様性基本法について
13	生物多様性の保全 2	生態系サービス、SATOYAMA 活動について
14	春期のまとめと振り返り	我が国の自然環境行政の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用した予習・復習が必要です。本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。自主学習により講義テーマに関わる知識の深化や講義で抱いた疑問についての解決を図るとともに、日常的に、メディアや旅行等においても自然環境に対する関心を払うよう努めてください。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。国の機関のホームページを活用（参照）して講義を進めます。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業毎のリアクションペーパー（50%）、期末試験（50%）の 2 項目で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列とならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【学生が準備すべき機器他】

国の機関のホームページを活用（参照）して講義を進めますので、スマホ、PC 等を持参してください。

【その他の重要事項】

自然環境政策論 I（春期）と II（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェ III（生態学）（春期）と自然環境論 IV（秋期）の受講を勧めます。

【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' understanding of natural environment issues by learning about the background events and countermeasures related to the natural environment, including related laws and regulations.

And then, students will deepen their understanding of the characteristics of the natural environment to be conserved, the current status and issues of problems caused by human activities, and the efforts to resolve them, and acquire the ability to explain the main points.

Students are required to prepare and review the materials introduced in each lecture.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students are also encouraged to use independent study to deepen their knowledge of the lecture topics and to resolve any questions they may have in the lectures, as well as to pay attention to the natural environment on a daily basis, in the media, and when traveling.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short-report : 50%, Term-end examination : 50%

DES300HA

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【G】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国における特徴的な保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化など
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	法によらない保全メカニズム	生態学と環境計画、自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、ドイツのビオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い
第9回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約
第10回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例

第11回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、自然資本
第13回	生物多様性と政策	生物多様性条約、生物多様性オフセット、ビオトープ
第14回	地域資源の活用とエコツーリズム	エコツーリズムとは、管理型観光と自主型観光、自然の価値を高める経済的な循環事例、地域づくりに生かす試み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末課題（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていきますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA

環境科学 I

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）
- ・環境アセスメント（法制度、具体例）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

課題提出後の授業、または Hoppii において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は Hoppii でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物

第 11 回 廃棄物・その 2（第 5 章） 産業廃棄物

第 12 回 リサイクル・（第 5 章） リサイクルの種類、リサイクル関連法

第 13 回 有害物質とリスク、基準の決め方（第 6 章） 有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方

第 14 回 環境アセスメント（第 12 章） 法制度、手続き、事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良 (2015) 環境学は総合格闘技? 人間環境論集, 第 16 巻, 第 1 号, pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テスト（方法は未定）を行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト 30%、期末試験 70%です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will obtain the basic engineering knowledge regarding mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances (this is learning objectives). Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz (method to be determined) will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. The evaluation will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として Hoppii にアップしますので、事前にダウンロードしてください。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

課題提出後の授業、または Hoppii において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は Hoppii でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ

第10回 中国の環境と資源・そ 人口、食料と水資源
の1（第11章）

第11回 中国の環境と資源・そ エネルギー、公害、政策
の2（第11章）

第12回 環境国際協力 開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー

第13回 環境国際協力 事例研究

第14回 まとめ 全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンバクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席（30%）と期末試験（70%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China (This is learning objectives). Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz (method to be determined) will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. The evaluation will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

課題提出後の授業、または Hoppii において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は Hoppii でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第 2 回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第 3 回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第 4 回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第 5 回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第 6 回	エネルギー（3）	石炭、水力
第 7 回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第 8 回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第 9 回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第 10 回	リンと窒素	循環、機能、存在
第 11 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第 12 回	遺伝資源	食料、医薬品
第 13 回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第 14 回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回 Hoppii で配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第 15 巻第 2 号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テストを行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト 30 %、期末試験 70 %です。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

This course includes explanation about meaning of resources, freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, base metals and rare earths. Students will acquire basic knowledge about the meaning of resources, the scientific nature of resources and the prospect of utilization. Major items include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals (This is learning objectives). Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz (method to be determined) will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. The evaluation will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

SOM300HA

衛生・公衆衛生学 I

宮川 路子

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追究し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座において学生は、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

学生は、各種の健康問題の実情を学び、必要とされる健康行動について考えていく。

たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起るのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に付けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学 I～IIIの内容は若干重複することがある。大人数の講義であるため、基本的にオンライン（オンデマンド）で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念予防医学の基礎について
第 2 回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第 3 回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第 4 回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病各論
第 5 回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第 6 回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第 7 回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第 8 回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第 9 回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第 10 回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題

第 11 回 少子・高齢社会における介護問題、高齢者虐待
健康問題②

第 12 回 児童虐待 児童虐待の現状と対策

第 13 回 感染症 性感染症・食中毒

第 14 回 まとめ まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【Outline (in English)】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention of infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement. In this course, students will learn the basic concepts of preventive medicine and will acquire the knowledge on various health-related issues that are latent in modern society. The aim of the course is to raise health awareness and to acquire the skills necessary for individuals to manage their own health.

Learning Objectives

Students will learn about the realities of various health problems and think about the health behaviors required from younger age. For example, students will learn what happens to their bodies when they consume alcohol, which is often a problem in their daily lives, and will be able to think about specific ways to develop healthy behaviors to prevent problems related to drinking. By accumulating these lessons, students will be able to prevent future diseases and extend their healthy life expectancy.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。本講義で学生は、健康に生きていくための公衆衛生についての重要な知識を身に付けることが可能となる。

学生は疫学の知識を身に付けることにより、ヘルスリテラシーを高める。また、生命倫理について深く学び、いかに健康に生きるかということを考えることを目標とする。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。また、学生は日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。さらに学生は生命倫理の諸問題について学び、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について学習する。さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。多人数講義のため、オンデマンドで講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	社会保障	日本の医療制度について

第10回 生命倫理①

医の倫理
医療崩壊
患者と医師の権利と義務

第11回 生命倫理②

安楽死・尊厳死
医療訴訟

第12回 生命倫理③

遺伝子関連問題
遺伝病、色覚異常

第13回 生命倫理④

終末期について
映画鑑賞（死について考える）
感想文提出
講義のまとめ

第14回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドの講義のため、視聴のためのパソコン

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, students will have the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

Learning Objectives

In this course, students will learn the process of using epidemiology, health statistical methods, and sociological methods to investigate and raise issues, as well as to take further action. This will enable students to evaluate and discard health information that they come into contact with in their daily lives, and to take appropriate health actions.

In addition, students will learn about the current state of medical care in Japan and consider appropriate treatment behavior as a patient. Students will also learn about bioethical issues and consider how to live and how to die.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。

現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となり、2019年には2万人を切ったが、2020年には再び上昇した。いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルへするケアを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を考えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンラインによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第3回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について
第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと
第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害

第7回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ
第8回	精神障害④	摂食障害について
第9回	精神障害⑤	不安障害
第10回	精神障害⑥	統合失調症
第11回	精神障害⑦	発達障害と就労問題
第12回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実践について（有効な疾患）
第13回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実践について（サプリメント）
第14回	まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】

産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】

The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status. In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.

Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends. Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage.

Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health.

Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy.

Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.

Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

INE300HA

エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという再生循環の輪の中にあつた。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	エネルギーの環境対策と国の方針（電力を中心に）
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、新エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、落差、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車のタイプと性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱資源と地熱発電、海洋温度差発電
第14回	エコカーなど	(B)EV と FC(E)V などのエコカーのバラエティ、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の資料などを使用して予習・復習をすること。

次の内容を事前に学習しておく和良好的、第1回：エネルギーのCO₂換算、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100%）：各種再生可能エネルギーの利用に関する課題により、到達目標の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations. Special attention is paid to the electricity generations using renewable resources such as hydropower, wind power, solar power, biomass fuel and geothermal power.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn about the relationship between the energy consumption and the environmental problems,
- B. to understand the characteristics of the renewable energy systems and
- C. to obtain the knowledge on the efficiency of the renewable energy systems as well as on the problems of the renewable resources.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average. (Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

EAE300HA

大気と社会 I

丸本 美紀

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気象や気候は人間生活に密着したものであり、常に人間生活に影響を及ぼしています。「大気と社会 I」では、日本の気象災害の事例を中心に、気候の構成要素や気候の特性、人間社会への影響について学んでいきます。

【到達目標】

1. 気候の構成要素から、日本の気候の特徴を説明することができる。
2. 日本の主な気象災害について、その要因も含めて説明することができる。
3. 日常生活において、どのように気候の影響を受けているのか、功罪両面から考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、対面授業として開講予定。各回資料を配布してパワーポイントで説明し、授業内にミニレポートを提出してもらいます。提出してもらったミニレポートについては、翌授業以降でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要説明、気候・気象と人間の歴史、二十四節気七十二候
第 2 回	日本の気候①	大気大循環、日本の気候風土
第 3 回	日本の気候②	日本の気象観測網、生物季節観測
第 4 回	日本の気候と気象災害	天気図パターンと気象災害、シンギュラリティ
第 5 回	春の気象災害①	春一番とフェーン、局地風と自然エネルギーへの転換
第 6 回	春の気象災害②	メイストームと雷雨、晩霜害と気温の逆転、熱収支
第 7 回	夏の気象災害①	梅雨とエルニーニョ、集中豪雨、冷害
第 8 回	夏の気象災害②	猛暑とラニーニャ、WBGT
第 9 回	夏の気象災害③	干害と水収支
第 10 回	秋の気象災害①	秋雨前線、霧
第 11 回	秋の気象災害②	台風の特徴と被害
第 12 回	冬の気象災害①	寒さと体感指数
第 13 回	冬の気象災害②	雪害、山雪と里雪
第 14 回	まとめ	災害の構造、環境可能論と環境決定論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。天気予報や新聞、インターネットなど身近な気象・気候情報に関心を持っておくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。各回、資料を配信します。

【参考書】

荒木健太郎『雲の中では何が起きているのか』ペレ出版

仁科淳司『やさしい気候学：気候から理解する世界の自然環境』古今書院
その他、授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（60%）、授業内のミニレポート＋平常点（40%）

【学生の意見等からの気づき】

平常点も成績に反映するようにします。

【その他の重要事項】

防災士の資格を生かして、防災の視点も取り入れて、授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course deals with climatic disasters in Japan and climatic impacts on the human environment and the structure of the atmosphere.

At the end of the course, students are expected to illustrate the feature of climatic disasters in Japan with their factors and impacts for human environment.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end report (60%), and short reports in each class (40%).

EAE300HA

大気と社会Ⅱ

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気と社会Ⅰに引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会Ⅱにおいては、主に大気と人の生活環境との関わりについて講義する。

【到達目標】

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市あるいは地域の独特の大気の動きとそれが引き起こす災害や事故などについて説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第2回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第3回	ストリートキャニオン	都市における沿道の景観、沿道大気汚染、地形が作る大気環境、大気汚染の環境基準
第4回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質、都市キャノピー、クールアイランドからの冷氣放出
第5回	クリマアトラスと風の道	ドイツ・シュツットガルトの風の道、気候情報に基づく都市計画・環境計画、風の道をつくるには
第6回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第7回	黄砂の飛来	黄砂の発生源、黄砂の飛来性状と被害、アメリカ・中東・オーストラリアなどのダストストーム
第8回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候、アメリカ乾燥地域のタンブルウィード
第9回	住居環境と気流（1）	室内で発生する汚染物質、室内にいる人間からのCO ₂ 放出が室内環境に及ぼす影響、換気と通風の違い、換気施設と換気計画
第10回	住居環境と気流（2）	通風による室内環境の変化、人間の代謝と快適感・温冷感
第11回	火災と大気	都市計画法第9条、延焼と市街地火災、火災旋風（ファイヤー・トルネード）、火災の熱と大気
第12回	鉄道・自動車と大気	車両の形と転覆、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制とその発動回数減少のための対策、高速鉄道のトンネル微気圧波

第13回 農作物と大気（1） 受粉と気流、光合成と大気、気流による農作物の倒伏、飛来塩分による塩害

第14回 農作物と大気（2） 地域独自の気流特性を利用した農業、霜害とその防止、気温逆転層

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること、次の内容を事前に学習しておくが良い。第1～3回：大気汚染物質の種類、第3～5回：都市の気候、第6～8回：砂粒子の大きさや形、第9～10回：屋内の空気管理、第11回：地震の2次災害、熱の種類、第12回：列車や自動車の形状・構造、第13～14回：地域の気候

本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100%）：レポート課題（2、3回程度）を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn about various types of air-transport phenomena such as air pollution, heat island, dust stream and sand drift,
- B. to study on the air flow relating the urban/regional topographical condition, the fire spread in urban areas and the train/vehicle accidents due to strong winds, and
- C. to obtain the knowledge on the ventilation of indoor air to remain the room environment safe and comfortable.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on reports for assignments (100%).

PHY200HA

サイエンスカフェⅣ

渡邊 誠

配当年次/単位：1~4年 / 2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題へ
 本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでもらうための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1)我々の生活に密接に関連していること、そして(2)環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はその3つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について、物理学的な知識が環境問題を考察するための基礎であることが理解できるようになることを目標とする。なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回の授業はオンラインで開講する。第2回以降は対面形式で授業を進めていく予定である。なお、状況により対面形式の予定であってもオンライン方式に切り替えることがある。連絡事項等は学習支援システムで表示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか？
第2回	物体の運動とエネルギー	運動の法則と何か？ エネルギーとは何か？ 位置（高さ）と運動（速度）の間のエネルギー変換について。
第3回	物体の運動とエネルギー	エネルギーは保存される。ジュール(J)、ワット(W)などの基本単位の超入門。人間はエネルギー的に約100Wの電球と同じ、など。
第4回	熱とエネルギーを理解しよう	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは？ 比熱とは？ calとJについて。太陽定数の大きさと地球-宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。
第5回	熱とエネルギーを理解しよう	気体の圧力、体積、温度などの関係（ボイル・シャルルの法則）を理解する。気象現象の考察。熱機関（熱から仕事への変換）と熱効率について。

第6回	熱とエネルギーを理解しよう	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？
第7回	物質の三態と状態変化を調べよう	物質の三態（液体、固体、気体）の存在を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命維持における水の役割は？
第8回	物質の三態と状態変化を調べよう	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇は海面上昇に関係しているのか？ 氷山の融解は海面上昇の原因なのか？
第9回	波の性質を知ろう	横波と縦波、周期と振動数（周波数）、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波や海波などの理解。
第10回	電気回路の性質を調べてみよう	乾電池、導線、抵抗などによる回路作りとオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。抵抗率とは？ 電力系統網における送電ロスとは？
第11回	磁石を使って電気を作ろう	モーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？ 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線などは電磁波の仲間。
第12回	原子・分子を理解しよう	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq（ベクレル）とSv（シーベルト）などについての解説。原子力発電とウラン、セシウム、プルトニウムなどについての超入門。
第13回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第14回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか？ エネルギー変換にはロス（損失）が伴う。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動のエントロピーの解釈超入門。総括として、物理学と環境問題および持続可能という概念との関係性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業時に作成したノートを復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

この科目の最終授業時に学習支援システムを通じてレポート課題を出題しますので必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますので、これも加味します。成績はこれらの提出状況（充実度）によって判定します。レポートでの評価 100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めています。

【学生が準備すべき機器他】

様々な現象についての教材や実験のデモンストレーションをできるだけ多く映しながら進めています。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。

この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお薦めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Physical fundamentals for energy and materials

In this course we learn fundamentals of physics. Features concerning energy and materials will be clarified with relation to environmental problems on the earth. The following themes will mainly be examined: the law of motion, the concept of energy, the units of energy and power, energy conversion, energy balance on the earth, heat and its capacity, the three states of substances, molecular dynamics for gases and liquids, thermal engine and the heat efficiency, thermal expansion of liquids and solids, the mechanism of thermal transference (conduction, convection, and radiation), phase transition among three states (melting, boiling, and sublimation), fundamentals of wave phenomena, electric circuit, magnetism and electricity, the structure of atomic nuclear and energy, the fission and radioactivity, the first and the second law of thermodynamics, etc. They are instances lectured in this course.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the knowledge of fundamentals of physics. The concept of energy and materials is expected for us to be acquired in this class.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend four hours to understand the course content for each class opened.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with Mid- and End-term reports 100%.

ENV200HA

環境モデル論 I

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える
モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。また人間活動などにおいて考えられる典型例や標準例、理想化された例などのことを指す場合もある。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生起する環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いる結果なのか？ 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な指標（手法）についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する（空間的に拡散する）という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」や「持続可能」という問題を科学的に考察するための基礎という位置づけにもなっている。

【到達目標】

地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることが目標である。本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回の授業はオンラインによる開講とする。第2回以降は対面形式で授業を進めていく予定である。なお、状況により対面形式の予定であってもオンライン方式に切り替えることがある。連絡事項等は学習支援システムで表示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明について。関連する他の科目（サイエンスカフェ IV、統計とデータ分析、環境モデル論 II など）の概要と本科目との関連性についての解説。
第2回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか？	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは？

- 第3回 地球というシステムを眺める（宇宙から微生物までを考える） 太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと炭水化物（糖）。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物（生産者、消費者、分解者）は物質循環に対してどのような役割を担っているのか？
- 第4回 物質と人為を考える（人間活動による物質とその移動について） 工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 廃棄物を焼却処理すると減容化するが、果たして物質は消えて無くなったのか？
- 第5回 エネルギーと人為を考える（人間活動によるエネルギーの変化とその移動について） エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこに行くのか？ エネルギーは消費されると消えて無くなるものなのか？
- 第6回 自然の法則と環境（基礎） 熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ エクセルギーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。
- 第7回 自然の法則と環境（発展） 熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。
- 第8回 ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学（基礎） 人間活動の特徴をLCAの立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則はLCAではどのように表現されているか？
- 第9回 ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学（発展） 製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費（使用）、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。
- 第10回 エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る（基礎） 人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等排出の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培（野菜工場）の環境負荷はどれくらいなのか？ 露地栽培とはどちらが負荷は少ないのか？
- 第11回 エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る（発展） 人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球は今ここで行われている人間活動を支え扶養する力（容量）を持っているのか？
- 第12回 持続可能性への考察（科学技術考） 資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性（地球の有限性）から見た成長の限界について。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クローズド・ループ・インダストリーは存在するのか？ ゼロエミッションは可能なのか？ そもそも永久機関は存在するのか？ エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。

- 第13回 持続可能性への考察（熱力学考） 玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。狭い空間で動きを持続させる方法はあるのか？ エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデル化する。
- 第14回 総括 講義内容をまとめ、参加者による総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。学習支援システムに教材を置く予定です。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

この科目の最終授業時に学習支援システムを通じてレポート課題を出題しますので必ず提出してください。なおそれ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますので、これも加味します。成績はこれらの提出状況（充実度）によって判定します。レポートでの評価100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェIV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することをお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to modelling of the earth system and human action

Aim of this course is to acquire the basic knowledge concerning environmental problems and sustainability of the earth. The scientific approach is schemed with thermodynamics. In order to consider the problems, we need to understand the mechanism of the earth system including energy balance and material circulation on it. Feature of human action is required to be examined with relation to natural law on it.

This course mainly deals with the matter “energy and materials” which is analyzed through the law of thermodynamics appeared in the field of physics. We formulate the nature of the energy conversion and flow of materials on the earth. The earth system is modeled as one of the stationary-open systems. The techniques of the life-cycle assessment and the ecological-footprint are introduced here. In this course, we recognize that the concept is important for the first law of thermodynamics as energy conservation and the second one as quality consumption (i.e. entropy increment). This is valid not only for energy phenomena but also for material ones.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the concept of the mechanism of the earth system and human actions based on the thermodynamics. We are expected to understand the life-cycle assessment and the ecological footprint.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend four hours to understand the course content for each class opened.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with Mid- and End-term reports 100%.

ENV200HA

環境モデル論Ⅱ

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「共生」と「持続」を考える

本科目では持続可能とは何か？という問題を自然科学的な観点からより具体的に考えることをテーマとする。対象となる系が持続するという事は、システムの時間経過に対する不変性（安定性）を意味するものである。その問題を考察するためには対象系の状態遷移の様子（時間発展、ダイナミクス）を調べることがひとつのアプローチとなる。本科目では、例えばウサギとヤマネコのような喰う者喰われる者の関係性をもとに個体数変動のシミュレーションを見て考察していく。それにより自然界の持っている「持続」のメカニズムを理解する。またこれに伴い「共生」することの意味についても考えていく。このほか、自然界において観察されている幾つかの現象や具体例を眺めてみることにより定常開放システムが持続していくための条件等を探ることとする。このため比較的容易に理解できるシステムダイナミクス（SD）手法を習得し様々な系の時間発展の様子を理解していく。フィードバック機構とその役割、時間遅れの影響などについて理解を深める。さらには持続可能性というテーマに対してエントロピー増大則などを含めた熱力学的考察をおこなう。

【到達目標】

自然界で観察されているダイナミクスに関する現象を再現しそれを分析する力を身につけることを目標としている。またエントロピーの概念を習得し、物質循環などの問題に結び付けて考察ができるようになることも目標としている。本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大方理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回の授業はオンラインによる開講とする。第2回以降は対面形式で授業を進めていく予定である。なお、状況により対面形式の予定であってもオンライン方式に切り替えることがある。連絡事項等は学習支援システムに提示する。

授業に必要な資料などについても学習支援システム上に表示する。理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえような授業としたい。EXCELを利用してのダイナミクス・シミュレーションの例を紹介するので、これをもとに考察を進めていく予定である。EXCELをより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第2回	EXCELラーニング（基礎）	表計算機能を中心にその使用法を習得する。
第3回	EXCELラーニング（発展）	表計算機能、グラフ機能、データベース機能の使用法を習得する。

第 4 回	成長の限界 (基礎)	ローマクラブ「成長の限界」(1972)と世界モデルの紹介。人口、食糧、工業生産、資源消費量などの成長とその限界について。幾何級数成長(指数関数的成長)のメカニズムを銀行預金、利子返済などの簡単な例で体感する。
第 5 回	成長の限界 (細菌増殖モデル)	細菌増殖モデルとそのシミュレーションについて。限られたスペースで増殖する細菌の増殖曲線(S字型曲線、ロジスティック曲線)にこめられた成長と限界のメカニズムの分析。細菌数増加と残されたスペース(栄養)の減少との関係について。
第 6 回	成長の限界 (捕食-被食のモデル)	捕食者と被食者(例えばウサギとヤマメコ)に関する個体数変動のダイナミクスについて。ロトカ・ヴォルテラによる捕食と被食(2体)の競合関係と正・負フィードバックの効果の分析。自然界が持っている持続性のメカニズムを解析する。
第 7 回	成長の限界 (捕食-被食の発展モデル)	捕食者と被食者の関係の拡張としての多体間の個体数変動のダイナミクスについて。3体、4体間の競合と持続性を解析する。
第 8 回	システムダイナミクス (基礎)	様々な問題の構造とその分析、原因と結果の因果関係の分析、シナリオの描画、モデルの検証などについて。SDで使用される記号とフローの描き方。レベル(ストック、状態)とレイト(流量)、フロー(流れ)、情報、コンバータ、ソース、システム境界等の概念と計算手法の習得について。
第 9 回	システムダイナミクス (発展)	具体例をもとにしたSD計算について。正と負のフィードバック(因果関係)ループの理解。その構造がシステムに与える影響(効果)を調べる。それにより「持続する」を考察する。
第 10 回	複雑系の世界 (基礎)	複雑系とカオス理論について。決定論と確率論、初期値敏感性(バタフライ効果)と予測(不)可能性、ロジスティック写像とリターンマップなどの理解。決定論カオス(非線形力学)と環境問題との関係性を考察する。
第 11 回	複雑系の世界 (発展)	複雑系とフラクタルについて。自己相似性、フラクタル次元などの理解とグラフィックスによる描画。自然界においてフラクタル構造はなぜ出現するか?などを考察する。株価の変動、地震のエネルギーなどもフラクタル分布。
第 12 回	エントロピーの概念	情報理論の紹介。情報量とエントロピーの概念、情報の価値・役割と確率について。エントロピーが最大になるとはどのような事か?エントロピーの直感的理解について。持続するという事との関係。
第 13 回	共生と持続可能の概念	本科目で見てきたダイナミクスの特徴を熱力学的側面から浮き彫りにする。フィードバックと時間遅れ、多体間の競争・競合、非線形力学等のメカニズムとエントロピー論との関連性について。

第 14 回	総括	ローマクラブ「成長の限界」(1972)、「限界を超えて」(1992)、「成長の限界 人類の選択」(2004)をどのように読むか? ナチュラル・ステップ「ナチュラル・チャレンジ」(1998)の言う持続可能な社会のための条件をどのように解釈するか?
--------	----	--

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】
テキストは使用しません。必要に応じて教材を各授業前に学習支援システムに掲載しておきます。

【参考書】
開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
この科目では、最終授業時に学習支援システムを通じてレポート課題を出題しますので、必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますので、これも加味します。授業参加の積極性50%、提出されたレポートの充実度50%での評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業時にはパソコンを利用した演習は行わない予定ですが、自宅においてEXCELを利用することのできる環境があれば、予習・復習しやすくなります。

【その他の重要事項】
くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもたないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。
本科目は「環境モデル論 I」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェ IV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお勧めします。
本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】
(Course outline) Theme: Introduction to system dynamics and sustainability studies with computer simulation
In this course we execute computer simulation for dynamical systems with interaction. Personal computers with software EXCEL are used in a computer-practice room. The number of students for this class is limited. Object of this course is to examine the conditions which realize the stable state for dynamical systems. By means of the simulation studies, we clarify the mechanism of sustainability for feedback systems. For instance we practically examine the population change of rabbits and wildcats in forest for a model system with the prey-predator relation. The symbiotic relationship is studied for the systems.
(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the concept of the symbiotic relation among different elements. Simulation technic for dynamical systems is expected to be obtained by means of EXCEL usage.
(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend four hours to understand the course content for each class opened.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and Mid- and End-term reports 50%.

GEO200HA

自然災害論

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害をもたらす自然現象をなくすことはできない。リスクに配慮した防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが求められる。「いつ」「どこで」「何が」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどう備えるか。実例やメカニズム、リスクを検証し、災害の自然的・社会的背景をさぐる。

【到達目標】

自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。
災害リスクを低減させる取り組みについて自然・社会の両面から具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。前半は主に自然界のもたらすハザードを扱い、後半はそれを踏まえて人間社会のあり方を見つめなおす。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、防災とは
第2回	土地条件評価	地形、表層地盤、活断層
第3回	地震発生予測	地震とは、地震の起こる場所、地震発生繰り返しモデル、長期評価
第4回	地震災害の諸相（1）	地殻変動、地震動、液状化
第5回	地震災害の諸相（2）	地震火災、津波、津波火災
第6回	火山災害の諸相	活火山の分布、火山噴火とは、火砕流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第7回	気象災害の諸相	降水量とその季節性・地域性、豪雨と積乱雲、台風、高潮、大雪
第8回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流
第9回	土地利用と社会基盤（1）	災害危険区域、津波災害警戒区域、防潮堤、かさ上げ、高台移転、流域治水
第10回	土地利用と社会基盤（2）	耐震基準と耐震等級、活断層の直上と近傍
第11回	防災気象情報	災害種と予測可能性、伝達手段、特別警報、気象警報・注意報、緊急地震速報、津波警報・注意報、噴火警報・注意報
第12回	避難	避難情報、避難場所、避難所、警戒レベル
第13回	災害の歴史・災害経験の継承	記録と記憶、災害史、碑、災害遺構、活断層の保存
第14回	ハザードマップと防災教育	ハザードマップ、災害図上訓練（DIG）、津波と避難、学校、地域

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）・期末レポート（60%）。平常点はリアクションペーパーによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient and sustainable society. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster risk. Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain what determine the risk of natural disasters, and (2) to explain efforts to mitigate natural-disaster risk from the perspective of the natural environment and human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (40%) and the final report (60%).

DES300HA

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【グ】【サ】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通じた共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然 1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然 2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり

第11回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	大洋の島々の自然	主に海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第14回	まとめ	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末課題（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA

環境管理論 I

大岡 健三

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【サ】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では日本が誇る水質浄化技術や環境法令などの基本知識を学ぶ。湖沼、河川、海および地下水に関するさまざまな環境問題についても学び、メインの排水処理技術に加えて、環境法の実務知識もマスターする。企業経営や環境行政、海外活動で環境の知識は不可欠であるが、社会ですぐに役立つような実務知識を本講座で習得することができる。

授業では公害防止管理者の国家資格を得るのに役立つ基礎知識の解説をするが、国家試験を受験しない文系学生も興味深く学ぶことができるの分かりやすい授業内容とする。

授業では、水質汚濁メカニズムや水環境の保全策などを学び、物理化学・生物学的な排水処理技術のスキルを習得する。本講座の受講は、国家試験や民間の環境検定などの受験に役立ち、活性汚泥法や凝集沈殿など汚水処理法、さらに企業や行政の環境担当者によって日常使用される BOD/COD,ORP,SS など技術用語や環境管理の専門知識を理解できるようになる。

【到達目標】

新聞や TV などマスコミ報道でよく耳にする環境キーワードが十分理解でき、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則をマスターする。環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化処理技術を基礎から習得する。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスなど水質浄化技術の理解に加え、米国の環境科学の知見や汚染事故、海外情報なども学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指す。

実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルの理解を深める。さらに、公害総論や水質概論など公害防止管理者国家試験や民間検定などの水環境の問題（過去問）を解く訓練も時々行い、授業終了段階では水環境の技術と法規の専門用語や基本概念を問う基本的問題が解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を原則とするが大学の方針でオンラインに変更する可能性がある。授業は毎回、テーマに関するパワーポイントスライド等を提供する。講師が執筆した専門誌の記事等、関連画像や図表などビジュアルを多く利用する。学んだ内容を確認するため適宜課題を出し理解度を確認することがある。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

各論のテーマでは、講師が国内外で取材した産業公害の事例、有名企業の汚水処理の実例、有害物質規制の概要、汚染メカニズム、環境分析等を解説する。水質浄化技術を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。

テーマは各授業単位でなるべく完結させるので、1コマ飛ばしても（欠席しても）次回授業がスムーズに理解できるようにする。重要事項や難解かつ苦手のテーマは繰り返し説明する。学生からの建設的なコメントや要望などは次回の講義資料になるべく反映する。（大学からの授業方針変更に応じた授業形態の詳細は適宜学習支援システムでお知らせします。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体概要。地球の水環境、廃棄物と水質、ベトナム、マレーシア、ネパール、ブルネイ及び米国などの環境など	当講座の概要について説明。国内外の映像などを見て、環境汚染、浄化対策及び公害防止の側面から水環境の重要性を理解する。
第2回	環境基本法と法体系、水質環境基準	環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。公害防止者管理法等についても触れる。
第3回	水質汚濁防止法と排水基準	水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の具体的解説。
第4回	日本の水質汚濁の現状と原因 主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に検討。
第5回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水の汚染メカニズムを理解する。
第6回	物理化学的処理法 1 凝集沈殿	汚水処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第7回	物理化学的処理法 2 浮上分離、ろ過など	工場排水を浄化するための傾斜版、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。
第8回	化学的処理法、酸化還元、膜分離の基礎	化学処理法を学ぶ。pH調整、酸化還元の原理、膜分離などの基本知識及び逆浸透 RO 等高度な技術も解説。
第9回	生物処理法 1 概要と基礎	排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。
第10回	生物処理法 2、好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術	好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術も学ぶ。
第11回	高度処理法、活性炭処理等	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理について学ぶ。
第12回	処理装置の維持管理	物理化学的処理の維持管理。活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。
第13回	環境法令など授業の復習と授業内テスト	授業の要点復習および最終テスト実施（問題は主に簡単な選択問題）。
第14回	水質管理のパラメータと水質測定の基礎（河川水質調査の映像）、時間があれば授業内テストの解説	BOD/COD,pH,DO 溶存酸素などの知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質などの復習と全体のまとめ。また、最終テストのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。Web公開されている公害防止管理者等国家試験などの過去問を授業中に時々使用することがある。

国家試験受験希望者は市販の書籍（産業環境管理協会発行）またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

上記3冊の発行所 （一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題提出に対し、その記載内容を評価する(30%)。択一式中心の簡単な最終テスト(70%)で評価。60点以上が合格。大学方針により対面授業が中止になった場合は hoppii で代替策を通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の共通する質問や意見は可能な限り次回授業の資料に反映させる。物理化学など理系の基礎知識や履修歴がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが必要。

パソコンで週に1回以上は必ず資料をダウンロードして学習すること。

【その他の重要事項】

高校で物理や化学などの教育を受けていない文系学生を対象に授業を進める。環境法令は理屈でなく、製造工場など事業者の視点で実務的内容を解説する。(過去に経済・経営など他学部の学生が数多く受講しているが受講後の満足度は高い。)

【実務経験のある教員による授業】

講師は米国企業で長年の勤務経験があり、国内で環境コンサルタントや大規模な污水处理事業所の責任者も経験している。その実務経験と知識により複数の海外政府向けに環境教育を実施している。米国勤務や JICA 専門家海外派遣などの経験をベースに、世界レベルのトピックスや教材も授業で時々利用する。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course is designed to help students learn and understand the basic methods on water pollution control. You will also learn the various environmental issues on surface water such as lakes, streams, and ocean as well as groundwater. In addition to wastewater treatment techniques (main subjects), this course deals with the environmental laws and regulations.

[Learning objectives] You can learn practical environmental knowledge required for corporate environmental management, environmental administration, and various international activities. The main goal of this course is to teach you the introductory-level knowledge useful for acquiring the national qualifications of Pollution Control Manager. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically.

By this course, you can gain useful knowledge such as Activated Sludge process and Clarifier thickening methods. Also students taking this course are expected to understand a number of technical terms and concepts including BOD/COD, ORP, and SS, that are used by the Pollution Control Managers and government officers.

[Learning activities outside of classroom] Lecture/Exercise: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Further, students are expected to read text books and/or relevant articles provided by Hoppii.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated based on the following process;
Term-end examination:70%, Short reports: 30%.

ENV300HA

環境管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考(履修条件等)：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【サ】

他学部公開：○ グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を管理抑制するための、関連法令や技術について学びます。現在の企業の環境管理は従来の公害防止だけではなく、気候変動の緩和や適応にまで範囲が広がっています。2021年11月のグラスゴーで開催されたCOP26では石炭火力の段階的な削減や補助金の廃止が条約に初めて盛り込まれました。日本でも脱炭素社会への変換が加速されています。そのような中、企業のESG(環境、社会、ガバナンス)への取組が益々重要視されてきています。企業は従来の大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題からPM2.5汚染まで幅広い内容を学びます。また、大気関連の法律体系や行政施策及び、硫酸化合物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄を中心として学びます。公害防止管理者国家資格(大気)の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物質を発生する各種生産活動、大気汚染物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題(その1)	気候変動への国際的な取組やその他の大気環境問題について学ぶ。
第3回	近年の大気環境問題(その2)	大気に関する各種法律の概要(環境基準、排出基準等)を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第4回	大気保全のための各種法律	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第5回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	企業内における公害防止管理者の役割を調べる。不祥事の事例を調査し、その原因と改善策について考える。

第 6 回	アクティブラーニング 課題 1	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDG s の 17 のゴールとの関連についても考察する。
第 7 回	燃焼管理技術	燃料の種類や燃焼計算について学ぶ。効率的な燃焼管理方法及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第 8 回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第 9 回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第 10 回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第 11 回	アクティブラーニング 課題 2	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第 12 回	大気モニタリング技術 と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第 13 回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第 14 回	期末テスト	期末テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新・公害防止の技術と法規（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間とする。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規（大気編）発行所（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート 2 回の評価 各 20 (%)× 2 期末テスト 60 (%)

【学生の意見等からの気づき】

化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるように、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で配布した資料

【その他の重要事項】

担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を 10 年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

Course outline :

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities. At the COP26 held in Glasgow in November 2021, the phasing out of coal-fired power generation and the elimination of its subsidies were included in the treaty for the first time. In Japan, too, the transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives :

-To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.

-To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.

-To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.

-To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom :

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy :

Each Report : 20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

ENV300HA

廃棄物・リサイクル論

坂川 勉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【口】【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活や事業活動のあらゆる場面で廃棄物が発生する。廃棄物・リサイクルに関連してどのような問題が発生し、それをどのように解決してきたのか、これからどのように解決しようとしているのかを学ぶ。また、廃棄物・リサイクルは、より幅広い環境問題や気候変動などの地球環境問題とも密接に関連しているため、広い視野を持ちつつ、我々を含む関係者がどのように考えて行動すべきかを学ぶ。

また、これらの廃棄物・リサイクルに関する学習を通じ、持続可能な社会の形成についても学ぶ。

【到達目標】

廃棄物・リサイクルに関する多くの課題や今後の方向性を理解する。廃棄物を排出する者、処理する者、いずれ廃棄物となる物を製造する者など立場によって異なる責任について理解する。

廃棄物・リサイクルについて、より幅広い環境問題や地球環境問題との関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で授業を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、講義内容に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の全体構成と進め方、廃棄物・リサイクルを考えるうえでの基本的事項など
第2回	廃棄物・リサイクルの現状と課題	我が国における廃棄物処理とリサイクルの現状、今後の課題
第3回	ごみ処理の昔からの変遷	古い時代から現在に至るまでのごみ処理方法の変遷
第4回	廃棄物処理に関する法制度	廃棄物処理、リサイクルに関する法制度の概要
第5回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物に関する法制度と処理の実態
第6回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物に関する法制度と処理の実態
第7回	廃棄物処理技術	廃棄物処理やリサイクルに関する技術の概要
第8回	循環型社会とリサイクル制度	循環型社会の形成、リサイクルを進めるための制度
第9回	プラスチック資源循環	プラスチック資源を循環させる必要性と方策
第10回	特殊な廃棄物	特殊な処理を要する廃棄物について
第11回	地球環境問題への対応	気候変動などの地球環境問題に対応した廃棄物処理・リサイクル
第12回	災害廃棄物対策	災害時に発生する廃棄物の処理
第13回	試験	授業内容の理解の確認のために試験を行う
第14回	まとめ	授業全体の内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が住んでいる自治体でのごみの分別方法、処理方法を自治体のホームページで確認したり、毎回の講義を通じて興味を持った事項について図書館やインターネットで関連情報を探したりして勉強することを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布します。

【参考書】

環境・循環型社会・生物多様性白書
廃棄物行政概論 日本環境衛生センター
ごみと日本人 稲村光郎 ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

試験の結果 40%、提出レポートの内容 40%、平常点 20%とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

講義内容は入替えがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the current situation, problems and the way of future measures of waste management and recycling to students taking this course.

(Learning objectives)

The goals of this course are to understand followings

-A. current situation, problems and countermeasures about waste management and recycling

-B. responsibilities of the various sectors concerning waste management

-C. relations with other environmental problems and the issue of global environment

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look for and study the related information on a library and the internet about the matter interested in through lectures.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 40%, reports : 40%, in class contribution: 20%

SEE300HA

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育とESD(持続可能な開発のための教育)について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が必要なのか、自分自身の考えを深めていきましょう。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。

また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。授業では対話型および参加型の手法を用いる。毎回のテーマに即した資料を読み自主学習を行う。リアクションペーパーや提出された課題に対しては、代表的なものをいくつか授業内で取り上げコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育の導入	環境教育の歴史や重要な点を概説する。
第3回	環境教育の歴史（1）	90年代までの環境教育の歴史について概説する。映像教材を通じて環境教育について理解を深める。
第4回	環境教育の歴史（2）	2000年代の環境教育・ESDについて解説する。映像教材を通じて理解を深める。
第5回	持続可能な開発とは何か	持続可能な開発とは何か、SDGsとESDについて理解する。
第6回	中間まとめ	環境教育ネイティブをキーワードに環境教育の歴史と自分史を重ねて考えや理解を深める
第7回	環境教育の教材（1）	環境教育教材を体験してみる（フィールドビンゴと身近な自然）
第8回	環境教育の実践（1）	環境教育の実践事例を学ぶ（自然学校・森のようちえん）
第9回	環境教育の教材（2）	環境教育教材を体験してみる（公害教育）
第10回	環境教育の実践	地域での環境問題に取り組む実践事例を取り上げます

- 第11回 環境教育の課題（1） 環境教育の課題の検討を通じて、理解を深めます。
テーマ：気候変動
キーワード：批判的思考
- 第12回 環境教育の課題（2） 環境教育の課題の検討を通じて、理解を深めます。
テーマ：プラスチック問題
キーワード：システムの・構造的思考
- 第13回 環境教育の課題（3） 環境教育の課題である社会が変わり、環境問題が解決することに教育がどうかかわるのか考える
ソーシャルアクション
- 第14回 まとめ 授業の内容や学びを振り返り、まとめにかえます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協
『知る・わかる・伝える SDGs I』、阿部治・野田恵編著、学文社
『知る・わかる・伝える SDGs II』阿部治、二ノ宮りみさち編著、学文社

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 35点
最終レポート 35点
授業・グループワークへの参加、コメントペーパーなど平常点 30%
詳細はガイダンスおよび授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からの変更点⇒対面形式の授業では、参加型・グループワークの機会を増やす予定です。課題を複数回のレポートとしました。

【学生が準備すべき機器他】

初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。
資料は、hoppi 経由で配布します。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the Environmental Education, and Education for Sustainable Development(ESD). you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to explain the role and examples of Environmental Education and ESD.

【Learning activities outside of classroom Before/after】 each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Policies】 Final grade will be calculated according to the following Mid-term report (35%), term-end report (35%), and in-class contribution(30%).

CAR200HA

キャリア入門

長峰 登記夫

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開：グローバル：成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Almost all the students will start working after graduation. The students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

【到達目標】

This subject aims to give students an opportunity to study in English what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, students will become able to consider about their own careers and understand issues regarding career making so that they can better make their own careers in the future.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

The lecture will be given in English. However, if the number of students is not big, discussion will be an essential part of the class. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, prepare to ask questions and answer the questions asked by the lecturer. Also, students will be required to make a presentation in class. The lecture will deal with issues mainly in Japan and partly in English speaking countries focusing on career making in the global stage. The details will be announced through the HOPPI.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to career studies	What career studies are will be discussed.
week 2	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
week 3	English words and expressions for career studies	Before the start of career studies, students will check English words and expressions needed for career studies. This will be continued for 10 to 15 minutes in the subsequent three sessions.
week 4	Japanese employment practices (1)	The basic features of Japanese employment practices will be discussed. This will be particularly important for students who, after graduation, will try to find a job in Japan or at a Japanese company overseas.
week 5	Japanese employment practices (2)	The lecture will give an overview of how Japanese students find a job.

week 6	International students at Hosei	Students will look at international students studying at Hosei and Hosei students studying overseas and think why they are studying overseas.
week 7	How to make a job career (1)	Students will learn how people make a job career in Japan and briefly in the overseas students' home countries.
week 8	How to make a job career (2)	Students will have an overview of how people make a job career in the global stage.
week 9	Career changes	Students will think about career changes they may face and experience in life.
week 10	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn why it is so.
week 11	What will be my career? (1)	Presentation by students about their own career in the future.
week 12	What will be my career? (2)	Continued from the previous week.
week 13	Employment situation in the global business area in Japan	The employment situation in the global business area will be discussed. Or if available, a guest speaker may be invited and talk his/her job experience.
week 14	Final examination or essay and comments	A final essay type of examination or essay and comments on it. It depends on the number of students whether they will have an exam or essay.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are supposed to read provided materials carefully in advance, make clear what they cannot understand, should be ready to ask questions, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk. They are also supposed to review what they learned in each session. The expected time to spend on reading before and after each lecture is two hours.

【テキスト（教科書）】

This subject does not use a particular textbook. Reading materials are provided from time to time prior to the lectures.

【参考書】

References will be presented at the beginning of the class.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will be made by short exams (20%), a final exam or an essay (70%) and attendance and participation in class discussion (10%). Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final session or students instead may be required to submit an essay of around 3,000 words. It will be decided in the class in consideration of some factors such as the number of students.

【学生の意見等からの気づき】

The lecturer, if conditions allow, will try to invite one or two guest speakers because students are interested in listening to talk by people who have various job experiences including work experiences overseas or experiences of working using English in Japan.

【学生が準備すべき機器他】

Nothing.

【その他の重要事項】

Japanese students have been learning English for many years at school. The lecture will be given in English and it will give students a challenging opportunity to learn job careers in English, not to learn the English language itself.

Those who intend to take this subject must attend the first class and follow the instructions from the lecturer. Students also must bring their results of English language proficiency tests such as TOEFL, TOEIC, Eigo-kentei Shiken or other similar tests.

If the number of students who intend to take this subject is more than 15 at the first class, priority will be given to the students of the Faculty of Sustainability Studies and some sort of selection will be made for students from the other Faculties and courses.

【Outline (in English)】

Almost all the students will start working after graduation. For that, the students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

【Outline and objective】

Almost all the students will start working after graduation. The students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

【Goal】

This subject aims to give students an opportunity to study in English what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, students will become able to consider about their own careers and understand issues regarding career making so that they can better make their own careers in the future.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are supposed to read provided materials carefully in advance, make clear what they cannot understand, should be ready to ask questions, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk. They are also supposed to review what they learned in each session. The expected time to spend on reading before and after each lecture is two hours.

【Grading criteria】

Assessment will be made by short exams (20%), a final exam or an essay (70%) and attendance and participation in class discussion (10%). Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final session or students instead may be required to submit an essay of around 3,000 words. It will be decided in the class in consideration of some factors such as the number of students.

ASS300HA

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】【グ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・実態・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解を試みる。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、メガ FTA の締結等による貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は学修する。

【到達目標】

学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面形式による講義を実施する。不定期にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ：農業問題と農業政策	経済発展が先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。
第2回	国際農産物貿易交渉の展開過程	1980年代の GATT ウルグアイ・ラウンドから近年の FTA に至る過程を、世界経済の構造転換に注目しながら解説する。
第3回	TPP・日米貿易協定と日本農業	日本も参加した TPP 及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。
第4回	アメリカ農業の歴史と現状	日本にとって政治的・経済的につながりが強いアメリカの農業について、歴史と現状を多面的に概説する。
第5回	アメリカ及びカリフォルニアの稲作	日本の稲作にとって潜在的な競争相手であるカリフォルニア州の稲作の実態と課題について、水問題への対応に注意を払いながら検討する。
第6回	国際農産物市場の現局面と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易の状況を開設するとともに、食料自給率と食料自給力に示される食料安全保障のあり方について考察する。

第7回	日本経済の構造転換と食料消費	日本経済の構造転換、及び家族関係の変化の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第8回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに登場してきた集落営農組織、農外企業の企業参入等の農業の担い手について、地域的多様性や農地政策改革に注目して検討する。
第9回	農業労働力の脆弱化と確保の課題	農業労働力が昭和一桁世代や団塊世代の高齢化・引退によって枯渇していること、新規就農者や外国人労働者等によって確保が試みられていることを説明する。
第10回	農業の多面的機能と生態系サービス	農業が発揮する経済的機能以外の様々な機能やサービスを、環境経済学の理論的フレームワークや実例を用いて解説する。
第11回	条件不利地域農業と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯する日本の農山村再生のために求められる政策について、近年の田園回帰の動向に注意を払いながら検討する。
第12回	食品安全問題の理論と政策	消費者の食への安心・安全意識への高まりと対応する政策の枠組みを、流行している家畜疾病や、生協産直の動向にも注意を払いながら解説する。
第13回	災害と農業	東日本大震災、気候変動や新型コロナウイルス感染症等の災害が頻発する中で、農業がどの様な影響を受け、またそれらを防ぐためにどの様な貢献ができるか考察する。
第14回	エビローグ：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。学生は、授業の前に学習支援システムにアップされる講義資料を予め読んでおく、また授業後に見返しておく。また、授業中に紹介される参考書を読むことも推奨される。興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことも望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を事前に学習支援システムにアップするので、各自プリントアウト等をして授業に臨むこと。授業内では配布しない。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012年（本体2,600円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年（4,200円＋税）。
- ③山崎亮一『農業経済学講義』、日本経済評論社、2016年（本体2,800円＋税）。
- ④農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを適宜導入する等、学生との双方向の授業を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料を授業の前に学習支援システムにアップするので、定期的にチェックをすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class aims that students become to understand the agriculture and agricultural policy of contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison. Students can finally understand significances agriculture have as an industry under the stage of developed country and the progress of trade liberalization caused by mega FTAs.

[Learning objectives]

Students will be expected to 1) have basic knowledge of agricultural economics and politics, 2) have thoughts about issues and future directions of Japan's agriculture, and 3) be able to express them logically.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to study for two hours outside of classroom through reading class materials uploaded on the Hoppii.

[Grading criteria/policy]

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史という縦軸、地域という横軸にもとづいて、地域の「食べものがたり」を知り、考える。「食」と「農」の関係を考える視座を共有し、持続可能な「環境」やこれからの社会について議論する。

【到達目標】

受講生は「食」と「農」をつなげて「環境」や「地域」の魅力を理解し、説明し、発想・構想・実践できる知識と能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	食と農の「今」に関わるトピックを紹介する。
第2回	地域の「食べものがたり」	知っている、経験したことがある地域の「食べものがたり」について話し合う。
第3回	「食べものがたり」の風土学	歴史・自然・技術を複合的に理解し、地域の産業を論じる視座を紹介する。
第4回	三澤勝衛の「風土産業論」	風土産業論を提唱した地理学者の視点と今日的意義について論じる。
第5回	事例研究1	ぶどうとワインの Local Food Story を紹介する。
第6回	事例研究1	勝沼の歴史・自然・技術を読み解く。
第7回	事例研究1	Local Food Story 実践プランを作成する。
第8回	地域固有性への評価と地理的表示保護制度	地理的表示保護制度（GI）について学ぶ
第9回	地域固有性が食と農の魅力を引き出す	食文化創造都市について学ぶ。
第10回	事例研究2	長野県の Local Food Story を紹介する。
第11回	事例研究2	「味」は文化財になり得るか？ という問いについて考える。
第12回	事例研究2	食と農とコミュニティについて考える。
第13回	旅と物語	Local Food Story の旅プランを作成する。
第14回	まとめ	食と農と環境をつなぐ物語を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

「食」や「農」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

・湯澤規子『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
その他、随時紹介します。
・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
・金田章裕『和食の地理学—あの美味を生むのはどんな土地なのか』平凡社新書、2020年
・池上俊一『パスタでたどるイタリア史』岩波ジュニア新書、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、中間レポート 30%、期末レポート 30%によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

食と農に関する身近な話題を入口にして、農村社会を考えるいくつかの基本的な理論を紹介します。やや難しい理論も分かりやすく伝えるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

In this lecture, students will learn and think about the "food story" of the region based on the vertical axis of "history" and the horizontal axis of "region". We will share the perspective of thinking about the relationship between "food" and "agriculture" and discuss sustainable "environment" and future society.

◆ Learning Objectives

Students will acquire the knowledge and ability to understand, explain, conceive, conceptualize, and practice the appeal of "environment" and "region" by connecting "food" and "agriculture".

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Be interested in newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to "food" and "agriculture", and if possible, actually visit, eat, and experience them through the five senses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the following criteria: normal score: 40%, mid-term report: 30%, final report: 30%.

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【サ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義で受講生は「食」と「農」からみた社会と経済の歴史を検討し、現代社会と未来を考える視座を得ることを目的とします。

【到達目標】

受講生はフィールドワークにもとづいた地域経済学の研究を中軸に据え、地理学、歴史学、人類学、社会学、民俗学などの知見と成果を加えた、多面的かつ複眼的な視点から、食と農の問題を考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な限り、対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー1番身近なSDGs	地球と人類の課題として「幸せ」と「豊かさ」を実現する社会について考える。
第2回	食と農の現代的課題—アフリカとインドと日本の現場から	身近な現代的課題から食と農とSDGsについて考えるきっかけを得る。
第3回	環境を考える「環」の視点—私たちは何者なのか	食べるという行為をみつめると、どのような社会の様相が見えてくるのかを考える。
第4回	近世日本の食と農と環境—下肥の世界	近世日本の人びと、食と農と環境の関係について考える。
第5回	近代日本における循環構造の再編—都市化と疫病と衛生観	都市化と疫病と衛生観について考える。
第6回	戦後日本の環境行政—清掃事業をめぐって	戦後日本の食と農と環境の関係を清掃事業から考える。
第7回	講義前半についてのオープンダイアログ	簡単なワークショップを実施する予定。
第8回	現代日本の食と農と環境—「環」の世界は今	現代日本の現状を再考する。
第9回	食べものはどこから来たのか—「種子」から考える	現代の食と農について考える。
第10回	食べものとは何か（1）—胃袋と社会	地域社会事業と食と農の関係について考える。
第11回	食べものとは何か（2）—土と農業	山形県山形市の米農家の戦後史を事例に、戦後農政と農村について考える。
第12回	食べものはどこへ行くのか（1）—食の再考	食べもの、食べること関わる現代社会の状況を把握する。
第13回	食べものはどこへ行くのか（2）—食の可能性	食と農と環境の今後の展望を考える。

第14回 私たちはどこへ行くの 講義内容を総括し、今後の課題を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義内容に関連する新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち考察を深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
 ・湯澤規子『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
 その他、随時紹介します。
 ・湯澤規子『ウンコはどこから来てどこへ行くのか—人糞地理学とはじめ』ちくま新書、2020年
 ・佐藤大介『13億人のトイレ—下から見た経済大国インド』角川新書、2020年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（50%）、期末レポート（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な史料を用いた講義が好評でしたので、引き続き活用したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オンデマンド配信で実施する予定ですが、第7回（11月11日）はリアルタイムオンラインで対話の時間を設けます。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

In this lecture, students will examine the history of society and economy from the perspective of "food" and "agriculture," with the aim of gaining a perspective on contemporary society and its future.

◆ Learning Objectives

Students are expected to think about food and agriculture issues from a multifaceted and multifaceted perspective, based on fieldwork-based research in regional economics, as well as knowledge and results from geography, history, anthropology, sociology, and ethnography.

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Please pay attention to newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to the lecture content and deepen your consideration. The standard preparation and review time for this class is 30 minutes each.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on reaction papers (50%) and final report (50%).

HSS211LB

スポーツビジネス論 I

岩村 聡

配当年次/単位：3～4年 / 2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

主催：SSI

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代からスポーツビジネスは急速に発展した。今日のスポーツビジネスを動向を探るためにはスポーツマーケティングを理解しなければならない。本授業ではマーケティングの基礎理論をふまえ、スポーツマーケティング独自の理論と合わせ発展してきたスポーツビジネスにおいてその基礎理論等を理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義は、(1) マーケティングとスポーツマーケティングの関係、(2) 消費者行動論からみたスポーツ消費の特性、などを理解し、は、マーケティングの基礎的な理論をベースに、スポーツビジネス戦略を理解することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。授業内の小テストは学習支援システムを用いて行います。課題などへのフィードバックは適時授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツビジネスの使命	スポーツビジネスの使命とは
第2回	スポーツの価値	なぜスポーツが注目されるか
第3回	スポーツマーケティングの特性	スポーツマーケティングの誕生、スポーツマーケティングの定義、等
第4回	スポーツ市場の理解	スポーツ産業の特性、スポーツ市場の構造と規模
第5回	マーケティングの基礎	スポーツマーケティングにおけるプロダクト論
第6回	スポーツビジネスにおける価格政策論	価格形成のメカニズム、値頃感と消費者心理
第7回	スポーツビジネスにおけるプロモーション論	コミュニケーションの原理、スポーツ組織のプロモーションミックス
第8回	スポーツ消費者の理解	スポーツ消費者の特性、スポーツ消費者の意思決定過程
第9回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの分類、スポーツ参加における心理的要因
第10回	観戦型スポーツの消費者	観戦型スポーツの分類、心理的連続モデル、スポーツ観戦動機、等
第11回	スポーツマーケティングにおけるSTP	セグメンテーションの基礎、標的市場の設定と評価
第12回	スポーツマーケティングとマーケットリサーチ	マーケットリサーチの手順、調査の実施・分析・報告
第13回	スポーツ・スポンサーシップ	マーケティングの問題意識とスポーツの接点

第14回 スポーツ・ブランドのマーケティング ブランドとブランディング、スリート・ブランディング、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中はスポーツビジネスに関するニュースなどを読んだりし積極的に情報収集すること

【テキスト（教科書）】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 — スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 — スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年と同様に静粛な授業環境を保つよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this course is to understand the basic theories of the sports business, which has developed in conjunction with the unique theories of sports marketing, based on the basic theories of marketing.

Learning Objectives

This course aims to understand (1) the relationship between marketing and sports marketing, (2) the characteristics of sports consumption from the perspective of consumer behavior theory, and (3) sports business strategies based on basic marketing theories.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. During the course period, students are expected to actively gather information by reading news and other media related to the sports business.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper 30%, quiz 30%, end-of-term assignment 40%

HSS212LB

スポーツビジネス論Ⅱ

岩村 聡

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

主催：SSI

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。

授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。

受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論Ⅰ」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】

スポーツビジネスの諸問題について理解を深めること
スポーツビジネスの諸問題について解決策を提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークを中心に進めます。グループワークではそれぞれの役割がありますので、必ず毎回出席をしてください。課題などへのフィードバックは適時授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方などの説明
第2回	スポーツマーケティングの使命	この授業における理論等を確認する
第3回	グループワークⅠ①	課題Ⅰの説明、グループ分け、情報収集
第4回	グループワークⅠ②	情報収集、ディスカッション
第5回	グループワークⅠ③	ディスカッション、発表準備
第6回	プレゼンテーションⅠ	グループごとに発表をおこなう
第7回	グループワークⅡ①	課題の説明Ⅱ、グループ分け、情報収集
第8回	グループワークⅡ②	情報収集、ディスカッション
第9回	グループワークⅡ③	ディスカッション、発表準備
第10回	プレゼンテーションⅡ	グループごとに発表をおこなう
第11回	グループワークⅢ①	課題の説明Ⅲ、グループ分け、情報検索
第12回	グループワークⅢ②	情報収集、ディスカッション
第13回	グループワークⅢ③	ディスカッション、発表準備
第14回	プレゼンテーションⅢ	グループごとに発表をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間以外にもグループメンバーで集まって、情報収集、ディスカッション、発表準備を進めてもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布します。

【参考書】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」ミネルヴァ書房
仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院

広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義 — スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 20%、グループワークの参加状況 20%、プレゼンテーション 40%、学期末の課題 20%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評でした。今年度も活発な活動ができるよう努めます。

【その他の重要事項】

本講義はグループワークを行うため、スポーツビジネス論Ⅰを受講していない場合は、知識を補うための補講をする場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline

Discover the challenges posed by contemporary sports conditions and learn how sports business knowledge can be utilized to solve them.

Teams will be formed to make presentations (all students must participate in one of the teams), and each team will compete for proposals.

Students who have taken "Sports Business Theory I" in the spring semester are encouraged (but not required) to take this course.

Learning Objectives

To deepen understanding of various issues in the sports business

To be able to propose solutions to various problems in the sports business

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to class time, group members will be asked to meet together to gather information, discuss, and prepare presentations.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper 20%, group work participation 20%, presentation 40%, end-of-term assignment 20%.

SOC300HA

アーティストと社会貢献

庄野 真代

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コース共通

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境、人権、医療、福祉、災害など多様な公共的課題に関するアーティストの社会貢献活動は世界的にみても20世紀半ばから歴史的蓄積があるが、そこから生きた学問を紡ぎだす作業は未開拓である。そこで、この授業では、私自身の「音楽を通じた社会貢献・支援活動」を積んだ経験とともに、社会貢献活動を推進しているアーティストが共生社会の実現にどう関わっているのかを考えながら、参加者自身の社会性を問い直す機会とする。さらに、アーティストと大学の協働による新たな社会貢献論を構想する。

【到達目標】

- ・アーティストの社会貢献活動の歴史、現状と課題について理解する。
- ・アーティストが社会貢献活動を通じて訴えたい現代社会の諸問題を考察する。
- ・アーティストの社会貢献活動を通して、自らの社会参加について思考力を高める。
- ・社会貢献活動の実践的な企画力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず「アーティスト」「社会貢献」という言葉の定義について理解を深め、アーティストが国際社会や日本で活動を展開してきた歴史的な経緯を確認する。さらに、現代社会におけるアーティストの多様な社会貢献活動から、それらが社会や一般市民の考えにどのような影響をおよぼしていく可能性があるのかを探る。授業形式は、毎回のテーマに添った内容を解説しながら関連した音楽や映像を紹介する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介と講義ガイダンス
第2回	アーティストとは？ 社会貢献とは？	芸術は人が豊かな精神生活を営む上で不可欠なもの。その担い手であるアーティストの定義や社会貢献の意味への理解を深める。
第3回	プロテストソングの誕生～アーティストと現代史（1）	1960年代にアメリカのフォーク歌手らが政治的抗議の歌を歌い、ジョンレノンらによって他ジャンルに広がり、音楽が社会活動となった経緯を知る。ビート・シーガーなど。
第4回	代表的アーティストの社会貢献と自己変容～アーティストと現代史（2）	イギリスとアイルランドのロック／ポップス界のスター達で結成された「ライブ・エイド」（1984年）を契機に「USAフォー・アフリカ」「LIVE 8」などが作られ、多くのアーティストが慈善活動家として動き出した時代を考察する。ポップ・ゲルドフ、ボノなど。

第5回	社会貢献活動の軌跡～アーティストと現代史（3）	平和・環境・子ども・HIV/AIDS、貧困、災害支援、地域など、諸問題に取りくむアーティストの活動を知る。マイケルジャクソンなど。
第6回	国際社会とアーティスト～親善大使としての役割	国や文化の違いを超えて交流できるアートの有用性を考察するとともに、国内外の親善大使として活動するアーティストがどのような働きをしているのかを探ってみる。アンジェリーナ・ジョリーなど。
第7回	東日本大震災とアーティストの社会貢献活動	震災後、アーティストたちが被災地支援のために手がけたことを検証するとともに、各地における反応や成果、その継続性について考察する。レディガガなど。
第8回	アートと市民社会組織	アート（文化・芸術）の促進活動そのものが社会貢献活動になっているNPO/NGO、市民団体について考察する。
第9回	企業とアーティストの協働	企業や団体が行う社会貢献活動において、アーティストが関わる（チャリティイベントなど）ケースの企画意図や効果について考える。
第10回	コミュニティ形成とアーティストの役割	アートのある場所には人が集まり一時的なコミュニティができる。そこでのアーティストの果たす役割について考察する。
第11回	社会貢献活動の企画ワークショップ	社会貢献イベントなどを自分で企画してみる。
第12回	アーティスト参加型プロジェクトのケース	「ピンクリボン」「ほっとけない世界のまがしきキャンペーン」「なんとかしなきゃ！プロジェクト55億人」など、啓蒙プロジェクトに参加してきたアーティストの活動を知る。
第13回	クラウドファンディングなどによる支援活動例	アーティストが社会貢献するための資金集めについて最近の動向を考察し、誰もが社会参加につながる方法を知る。
第14回	新たな知の創造と社会貢献活動の展望 授業内試験の実施	授業内容に基づきながら、新たな社会貢献論を構想し、さらに、社会の触媒としてのアートから生まれた提言が、今後どのように市民社会で発展していくのかを探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の講義にて全講義に関するリサーチレポートをアップロードしますので、翌週、それを書いて提出してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回の教材は、学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

その都度、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①リサーチレポート 30%、②課題レポート 40%、③授業内試験 30% による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

現在活動中のアーティストの動画などの紹介が好評だったため、今期も新しい情報を提供しながら講義を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・履修希望者は、初日に配布したリサーチレポートを翌週必ず提出していただきます。

リサーチレポートの提出がない場合は履修できません。

・動画の紹介もあるので、時間の余裕を十分持って受講してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This is a course to learn social contribution by artists through music and other performances. Students will learn the footprints of artists, who have developed social contribution and support activities through music while analyzing their messages and will explore ways to engage with their own society.

(Learning Objectives)

- ・ Understand the history, current situation and issues of artists' social contribution activities.
- ・ Consider the problems of modern society that artists want to appeal through social contribution activities.
- ・ Improve thinking ability about one's own social participation through social contribution activities of artists.
- ・ Acquire practical planning ability for social contribution activities.

(Learning activities outside of classroom)

You will upload a research report on all lectures in the first lecture, so please write and submit it the next week.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Comprehensive evaluation based on (1) research report 30%, (2) assignment report 40%, and (3) in-class examination 30%

PHL200HA

現代思想と人間 I

増田 一夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパは人間中心主義の視点に立ち、人間と自然を二元論的に区別してきた。ゆえに自然を破壊する文明を生み出した」という言説が存在します。では、ヨーロッパにおいてエコロジーが最もさかんに語られ、環境保護運動が展開されているのはなぜか？ そこにパラドクスがあるのではないか？

授業では、まず自然と環境をめぐる現在の危機的状況を確認します。次いで、広い意味での思想（歴史学、宗教学、哲学など）の分析に入ります。

それによって、以下の問いに対する一定の答えを得ることを目的とします。

1) 20世紀後半以降のヨーロッパ思想が、どのように人間、自然、環境を捉えてきたか？

2) ヨーロッパ思想自身が自然の破壊や環境危機の原因をどのように考えてきたか？

より具体的な内容は以下の「授業計画」に記すとおりですが、参加者の関心や知識によっては、シラバスから逸れる話題を選ぶ場合もあることを断っておきます。

【到達目標】

日本社会において、自然や環境に対する関心はあまり強くありません。また、自然や環境の問題を直視することは生活様式の変更という大きな努力を引き受けることにもなるので、積極的に学び、行動しようとする人びともあまり多くないようです。

他方で、SDGsに象徴されるように、社会や企業も自己変革の努力をしなければならないと考えるようになってきました。

ヨーロッパは、どのように「自然」と「環境」を考えてきたのかを理解すること、またみなさんが「自然」と「環境」を自分の問題として具体的に考え、具体的な行動へと結びつける手助けをすること、それがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業はオンライン（zoomを用いた双方向ライブ方式）で実施します。

・基本的に講義形式でおこないます。ただし、

1) 一部参考書の短い部分を配布することがあります。それを参加者が読み、あるていど理解したことを前提に授業を進めます。

2) 授業の理解度の確認するために、リアクションペーパーを提出していただきます。

3) 2)と同じ目的で、授業中に不定期のミニテストをすることがあります。

4) 記録に残るチャットなどによる発言を奨励します。

・特に2)については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	今日の「自然」1	「人新世」という問題提起
第3回	今日の「自然」2	「大いなる加速」の時代

第4回	ディープ・ヒストリー「人間」の捉え直しと農業革命 1	
第5回	ディープ・ヒストリー「人間」の捉え直し、進歩と依存 2	
第6回	思想の作用1	キリスト教と人間中心主義
第7回	思想の作用2	キリスト教による「脱魔術化」と科学革命
第8回	産業革命1	ヨーロッパのグローバル化と自然の搾取
第9回	産業革命2	自然の外部化と物質代謝
第10回	加速の時代1	核エネルギーと地球脱出の夢
第11回	加速の時代2	地球の限界（アース・オーバーシュート）
第12回	人間像の見直し1	さらなる加速とトランスヒューマニズム
第13回	人間像の見直し2	脱人間中心主義としてのポストヒューマニズム
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
特に、参考書等から抜いて配布する文書を読むことは必要です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ・ ミシェル・ボー（Beaud, Michel）『資本主義の世界史 1500 - 2010 増補新版』、藤原書店、2015。
- ・ クリストフ・ボヌイユ、ジャン＝パティスト・フレソズ（Bonneuil, Christophe, Fressoz Jean-Baptiste）『人新世とは何か——〈地球と人類の時代〉の思想史』青土社、2018
- ・ デイベシユ、チャクラバルティ（Chakrabarty, Dipesh）他、『現代思想』2021年10月号、「特集＝進化論の現在——ポスト・ヒューマン時代の人類と地球の未来」、青土社、2021。
- ・ ユヴァル・ノア・ハラリ（Harari, Yuval Noah）『サビエンス全史 上下』河出書房新社、2016。
- ・ ジェームズ・C・スコット（Scott, James C）『反穀物の人類史——国家誕生のディープヒストリー』みすず書房、2019。
- ・ リン・T・ホワイト（White, Lynn T.）『機械と神：生態学的危機の歴史的根源』、みすず書房、1972。

【成績評価の方法と基準】

成績は、以下の要素で総合的に評価します。

- ・ 平常点：授業への参加度、ミニテスト、リアクションペーパー（60%）
- ・ 期末試験（40%）

ただし、期末試験は対面方式でおこなう予定。それが不可能な場合は、学期中に何回かのテストをおこない、期末試験に代えることがあります。その場合は、学期の前半にお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（ZOOMを使用した双方向ライブ方式）なので、動画や提示資料がしっかり見えるパソコン、タブレット等を準備してください。

アンケート、テストなども Google forms などを用いておこなうので、入力しやすい機器を推奨します。

【Outline (in English)】

Course Outline - "Europe has taken an anthropocentric perspective and made a dualistic distinction between humans and nature. This has given rise to a civilization that has caused the environmental crisis we are experiencing today." This discourse is widely known. Why is it, then, that ecology is most seriously discussed in Europe and that environmental protection movements are developing? Isn't there a paradox in this?

In this class, we will first review the current crisis situation regarding nature and the environment. Next, we will begin to analyze ideas in a broad sense (history, religious studies, philosophy, etc.).

By doing so, we aim to obtain certain answers to the following questions.

(1) How has European thought since the latter half of the 20th century viewed human beings, nature, and environment?

(2) How has European thought itself been responsible for the destruction of nature and the environmental crisis?

More specific details are given in the "Class Plan" below, but it should be noted that depending on the interests and knowledge of the participants, we may choose topics that deviate from the syllabus.

Learning Objectives - The goal of this class is to help students hone their skills in talking about these issues and finding solutions through specific readings and discussions of European philosophy on "nature" and "environment".

Learning Activities outside of Classroom - Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. It will be essential to read the texts distributed during class.

Grading Criteria Policy - Grades will be evaluated comprehensively based on the following factors.

Ordinary points: class participation, mini-tests, reaction papers (60%)

Final exam (40%)

The final exam will be given in person. If not possible, several tests may be given during the semester instead of the final exam. The modality of the test(s) will be announced during the first half of the semester.

PHL300HA

現代思想と人間Ⅱ

増田 一夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【文】

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ哲学のテキストを具体的に考察することによって、「人新世」と呼ばれる今日の状況をより適切に捉えようとする授業です。まず、「人新世」を提唱し大きな反響を得たチャクラバルティの議論を概観し、その問題意識を共有することから始めます。なぜ人間の活動は地質に痕跡を残すまでの規模をもつにいたったのか？ その旺盛な活動が人間自身に跳ね返り、危機をもたらす状況をどのように解決すればよいのか？

多くの思想家、哲学者が、「人間は自然を超越していると信じていた」という信憑に危機の原因を見いだしています。人間と自然の分離、そして人間を特権な存在と見なすことがしばしば諸悪の根源と見なされています。また、人間中心主義を脱し、ポストヒューマンの視点に立つことを提唱する論者もいます。

授業では、自然、環境、人間をめぐって重要な考察をおこなった著者たちを取り上げ、考察します。その作業を通じて、「いま」において自分がどこに定位しているのかを知る一助とします。

より具体的な内容は以下の「授業計画」に記すとおりですが、参加者の関心や知識によっては、シラバスから逸れる話題を選ぶ場合もあることを断っておきます。

【到達目標】

今日、自然や環境に対する関心は徐々に高まってきています。また、SDGsに象徴されるように、社会や企業も自己変革の努力をしなければならぬと考えるようになってきました。

関心の高まりがどのような議論からもたらされたのか？ また問題の解決がどのような方向に求められているのか？

「自然」と「環境」をめぐるヨーロッパ哲学を具体的に読み、考察することを通じて、それらの問題を語るスキルを磨き、みずから解決法を見いだす一助とするのが、この授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業はオンライン（zoomを用いた双方向ライブ方式）で実施します。

・基本的に講義形式でおこないます。ただし、

- 1) 一部参考書の短い抜粋を配布します。それを参加者が読んでいくことを前提に授業を進めます。
- 2) 授業の理解度の確認するために、リアクションペーパーを提出していただきます。
- 3) 2)と同じ目的で、授業中に不定期のミニテストをすることがあります。
- 4) 記録に残るチャットなどによる発言を奨励します。

・特に2)については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	「人新世」という問題	デイベシユ・チャクラバルティを考える
第3回	キリスト教と環境危機	リン・ホワイトとその後の論争
第4回	18世紀再訪1	経済学の誕生

第5回	18世紀再訪2	化石資本主義の誕生
第6回	19世紀再訪	進歩への信仰
第7回	物質代謝とエコロジー	カール・マルクス再訪
第8回	核エネルギーと地球外の支点	ハンナ・アーレントとギュンター・アンダース
第9回	危機の意識化	「成長の限界」を考える
第10回	人類史再考	ディープ・ヒストリーへの注目
第11回	「資本新世」という時代	「自然」を外外部化する資本主義
第12回	「人新世」を生きる1	技術革新という処方箋
第13回	「人新世」を生きる2	ポストヒューマンズは可能か
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

特に、参考書等から抜粋して配布する文書を読むことは必要です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ・クリストフ・ボスイユ、ジャン＝パティスト・フレソズ (Bonnieul, Christophe; Fressoz, Jean-Baptiste) 『人新世とは何か——〈地球と人類の時代〉の思想史』 青土社、2018。
- ・フィリップ・デスコラ (Descola, Philippe) 『交錯する世界 自然と文化の脱構築』 京都大学学術出版会、2018
- ・ジェイソン・W・ムーア (Moore, Jason W.) 『生命の網のなかの資本主義』 東洋経済新報社、2021。
- ・ハルトムート・ローザ (Rosa, Hartmut) 『加速する社会（近代における時間構造の変容）』 福村出版、2022。
- ・斎藤幸平、『人新世の「資本論」』、集英社、2020。

【成績評価の方法と基準】

成績は、以下の要素で総合的に評価します。

- ・平常点：授業への参加度、ミニテスト、リアクションペーパー（60%）
- ・期末試験（40%）

ただし、期末試験は対面方式でおこなう予定。それが不可能な場合は、学期中に何回かのテストをおこない、期末試験に代えることがあります。その場合は、学期の前半にお伝えします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

オンライン（ZOOMを使用した双方向ライブ方式）なので、動画や提示資料がしっかり見えるパソコン、タブレット等を準備してください。

アンケート、テストなども Google forms などを用いておこなうので、入力しやすい機器を推奨します。

【Outline (in English)】

– This class aims to provide a more adequate understanding of today's situation called the "Anthropocene" by specifically examining the texts of European philosophy.

We will begin by reviewing the arguments of Chakrabarty, whose "Anthropocene" proposal received a great deal of publicity, and sharing his awareness of the problem. Why did human activity reach such a scale that it left traces in the geology? How can we resolve the situation where such vigorous activity brings about a crisis that bounces back on us? Many thinkers and philosophers have found the cause of the crisis in the fact that we have come to believe that we transcend nature. The anthropocentrism that has permeated all of our thinking could be the root of all evil. Therefore, some argue that we should move away from anthropocentrism and take a posthuman perspective.

We will take up authors who have made important observations about nature, the environment, and human beings, and examine their thoughts. Through this process, we will try to understand where we stand today.

It should be noted however that depending on the interests and knowledge of the participants, we may sometimes choose topics that deviate from the syllabus.

– The goal of this class is to help students hone their skills in talking about these issues and finding solutions through specific readings and discussions of European philosophy on "nature" and "environment."

– Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. It will be essential to read the texts distributed during class.

– Grades will be evaluated comprehensively based on the following factors.

Ordinary points: class participation, mini-tests, reaction papers (60%)

Final exam (40%)

The final exam will be given in person. If not possible, several tests may be given during the semester instead of the final exam. The modality of the test(s) will be announced during the first half of the semester.

CAR300HA

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第3回 ～第12回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第13回	キャリアチャレンジ・事後研修（1）	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第14回	キャリアチャレンジ・事後研修（2）	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80％）・レポート（20％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017年度から「選択必修科目」（6単位）の対象科目になります。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

This is an internship program for the designated organization/institution. Students will be able to understand mission and activities of the organization/institution and to obtain necessary knowledge and experiences for the future career planning.

◆ Learning Objectives

The goal is for students to experience short-term employment at companies, government organizations, NPOs, etc. while they are still in school to raise their awareness of career development and contribute to their career choices after graduation.

◆ Learning activities outside of classroom

It is recommended that students collect information (reference literature and materials) in advance to enhance the effectiveness of the practical training with the guidance of the instructor in charge, including the industry and business characteristics of the training site. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Normal score (80%), Report (20%)

CAR300HA

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

【到達目標】

学生は、在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第3回～第12回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第13回	キャリアチャレンジ・事後研修（1）	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第14回	キャリアチャレンジ・事後研修（2）	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80％）・レポート（20％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017年度から「選択必修科目」（6単位）の対象科目になります。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Through internships at organizations with which the Faculty of Human Environment has concluded agreements, students gain an understanding of the activities and background of the organization, as well as knowledge and experience that will contribute to their career development.

◆ Learning Objectives

The goal is to provide students with short-term work experience at companies, government organizations, NPOs, etc. while they are still in school in order to raise their awareness of career development and contribute to their career choices after graduation.

◆ Learning activities outside of classroom

Students are encouraged to gather information (references and materials) in advance to enhance the effectiveness of the practical training. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Usual performance score(80%), Report (20%)

OTR200HA

地域経済論Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：人間環境学部生：コアとなるコース【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では空間軸とともに時間軸を加えて、地域の経済を立体的に把握し、考える事を目的とします。地域の経済を考える具体的な事例は、①近代編（明治～戦前）、②現代篇（戦後～現在）に分けて紹介する。

【到達目標】

学生は、長期的な視野から、国土開発の歴史を概観し、「地域」や「地方」という概念がいかに登場し、その意味がどのように変遷しながら現在に至るのかを考えます。特に戦後の全国総合開発計画の歴史、高度経済成長期における地域構造の大転換、明治・昭和・平成の合併などが地域に与えた影響をふまえて、今、なぜ地域の経済を論じる必要があるのかを議論してみたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域や地方の構造や論理に関する歴史について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー キミとボクとセカイと チイキ	新しい「地域主義」の時代について論じる。
第2回	近代編1：「地方（じかた）」をめぐる思想と実践	近世・近代の地方政策について論じる。
第3回	近代編2：繭と葡萄酒	山梨県のワイン醸造業の黎明期について論じる。
第4回	近代編3：米と花	愛知県の花弁産業の歴史について論じる。
第5回	近代編4：羊と大根	愛知県の毛織物業と地域社会事業について論じる。
第6回	近代編5：醤油と本	千葉県醤油醸造業と社会教育事業について論じる。
第7回	キミとボクとセカイを チイキでつなぐには	ワークショップを実施する予定です。
第8回	現代篇1：「地方（ちほう）」の誕生と全総	戦後の国土開発じぎょうと「地方の時代」の背景を考える。
第9回	現代篇2：海とサッカー	鹿島臨海工業地帯の開発について論じる。
第10回	現代篇3：湖とシジミ	むつ小川原開発計画の光と影について論じる。
第11回	現代篇4：電源開発とおやき	長野県の「味の文化財」と地域固有性への再評価について論じる。
第12回	現代篇5：桜と朝市	山梨県甲州市の地域づくりについて論じる。
第13回	「あたらしい地域主義」から考える地域の経済	担い手、組織、ネットワークなどについて近年の議論にふれる

第14回 まとめ

今、地方から経済を考える意義について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各講義内容に関係のある情報を集め、考察を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

・講義中に配布する資料を用いて進めます。

【参考書】

- ・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
- ・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
- ・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
- ・その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、ディスカッションペーパー（30%）、期末レポート（40%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションペーパーを活用する講義方式です。自分自身の問題意識を深めることができたというリアクションがありましたので、今年度も引き続き実施したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

In this lecture, we aim to understand and think about the regional economy in three dimensions. To achieve that, we focus on region and era. As examples for considering the local economy, we will introduce (1) modern edition (Meiji-prewar) and (2) modern edition (postwar-present).

◆ Learning Objectives

From a long-term perspective, students will review the history of national land development and consider how the concepts of "region" and "local" emerged and how their meanings have changed over time to the present. In particular, I would like to discuss why we need to discuss the economy of regions now, taking into account the history of the postwar National Comprehensive Development Plan, the major changes in regional structure during the period of rapid economic growth, and the impact of the mergers of the Meiji, Showa, and Heisei periods on regions.

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture. The standard preparation and review time for this class is 30 minutes each. Gather information related to the content of each lecture and deepen your consideration.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the following criteria: normal score (30%), discussion paper (30%), and final report (40%).

OTR200HA

人間環境特論（職業選択と自己実現）

才木 弓加

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一人ひとりが自分らしいキャリアを考え、納得のいく職業選択を行うための準備を行います。企業研究、自己分析に加え、人間環境学部での学びを就職活動でどう活かしていくかについて自らが考え、事前準備を進めていきます。就職活動がスムーズにそして有意義なものとなるよう講義を行います。

【到達目標】

キャリアについて考え、職業選択を行うために必要なことを理解し、人間環境学部での学びを今後の就職活動に活かせることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

就職活動の環境が大きく変化し、自己理解、企業理解が深く求められるようになります。本講義では2022年卒の就職活動の変化を具体的に示し、主として2024年卒以降の学生がスムーズに事前準備できるよう方法と進め方を説明します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方・就職活動の全体像
第2回	就職活動の状況について	就職活動の環境変化と求人倍率について
第3回	インターンシップについて	就職活動に重要なインターンシップについての理解
第4回	インターンシップ参加について	インターンシップと就職活動、選考のつながりについて
第5回	企業研究①	確立されていない企業研究の方法論を学ぶ
第6回	自己分析①	自己理解の重要性を学ぶ
第7回	自己分析②	自己理解のための方法論を学ぶ
第8回	エントリーシートの意味と重要性	自己分析と企業研究の活かし方
第9回	ゲストスピーカー①	企業の求める人物像と採用時のポイントについて
第10回	ゲストスピーカー②	企業の求める人物像と採用時のポイントについて
第11回	ゲストスピーカー③	企業の求める人物像と採用時のポイントについて
第12回	グループワーク・グループディスカッションについて	人間環境学部での学びの活かし方
第13回	企業の採用方法とポイント	オンライン面接が加速することで及ぼす影響について
第14回	これからの就職活動に向けてのポイント	インターンシップ、企業研究、自己分析、エントリーシート、選考について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中、講義後に出された「企業分析シート」、「自己分析シート」などの課題を進める。

関連する話題について、常に意識を高く持って情報を収集する。
本授業の準備学習、復習時間は各2時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

レジメを配布

【参考書】

- ① 就活 自己分析の「正解」がわかる本、実務教育出版、才木 弓加(著)、2013年
- ② サプライズ内定、角川 SSC 新書、才木 弓加(著)、2012年
- ③ オンライン就活本、実務教育出版、才木 弓加(著)、2021年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%

期末レポート:70%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートで評価の高かったゲストスピーカーを招聘しての講義数を増やしました。

【学生が準備すべき機器他】

初回のオリエンテーションはオンデマンドでの講義につき、パソコンやスマートフォンなどの情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

就職活動セミナー等の講師を務める傍ら、就職情報サイトでの動画等のコンテンツへの出演や、直接学生への指導にあたる。長年のキャリアに基づいた独自の指導方法は、徹底した自己分析を行うのが特徴。最新の就職活動のトレンドに適応したオンラインでの就職活動の指導にあたる。企業の採用コンサルティング等も担当。受講した学生の就職活動に直結するような実務的な授業を目指す。

【Outline (in English)】

Outline and objectives:

This class is designed to give students the opportunity to plan and prepare for their career and employment futures on their own way. Students will learn how to make use of their college studies and experiences to prepare for the job hunting, as well as exploration of occupations and the self-assessment. This class will help your job hunting and make it meaningful.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the required assignments such as "Corporate Analysis Sheet" and "Self-Assessment Sheet" that will be issued during or after a class meeting in some cases. Your study time will be about two hours for a class.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 70%, Short report: 30%

OTR200HA

人間環境特論（科学技術哲学Ⅰ）

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の共存、人間と人間の共存に科学技術は大きな役割を演じます。しかし、科学技術はそうした共存を促進するとともに、時にそれを脅かす存在にもなります。持続可能な社会にとって科学技術が人間社会に及ぼす影響の批判的省察が欠かせないのです。本授業では、科学技術哲学（philosophy of technology）の知見にもとづきながら、科学技術が人間社会に及ぼす力を理論的に考察し、それがもたらす問題に対処するための基礎づくりを行います。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

- ・現代の科学技術の特徴について、授業で扱った概念を用いて説明できる。
- ・科学技術が人間社会に及ぼす影響について、授業で扱った概念を用いて説明できる。
- ・科学技術がもたらしうる問題について、論理的・批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第2回	技術の存在論	技術的人工物のあり方について考察します。
第3回	事例研究①	技術の存在論に関連する事例を検討します。
第4回	技術の認識論	技術的知識の特徴について考察します。
第5回	事例研究②	技術の認識論に関連する事例を検討します。
第6回	技術の方法論	技術的プロセスについて考察します。
第7回	事例研究③	技術の方法論に関連する事例を検討します。
第8回	技術の形而上学①	技術と人間の関係について考察します。
第9回	技術の形而上学②	技術と人間の関係について考察します。
第10回	事例研究④	技術の形而上学に関する事例を検討します。
第11回	技術の倫理学・美学	技術の倫理的・美的側面について考察します。

- 第12回 事例分析に向けて 各自で実施する事例分析について、方法論やアプローチの仕方を説明します。
- 第13回 プレゼンテーション「事例分析」 各自で実施した事例分析について、クラス内で発表・議論します。
- 第14回 試験・まとめと解説 授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

村田純一『技術の哲学』岩波書店、2009年
 伊藤邦武ほか執筆『科学/技術の哲学』（岩波講座哲学）岩波書店、2008年
 加藤尚武『技術論』（加藤尚武著作集）未來社、2019年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50%）。また、第14回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology play an important role in the coexistence of humans and the environment, and humans and humans. However, while technology promote such coexistence, they also threaten it at times. Critical reflection on the impact of technology on human society is essential for a sustainable society. In this course, we will theoretically examine the power that technology exert on human society, based on the findings of the philosophy of technology, and build a foundation for dealing with the problems it brings.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the characteristics of modern technology using the concepts covered in the course.
- Explain the impact of technology on human society using the concepts covered in the course.
- Think logically and critically about the problems that and technology can bring about.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

OTR200HA

人間環境特論（科学技術哲学Ⅱ）

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術は人間と環境の共存、人間と人間の共存にとって不可欠の存在ですが、時にそれを脅かす存在にもなります。持続可能な社会にとって科学技術が人間社会に及ぼす影響の批判的省察が欠かせないのです。本授業では、特に先端技術（emerging technologies）を取り上げて、科学技術哲学（philosophy of technology）の知見にもとづきながら、科学技術がもたらしうる問題を規範的に考察します。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

- ・先端技術がもたらしうる問題について、授業で扱った概念を用いて説明できる。
- ・先端技術がもたらしうる問題について、論理的・批判的に思考できる。
- ・先端技術がもたらしうる問題について、自らの考えを他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第2回	科学技術哲学の諸理論	科学技術哲学の代表的な諸理論を紹介いたします。
第3回	人工知能①	人工知能が人間社会にもたらしうる問題を考察します。
第4回	人工知能②	具体例を取り上げながら人工知能が社会にもたらしうる問題を考察します。
第5回	EdTech	EdTech（エドテック）が人間社会にもたらしうる問題を考察します。
第6回	脳神経画像技術	脳神経画像技術が人間社会にもたらしうる問題を考察します。
第7回	ヴァーチャルリアリティ①	ヴァーチャルリアリティが人間社会にもたらしうる問題を考察します。
第8回	ヴァーチャルリアリティ②	具体例を挙げながらヴァーチャルリアリティが人間社会にもたらしうる問題を考察します。
第9回	ロボット①	ロボットが人間社会にもたらしうる問題を考察します。
第10回	ロボット②	具体例を挙げながらロボットが人間社会にもたらしうる問題を考察します。

第 11 回	スマート農業	スマート農業が人間社会にもたら しうる問題を考察します。
第 12 回	宇宙開発	宇宙開発が人間社会にもたら しうる問題を考察します。
第 13 回	先端技術と人間社会	先端技術に同行する科学技術哲学 の必要性について考察します。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時 に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF 小説などをもとに、科学技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

ラングドン・ウィナー著、吉岡斉・若松征男訳『鯨と原子炉：技術の限界を求めて』紀伊國屋書店、2000 年
ピーター＝ポール・フェルバーク著、鈴木俊洋訳『技術の道徳化：事物の道徳性を理解し設計する』法政大学出版局、2015 年
M. クーケルバーク著、直江清隆訳者代表『AI の倫理学』丸善出版、2020 年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50％）。また、第 14 回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course Outline

Technology are essential to the coexistence of humans and the environment, and humans and humans, but they can also be a threat to it at times. Critical reflection on the impact of technology on human society is essential for a sustainable society. In this course, we will take up emerging technologies and normatively examine the problems that they can bring about, based on the findings of the philosophy of technology.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the problems that emerging technologies can bring about, using the concepts covered in the course.
- Think logically and critically about the problems that emerging technologies may bring.
- Explain your own ideas to others about the problems that emerging technologies may bring.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

BSP100HA

人間環境学への招待

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

備考（履修条件等）：A～F クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」は受講者が「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要を理解し、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ることを目的としている。学部のカリキュラムや基本的なアカデミックスキルについて学び、持続可能性に関する様々な側面について講義を受ける中から、各学生が自らの学習の方向性を見極め、大学での学びをより充実したものにすることが狙いである。

【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索するとともに、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を身につける。人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・研究会など学部の特色の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的・学際的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人間環境学部における学び方（1）	人間環境学部とは・「人間環境学への招待」の概要
2	人間環境学部における学び方（2）	カリキュラム・コース制・講義概要
3	人間環境学部における学び方（3）	レポートの書き方（理論編）・プレゼンテーションの基本（理論編）
4	人間環境学部における学び方（4）	レポートの書き方（実践編）・プレゼンテーションの基本（実践編）・図書館ミニガイド（文献や情報の集め方）・就職関連（キャリア形成）ミニガイド
5	人間環境学部における学び方（5）	語学学習・海外で学ぶことの意味・SCOPE と留学プログラム
6	コースにおける学び（1）	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。

7	コースにおける学び (2)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
8	コースにおける学び (3)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
9	コースにおける学び (4)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
10	コースにおける学び (5)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
11	テーマによる学び (1)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
12	テーマによる学び (2)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
13	テーマによる学び (3)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
14	テーマによる学び (4)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んだうえで出席する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜配布して使用する。

【参考書】

小島聡・西城戸誠・辻英史編著、2021、『フィールドから考える地域環境-持続可能な地域社会をめざして- [第2版]』、ミネルヴァ書房、378p。
その他にも、各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーの提出など）40%、期末試験60%、で総合的に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces an overview of the Faculty of Sustainability Studies, basic academic skills, and various approaches towards a sustainable society.

【Learning Objectives】

Through this course, students are expected to:

1. Understand the mechanism behind various issues pertaining to sustainability and consider practical solutions for them;
2. comprehend academic approaches (e.g., how the curriculum is organized, the characteristics of academic courses, and what seminars are), as well as the significance of specialization within the interdisciplinary faculty, through lectures by instructors with diverse backgrounds; and
3. clarify their own academic interests and gain knowledge that is essential to effectively select their academic course and classes.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are required to study before and after the class, using the materials introduced in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including the submission of reaction papers): 40%; Final exam 60%

BSP100HA

人間環境学への招待

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

備考（履修条件等）：G～L クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」は受講者が「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要を理解し、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ることを目的としている。学部のカリキュラムや基本的なアカデミックスキルについて学び、持続可能性に関する様々な側面について講義を受ける中から、各学生が自らの学習の方向性を見極め、大学での学びをより充実したものにすることが狙いである。

【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索するとともに、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を身につける。人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・研究会など学部の特徴の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的・学際的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特徴などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人間環境学部における学び方 (1)	人間環境学部とは・「人間環境学への招待」の概要
2	人間環境学部における学び方 (2)	カリキュラム・コース制・講義概要
3	人間環境学部における学び方 (3)	レポートの書き方 (理論編)・プレゼンテーションの基本 (理論編)
4	人間環境学部における学び方 (4)	レポートの書き方 (実践編)・プレゼンテーションの基本 (実践編)・図書館ミニガイド (文献や情報の集め方)・就職関連 (キャリア形成) ミニガイド
5	人間環境学部における学び方 (5)	語学学習・海外で学ぶことの意味・SCOPE と留学プログラム
6	コースにおける学び (1)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。

7	コースにおける学び (2)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
8	コースにおける学び (3)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
9	コースにおける学び (4)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
10	コースにおける学び (5)	学部教員による講義を通じてコース制への理解を深める。
11	テーマによる学び (1)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
12	テーマによる学び (2)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
13	テーマによる学び (3)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
14	テーマによる学び (4)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んだうえで出席する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜配布して使用する。

【参考書】

小島聡・西城戸誠・辻英史編著、2021、『フィールドから考える地域環境・持続可能な地域社会をめざして- [第2版]』、ミネルヴァ書房、378p.

その他にも、各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーの提出など）40%、期末試験60%、で総合的に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施する。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces an overview of the Faculty of Sustainability Studies, basic academic skills, and various approaches towards a sustainable society.

【Learning Objectives】

Through this course, students are expected to:

1. Understand the mechanism behind various issues pertaining to sustainability and consider practical solutions for them;
2. comprehend academic approaches (e.g., how the curriculum is organized, the characteristics of academic courses, and what seminars are), as well as the significance of specialization within the interdisciplinary faculty, through lectures by instructors with diverse backgrounds; and
3. clarify their own academic interests and gain knowledge that is essential to effectively select their academic course and classes.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are required to study before and after the class, using the materials introduced in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including the submission of reaction papers): 40%; Final exam 60%

BSP100HA

基礎演習

永野 秀雄

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジユメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジユメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

高田 雅之

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

長峰 登記夫

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

北川 徹哉

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

- 第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など
- 第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

杉野 誠

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

長谷川 直哉

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

- 第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など
- 第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

朝比奈 茂

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

根崎 光男

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

金光 秀和

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

- 第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など
- 第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

松本 倫明

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

梶 裕史

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

- 第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など
- 第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

渡邊 誠

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

杉戸 信彦

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

- 第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など
- 第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

日原 傳

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

藤倉 良

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：社会人クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

- 第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など
- 第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

湯澤 規子

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

- 第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など
- 第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

BSP100HA

基礎演習

宮川 路子

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水2/Wed.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法等を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進捗は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残りは質疑応答と意見交換、教員の講評。

第13回 総括のグループワーク 発表のフィードバック、レポート提出など

第14回 基礎演習全体のまとめ キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

基礎演習のクラスは、必修外国語のクラスをもとにして編成しています。学生が担当教員を指定することはできません。

【Outline (in English)】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

Students will be expected to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

Homework will be given as needed for research, collaborative research for presentations, resume preparation, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Unless there is an unavoidable reason, no credit will be given for more than four absences. The evaluation criteria will vary depending on the instructor. Evaluation will be made comprehensively based on the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and the final report. The evaluation will be made comprehensively from the assigned work such as presentations, active participation and contribution in lectures and discussions, and final reports.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のためのWord/Excel、ゼミ発表等で必要となるPowerpointの基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとWindowsの基本操作	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2.Windowsの基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第2回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用1	1. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2. インターネット インターネットの歴史と仕組み
第3回	ネットワークの活用2	1. 電子メール Gmailの活用演習 2. オンラインストレージ Googleドライブの活用演習
第4回	ネットワークの活用3	1. 情報検索 インターネットを利用した基本的な情報の検索と活用演習 2.Googleの各種サービス活用 Googleトレンド、Googleフォーム等応用的なGoogleサービスの活用
第5回	ネットワークと情報セキュリティ	1. ソーシャルメディア SNSとトラブルについて 2. 情報セキュリティ 安全なネットワークの活用

第 6 回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第 7 回	文書作成演習-図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 8 回	文書作成演習-長文の編集・書式	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 9 回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 10 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 11 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第 12 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 13 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第 14 回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. 書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用しないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OS やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザー ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。
講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと Windows の基本操作	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2.Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第 2 回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用 1	1. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2. インターネット インターネットの歴史と仕組み
第 3 回	ネットワークの活用 2	1. 電子メール Gmail の活用演習 2. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習
第 4 回	ネットワークの活用 3	1. 情報検索 インターネットを利用した基本的な情報の検索と活用演習 2.Google の各種サービス活用 Google トレンド、Google フォーム等応用的な Google サービスの活用
第 5 回	ネットワークと情報セキュリティ	1. ソーシャルメディア SNS とトラブルについて 2. 情報セキュリティ 安全なネットワークの活用

第 6 回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第 7 回	文書作成演習-図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 8 回	文書作成演習-長文の編集・書式	1. ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 9 回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powerpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 10 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 11 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第 12 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 13 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第 14 回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. 書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータ形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題により成績評価を行う。
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。
文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OS やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。
資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, PowerPoint, Excel, and Security). We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA

情報処理基礎

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活に必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 4 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 5 回	Excel の応用：表計算（1）	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 6 回	Excel の応用：表計算（2）	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第 7 回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第 11 回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第 12 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は概ね好評である。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic computer operations.
Learning objectives: Students learn basic skills to operate PCs. We focus on the skills required in campus life.
Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading criteria/policy: Assignment submissions (70%), class participation (30%).

COT100HA

情報処理基礎

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活に必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

- この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。
1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
 2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
 3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
 4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 4 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 5 回	Excel の応用：表計算 (1)	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 6 回	Excel の応用：表計算 (2)	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第 7 回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第 11 回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第 12 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は概ね好評である。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic computer operations.

Learning objectives: Students learn basic skills to operate PCs.

We focus on the skills required in campus life.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Assignment submissions (70%), class participation (30%).

COT100HA

情報処理基礎

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンによる情報処理と実務を学ぶ

本科目では現代社会において身に付けておくことが必要な情報リテラシーを修得する。PC およびネットワークの基礎的事項と利用技術、情報倫理とセキュリティなどについて学習する。また各種統計資料などの検索法とその利用のための学習を通してデータを活用する力を修得する。さらには企業などの組織のストラテジ（戦略）とマネジメント（管理）に関する内容についても IT 技術との関わりをふまえて学習する。これらにより現代社会について主体的に考察するために必要な知識と技術を獲得する。

【到達目標】

・ Word および Excel の基礎事項を学習し、文書作成および表計算に関する技法を修得する。

・ PowerPoint の利用法を学習し、効果的なプレゼンテーション技法を修得する。

・ Web による情報検索法を学習し、様々な情報の収集と各種調査に役立てる方法を修得する。

・ 情報セキュリティの基礎事項を学習し、コンピュータ・ネットワークの安全な利用法を修得する。

・ IT システムとテクノロジー（情報処理の理論）、ストラテジ（組織の戦略）、マネジメント（運用・管理）の基礎事項について学び、これらの応用法を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第 1 回の授業はオンラインによる開講とする。第 2 回以降は対面形式で授業を進めていく予定である。なお、状況により対面形式の予定であってもオンライン方式に切り替えることがある。連絡事項等は学習支援システムで表示する。

授業では各種ソフトウェア（OS、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ブラウザなど）の利用法についてデモを行いながら解説する。また PC の原理と構造、ネットワークとシステム構成、システムに対する脅威・脆弱性と対策などに関する基礎事項について学習する。その他、IT システムと企業活動、経営戦略と業務分析、システム開発と運用法などについても学習する。なお、これらは情報処理技術者試験「IT パスポート」の受験を目指す上で必須の内容となっており、その受験を念頭においている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	文書作成と編集 (文書作成)	Word による文書作成、書式の指定、各種メニューの利用法
第 3 回	文書作成と編集 (図表の活用)	Word による図表の活用、レポートライティング
第 4 回	表計算 (表計算と関数利用)	Excel の操作法と表作成、各種関数の利用
第 5 回	表計算 (参照法と分岐構造)	Excel における相対参照と絶対参照、分岐関数と多分岐構造
第 6 回	表計算 (データベース機能)	Excel におけるデータベース機能の活用と図・グラフの作成
第 7 回	プレゼンテーション (資料の作成)	PowerPoint の基本操作、プレゼン資料の作成と編集

第 8 回	プレゼンテーション (図表・画像の利用)	PowerPoint における図表と画像 などの利用、プレゼン体験
第 9 回	情報検索法 (データ検索と分析)	ブラウザ利用法と効率的な情報検 索法、統計資料などの検索と取 得、各種統計データなどの分析と その活用
第 10 回	IT システムとテクノ ロジー (システム各論)	PC の原理と構造、データ表現と ビット・バイト、インターネット と LAN のしくみ、セキュリティ 対策など
第 11 回	IT システムとテクノ ロジー (言語とネットワーク)	マークアップ言語 (HTML) 体験 と Web 環境について
第 12 回	IT システムとストラ テジ (コンピュータと業務)	経営戦略と業務分析、品質管理手 法、会計基礎、知的財産権など
第 13 回	IT システムとマネジ メント (システム管理)	システム開発と運用・管理、テス ト・保守と信頼性など
第 14 回	総括	情報処理技術者試験の受験に向け て

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend four hours to understand the course content for each class opened.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and Mid- and End-term reports 50%.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。また、レポート提出のための準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。必要に応じて教材を各授業前に学習支援システムに掲載しておきます。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

この科目では、最終授業時に学習支援システムを通じてレポート課題を出題しますので、必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますので、これも加味します。授業参加の積極性 50%、提出されたレポートの充実度 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

あまり急がずにできるだけゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

自宅において Word、Excel、PowerPoint を利用することのできる環境があれば、予習・復習しやすくなります。

【その他の重要事項】

この科目では受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to information processing and application to practical business

This course is to learn skills concerning information processing and communication techniques by use of personal computers in a practice room. The number of students is limited for this class. In the first half of this course, we learn the utilization techniques not only for WORD, EXCEL, POWER POINT but also for communication tools such as browsers and mail systems. Programming is experienced for HTML. Fundamentals are lectured concerning network systems and their related matters. In the latter half of this subject, we learn strategy and management techniques for practical business. The ethical treatment and security management of communication systems are studied. This course is partially based on the curriculum of "Information Technology Passport Examination" held by Ministry of Economy, Trade and Industry of Japan.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the knowledge of fundamentals in IT area. The skills of information processing is expected to be acquired by use of WORD, EXCEL and POWER POINT tools with a personal computer.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。

講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと Windows の基本操作	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2. Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第 2 回	情報セキュリティ基礎とネットワークの活用 1	1. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2. インターネット インターネットの歴史と仕組み
第 3 回	ネットワークの活用 2	1. 電子メール Gmail の活用演習 2. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習
第 4 回	ネットワークの活用 3	1. 情報検索 インターネットを利用した基本的な情報の検索と活用演習 2. Google の各種サービス活用 Google トレンド、Google フォーム等応用的な Google サービスの活用
第 5 回	ネットワークと情報セキュリティ	1. ソーシャルメディア SNS とトラブルについて 2. 情報セキュリティ 安全なネットワークの活用

第 6 回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1. Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第 7 回	文書作成演習-図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 8 回	文書作成演習-長文の編集・書式	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 9 回	プレゼン資料作成の基本演習	1. Powrpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 10 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2. Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 11 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1. Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第 12 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 13 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第 14 回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. 書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。
ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。
講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題により成績評価を行う。
インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。
文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。
プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。
表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OS やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。
資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。

大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。

インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。

講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと Windows の基本操作	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2.Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作
第 2 回	情報セキュリティ基礎と ネットワークの活用 1	1. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 2. インターネット インターネットの歴史と仕組み
第 3 回	ネットワークの活用 2	1. 電子メール Gmail の活用演習 2. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習
第 4 回	ネットワークの活用 3	1. 情報検索 インターネットを利用した基本的な情報の検索と活用演習 2.Google の各種サービス活用 Google トレンド、Google フォーム等応用的な Google サービスの活用
第 5 回	ネットワークと情報セキュリティ	1. ソーシャルメディア SNS とトラブルについて 2. 情報セキュリティ 安全なネットワークの活用

第 6 回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第 7 回	文書作成演習-図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 8 回	文書作成演習-長文の編集・書式	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 9 回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 10 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 11 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第 12 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 13 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 応用関数演習 論理関数、文字列操作関数、アンケート処理等で使用頻度の高い関数
第 14 回	表計算演習-グラフの作成と書式の応用	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. 書式の応用 条件付き書式と入力規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用しないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (20%)、文書作成 (30%)、プレゼン (20%)、表計算 (30%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。

日常的に使用できるパソコン・ネットワーク環境があることが望ましい。OS やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習室環境と同じである必要はない。資料配付・課題提出は授業支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザー ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about information processing skills(MS Word, Power-Point, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Use the Internet to collect information and conduct research.

Create documents using charts and graphs.

Create basic presentation data.

Create basic spreadsheets and graphs.

【Learning activities outside of classroom】

Review the content introduced in the lecture repeatedly until you have mastered it.

【Grading criteria】

Grades will be based on report assignments for Internet use (20%), document creation (30%), presentations (20%), and spreadsheets (30%).

COT100HA

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Python は世界でもっとも普及しているプログラミング言語である。小さなスクリプトから、深層学習、人工知能、ビッグデータなどその用途は多岐にわたる。Python が使える人材は様々な分野で需要がある。この授業で得た経験は厳しい時代を生き抜く実践知となるだろう。

この授業では、Python を用いてプログラミングの初歩を学ぶ。プログラミング言語に共通する知識を学び、簡単なゲームを作り、データ解析を行う。

春学期に開講する「ネットワークとマルチメディア」とは内容が異なるので、履修の際は注意すること。

【到達目標】

この授業を通じて習得されるプログラミング技術は以下のとおりである。

1. プログラミング言語の初歩を理解できる。
2. オブジェクト指向の初歩を理解できる。
3. 簡単なゲームを作成することができる。
4. データを解析して可視化することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	プログラムとは	プログラムにおける命令を学ぶ。
第 3 回	文字列	文字列の操作を学ぶ。
第 4 回	変数	変数の使い方を学ぶ。
第 5 回	繰り返し	ループ（for while）を学ぶ。
第 6 回	応用問題	理解度を確認するための課題を解く。
第 7 回	条件分岐	if 構文を学ぶ。
第 8 回	応用問題	理解度を確認するための課題を解く。
第 9 回	関数	関数を自作して使う。
第 10 回	応用問題	簡単なゲームを作る。リストを学ぶ。
第 11 回	モジュール	モジュールの利用を学ぶ。 numpy と配列を学ぶ。
第 12 回	可視化	matplotlib による可視化を学ぶ。
第 13 回	データ解析	データを解析して可視化をする。
第 14 回	応用問題	データ解析の応用問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

いちばんやさしい Python 入門教室、大澤文孝（著）、ソーテック社、2017 年、2,508 円

【参考書】

ウェブから教材を提示する

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の練習問題の比重を増やす、プログラミング能力の定着を促す。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キーボードの操作やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

【Outline (in English)】

Course outline: Programming of Python.

Learning objectives: Students learn both basic knowledge and skills on Python programming.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Assignment submissions (70%), class participation (30%).

PRI100HA

統計とデータ分析

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：EXCELを使って統計学の基礎とデータ分析法を学び環境データを理解する

統計学は環境問題はもちろんの事、様々な現象（社会的、自然的）を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。例えばIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書の中には世界平均の地上気温や海面水位その他のデータが掲載されているが、同時に「不確実性の幅」、「5～95%が含まれる範囲」、「90%信頼区間」などという表現も含まれている。このような環境情報を読み解くには統計学の初歩的知識が必要となる。同時に情報検索やデータ処理に関する手法も習得しておく必要がある。本科目ではパソコンを利用しながら統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

【到達目標】

統計的知識を習得すること、およびそれを実際の環境データの分析に応用できる力を身につけることを目標としている。本科目ではEXCELを利用しながら様々な情報を分析するための基礎を学習する。もちろんこれらを学習することは、環境学への応用というだけでなく、大学生として身につけるべき教養という側面もあるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第1回の授業はオンラインによる開講とする。第2回以降は対面形式で授業を進めていく予定である。なお、状況により対面形式の予定であってもオンライン方式に切り替えることがある。連絡事項等は学習支援システムで表示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。
第2回	情報実習室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて。
第3回	EXCEL 実習 (表計算について)	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など。
第4回	EXCEL 実習 (関数の利用について)	各種関数の利用法、IF関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など。
第5回	EXCEL 実習 (統計関数の利用について)	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など。
第6回	環境データの検索と分析 (データ検索法について)	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索など。
第7回	環境データの検索と分析 (環境情報について)	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの分析など。

第8回 統計学入門
(代表値について)

代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？

第9回 統計学入門
(散布度について)

散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？

第10回 統計学入門
(分布と基準値・偏差値について)

データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が70であるとは、55であるとは統計的にどのような意味か？

第11回 統計学入門
(相関分析と回帰分析について)

相関分析と回帰分析（相関係数と2つの量の関係の強さ、最小自乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいか？

第12回 統計学入門
(推定について)

統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？

第13回 統計学入門
(検定について)

統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について。

第14回 演習

様々な現象を統計的に理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。授業に必要な資料は学習支援システムに掲載します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

この科目の最終授業時に学習支援システムを通じてレポート課題を出題しますので必ず提出してください。それ以前の授業時にもレポート課題を出題することがありますので、これも加味します。授業参加の積極性50%、提出されたレポートの充実度50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報実習室を利用します。受講にあつたては皆さんのパソコン経験の有無は問いません。

【その他の重要事項】

この科目は統計学を初歩から学習していきますので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要としていません。

この科目は「環境モデル論Ⅰ」「環境モデル論Ⅱ」に関連する科目としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させるためにもそれらを履修することをお勧めします。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Introduction to statistics and data processing with EXCEL use

This course is to learn the fundamentals of statistics. At the same time, we acquire skills for data-processing techniques by use of personal computers. The software EXCEL is used in a computer-practice room. The number of students is limited for this class. In the earlier stage of this course, we master the utilization techniques of it. After that the concept of statistical distributions is examined. We learn the basic items such as average values, mode, median, deviation, variance, standard deviation, range, and so on. The correlation and regression analyses are studied. Fundamentals of statistical testing and estimation techniques are introduced in the latter stage of this course.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the knowledge of fundamentals of statistics. The skills of statistical processing is expected to be acquired by use of EXCEL tools with a personal computer.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend four hours to understand the course content for each class opened.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 50% and Mid- and End-term reports 50%.

COT100HA

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。

近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにともない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。

この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

秋学期に開講する「ネットワークとマルチメディア」とは内容が異なるので、履修の際は注意すること。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・基本操作方法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第2回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第3回	ペイント系画像処理：Photoshopによる実習	Photoshopによる写真や画像の処理方法を学ぶ。
第4回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第5回	ドロー系画像処理：自由課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第6回	Web ページ製作：HTMLの基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。HTMLについて重点的に学ぶ。
第7回	Web ページ製作：CSSの基本(1)	CSSについて学ぶ。
第8回	Web ページ製作：CSSの基本(2)	CSSについて学ぶ。
第9回	Web ページ製作：課題ページの作成(1)	Web ページの自由課題を作成する。
第10回	Web ページ製作：課題ページの作成(2)	Web ページの自由課題を作成する。
第11回	Web ページ製作：課題ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第12回	WWWの仕組み	WWWの仕組みを学習し、情報発信と受信の仕組みを理解する。

- 第13回 情報検索のコツと練習 WWW における効率的な情報検索の方法を学ぶ。
- 第14回 インターネットの光と影：情報倫理 インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

ホームページ辞典 第6版 HTML・CSS・JavaScript、株式会社アーク(著)、翔泳社、2017年、2,200円

【参考書】

WWW を通じて教材を配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題(70%)と平常点(30%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布されたIDとパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic use of the Internet and multimedia.

Learning objectives: Students learn both basic and practical skills on the internet and multimedia.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Assignment submissions (70%), class participation (30%).

LIN100HA

英語 I（スキルアップ科目）

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、e-learning教材やauthenticな映画などを用いて、日常会話の基礎力を養います。

【到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。教材の英語と生の英語の違いを学ぶことも重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

最初は、後述のテキストと同e-learning教材により、基礎的なリスニングとスピーキングの力を養います。教材に慣れてきたら、インプットのバラエティを豊かにしauthenticな英語表現に親しむため、随時映画やドラマの断片も教材とします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。 e-learning教材のデモンストレーションもあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。希望者多数の場合、選抜を行う可能性もあります。
第2回	テキスト Chapter1・2（旅行編）	‘Where Do I Get the Bus?’ (Getting information) ‘Do You Have a Reservation, Ma’am?’ (Checking in at a hotel)
第3回	テキスト Chapter3・4（旅行編）	‘Could You Repeat That?’ (Asking for directions) ‘I’ll Take the Wrangler Convertible’ (Renting a Car)
第4回	テキスト Chapter5・6（旅行編）	‘Would You Like Soup or Salad?’ (Ordering a meal) ‘Where’s the Fitting Room?’ (Shopping for clothes)
第5回	テキスト Chapter7・9（旅行編）	‘Would You Mind Taking My Picture?’ (Asking for a favor) ‘I Enjoyed My Stay’ (Checking out of a hotel)
第6回	テキスト Chapter10（旅行編） テキスト（旅行編）の復習小テストと応用タスク	‘Aisle Seat, Please’ (Expressing preference) テキスト（旅行編）の Model Dialogue についての小テスト。

- 第 7 回 映画のリスニング テキスト（旅行編）で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
- 第 8 回 邦画の英語字幕作りに挑戦（1） ペアワークで英語字幕作りに取り組みます。
- 第 9 回 邦画の英語字幕作りに挑戦（2） 作成した英語シナリオについてグループで peer review を行った後、クラス全体にフィードバックする。
- 第 10 回 テキスト Chapter14・16（留学編） ‘I’ll Try to Do My Best’ (Getting advice)
‘Do You Have Any ID?’ (Opening a bank account)
- 第 11 回 テキスト Chapter17・19（留学編） ‘How about Sea Mail?’ (Sending a package)
‘I Have a Sore Throat’ (Buying medicine)
- 第 12 回 テキスト（留学編）の復習小テストと応用復習（1） テキスト（留学編）の Model Dialogue についての小テスト。テキスト（留学編）で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。今期全体についてのポイント講義を行います。
- 第 13 回 期末試験と復習（2） 12 回分の学習の定着度を確保するため、リスニングを含む筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。直前にポイント講義と質疑応答・復習をします。
- 第 14 回 復習（3） 期末試験を返却して徹底解説します。これに基づく学習アドバイスも行います。

音声ファイル提出のため、スマホの他に PC またはタブレット端末が 1 台必要である。

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。受講を希望する方は、最新情報を Hoppii「お知らせ」で確認し、必ず初回授業に出席して下さい。

【Outline (in English)】

You will be encouraged to improve your everyday conversation in English. Learning materials include those for CALL(Computer-assisted-language-learning) and authentic movies and drama which can be adult learner-friendly. You will be expected to get used to English speaking tasks in class for higher levels of communication. Before/after each class, you will be expected to spend four hours to learn the class materials. Grading will be decided based on regular performances(50%) and final exam(50%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料・URL 等を利用して予習・復習をしてください。

授業前に、各 Chapter の Communication Focus には目を通してください。

授業後は、Main Dialogue と Interview を復習してください。

配布プリントがある日は、その復習も必要です。

授業内でのタスクのために、Model Dialogue は確実に覚える必要があります。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Viva! San Francisco (Macmillan Languagehouse)

written by Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell.

2,000 JPY

【参考書】

URL (例)

<https://www.expedia.co.uk/>

<https://www.ox.ac.uk/gazette/>

<https://www.londontheatre.co.uk/> など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。合計 4 回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

平常点には、テキスト学習回の音声ファイル提出と、対面での小テスト（2 回程度）等が含まれます。音声ファイルの提出方法は、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

「実践的な英語表現が身についたよかった」・「映画を用いたタスクが楽しかった」など、前向きなコメントが多く嬉しく思いました。「映画のタスクをもっとやりたかった」という意見もあったので、2022 年度の受講生の様子を見ながら、教材英語と authentic な英語のバランスを調整したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業は、BT0309 教室にて実施の予定。学習支援システムを利用する。

LIN100HA

英語 I (スキルアップ科目)

板橋 美也

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の日常会話表現のリスニング力を向上させ、耳で覚えた表現を適切に発音することができるように練習していく、初級日常会話の授業です。

【到達目標】

日常生活に必要な基本的なリスニング力が身に付き、日常の様々な状況で適切な英語の表現を適切な発音で用いることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聴き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。さらに、耳でおぼえた表現を適切な発音やリズムで用いることが出来るように、repeating, overlapping, shadowing などによる練習を適宜行います。そして、練習の成果を各自のスマートフォンやPCで録音して提出します。提出の仕方については、第1回のガイダンスで説明します。リスニング演習問題の一部はTOEICの形式に則っているため、TOEICのリスニング問題形式にも慣れることができます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第2回	教科書 Unit 1～2 前半インプット	トラブルや困難に巻き込まれたときの表現、位置・場所に関する表現、乗り物に関する表現を聴き取る練習をして、これらのテーマに関する英会話表現をおぼえます。
第3回	教科書 Unit 2 後半～ Unit 3 インプット	時間・期間・頻度に関する表現、ショッピングに関する表現、数量・距離・重さに関する表現を聴き取る練習をして、これらのテーマに関する英会話表現をおぼえます。
第4回	教科書 Unit 4～ Unit 5 前半インプット	スポーツ・エンターテインメントに関する表現、感情表現に関する表現、食事・レストランに関する表現を聴き取る練習をして、これらのテーマに関する英会話表現をおぼえます。
第5回	教科書 Unit 1～ Unit 5 前半アウトプット	Unit 1～Unit 5 前半で覚えた表現を声に出して練習し、再現した英会話音声を出します。
第6回	教科書 Unit 5 後半～ Unit 6 インプット	勧誘・提案・依頼に関する表現、旅行・レジャーに関する表現、判断・評価に関する表現を聴き取る練習をして、これらのテーマに関する英会話表現をおぼえます。

第7回	教科書 Unit 7～ Unit 8 前半インプット	ビジネス・オフィスに関する表現、経験・完了に関する表現、インターネット・コンピューターに関する表現を聴き取る練習をして、これらのテーマに関する英会話表現をおぼえます。
第8回	教科書 Unit 8 後半～ Unit 9 インプット	情報の交換に関する表現、金銭・費用に関する表現、方法・手段に関する表現を聴き取る練習をして、これらのテーマに関する英会話表現をおぼえます。
第9回	教科書 Unit 5 後半～ Unit 9 アウトプット	Unit 5 後半～ Unit 9 で覚えた表現を声に出して練習し、再現した英会話音声を出します。
第10回	教科書 Unit 10～ Unit 11 前半インプット	ホテルに関する表現、原因・理由に関する表現、天候に関する表現を聴き取る練習をして、これらのテーマに関する英会話表現をおぼえます。
第11回	教科書 Unit 11 後半～ Unit 12 インプット	予定・日程・計画に関する表現、電話に関する表現、許可・義務・必要に関する表現を聴き取る練習をして、これらのテーマに関する英会話表現をおぼえます。
第12回	教科書 Unit 13～ Unit 14 前半インプット	学校に関する表現、賛成・不賛成・否定・拒否に関する表現、家庭に関する表現を聴き取る練習をして、これらのテーマに関する英会話表現をおぼえます。
第13回	教科書 Unit 10～ Unit 14 前半アウトプット	Unit 10～ Unit 14 前半で覚えた表現を声に出して練習し、再現した英会話音声を出します。
第14回	試験とまとめ	授業の内容に基づいた試験を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書付属の自習用CDを用いて、よく予習・復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Listening Practice for Daily Expressions (鶴見書店)

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み (授業中に行う問題・質問への回答・課題の提出状況) (70%)と期末試験 (30%)から総合的に評価します。欠席4回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

授業によってリスニングの時間を確保することができたという感想が多くみられましたが、「継続は力なり」ですので、授業以外にも自主的にリスニングの時間を作ることで、さらにスキルアップをめざしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

発音の録音・提出のためのスマートフォン・PC等の機器やオンライン環境を準備してください。

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving basic listening and pronunciation skills in English through the textbook on daily expressions. By the end of the course, students will gain basic listening skills necessary for daily life and will be able to use expressions suitable for various situations with appropriate pronunciation in English. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be decided based on participation (70%) and the final exam (30%).

LIN100HA

英語Ⅱ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students study English holistically (listening, speaking, writing, reading) using a textbook accompanied by videos to increase their knowledge and understanding of many important aspects of American culture and society.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to learn about American culture and society. By paraphrasing and acting out students should be able to develop communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

1. Listening

Students are taught: general comprehension(listening for gist, looking for detailed information, dictation close)

2. Speaking

Students are taught: paraphrasing and acting out

3. Writing(a reaction paper and the favorite line in each unit)
Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 Andy Meets Miranda	About the course, Words & phrases, first viewing, listening exercise
第2回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Second viewing, exercises and acting out
第3回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第4回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Second viewing, exercises and acting out
第5回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第6回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Second viewing, exercises and acting out
第7回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第8回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Second viewing, exercises and acting out
第9回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第10回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Second viewing, exercises and acting out
第11回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第12回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Second viewing, exercises and acting out

第13回 Review

Vocabulary review and discussion about

第14回 Feedback

Overall review and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are required to be prepared for exercises A, B & E.

University guidelines suggest preparation and review may take about 2

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

The Devil Wears Prada (松柏社、2,200円)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:

<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation 30 %

Acting out 30 %

Final test 40 %

Unexplained/unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.

The instructor always welcomes and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring general stationery (e.g. pen, pencil, glue, paperclips).

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

In this course, students study English holistically (listening, speaking, writing, reading) using a textbook and accompanied by videos to increase their knowledge and understanding of many important aspects of American culture and society.

LIN100HA

英語Ⅲ（スキルアップ科目）**磯部 芳恵**

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will integrate all language skill areas. Listening and reading exercises will be used to acquaint students with a variety of current global topics. Speaking and writing activities will be applied to organize their ideas and opinions. Students will develop discussion and critical thinking skills.

【到達目標】

The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English and to be able to express one's thoughts clearly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction	Grammar and vocabulary
	Getting ready	
第2回	Unit 1	Conversation
	A great read	
第3回	Unit 1	Reading
	A great read	
第4回	Unit 1	Review
	A great read	
第5回	Unit 2	Grammar and vocabulary
	Technology	
第6回	Unit 2	Conversation
	Technology	
第7回	Unit 2	Reading
	Technology	
第8回	Unit 2	Review
	Technology	
第9回	Unit 3	Grammar and vocabulary
	Society	
第10回	Unit 3	Conversation
	Society	
第11回	Unit 3	Reading
	Society	
第12回	Unit 3	Review
	Society	
第13回	Checkpoint 1	Review Unit 1-3
第14回	Wrap-up and final exam	Wrap-up and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Reading: Preparation for the reading sections of the textbook and answer the questions. (30 minutes every two weeks)

2. Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. Get ready for the recitation of Obama's speech in June.

University guidelines suggest preparation and review may take about 2

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Viewpoint 2(Cambridge University Press)

『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000円

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), quizzes and tests(40%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course will integrate all language skill areas. Listening and reading exercises will be used to acquaint students with a variety of current global topics. Speaking and writing activities will be applied to organize their ideas and opinions. Students will develop discussion and critical thinking skills.

LIN100HA

英語Ⅳ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on improving the students' communication skills by their summarizing news stories and doing role-playing in order to be better able to deal with business situations in the future.

【到達目標】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context and be able to give a convincing presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction & Unit 1 Meeting People	Mini lesson Unit 1 Speaking, listening & reading about introductions TOEIC (Listening)
第2回	Unit 1 Meeting People	Unit 1 Listening & culture file about gestures TOEIC (Listening)
第3回	Unit 2 Projects	Speaking & listening about making a call TOEIC (Listening)
第4回	Unit 2 Telephoning	Reading & culture file about business communication TOEIC (Listening)
第5回	Unit 3 Schedules and appointments	Speaking, listening & writing about talking about schedules TOEIC(Reading)
第6回	Unit 3 Schedules and appointments	Listening, speaking & reading about rescheduling a meeting TOEIC (Reading)
第7回	Unit 4 Company performance	Speaking a& listening about presenting figures TOEIC (Reading)
第8回	Unit 4 Company performance	Listening & reading about presenting information TOEIC(Reading)
第9回	Review Units 1-4	Review TOEIC (Speaking)
第10回	Unit 9 Future prospects	Speaking, listening & reading about predicting trends TOEIC (Speaking)
第11回	Unit 9 Future prospects	Listening, speaking & reading about long-term future

第12回	Unit 12 Speaking in public	Speaking, listening & reading about a short presentation TOEIC (Speaking)
第13回	Unit 12 Speaking in public	Reading & speaking about an end of course speech TOEIC (Speaking)
第14回	Review	Presentation and in-class test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare new vocabulary and reading exercises, and review

University guidelines suggest preparation and review are around two hours a week.

【テキスト（教科書）】

Business Venture 2(Oxford University Press)

【参考書】

Students must have access to a computer with internet connection in order to complete some home research tasks.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(40%), homework(20%), quizzes and tests(40%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを使ってフィードバックに活用する。

【その他の重要事項】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course focuses on improving the students' communication skills by their summarizing news stories and doing role-playing in order to be better able to deal with business situations in the future.

LIN100HA

テーマ別英語 1 (スキルアップ科目)

王 川 菲

配当年次/単位：1~4 年 / 1 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course will help students establish the ability of using English for critical thinking in both academic and daily contexts. It focuses on the skills of English reading comprehension and self-expression in English writing and presentation with a topic of modern Japanese food history and culture. Each class will introduce a topic on Japanese food culture, deconstructing contemporary Japanese culinary culture and tracing the historical underpinnings of its contemporary scenes. Through the lens of food, students will explore some key concepts in the contemporary global society, including localization, transnational flows, global and local interactions. Ultimately, students will conclude this course with the issue of food sustainability.

【到達目標】

- ・ Read and present academic materials in English
- ・ Write short reading notes in English
- ・ Familiar with modern Japanese food history and its contemporary culture
- ・ Understand some key global issues
- ・ Express and exchange critical ideas

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ Student will present the assigned readings in English in class.
- ・ Instructor will organize in-class group discussions.
- ・ Student will write a reading note every week.
- ・ Instructor will give feedback on assignments in class or through the Learning Management System.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course orientation and teaching philosophy	Course introduction, rules, and requirements. Learning philosophy in this course.
Week 2	Global food histories	Laudan, Rachel. <i>Cuisine and Empire: Cooking in World History</i> . University of California Press. 2013. (Chapter Introduction)
Week 3	Historical roots of contemporary Japanese culinary culture I	Brau, Lorie. "Soba, Edo Style: Food, Aesthetics, and Cultural Identity," in Nancy K. Stalker edited, <i>Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity</i> , pp. 65-80. Oxford University Press, 2018.

Week 4	Historical roots of contemporary Japanese culinary culture II	Solt, George. (2014) "Street Life: Chinese Noodles for Japanese workers," in <i>The Untold History of Ramen: How Political Crisis in Japan Spawned a Global Food Craze</i> , pp. 15-42. University of California Press.
Week 5	The history of western culinary culture in Japan	White, Merry. <i>Coffee life in Japan</i> . University of California Press, 2012. (Chapter 1)
Week 6	National cuisine as a cultural construction	Ichijo, Atsuko, Venetia Johannes, and Ronald Ranta. <i>The Emergence of National Food: The Dynamics of Food and Nationalism</i> . Bloomsbury Academic, 2019.
Week 7	Japan's national cuisine	Stalker, Nancy K. "Rosanjin: The Roots of Japanese Gourmet Nationalism," in Nancy K. Stalker (ed), <i>Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity</i> , pp. 133-149. Oxford University Press, 2018.
Week 8	Japan's local cuisine	Rath, Eric C. <i>Japan's Cuisines</i> . Reaktion Books, 2016. (Chapter 6)
Week 9	The globalization of Japanese culinary culture I	Imai, Shoko. "Umami Abroad: Taste, Authenticity, and the Global Urban Network," in <i>The Globalization of Asian Cuisines</i> , 57-78. Palgrave Macmillan US, 2015.
Week 10	The globalization of Japanese culinary culture II	James Farrer, Christian Hess, Mônica R. de Carvalho, Chuanfei Wang, and David Wank. "Culinary Mobilities: The Multiple Globalizations of Japanese Cuisine," in <i>Routledge Handbook of Food in Asia</i> , Cecilia Leong-Salobir (ed.), 39-57. London: Routledge, February 2019.
Week 11	Politics in the globalization of Japanese culinary culture	Farrer, James and Wang, Chuanfei. "Who Owns A Cuisine? The Grassroots Politics of Japanese Food in Europe," in <i>The Special Issue of Asian Food and Cultural Governance: Food Heritage, Culinary Soft Power and Globalization</i> . <i>Asian Anthropology</i> . Kimura, Aya H. (2018) "Hungry in Japan: Food Insecurity and Ethical Citizenship," in <i>The Journal of Asian Studies</i> Vol. 77, No. 2: 475 - 493.
Week 12	Food poverty in Japan	Siniawer, Eiko Maruko. (2018) "Discarding Cultures: Social Critiques of Food Waste in an Affluent Japan," in Nancy K. Stalker (ed.) <i>Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity</i> , pp. 287-301. Oxford University Press.

Week 14 Towards food sustainability
 Hanna Weber, Karoline Poeggel, Hallie Eakin, Daniel Fischer, Daniel J Lang, Henrik von Wehrden and Arnim Wiek. (2020) "What are the ingredients for food systems change towards sustainability? - Insights from the literature." IOP Publishing Ltd.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will averagely need 1.5 hour to prepare each class (except for week 1), including reading the assigned article and writing a reading note. Some students may need 2 hours, depending on their English proficiency.

【テキスト（教科書）】

The instructor will provide all of the reading materials in the electronic form.

【参考書】

All of the assigned readings will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

1. In-class discussion (1x13 times, except for week 1) 13%
2. Weekly reading notes (4x13 times, except for week 1) 52%
3. In-class presentation of a reading on syllabus 35%

【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

【学生が準備すべき機器他】

No

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

This course will help students establish the ability of using English for critical thinking in both academic and daily contexts. It focuses on the skills of English reading comprehension and self-expression in English writing and presentation with a topic of modern Japanese food history and culture. Each class will introduce a topic on Japanese food culture, deconstructing contemporary Japanese culinary culture and tracing the historical underpinnings of its contemporary scenes. Through the lens of food, students will explore some key concepts in the contemporary global society, including localization, transnational flows, global and local interactions. Ultimately, students will conclude this course with the issue of food sustainability.

Upon the completion of assignments, students will be able to:

- ・ Read and present academic materials in English
- ・ Write short reading notes in English
- ・ Familiar with modern Japanese food history and its contemporary culture
- ・ Understand some key global issues
- ・ Express and exchange critical ideas

Students will averagely need 1.5 hour to prepare each class.

Assessment to student is component of:

1. In-class discussion 13%
2. Weekly reading notes 52%
3. In-class presentation of a reading on syllabus 35%

LIN100HA

テーマ別英語3（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To develop students' awareness and ability to discuss health-care issues and lifestyle choices in the modern world

【到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience. In the case of online classes, Skype Meet Now will be used. For details and contact link, see the Announcement section of the Hoppii system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Aging 1	Reading and discussion
Lesson 3	Aging 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 4	Smoking 1	Reading and discussion
Lesson 5	Smoking 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 6	Health and environment 1	Reading and discussion
Lesson 7	Health and environment 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 8	Exercise and health 1	Reading and discussion
Lesson 9	Exercise and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 10	Food and health 1	Reading and discussion
Lesson 11	Food and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 12	Stress 1	Reading and discussion
Lesson 13	Stress 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 14	Review and final exam	Review of course and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト (教科書)】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】

Additional reading on the topics can be found in Healthtalk by Bert McBean (Macmillan) or other similar Health-related English coursebooks.

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (60%), class participation (30%) and homework (10%)

【学生の意見等からの気づき】

Besides a core group of topics to be studied, an additional selection reflecting students' interests will also be offered.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

【Outline (in English)】

Learning objectives is to develop communicative language skills within the topic areas covered in the course. Students will engage in readings and discussion of non-specialist issues in the area of healthcare. Bi-weekly readings will be followed by a variety of activities to activate relevant vocabulary and expressions appropriate for discussing the topic.

Outside the classroom, students should continue to explore the topics discussed. This additional work will contribute to the final grade.

LIN100HA

テーマ別英語 4 (スキルアップ科目)

R. G. ジェイムズ

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To familiarize the students with, and enable them to discuss the development and social history of modern western popular music.

【到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th and 21st century. Students will listen to original recordings and read about the political and social issues that are addressed by the various genres.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Lessons are topic-based. Each week students will share experiences and opinions about a topic introduced by the teacher by weekly worksheets, with feedback from the teacher on student answers. Questions will be both direct or discussion-based. Feedback on assignments submitted by students will be provided both in meetings and through the Learning Management System.

In the case of online classes, worksheets will be uploaded weekly to Hoppii and classes will be conducted over Skype.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Gospel music and slavery	Sample and discuss early African-American music and its origin
Lesson 3	Blues and the rural poor	Examples of early "CountryBlues" and its social context
Lesson 4	Country music and immigration	Samples of the music brought by early settlers from Britain and Europe, and the rural culture where it took root.
Lesson 5	Folk music and white protest	Examples of music used as tool of political expression during the Great Depression and later
Lesson 6	Jazz and music as art or entertainment	Examples of both popular jazz idioms and the growth of "serious" music
Lesson 7	R & B and race relations	Examples of early rock music and the fissures in society that were exposed by its growing popularity
Lesson 8	Mid-term course review	Open-book quiz of the first part of the course

Lesson 9	The music industry	An overview of money in music, from early sales of sheet music, the rise and fall of record labels to music promotion in the digital age.
Lesson 10	Rock music and youth culture 1	An examination of the rise of youth culture and the maturing of rock music, through the career of the Beatles and other “classic rock” musicians.
Lesson 11	Rock music and youth culture 2	A look at the major genres of rock music in the context of social and political unrest
Lesson 12	Rock reactions and the rise of punk	Some examples of rock music fragmentation in the face of political failure and the rise of the political right
Lesson 13	Soul music and civil rights	Examples of early gospel-influenced soul, through pop, dance and funk styles, in the context of the early and later civil rights movements
Lesson 14	Review and final exam	Review of the course and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

While meeting time will focus on discussion and listening, students are expected to extend their research of the topic by further listening and reading out of class, particularly following up topics of interest identified during discussions. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson, and students can access most of the musical examples from YouTube or Wikipedia.

【成績評価の方法と基準】

2 x quiz: (2 x 50%T): mid-term and end-of-term quizzes.

【学生の意見等からの気づき】

We will spend more time on reading and discussion sections of the class.

【学生が準備すべき機器他】

In the case of online classes, students will need a Skype client (app) and headset for online meetings, and to access Hoppii to obtain the weekly uploads.

【その他の重要事項】

This is usually a discussion class. However, in the event of on-demand lessons, students will need to submit short answers to questions on the weekly topics.

【Outline (in English)】

Students will listen to illustrated lecture (presentation) on selected topics that illustrate the social and cultural context of popular music development in the 20th century. Lessons will also include readings and discussion of the topics.

HSS400HA

研究会 A

朝比奈 茂

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：【文】【サ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「なぜ人間は○○○だろうか?」といった素朴な疑問をもとに、文献資料より人間の生理的・心理的な仕組みや働きについて調査し、自らが問題を提示し解決しようとする理論と方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べることができる。
2. 文献購読をし、その内容をまとめ、ゼミ員に対して発表できる。
3. グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を列挙し、グループ内で共有する。グループ内では、集まった多くの情報を統合して、最終的にグループの意見として発表し、レポートを作成する。

授業は主に SGD（スモールグループディスカッション）形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、全員の前で文献（日本語、英語どちらでも良い）講読を行い、発表の技術を身につける。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行なう。
第 3 回	テーマ設定、意見交換	グループ分けを行い、役割分担を決める。今後の計画を立てる。
第 4 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 5 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 6 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 7 回	中間発表	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 8 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。
第 9 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。文献を講読し、意見交換を行う。

第 10 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。 文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 11 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。 文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 12 回	文献講読、発表資料の作成	グループワークを行う。 文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 13 回	(1) 最終発表 (報告会)	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 14 回	(1) 最終発表 (報告会)	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 15 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 16 回	研究 (調査) テーマ検討および決定	秋学期に行う、研究 (調査) テーマを各々で検討し、決定する。
第 17 回	資料収集および講読	図書館やインターネットを通じて、資料を収集する。 仕入れた文献を整理して内容を理解する。
第 18 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 19 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 20 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 21 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 22 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 23 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。
第 24 回	DVD 鑑賞	環境全般に関する DVD を視聴し、各々が感じたこと、考えたことを、グループに分けてディベート形式で討論する。
第 25 回	レクリエーション (スポーツ大会)	スポーツ活動を通じて、ゼミ員相互のコミュニケーションを図る。
第 26 回	外部講師による講演会	現在社会で活躍している講師 (学外) を招聘し講義を行う。
第 27 回	卒業論文報告会	4 年生による卒業論文の発表を行う。
第 28 回	卒業論文報告会	4 年生による卒業論文の発表を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
 - ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEB を活用して調べておく。
 - ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
 - ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

- ・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫
- ・ホモ・デウス 上: テクノロジーとサピエンスの未来, ユヴァル・ノア・ハラリ, 河出書房新書
- ・ホモ・デウス 下: テクノロジーとサピエンスの未来, ユヴァル・ノア・ハラリ, 河出書房新書

【成績評価の方法と基準】

授業の参画状況 (80%)、プレゼンテーション (10%)、レポート (10%) を総合して判断する

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に学生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業終了時に、次回の予告を行うことで、自宅での学習機会を増やすことにつなげる。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することがのがましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。
それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 40 分～ 18 時 30 分の 100 分を設ける。
オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることがのがましい。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース
人間文化コース

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is conducted as the seminar, emphasizing in the small group discussion.

Students are supposed to be knowledgeable enough to participate in this workshop. Therefore students' preparation for this seminar is essential as well as their positive attitude and active involvement are required. By completing this workshop, students are expected to learn and improve the awareness of health and self-medication, which enable them to create an appropriate decision making and take an action accurately for the health-related issues.

【Learning Objectives】

Understand information literacy.

Explore and collect information.

Select a topic and conduct preliminary research.

To be able to search for relevant literature in databases.

To be able to summarize and present the content.

To be able to discuss in a group.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Participation in class activities (not attendance) : 80%

2) Presentations:10%

3) Assignments and reports : 10%

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

ART400HA

研究会 A

板橋 美也

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：【グ】【文】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術・デザインと持続可能な社会

【到達目標】

美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを理解すること。そして、それを踏まえて、現代社会の課題と、それに対して何がなされているのか・なされるべきかについて、自分の考えを持つことができるようになること。クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

美術・デザイン・ファッション・建築は、ただ「美しさ」や「センスの良さ」を競うだけのものではなく、人々の生活や社会と分かちがたく結びつき、近代化・産業化・消費文化の功罪、グローバル化の中での異文化受容など、その時々々の様々な課題を反映してきました。持続可能な社会の実現のために、美術・デザイン・ファッション・建築等を通してどのような試みがなされてきたのか、そして現在されているのか、一緒に探求します。具体的には、以下のような学習を行います。

(1) 指定したテキストやテーマに関する発表・ディスカッション・グループワークなどを通して、美術・デザイン・ファッション・建築等が社会の様々な課題をどのように反映し、その課題にどのように向き合ってきたのかを考えます。

(2) 発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。

* (1)(2) いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

(3) 場合によっては美術館または建築物などを見学に行く機会を設けたいと思います。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の内容、進め方についての説明
第2回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第3回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第4回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第5回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第6回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第7回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等

第8回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第9回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第10回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第11回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第12回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第13回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第14回	春学期のまとめ	春学期に学んだことを復習・秋学期の内容と進め方についての説明
第15回	4年生による研究紹介	4年生が各自行っている研究に関する短い発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第16回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第17回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第18回	共通テキスト/テーマ	発表・ディスカッション・グループワーク等
第19回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第20回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第21回	4年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第22回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第23回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第24回	3年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第25回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第26回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第27回	2年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第28回	1年間のまとめ	1年間で学んだことを復習・総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献をよく読んだり、与えられたテーマについて下調べをするなどして、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、秋学期後半の研究発表に際しては、自らの問題意識にもとづいて主体的に調査を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点100%とし、研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）と年度末のレポートから総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

美術館見学などの学外学習は、状況（新型コロナウイルスの感染拡大状況など）が許せば、ぜひまた行いたいと思います。

【関連の深いコース】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

In this course, students think about art and design for a sustainable society. By the end of the course, students should be able to express their own opinions about how art and design should tackle various social problems and to gain skills to gather and analyze materials for their research and to give presentations on what they find in their research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be decided based entirely on their participation.

GEO400HA

研究会 A

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：【口】【サ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境にかかわる理解と考え方は、持続可能な社会を構築する鍵のひとつです。本研究会では、自然環境そのものに加え、自然環境と人間社会のかかわりあいについて、災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、自然環境が人間社会に与える影響や、人間社会のあり方を見つめなおします。

【到達目標】

自然環境の地域的差異とその要因、歴史の変遷を具体的に説明できる。
自然環境と人間社会のかかわりあい、とくに自然環境が人間社会に与える影響を具体的に記述できる。

調査法や発表法を身につける。

地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

グループワークや文献講読、個人研究などを行います。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、予測、土地条件、土地利用、ハザードマップ、災害の歴史、土地の歴史、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。自然環境にかかわる内容をひろく扱います。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明、文献検索法説明、論文作成・発表法説明
第2回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第3回	文献講読	意見交換
第4回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第5回	課題演習	机上作業
第6回	野外実習	巡検
第7回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第8回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第9回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第10回	グループワーク	意見交換
第11回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第12回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第13回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第14回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第15回	個人研究準備	テーマの設定
第16回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第17回	文献講読	意見交換
第18回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第19回	課題演習	机上作業
第20回	野外実習	巡検
第21回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第22回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第23回	時の話題	発表、質疑応答・討論

第24回	グループワーク	意見交換
第25回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第26回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第27回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第28回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
資料の収集・分析や事前調査、発表準備、発表後の整理、追加調査、とりまとめ等を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

知識や応用力、思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

【Outline (in English)】

Understanding and thinking of the natural environment is a key to improve our social sustainability. We conduct various studies on (1) the natural environment itself, and (2) the relationship between the natural environment and human society, with emphasis on natural disasters. The approaches are mainly based on physical geography. We examine the impact of the natural environment on human society and sustainability of human society.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain the natural environment from the perspective of spatial variation, mechanism, and history, (2) to explain the relationship between the natural environment and human society with emphasis on natural disasters, (3) to conduct survey and presentation, and (4) to use maps. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

LAW400HA

研究会 A

土屋 志穂

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：【G】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身につける。
卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。

学生による自主的な運営を期待する。

適宜、サブゼミを行う（読書会、映画鑑賞会等）。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際平和の追求	ガイダンス 年間計画
第2回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第3回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第4回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第5回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第6回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第7回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第8回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第9回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第10回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第11回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第12回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第13回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第14回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第15回	国際平和の追求	個人発表と討論
第16回	国際平和の追求	個人発表と討論
第17回	国際平和の追求	個人発表と討論
第18回	国際平和の追求	個人発表と討論
第19回	国際平和の追求	個人発表と討論
第20回	国際平和の追求	個人発表と討論
第21回	国際平和の追求	個人発表と討論
第22回	国際平和の追求	個人発表と討論
第23回	国際平和の追求	個人発表と討論
第24回	国際平和の追求	個人発表と討論
第25回	国際平和の追求	個人発表と討論
第26回	国際平和の追求	個人発表と討論
第27回	国際平和の追求	個人発表と討論
第28回	国際平和の追求	4年生による総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしていくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、発表担当ではない場合、各2時間が目安である。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第2版]』有斐閣、2010年。

森川幸一・兼原敦子・酒井啓亘・西村弓編『国際法判例百選 [第3版]』有斐閣、2021年。

岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

山本草二『新版 国際法』有斐閣、1994年。

岩沢雄司『国際法』東京大学出版会、2020年。

松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂、2010年。

【成績評価の方法と基準】

発表：30%

議論への参加：30%

期末レポート：30%

ゼミ運営への貢献：10%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

発表に必要なPC、機器使用のための鍵等を準備すること。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.

This class goal is to learn the ability to solve disputes.

The participants will be expected to read all materials and documents, which takes more than two hours.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

performance of presentations(30%), participation to the discussion(30%), term-end reports(30%) and in class contribution(10%).

TRS400HA

研究会 A**梶 裕史**

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：【口】【文】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、各自の現地調査を通じて事例研究を行う。現地調査（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する）で選ぶフィールドについては、特定の一か所に限らないテーマ設定のしかたもある。

【到達目標】

・「環境表象論Ⅰ、Ⅱ」の内容を、自主的な現地調査の体験によって実感的に理解する

・前年度の沖縄離島ゼミ合宿の体験や、他のゼミ生の研究発表など様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、研究成果を「共有」できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

「授業計画」の通り、参加者個々の研究発表とその後の質疑応答・ディスカッションが中心となり、教員によるフィードバックもその都度行われます。（ただし、「到達目標」に記した通り、他のゼミ生の研究とのつながりを見つけられ、「共有」できることが大切です。）毎週、教室での対面授業を予定していますが、感染状況によっては変更の可能性もあります。事前の学習支援システム等を通じたお知らせで確認してください。

なお「授業計画」に記した発表テーマ例は、コロナ以前の事例に基いた一例であり、昨年度はコロナ禍によりゼミ合宿をはじめ、宿泊型の個人フィールド調査は出来なかったため、昨年度に各自が実施した日帰り型の近場のフィールド調査研究に基くテーマになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	個人研究発表①	発表は1人30分以内程度、題材は主として昨年度の研究成果に基づき、発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第3回	個人研究発表②	(例) 竹富島の「住」と景観 その1
第4回	個人研究発表③	(例) 竹富島の「住」と景観 その2
第5回	個人研究発表④	(例) 竹富島の「住」と景観 その3
第6回	個人研究発表⑤	(例) 竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その1
第7回	個人研究発表⑥	(例) 竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その2
第8回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想①	各自、現段階の構想を簡潔に発表

- 第9回 個人研究発表⑦ (例) 竹富島の「食」の文化 その1
- 第10回 個人研究発表⑧ (例) 竹富島の「食」の文化 その2
- 第11回 個人研究発表⑨ (例) 竹富島の祭事・行事と「うつぐみ」精神
- 第12回 個人研究発表⑩ (例) 竹富島の「観光文化」の歩みと将来
- 第13回 今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想② 夏休み前の中間報告
- 第14回 個別指導 個別に提出する現地訪問計画書に基づく
- 第15回 秋学期オリエンテーション スケジュール説明、夏休み中の個人研究の各自ふりかえり等
- 第16回 個人研究発表⑪ 題材は昨年度または今年度(夏休み等)の研究成果に基づく。発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
- 第17回 個人研究発表⑫ (例) 離島のエコツーリズムと環境保全
- 第18回 個人研究発表⑬ (例) 離島の伝統芸能・祭事とアイデンティティー
- 第19回 個人研究発表⑭ (例) 港町の産業遺産(倉庫)を活用したツーリズム
- 第20回 個人研究発表⑮ (例) 宿場町の景観保全とツーリズム
- 第21回 個人研究発表⑯ (例) 農家民泊とグリーンツーリズム
- 第22回 個人研究発表⑰ (例) 里山における五感の環境教育(体験プログラム)
- 第23回 個人研究発表⑱ (例) 文芸の名作を活かしたツーリズム
- 第24回 個人研究発表⑲ (例) アニメツーリズム(フィルムツーリズム)の試み
- 第25回 個人研究発表⑳ (例) アート・ツーリズム(アートを活かした地域づくり、感性価値創造)
- 第26回 グループワーク① 個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
- 第27回 グループワーク② 前回の続きとまとめ(学生の自主作業)
- 第28回 学年末論文の構想発表(タイトル・要旨・仮目次等)と個別指導 論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・この金曜5限研究会は、新規参加の2年生および継続参加の3・4年生が履修登録対象となります。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural landscape" and ecotourism

Based on the concept of "cultural landscape", we link the viewpoints of eco-tourism, tourism culture, eco-museum and other aspects of Japanese-style ecotourism, tourism culture, and the possibility of human formation utilizing local natural and cultural assets, Conduct case studies through field surveys of their own. Regarding field to be selected in the field survey (field is decided according to their interests and voluntarily planned, including necessarily hearing survey), there are also methods of theme setting not limited to one specific place.

Goal

・ Understand the contents of "Environmental Representation Theory I and II" through the experience of voluntary field surveys.

・ From the experiences of the Okinawa remote island seminar camp in the previous year and the talks of various fields such as research presentations of other seminar students, you will be able to find a connection with your own local experience and "share" your research results.

Work to be done outside of class

Extracurricular learning is equivalent to collecting preliminary knowledge and local information in preparation for a field survey of individual research. The standard time for preparation and review is 2 hours each. Useful information exchange between seminar students outside the class (classroom). We also encourage voluntary visits in the vicinity. Third and fourth graders are required to provide guidance to second graders who are new participants as seniors.

Grading criteria

Presentation content and year-end dissertation 65%, participation attitude and cooperation / contribution within the organization such as seminars 35%

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各自、個人研究の現地調査の準備としての予備知識や現地情報の収集等が課外学習に相当します。予習・復習の時間は毎回各2時間を標準とします。授業内(教室)以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等も奨励します。3・4年生は先輩として新規参加の2年生の指導も行うことが求められます。

【テキスト(教科書)】

特に指定なし。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文 65%、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35%

【学生の意見等からの気づき】

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。

・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。

・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

EVN400HA

研究会 A

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：【口】【サ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会では都市、交通、通信、エネルギーの重要4大要素について勉強する。都市を身体に例えると交通、通信、エネルギーは臓器、神経、血液であり、相互に必要な不可欠なものである。

【到達目標】

1. 国内または国外の都市、交通運輸、情報通信、エネルギー需給について説明できる。
2. 都市、交通運輸、情報通信、エネルギー需給の課題を説明できる。
3. より良い都市、交通運輸、情報通信、エネルギー需給の在り方や政策を提案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、春学期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキスト・資料の内容	輪読するテキスト・資料の確認、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前半の取りまとめ	開始から前回までの取りまとめ
第15回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪読をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第16回	調査テーマの構想発表・討論（その1）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第1回）
第17回	調査テーマの構想発表・討論（その2）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第2回）
第18回	調査と分析（その1）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第19回	調査と分析（その2）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第20回	調査と分析（その3）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第21回	中間発表・討論（その1）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第1回）
第22回	中間発表・討論（その2）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第2回）
第23回	調査と分析（その4）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第24回	調査と分析（その5）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第25回	調査と分析（その6）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第26回	調査結果発表の準備	各自あるいは各グループによる最終発表の準備
第27回	調査結果発表	各自あるいは各グループによる最終発表
第28回	調査結果発表	各自あるいは各グループによる最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業での資料等を使用して予習・復習をすること。
 第1～14回：輪読箇所精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習
 第15回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出
 第16～17、21～22回：発表用スライドなどの作成、発表の練習
 第18～20、23～25回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析
 第26～28回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、発表本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション（50％：議論・質疑応答の良好度、到達目標1～3への到達度）、発表（50％：スライド・資料などの完成度や正確性、到達目標1～3への到達度）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

楽しく、じっくりと勉強します。また、知識を脳裏に固定化するには質問するのが一番です。わからないことは遠慮せずに質問し、スッキリさせてゆきましょう。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class is a seminar for learning about the urban/regional policies, the transportation systems, the communication networks and the energy supply/demand.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to learn about urban/regional policies, transportation systems, communication/information networks and energy supply/demand,

B. to obtain the knowledges of the problems of those in A and

C. to make suggestions for creating better environment of those in A.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

CMF400HA

研究会 A

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：【口】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会のテーマは「持続可能な地域社会の創造」である。特に、環境、経済、社会、文化、公共政策、SDGs など、多様な視点から、21 世紀における地域社会のソーシャルイノベーションについて総合的にアプローチする。また、市民、NPO、地方自治体、企業などの参加と協働に注目する。さらに、「持続可能な地域社会」について学内で探究しながら、高度な「アクティブラーニング」としての地域活動に取り組む。このような挑戦を通して、学生は、大学生としての総合的な能力を構築することをめざす。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な地域社会に関する知識を習得する。
- ・PBL といわれる教育手法により、問題発見と問題解決の能力を獲得する。
- ・調査研究と論文執筆のためのアカデミックスキルを身につける。
- ・アクティブラーニングにより、コミュニケーション力、企画運営力、協働力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流をしながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究会に組み込む。なお、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。グループおよび個人から提出された報告用ペーパーについてはその場でコメントするとともに、後日、必要に応じて、個別に追加コメントを行う。その他、事後的な感想や意見の提出と応答、課題への講評等については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「揭示版」）を活用して行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。
第 3 回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第 4 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。

第5回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第6回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第7回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第8回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第9回	共通テーマに関する調査研究	春学期に行った共通テーマに関する調査研究の成果について、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第10回	共通テーマに関する調査研究	春学期に行った共通テーマに関する調査研究の成果について、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第11回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第12回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第13回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第14回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。
第15回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第16回	共通テーマの調査研究	秋学期に行う共通テーマに関する調査研究について確認する。
第17回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第18回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第19回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第20回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第21回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第22回	共通テーマの調査研究	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第23回	共通テーマの調査研究	担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第24回	共通テーマの最終報告と総括	共通テーマについて各グループが最終報告を行った上で、提言報告書の作成に向けて、全体を総括しながら、本年度の成果を全員で共有する。
第25回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第26回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第27回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第28回	1年間のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現について検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・テキストや関連資料による予習と復習
- ・課題や地域プロジェクトへの取り組み
- ・個人テーマに関する調査研究とゼミ論文の執筆

【テキスト（教科書）】

開講時の約2週間前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点＝積極的な参加姿勢（40％）、地域プロジェクトへの貢献（30％）、課題提出とゼミ論文（30％）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特定地域に関するPBL（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義があると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステナビリティコースの学生を対象としています。したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。

このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we will approach synthetically about the social innovation of community in the 21st century from various viewpoints, such as environment, economy, society, culture, public policy, and collaboration of citizen, NPO, local government, company, etc. Furthermore, we will work on community practice as advanced "active learning", with exploring "sustainable community" within the campus. Students aim at building comprehensive abilities as undergraduates through such challenges.

At the end of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (1)Acquire knowledge of sustainable community.
- (2)Acquire problem-finding and problem-solving skills through so-called "PBL" methods
- (3)Acquire academic skills for research and writing the thesis.
- (4)Acquire communication skills, planning and management skills, and collaboration skills through active learning including community practice.

Students need to prepare and review each session by using textbooks and related materials, and to work on some assignments, some community projects in this seminar. Preparatory and review time for this seminar are 2 hours each. Students are also required to research on individual interest and write a final report.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:40%, Contribution to local project:30%,Sort assignment and final report:30%

CMF400HA

研究会 A

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：【口】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会のテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に、SDGs と 21 世紀における地域社会のソーシャルイノベーションに関する学びを基盤として、様々な地域活動を企画し実践する。また学生は、卒業論文を完成させるための調査研究を行う。この研究会の目的は、学生が、社会人として必要な能力の基礎を涵養しながら、将来のキャリアイメージを模索することである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な地域社会に関する知識を習得する。
- ・PBL といわれる教育手法により、問題発見と問題解決の能力を獲得する。
- ・調査研究と研究会修了論文執筆のためのアカデミックスキルを身につける。
- ・アクティブラーニングにより、コミュニケーション力、企画運営力、協働力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。グループおよび個人から提出されたペーパーについては、その場でコメントするとともに、後日、必要に応じて、個別に追加コメントを行う。その他、事後的な感想や意見の提出と応答、課題への講評等については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用して行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第 3 回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第 4 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 6 回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。

第 7 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 8 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本構想について検討する。
第 10 回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施プログラムについて検討する。
第 11 回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの工程について検討する。
第 12 回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 14 回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第 15 回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第 16 回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第 17 回	地域連携プロジェクトをふまえた提言作成	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言を作成する。
第 18 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 19 回	文献購読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第 20 回	文献購読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第 21 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第 22 回	文献購読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第 23 回	映像視聴と討論	共通テーマに関する映像を視聴し議論する。
第 24 回	ソーシャルイノベーション・ミニ F S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する
第 25 回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 27 回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 28 回	研究会のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現と各人の「社会人基礎力」の涵養についてふりかえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

- ・文献の事前学習。
- ・地域連携プロジェクトの企画準備。
- ・研究会修了論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

・開講時の約 2 週間前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点＝積極的な参加姿勢（40％）、地域プロジェクトへの貢献（30％）、研究会修了論文への取り組み（30％）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

PBL（問題発見・解決型学習）として、地域実践を企画運営することは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、社会的責任を体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育てていると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステナビリティコースに登録した学生を対象としています。

したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。

このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we will plan and work on community practice based on learning about SDGs and the social innovation of community in the 21st century. Moreover, students shall research for completing graduation thesis. The purpose of this seminar is for students to search for future career image, with cultivating the basic ability required as members of society.

At the end of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (1) Acquire knowledge of sustainable community.
- (2) Acquire problem-finding and problem-solving skills through so-called "PBL" methods
- (3) Acquire academic skills for research and writing graduation thesis.
- (4) Acquire communication skills, planning and management skills, and collaboration skills through active learning including community practice.

Students need to prepare and review each session by using textbooks and related materials, and to work on some assignments, some community projects in this seminar. Preparatory and review time for this seminar are 2 hours each. Students are also required to research on individual interest and write graduation thesis.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:40%, Contribution to local project:30%,Work on graduation thesis:30%

SOS400HA

研究会 A**ESTHER STOCKWELL**

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：【グ】【文】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* Mass Media Research *

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and the models of mass communication. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Hosei Learning Management System (hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of Mass Media Research
第2回	Mass Media & Society	Mass communication vs. Mass Media / Mass media industries
第3回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第4回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories

第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theories / Development of mass media effects theories	第 28 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects	Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.		
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting	Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.		
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity	【テキスト（教科書）】		
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity	There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in each class.		
第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media	【参考書】		
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes	David R. Croteau and William D. Hoynes (2015). Media/Society: Industries, Images, and Audiences (5th Edition). SAGE Publications.		
第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively	James W. Potter (2021). Media Literacy (10th Edition). SAGE Publications.		
第 14 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations	John V. Pavlik and Shawn McIntosh (2018). Converging Media: A New Introduction to Mass Communication (6th Edition). Oxford University Press.		
第 15 回	Mass Media	Quantitative analysis /	Shirley Biagi (2021). Media/Impact: An Introduction to Mass Media (12th Edition). CENGAGE Learning.		
第 16 回	Mass Media	Qualitative analysis /	【成績評価の方法と基準】		
第 17 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing	1st Semester: Assessment will consist of in-class participation (20%), a presentation (10%), a take-home exam (10%) and a written assignment (10%).		
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing	2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals (10%), a summary of pieces of literature (10%), a group presentation (10%) and a group research paper (20%).		
第 19 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others	For the 4th year students (research group):		
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others	1st Semester: Assessment will consist of a summary of five pieces of literature (20%), and a research progress report presentation (20%).		
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others	2nd Semester: Assessment will consist of a presentation of the main thesis (20%) and the main thesis (40%).		
第 22 回	Method	Data Collection / Entry data	Note that if you miss four classes or more, you cannot pass this subject.		
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data	【学生の意見等からの気づき】		
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data	There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.		
第 25 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data	【その他の重要事項】		
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data	This class is open to students who have taken グローバル コミュニケーション or 'Stockwell's ゼミ B (Human Communication) before.		
第 27 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data	【関連の深いコース】		
			グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース		
			【Outline (in English)】		
			* Mass Media Research *		

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress. Therefore, students are expected to take about four hours to prepare and review a class.

1st Semester: Assessment will consist of in-class participation (20%), a presentation (10%), a take-home exam (10%) and a written assignment (10%).

2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals (10%), a summary of pieces of literature (10%), a group presentation (10%) and a group research paper (20%).

For the 4th year students (research group):

1st Semester: Assessment will consist of a summary of five pieces of literature (20%), and a research progress report presentation (20%).

2nd Semester: Assessment will consist of a presentation of the main thesis (20%) and the main thesis (40%).

ECN400HA

研究会 A

武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：【口】【グ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2022 年度は「支援」をテーマとします。SDGs の目標 1 に掲げられている、あらゆる形態の貧困をなくす、ということを中心に、社会や人間関係における「支援」の意味を考えます。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようになることを目標とします。

特に、今年のテーマである「支援」に関しては、①「支援」にかかわる基本的な概念を理解すること、②「支援」の実情（途上国／先進国双方における）について理解すること、③「支援」と社会の関係について説明できるようになること、④効果のある「支援」とはどのようなものかについて考察し理解すること、を重要と位置付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。なお、本演習は対面開催を予定するが、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読（1）	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読（2）	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読（3）	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読（4）	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読（5）	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読（6）	「支援」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	グループディスカッション 課題 1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション 課題 2-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	グループディスカッション 課題 2-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション 課題 3-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	グループディスカッション 課題 3-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	春学期全体のまとめ、フィードバック。
第 15 回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	グループディスカッション 課題 4-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 17 回	グループディスカッション 課題 4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 18 回	グループディスカッション 課題 5-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 19 回	グループディスカッション 課題 5-2	グループ発表および全体ディスカッション

第 20 回	グループディスカッション 課題 6-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 21 回	グループディスカッション 課題 6-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 22 回	グループディスカッション 課題 7-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 23 回	グループディスカッション 課題 7-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 24 回	グループディスカッション 課題 8-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 25 回	グループディスカッション 課題 8-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 26 回	グループディスカッション 課題 9-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 27 回	グループディスカッション 課題 9-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介しますが、以下はできるだけ早く読むこと。
平田 オリザ(著)「わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か(講談社現代新書) 2012 年
阿部彩(著)「弱者の居場所がない社会——貧困・格差と社会的包摂」(講談社現代新書) 2011 年

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点(議論への積極的参加や貢献など)(70%)、期末レポート(30%)に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2020,2021 年度にオンラインで経験したことを踏まえ、ゼミ生同士のコミュニケーションをさらに深める方法やバリエーションを増やすことに留意する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン/タブレットなどを持参すること。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース、ローカル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、経済協力の実務を通じて得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This year's seminar is on "helping", putting a special emphasis on "poverty reduction" set forth in the Goal No.1 of Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic idea/concept on "helping" and to nurture their values and attitudes towards an effective measure to construct a sustainable society.

[Learning Activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are required to prepare for and review the materials introduced in each session.

Students are required to read the basic literature and the assignments given in each session. Also, read through the reference books introduced in the course as much as possible. Students will be given opportunities to actively gather in groups to discuss their assignments.

[Grading Criteria/Policy]

Grades will be based on performance in the regular session (active participation and contribution to discussions, etc.) (70%) and the final report (30%).

SOS400HA

研究会 A

辻 英史

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：【口】【文】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界と日本の生活保障——社会福祉と市民社会
グローバル化と新自由主義経済の拡大により日本を含む世界各地で格差社会が進み、多様な生き方が可能になる反面、貧困や孤立の問題が大きくなっている。

病気や加齢、失業、子育てといったライフイベントのために生活が不安定化してしまった人々を、どのように支え、地域社会やコミュニティに包摂していくのか、それぞれの社会で模索が続いている。

【到達目標】

このゼミでは、ヨーロッパおよび日本を中心に、社会的な弱者の生活を支えるために、どのような試みがおこなわれてきたのかを、それぞれの地域の事情に即して比較して考察します。

今年度は、連帯の思想を軸にさまざまな社会政策・福祉制度について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期はグループワークを積み重ね、その間に文献講読を行う。夏休みには課題図書を設定する。秋学期は課題図書の内容について確認したあと、文献講読に続いてディベートをおこなう。ゼミの前後の時間帯にグループワークやディベートの準備や、研究会修了論文など個別の研究相談のために必要に応じてサブゼミを開講する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明。
第 2 回	概説	ゼミで学ぶ内容について概説し、グループワークの分担を決める。
第 3 回	グループワーク（第 1 回）	グループに分かれて調査する。
第 4 回	グループワーク（第 1 回）	グループに分かれて調査する。
第 5 回	グループ発表（第 1 回）	グループワークの結果を発表する。
第 6 回	グループ発表（第 1 回）	グループワークの結果を発表する。
第 7 回	文献講読（第 1 回）	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 8 回	文献講読（第 1 回）	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 9 回	文献講読（第 2 回）	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 10 回	文献講読（第 2 回）	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 11 回	グループワーク（第 2 回）	グループワークをおこなう。

第12回	グループワーク（第2回）	グループワークをおこなう。
第13回	グループワーク報告（第2回）	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第14回	グループワーク報告（第2回）	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第15回	後半イントロダクション	前半の活動を総括し、後半の課題を整理する。
第16回	課題図書報告	夏休みの課題図書について発表する。
第17回	課題図書報告	夏休みの課題図書について発表する。
第18回	文献講読（第3回）	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第19回	文献講読（第3回）	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第20回	文献講読（第4回）	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第21回	文献講読（第4回）	テーマに関する発展的なテキストを購読する。
第22回	ディベートテーマ決め	ディベートのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第23回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第24回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第25回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第26回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第27回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第28回	まとめ・反省	2・3年生は1年間の学習内容を総括し翌年度の学習テーマを決める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。

また、文献講読の際は、必ず事前にテキストを読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は、毎回2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考書】

以下のほか、開講時に指示する。

- ・石塚史樹ほか『福祉国家の転換—連携する労働と福祉』旬報社、2020年。
- ・坏洋一『福祉国家』法律文化社、2012年。橘木俊詔『社会保障入門』ミネルヴァ書房、2019年。
- ・埋橋孝文編『どうする日本の福祉政策』ミネルヴァ書房、2020年。
- ・田中聡子／志賀信夫編著『福祉再考—実践・政策・運動の現状と可能性』旬報社、2020年。
- ・田中拓道『福祉政治史—格差に抗するデモクラシー』勁草書房、2017年。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論への参加（30％）、グループワーク、ディベートなどでの貢献（30％）、秋学期末のレポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

状況によりオンライン授業を実施します。自宅でZoomに接続して授業を受けることができる環境を準備してください。教室で授業をする場合も、Zoomに接続してもらうことがあります。そのときはノートPCやタブレットを大学に持ってきてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】

Seminar on social welfare, social policy and civil society in Japan and other countries.

In this seminar, we will examine how attempts have been made to support the lives of the socially disadvantaged, mainly in Europe and Japan, by comparing the circumstances of each region.

Students will be expected to prepare and review the materials introduced in each lecture. The standard preparation and review time for this class is two hours each time.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Participation in seminar discussions (30%), contribution in group work, debates, etc. (30%), report at the end of the fall semester (40%)

LAW400HA

研究会 A

永野 秀雄

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：【経】【グ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2022 年度は、英文で書かれたサステナビリティ報告書を学習します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times 1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことは」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表

第 14 回	春学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の英文 CSR に関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです (100%)。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思います。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2022 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

< Learning Objectives >

The goals of this seminar are:

- (1) to acquire the ability to write a graduation thesis in the 4th grade;
- (2) to acquire English reading comprehension; and
- (3) to learn the basics of environmental law in Japan and the United States.

In addition to the above, in order to improve basic skills, you are required to:

- (1) recite conversational sentences in NHK radio course titled Business English for Global Competence;
- (2) translate of the first page of the Japan Times;
- (3) memorize "Today's Words" on Nikkei newspaper; and
- (4) shadow PBS broadcasting programs.

Students are also encouraged to obtain the following qualifications: (1) Fundamental Information Technology Engineer Examination and (2) EIKEN Grade Pre-1.

< Learning Activities outside of Classroom >

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture. You are required to prepare for presentations at lectures, complete sub-seminars assignments. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (100%). If you are absent three times or more in both the spring and fall semesters, or if you do not prepare for presentations or do assignments, you will not be able to earn credits.

LAW400HA

研究会 A

永野 秀雄

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：【経】【グ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2022 年度は、英文で書かれたサステナビリティ報告書を学習します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times 1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことは」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、基礎情報技術者試験、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

なお、この授業は、対面授業として行われる予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表

第 14 回	春学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の英文 CSR に関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです（100%）。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることができません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思えます。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

< Course Outline >

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2022 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

< Learning Objectives >

The goals of this seminar are:

- (1) to acquire the ability to write a graduation thesis in the 4th grade;
- (2) to acquire English reading comprehension; and
- (3) to learn the basics of environmental law in Japan and the United States.

In addition to the above, in order to improve basic skills, you are required to:

- (1) recite conversational sentences in NHK radio course titled Business English for Global Competence;
- (2) translate of the first page of the Japan Times;
- (3) memorize "Today's Words" on Nikkei newspaper; and
- (4) shadow PBS broadcasting programs.

Students are also encouraged to obtain the following qualifications: (1) Fundamental Information Technology Engineer Examination and (2) EIKEN Grade Pre-1.

< Learning Activities outside of Classroom >

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture. You are required to prepare for presentations at lectures, complete sub-seminars assignments. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class contributions (100%). If you are absent three times or more in both the spring and fall semesters, or if you do not prepare for presentations or do assignments, you will not be able to earn credits.

SOC400HA

研究会 A

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：【経】【口】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をとおして労働環境を考える。

【到達目標】

本研究会での学習や作業をとおして、学生たちが卒業後就職してからかかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや個別研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識の習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告し、それに基づいて議論する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果をレジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。コロナ感染状況によって大学の行動方針に変更が生じ、授業実施方法にも変更が生じた場合、その詳細は学習支援システムで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか等について考える。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム 伝統と変化1	日本的雇用システムの特徴と歴史について学ぶ。この回ではいわゆる終身雇用に焦点を当て、歴史的な変化についても学ぶ。
第5回	日本の雇用システム 伝統と変化2	日本的雇用システムのなかの年功制（賃金と昇進）に焦点を当て、歴史的な変化も踏まえて学ぶ。
第6回	日本の雇用システム 伝統と変化3	日本の企業内組合は海外では見られない、最も日本的な社会システムのひとつだといつてよい。この回ではその特徴についてみていく。
第7回	日本の雇用システムの 新たな側面	歴史的にみれば、成果主義の雇用管理（賃金と昇進）は日本の雇用システムのなかの新しい側面といつてよい。この回ではそれについて学ぶ。

第8回	日本の雇用システムと ジェンダー	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされ、海外諸国との比較でもそれが指摘されている。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システムと 非正規雇用、格差	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここではなぜ非正規雇用が増大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	日本の雇用システムと 労働時間（1）	日本の労働時間は長いと言われ、実際、いまだに過労死や過労自殺がおこっている。ここでは日本の労働時間の実際をみる。
第11回	日本の雇用システムと 労働時間（2）	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。原因は何か、それに対して政府や企業はどのような対策を講じているのか等について学ぶ。
第12回	レポートの途中経過の 提示とコメント	学生は80%完成したレポートの途中経過を提示する。レポートの書き方で説明した注意事項にしたがって構成され、書かれているかをチェックし、コメントする。
第13回	障がい者の就職支援と 雇用	障害者差別解消法施行以前からの、障がい者の就職や雇用の実態と現状について学ぶ。
第14回	大学生の就職1（日本の 就職の特徴）	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第15回	大学生の就職2（グ ローバル人材）	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、いま企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用や育成の実態はどうか等について考える。
第16回	日本の雇用システムの特 徴	日本の雇用システムの特徴をまとめて整理し、トータルに理解できるようにする。
第17回	秋学期のテーマの確認	春学期での学びをもとに各自がおこなう個別テーマを確認し、研究の進め方等について個別にアドバイスをする。
第18回	研究の進め方とレポー トの書き方	各自が読んだレポートの書き方の新書を参考に、改めてレポートの書き方の形式や引用の仕方等について学ぶ。
第19回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第20回	学生による研究発表2	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第21回	学生による研究発表3	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。

- 第 22 回 学生による研究発表 4 学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
- 第 23 回 学生による研究発表 5 学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
- 第 24 回 学生による研究発表 6 学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
- 第 25 回 学生による研究発表 7 学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
- 第 26 回 レポートの途中経過報告 学生は 80 %程度完成したレポートの途中経過を報告し、修正や追加についての指示を受け、完成に向けての作業の指針とする。
- 第 27 回 学生による研究発表 8 学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
- 第 28 回 完成版レポートの提出 完成版のレポートを提出。最終チェックを受け、マイナーな修正指示があればそれにしたがって完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントを加えたりして、意見を言えるようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。夏期休暇中の課題：夏期休暇中に後期発表の計画を立てて、教員に提示する。夏期のゼミ合宿を行う場合はそこで行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

春学期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は開講時に指示する。労働環境論 I および II で使った副教材はゼミでも参考資料として使う。

秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣ブックス、2012 年、2310 円。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 各種課題の提出状況、授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容、6. その他の平常点（含出席）等を加味して総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

【関連の深いコース】

関連の深いコースは「サステイナブル経済・経営コース」と「ローカル・サステイナビリティコース」です。コースについては履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

[Outline and objective]

Thinking about work environment through work and jobs.

[Objective]

The objective of this subject is to provide students with a chance to think about work environments through daily working life after graduation. For that, students will study about various issues relating to employment, discuss about them, make a presentation in class and write a final essay. By so doing, students will learn the way of thinking about things logically and perform work smoothly as planned and in compliance with the law.

[Goal]

Through the study in this seminar, it aims at students learning how work is performed and what work environment should be. The seminar also aims at students becoming able to think about things logically. As a milestone in the process, students will be supposed to read materials provided, participate in class discussion, make a presentation at least once in each semester and submit an essay in each semester.

[Preparation etc.]

Students must have read materials provided in class in advance. In the Spring Semester, students will have read materials, checked what they did not well understand, should be ready to ask questions in the next session or make comments in the session. There will be a homework in the summer holidays, that is choosing a topic that students will study by themselves, make a presentation in class in the Autumn Semester and write a final essay about. They should talk to the lecturer about whether the selected topic is proper as a topic for a final essay. If a study camp is planned during the summer holidays, the choice of a topic for the final essay will be discussed. The supposed study hours for this subject before and after each session are two.

[Grading Criteria]

Assessment will be made taking into consideration various elements such as attendance, participation in class discussion, presentation in class, contents of a resume prepared for the presentation, submission of homeworks and a final essay in each semester. Assessment will be made by putting all of these together and it accounts for 100% of marking.

SOC400HA

研究会 A

西城戸 誠

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 6/Tue.6

備考（履修条件等）：【口】コースのみ履修可

秋学期火 5 の C3022 研究会 A と同じ授業のため年間で履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原発避難者に対する生活再建支援拠点の調査を実施するか、各自が関心を持ったテーマに関する社会調査を実施した上で、社会学的な実証的な研究論文を執筆する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

社会学的な実証研究の論文、報告書を作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、3つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と並行しながら、テーマに関連した現地視察を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第 2 回	文献購読 (1) : 前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 3 回	文献購読 (2) : 前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 4 回	文献購読 (3) : フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 5 回	文献購読 (4) : フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 6 回	文献購読 (5) : フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 7 回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第 8 回	調査グループの設定、テーマの選定 (1)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 9 回	調査グループの設定、テーマの選定 (2)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 10 回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第 11 回	調査準備・予備調査 (1)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。

第 12 回	調査準備・予備調査 (2)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 13 回	調査準備・予備調査 (3)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 14 回	調査準備・予備調査 (4)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 15 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第 16 回	各グループにおける調査 (1)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 17 回	各グループにおける調査 (2)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 18 回	各グループにおける調査 (3)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 19 回	各グループにおける調査 (4)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 20 回	各グループにおける調査 (5)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 21 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第 22 回	各グループにおける調査 (6)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 23 回	各グループにおける調査 (7)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 24 回	各グループにおける調査 (8)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 25 回	発表・報告書作成 (1)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 26 回	発表・報告書作成 (2)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 27 回	発表・報告書作成 (3)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 28 回	発表・報告書作成 (4)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。関連文献の講読やフィールドワークを課す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』岩波新書（2020 年）
上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま新書（2018 年）

【参考書】

随時、指定する

【成績評価の方法と基準】

授業やフィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to cultivate the ability to write an empirical sociological research paper after conducting a survey of support centers for rebuilding lives for nuclear power plant evacuees or conducting a social survey on a topic of interest to each student.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to produce a sociological empirical research paper or report.

【Learning activities outside of classroom】 Students are required to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Reading of related literature and fieldwork will be required. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Evaluation will be made comprehensively based on the attitude of participation in class and fieldwork, and the contents of presentations and research reports.

SOC400HA

研究会 A

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：【口】コースのみ履修可

春学期火 6 の C3022 研究会 A と同じ授業のため年間で履修すること。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原発避難者に対する生活再建支援拠点の調査を実施するか、各自が関心を持ったテーマに関する社会調査を実施した上で、社会的な実証的な研究論文を執筆する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

社会的な実証研究の論文、報告書を作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、3つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と並行しながら、テーマに関連した現地視察を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第 2 回	文献購読 (1) : 前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 3 回	文献購読 (2) : 前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 4 回	文献購読 (3) :	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドに関連する文献講読
第 5 回	文献購読 (4) :	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドに関連する文献講読
第 6 回	文献購読 (5) :	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドに関連する文献講読
第 7 回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第 8 回	調査グループの設定、 テーマの選定 (1)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 9 回	調査グループの設定、 テーマの選定 (2)	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 10 回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第 11 回	調査準備・予備調査 (1)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。

第12回	調査準備・予備調査 (2)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第13回	調査準備・予備調査 (3)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第14回	調査準備・予備調査 (4)	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第15回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第16回	各グループにおける調査 (1)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第17回	各グループにおける調査 (2)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第18回	各グループにおける調査 (3)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第19回	各グループにおける調査 (4)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第20回	各グループにおける調査 (5)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第21回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第22回	各グループにおける調査 (6)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第23回	各グループにおける調査 (7)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第24回	各グループにおける調査 (8)	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第25回	発表・報告書作成 (1)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第26回	発表・報告書作成 (2)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第27回	発表・報告書作成 (3)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第28回	発表・報告書作成 (4)	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。関連文献の講読やフィールドワークを課す。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』岩波新書（2020年）
上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま新書（2018年）

【参考書】

随時、指定する

【成績評価の方法と基準】

授業やフィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to cultivate the ability to write an empirical sociological research paper after conducting a survey of support centers for rebuilding lives for nuclear power plant evacuees or conducting a social survey on a topic of interest to each student.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to produce a sociological empirical research paper or report.

【Learning activities outside of classroom】 Students are required to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Reading of related literature and fieldwork will be required. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Evaluation will be made comprehensively based on the attitude of participation in class and fieldwork, and the contents of presentations and research reports.

HIS400HA

研究会 A

根崎 光男

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：【口】【文】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境研究

巨大都市・江戸の町にみられる諸相（名所巡り・動物飼育など）を調査・研究し、その特徴を文献・フィールドの調査を通して考え、指定したあるいは自らの設定した課題を解決する力を養う。そのために、歴史資料の読解、古文書の解説などを行い、実践的な環境史研究を進める。

【到達目標】

環境史研究のための教養を身につけ、また歴史資料や古文書の読解力を深めて研究を前進させ、自らが設定した課題の解決に向けた取り組みや判明した事柄を説明できる。この延長線上に研究会修了論文を提出できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面による演習形式で行う。そのなかで、授業内での発表、課題解決型学習、校外学習を行う。レポート提出後の授業で、提出されたレポートからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本研究会の目標の周知と環境史研究の方法を学ぶ
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 4 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 5 回	大学周辺フィールド調査①	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える
第 6 回	調査研究のグループ発表①	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 7 回	調査研究のグループ発表②	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 8 回	古文書解読①	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う
第 9 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 10 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 11 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 12 回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 13 回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う

第 14 回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第 15 回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う
第 16 回	大学周辺フィールド調査②	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える
第 17 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 18 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 19 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第 20 回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 21 回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第 22 回	古文書解読②	指定した古文書を解読・分析し、討論を行う
第 23 回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 24 回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 25 回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 26 回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 27 回	特定テーマ研究発表⑤	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第 28 回	特定テーマ研究発表⑥	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。配付した歴史史料・古文書を事前に解読・分析する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ発表・個人発表による年間 4 回のレポート提出 (40 %)、発表の態度・内容 (20 %)、平常点 (30 %)、貢献度 (10 %) により総合的に評価する。発表・レポートは研究への取り組み状況と進展状況に応じて、平常点は授業における積極的な関わりの度合い、貢献度は特に本授業運営での貢献によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えること。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】

(Course outline)

Investigates various aspects(e.g. visiting showplaces and feeding animals)of the city of Edo, and we will think about the characteristics of them through literature reviews and field surveys.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquisition of reading comprehension of historical materials, ability to solve problems, and progress of practical Japanese environmental history research. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports:40%,Presentation:20%,Participation:30%,and in-class contribution:10%

MAN400HA

研究会 A

長谷川 直哉

配当年次/単位：2～4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：【経】【口】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代企業論、ビジネスヒストリー、CSR 論 I・II で習得した知識をベースに、「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する答えを見出すため、持続可能な社会で求められる企業とは何かについて考えます。SDGs（持続可能な開発目標）、パリ協定（脱炭素）、CSR（企業の社会的責任）、Business Ethics（企業倫理）等のテーマを中心に、サステナブル社会で人々から共感される理想の企業像とは何かを学びます。

【到達目標】

SDGs や ESG 投資の視点から、社会変革をリードし持続可能な社会の構築に貢献できる企業について実証的アプローチによる研究を行い、4年生は研究会修了論文、2・3年生は日経ストックリーグのレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、SDGs および ESG 投資に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は複数のチームを編成し、日本経済新聞社が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは SDGs への取り組み、財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの ESG 投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方 日経ストックリーグ 日経ストックリーグの概要 研究会修了論文 卒業論文の執筆スケジュール
第 2 回	企業と社会に関する文	担当者による報告と全体討議 献講読①
第 3 回	企業と社会に関する文	担当者による報告と全体討議 献講読②
第 4 回	企業と社会に関する文	担当者による報告と全体討議 献講読③
第 5 回	企業と社会に関する文	担当者による報告と全体討議 献講読④
第 6 回	ストックリーグ	テーマの方向性について報告と全体討議 第 1 回テーマ報告
第 7 回	ESG 投資に関する文	日経ストックリーグ優秀論文のレビュー 献講読①
第 8 回	ESG 投資に関する文	担当者による報告と全体討議 日経ストックリーグ優秀論文のレビュー 献講読②
第 9 回	コーポレートガバナンスに関する文献購読①	担当者による報告と全体討議 コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 献講読①

第10回	コーポレートガバナンスに関する文献購読②	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と全体討議
第11回	ストックリーグ 第2回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告と全体討議
第12回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読①	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と全体討議
第13回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読②	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と全体討議
第14回	ストックリーグ 第3回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第15回	ストックリーグ グループ中間報告①-1	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第16回	ストックリーグ グループ中間報告①-2	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第17回	研究会修了論文の中間報告<1>	論文テーマ・論文構成の発表
第18回	ストックリーグ活動① (データ分析)	チーム活動の報告
第19回	ストックリーグ活動② (データ分析)	チーム活動の報告
第20回	ストックリーグ活動③ (企業訪問)	企業ヒアリングの結果報告
第21回	ストックリーグ グループ中間報告②	ポートフォリオ選定作業の状況報告
第22回	ストックリーグ活動④ (企業訪問)	企業ヒアリングの結果報告
第23回	ストックリーグ活動⑤ (企業訪問)	企業ヒアリングの結果報告
第24回	ストックリーグ活動⑥ (企業訪問)	企業ヒアリングの結果報告
第25回	ストックリーグ グループ中間報告③	ポートフォリオの完成 レポート内容の報告
第26回	研究会修了論文の中間報告<2>	論文構成・内容の予備報告
第27回	ストックリーグ活動⑦	レポート執筆状況の報告
第28回	ストックリーグ活動⑧	レポート完成稿の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの発表資料や適宜紹介される文献・資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。企業のSDGs活動、財務分析、企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021年

日本経営協会／長谷川直哉著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶESG経営』文真堂, 2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂, 2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文真堂, 2016年

日経エコロジー編『ESG経営ケーススタディ 20』日経BP社, 2017年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容

日経ストックリーグレポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI(社会責任投資)ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG(非財務)側面を評価する手法を開発しました。現在は東証1部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト(CMA)

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319号』2021年

【Outline (in English)】

Based on the knowledge acquired in Contemporary Corporate Theory, Business History, and CSR I and II, students will discuss the ideal company in a sustainable society.

Students will build a portfolio and prepare a stock league report on themes such as SDGs (Sustainable Development Goals), Paris Agreement(Decarbonization), CSR (Corporate Social Responsibility), and Business Ethics.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the final report (70%) and presentation (30%).

LIT400HA

研究会 A

日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：【口】【文】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・正岡子規の書簡、紀行文、評論、随筆等を読み、そこから浮かび上がってくる問題を考える。
- ・子規と交友のあった人々、同時代を生きた人々の作品を合わせ読む。
- ・子規たちが受けた近代初期の教育について考える。

【到達目標】

- ・正岡子規を中心にした人々の豊かな人間関係を知る。
- ・俳句、短歌、漢文脈の文献を読む力を養う。
- ・明治時代の旅の実態について理解を深める。
- ・各自テーマを設定してレポートや論文を執筆し、文章を書く力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・最初の授業で関連する基本文献を紹介する。また本年度の基本テキストを決め、担当箇所を各自に割り当てる。担当者は割り当てられた文章、および関連する文献について可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論する。
- ・テキストを輪読する過程で、各自の研究テーマを決め、最終レポートや研究会修了論文の執筆に結びつける。
- ※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
- ※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。
- ※大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	子規山脈	子規についての説明。テキストの説明。参考文献の紹介。
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	文献講読	テキスト輪読
第 6 回	文献講読	テキスト輪読
第 7 回	文献講読	テキスト輪読
第 8 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 9 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 10 回	文献講読	テキスト輪読
第 11 回	文献講読	テキスト輪読
第 12 回	文献講読	テキスト輪読
第 13 回	文献講読	テキスト輪読
第 14 回	文献講読	テキスト輪読
第 15 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第 16 回	文献講読	テキスト輪読
第 17 回	文献講読	テキスト輪読
第 18 回	文献講読	テキスト輪読

第 19 回	文献講読	テキスト輪読
第 20 回	文献講読	テキスト輪読
第 21 回	文献講読	テキスト輪読
第 22 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 23 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 24 回	文献講読	テキスト輪読
第 25 回	文献講読	テキスト輪読
第 26 回	文献講読	テキスト輪読
第 27 回	文献講読	テキスト輪読
第 28 回	総合討論	年間の研究活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
- ・各自に割り当てた基本テキストの担当箇所について、可能な限り調べ、発表の準備をする。
- ・各自テーマを決め、それに関する資料を収集する。
- ・レポートや論文を執筆する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、発表内容） 70 %

最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

研究会修了論文に関して、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the work of Masaoka Shiki. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term paper (30%), in-class contribution(70%).

ART400HA

研究会 A

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：【口】【文】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

【到達目標】

1. 地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
2. 基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
3. 文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行います。春学期後半には、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期の前半は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読します。秋学期後半には、「劇場」について講義・ディスカッションを行います。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 能・狂言（講義・討論）	1年間の流れを概説します。また、春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。 能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視聴覚効果の特徴などを講義します。映像資料について意見交換します。
第 2 回	歌舞伎（講義・討論）	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」・「世話物」・「所作物」について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第 3 回	文楽（講義・討論）	文楽と歌舞伎を対照的に考察します。映像資料について意見交換します。
第 4 回	伝統芸能のまとめ	伝統芸能各ジャンルの関連性について学びます。話芸にも言及します。
第 5 回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第 6 回	現代演劇 1：翻訳劇の導入から日本の現代劇へ（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家・演者について講義を行います。映像資料について意見交換します。

第 7 回	現代演劇 2：前衛劇・パフォーマンス（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家・演者について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第 8 回	現代演劇 3：同時代の日本演劇（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家・演者について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第 9 回	民俗芸能（講義・討論）	日本の民俗芸能について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第 10 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（1）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 11 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（2）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 12 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（3）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 13 回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（4）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第 14 回	春学期の総括	春学期に学んだことを振り返り、ディスカッションを行います。
第 15 回	秋学期オリエンテーション 文献講義・討論（『劇場空間の源流』1）	課題書 2冊を紹介し『文化政策の展開』各章の担当者を決めます。文献講義・討論は、『劇場空間の源流』第 1 章「生成する劇場空間」
第 16 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』1）	1. 国の文化政策 2. 自治体文化行政の誕生と行政の文化化
第 17 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』2）	3. 公立文化施設
第 18 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』3）	4. 文化経済学 5. 文化政策飛躍の時代— 1990年代以降
第 19 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』4）	6. アーツ・マネジメント 7. 多様化する事業主体
第 20 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』5）	8. 多様化する芸術表現
第 21 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』6）	9. アートフェスティバル 10. 場の記憶にこだわるアート 11. 文化による地域再生の時代 (1) — 1990年代まで
第 22 回	文献輪読・討論（『文化政策の展開』7）	12. 文化による地域再生の時代 (2) — 2000年代以降 13. 創造経済、創造産業 14. 世界に広がる創造都市政策 15. 創造都市形成へ向けた政策
第 23 回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』2）	第 2 章「祭りから歌舞伎小屋へ」
第 24 回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』3）	第 3 章「リアルからメタフィジカルへ」
第 25 回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』4）	第 4 章「オペラ劇場におけるオーケストラビートの存在感」
第 26 回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』5）	第 5 章「活動と呼応する距離感」
第 27 回	文献講義・討論（『劇場空間の源流』6）	第 6 章「日本の劇場創成期」 第 7 章「劇場のモダンデザイン」
第 28 回	総括	2022年度のゼミを振り返り、講義・文献講読・舞台芸術鑑賞レポートの各項目と相互の関係について、ディスカッションとフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料・URL等を使用して予習・復習を行ってください。

舞台芸術鑑賞レポート・文献講読の予習（発表者はスライドの準備）が重要です。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野田邦弘（2014）『文化政策の展開』学芸出版社
本杉省三（2015）『劇場空間の源流』鹿島出版会

【参考書】

青山昌文（2015）『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会
大笹吉雄（1999）『劇場が演じた劇』教育出版株式会社

舞台芸術財団演劇人会議（2005）『シンポジウム・劇場芸術の地平』
舞台芸術財団演劇人会議

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50 %

参加態度、口頭発表（テキスト輪読分と、舞台芸術鑑賞レポートの発表）

【期末レポート】50 %

春学期は、舞台芸術鑑賞レポート

秋学期は、書評レポート（『劇場空間の源流』）

【学生の意見等からの気づき】

好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

BT0309 教室での授業です。

Zoom によるリアルタイム型オンラインゼミ・サブゼミを含みます。頻繁に動画共有を行うので、使用機器（PC 利用のこと）とネットワークの安定性を事前に御確認ください。

【Outline (in English)】

We will discuss regional theatres and performing arts referring to the current Japanese situation of cultural policy and art management. Our goals include understanding cultures(mainly performing arts) specific in each local area and pursuing a subject each student will decide to specialize in. Before each class, you will be expected to have finished reading assignment(s). Presenters must prepare relevant slides to show your ideas. Your study time will be four hours for a class. Grading will be decided based on active participation(50%) and term papers(50%).

EVN400HA

研究会 A

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人学生諸兄が、各自の社会体験などを基本にして関心を有する研究テーマを決め、それについて卒業論文を書くことを目指します。

【到達目標】

4 年生に卒業論文を書くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各人が定めた研究テーマに従って、随時、発表を行い、それについて議論します。

また、ほぼ隔週で書籍を指定します。それを読んで、期日までに書評や要旨、感想などを提出してもらいます。

課題提出後の授業、または Hoppii において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は Hoppii でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	顔合わせ、自己紹介など
第 2 回	テーマ決め	何に関心があるか
第 3 回	テーマ決め	それは論文になりそうなテーマか
第 4 回	テーマ決め	どのようなデータが入手可能か
第 5 回	テーマ決め	研究は実行可能か
第 6 回	調査開始	データ収集
第 7 回	調査の実施	データ収集 1
第 8 回	調査の実施	データ収集 2
第 9 回	調査の実施	データ収集 3
第 10 回	分析	データ解析
第 11 回	分析	データ解析
第 12 回	分析	データ解析
第 13 回	中間報告準備	データとりまとめ
第 14 回	中間報告	中間報告
第 15 回	テーマの確認	卒業論文が書けそうか
第 16 回	調査の実施	データ収集 4
第 17 回	調査の実施	データ収集 5
第 18 回	分析	データ解析
第 19 回	分析	データ解析
第 20 回	論文執筆	目次案作成
第 21 回	論文執筆	目次案完成
第 22 回	論文執筆	本文執筆
第 23 回	論文執筆	本文執筆
第 24 回	論文執筆	ドラフト完成
第 25 回	論文執筆	ドラフト修正
第 26 回	報告準備	P P T 作成
第 27 回	報告	最終報告
第 28 回	論文提出	論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 年生は卒業研究を進めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。指定された図書を読んで記述までにレポートを提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく自己の体験に基づいたテーマにしてください。

【担当教員による参考文献】

1. 藤倉良（2021）長い文章の書き方 人間環境論集，第22巻，第1号，pp.23-37
2. 藤倉良（2007）研究報告ということ，人間環境論集，第7巻，第2号，pp.95-102
3. 藤倉良（2006）研究をするということ，人間環境論集，第6巻，第2号，pp.37-48
4. 藤倉良（2005）論文を書くということ，人間環境論集，第6巻，第1号，pp.81-87

法政大学リポジトリからダウンロード可能

【Outline (in English)】

Students who are working adults decide their research themes based on their social experiences. Objective is complete a graduation thesis. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Students will be evaluated based on their class participation (100%).

MAN400HA

研究会 A

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：【経】【口】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、文献調査、現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）、そして、社会実験やフィージビリティスタディを通じて、「企業や地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法について学習していくことを目的とする。

【到達目標】

経営学や会計学の視点から、企業または地域が今後も持続的に成長していくために必要とされるビジネスやその経営手法を論理的に考えながら明らかにしつつ、その結果をわかりやすく、丁寧に説明していく能力やスキルを習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①研究グループ（RG）の中の1チームに所属する（現在RGは7つあり、チームは12チームある）。

- 1) 地域再生 RG：フードバレーチーム、災害復興チーム
- 2) 地域産業振興 RG：地域ビジネスチーム A・B
- 3) CSV事業 RG：食品・飲料業界チーム、航空産業チーム、アパレル産業チーム
- 4) ヘルスケア産業 RG：安全衛生・健康経営チーム
- 5) グローバル経営 RG：ソーシャルビジネスチーム
- 6) エンターテインメント産業 RG：エンターテインメントチーム
- 7) エネルギー開発・廃棄物 RG：再生可能エネルギーチーム、フードロスチーム

②所属チームで研究計画書を作成する。この計画書をもとに行われる文献調査やアンケート・ヒアリング調査により、研究対象となる企業または地域のビジネスの現状と課題を明らかにしつつ、その課題への解決策も検討する。

③研究・調査の進捗状況や成果については、異なるチームとの意見交換や中間報告・最終報告を行うとともに、研究・調査レポートまたは研究会修了論文も作成する。

※研究会は対面で実施する。

※研究会では、各チームメンバーのさらなるレベルアップのために、大学院生や事業関係者へのプレゼンテーションを始め、学会、インゼミ、企業イベント、エコプロなどへの参加、合宿（特別ゼミ）なども実施予定である。

※課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。
	研究・調査の目標設定	また、チームを作り、その中で各自の1年間の目標を検討し、設定する。
第2回	研究・調査やその成果報告の方法（A）	文献を用いた研究とその成果報告に関する方法を説明する。

第3回	研究・調査のテーマと方法に関する報告	各チームが行う研究・調査のテーマと方法について報告し、決定する。	第24回	研究・調査報告⑭	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第4回	研究・調査の方向性とその内容に関する検討	各チームで1年間の研究・調査の方向性とその内容を検討する。	第25回	研究・調査報告⑮	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第5回	研究・調査報告①	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。	第26回	研究・調査報告⑯	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第6回	研究・調査報告②	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。	第27回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー（行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等）の講義とその内容に関する討論を行う。
第7回	研究・調査報告③	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。	第28回	総括－最終報告－	今年度取り組んだ研究・調査や春学期に作成した計画書（レポートあるいは（小）論文）に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第8回	研究・調査報告④	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。			
第9回	研究・調査報告⑤	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。			
第10回	研究・調査報告⑥	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。			
第11回	研究・調査報告⑦	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。			
第12回	研究・調査報告⑧	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。			
第13回	研究・調査やその成果報告の方法（B）	アンケート調査およびヒアリング調査とその結果報告に関する方法について説明する。			
第14回	研究・調査計画書の作成方法	これまでの研究・調査の成果を整理する計画書の作成方法について説明する。			
第15回	研究・調査計画書の報告（中間報告）（A）	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。			
第16回	研究・調査計画書の報告（中間報告）（B）	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。			
第17回	研究・調査に関する映像資料の視聴	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。			
第18回	製品・商品の生産・販売店の調査	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。			
第19回	研究・調査報告⑨	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。			
第20回	研究・調査報告⑩	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。			
第21回	研究・調査報告⑪	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。			
第22回	研究・調査報告⑫	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。			
第23回	研究・調査報告⑬	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。			

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力を身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）とともに、報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。

【参考書】

各チームメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ①討論への参加（発言内容）（20%）
- ②報告用配布レジュメの内容（20%）
- ③報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ④研究・調査レポート、研究会修了論文（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生の意見や要望などを考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to learn the method of business design for sustainable growth of the region based on literature survey, field survey, and feasibility study.

② Learning Objectives

Thought this seminar, students are able to logically discuss sustainability management system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the seminar, using the materials introduced in seminar. Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 20%
- 2) Content of the resume : 20%
- 3) Content of the research/survey presentation : 30%
- 4) Research/survey report, thesis at the end of the seminar : 30%

ENV400HA

研究会 A

松本 倫明

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考 (履修条件等)：【口】【サ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「地球温暖化とその周辺」

地球環境 / 地球温暖化対策 / 省エネ / エネルギー問題 / エコ技術など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

【到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。たとえば温暖化政策や温暖化対策と称しているものが本当に正しいか、これらを検証する力を身につけることを目標とします。そのために、客観的に事実やデータにもとづいて定量的に解析し、考察する力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

最近の活動内容は以下の通りです。2022 年度の全体テーマはゼミ内の話し合いで決めます。

「環境速報」(通年) … 環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。「文献輪講」(前期) … 地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。近年では、IPCC 評価報告書、エネルギー白書、原子力・自然エネルギーに関する書籍、科学技術社会論 (STS) の書籍、省庁発行の資料、環境白書を輪講しました。

「研究報告」(後期) … 個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。「グループワーク」(逐次) … 特定のテーマについてグループで研究します。近年では、環境展における企業研究、文献調査、キャンパスの放射線量調査を行いました。

「報告書」(年度末) … 1 年間の成果をまとめた報告書を提出します。4 年生は研究会修了論文 (卒論) を提出します。

必要に応じてサブゼミを火曜 6 限に行うことがあります。上記の他に親睦会などが行われます。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第 2 回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。 グループワークを話し合います。
第 3 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講 (前半) の議論をします。
第 4 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の議論をします。
第 5 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の発表準備をします。
第 6 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講を発表します。
第 7 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の発表の振り返りをします。
第 8 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講 (後半) の議論をします。

第 9 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の議論をします。
第 10 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の発表準備をします。
第 11 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講を発表します。
第 12 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。 文献輪講の発表の振り返りをしま
第 13 回	グループワーク発表 グループワーク発表	す。 春学期のグループワークの成果を 発表します。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめをします。
第 15 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 個人研究課題の選定について学び ます。
第 16 回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。 グループワークについて話し合い ます。
第 17 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 個人研究アイデアを検討します (2年生)。
第 18 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 個人研究アイデアを検討します (3年生)。
第 19 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 研究アイデアを検討します (4 年生)。
第 20 回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。 グループワーク中間報告。
第 21 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 年度末報告書と研究会修了論文の 執筆方法を学びます。
第 22 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 年度末報告書の執筆準備を行いま す。
第 23 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 年度末報告書の進捗について検討 します。
第 24 回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。 グループワーク最終報告。
第 25 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。 個人研究のまとめ方について学び ます。
第 26 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 27 回	グループワーク	グループワークの全体議論を行 います。
第 28 回	まとめ	1年間のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示をします。

【参考書】

授業中に指示をします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加姿勢（40%）、発表と議論の姿勢（30%）、年度末報告書などの提出物（30%）にもとづき総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークを充実させます。

【学生が準備すべき機器他】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動では、学外で調査を実施することがあります。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース、ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

Course outline: Seminar A focusing on climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about global warming and related issues.

Learning activities outside of classroom: Preparation for presentation. Group discussion and fieldwork. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Students will be comprehensively evaluated based on their participation in the seminar (40%), presentation and discussion (30%), and submissions such as the end-of-year report (30%).

HSS400HA

研究会 A

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 3/Mon.3

備考（履修条件等）：【サ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために
 ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2019 年には 2 万人を割ったが、若者の自殺者数は横ばいであり、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。本講義で、学生は将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、学生は職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (1)	研究発表とディスカッション (1)

第 4 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (2)	研究発表とディスカッション (2)
第 5 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (3)	研究発表とディスカッション (3)
第 6 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (4)	研究発表とディスカッション (4)
第 7 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (5)	研究発表とディスカッション (5)
第 8 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (6)	研究発表とディスカッション (6)
第 9 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (7)	研究発表とディスカッション (7)
第 10 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (8)	研究発表とディスカッション (8)
第 11 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (9)	研究発表とディスカッション (9)
第 12 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (10)	研究発表とディスカッション (1 0)
第 13 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (11)	研究発表とディスカッション (1 1)
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決 定
第 16 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (12)	研究発表とディスカッション (1 2)
第 17 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (13)	研究発表とディスカッション (1 3)
第 18 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (14)	研究発表とディスカッション (1 4)
第 19 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (15)	研究発表とディスカッション (1 5)
第 20 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (16)	研究発表とディスカッション (1 6)
第 21 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (17)	研究発表とディスカッション (1 7)
第 22 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (18)	研究発表とディスカッション (1 8)

- 第 23 回 ゼミ生による研究発表 研究発表とディスカッション（1
および問題提起に対する 9）
ディスカッション
（19）
- 第 24 回 ゼミ生による研究発表 研究発表とディスカッション（2
および問題提起に対する 0）
ディスカッション
（20）
- 第 25 回 ゼミ生による研究発表 研究発表とディスカッション（2
および問題提起に対する 1）
ディスカッション
（21）
- 第 26 回 ゼミ生による研究発表 研究発表とディスカッション（2
および問題提起に対する 2）
ディスカッション
（22）
- 第 27 回 ゼミ生による研究発表 研究発表とディスカッション（2
および問題提起に対する 3）
ディスカッション
（23）
- 第 28 回 秋学期のまとめ 秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよむこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価（50%）、通常の参加態度（50%）による総合評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

To live a healthy life in modern society

Course outline

In today's stress-filled society, the number of people living with mental disorders is very high. Stress in the work environment is also shifting and increasing due to diversification of work patterns, overwork, and problems with work-life balance. Many people suffer from lifestyle-related diseases due to irregular lifestyles, and there are many barriers to living a physically and mentally healthy life. In addition, in the rapidly changing environment of healthcare, we are required to manage our own health by accurately selecting and choosing from a flood of information. The purpose of this lecture is to provide students with the knowledge they need to maintain their health, extend their healthy life span, and achieve longevity while working in the future.

Learning Objectives

The aim of this seminar is for all students to deepen their understanding of the research theme through active discussion by students. Students will also learn presentation skills, how to facilitate the proceedings, summarize and present their opinions, and communicate with others through group discussions.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to prepare and review using the materials introduced in each presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

The overall evaluation will be based on the evaluation of the resume and the content of the presentation (50%), and the normal participation attitude (50%).

HSS400HA

研究会 A

宮川 路子

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：【サ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために
 ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2019 年には 2 万人を割ったが、若者の自殺者数は横ばいであり、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。本講義で、学生は将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、学生は職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標にしている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (1)	研究発表とディスカッション (1)

第 4 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (2)	研究発表とディスカッション (2)
第 5 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (3)	研究発表とディスカッション (3)
第 6 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (4)	研究発表とディスカッション (4)
第 7 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (5)	研究発表とディスカッション (5)
第 8 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (6)	研究発表とディスカッション (6)
第 9 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (7)	研究発表とディスカッション (7)
第 10 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (8)	研究発表とディスカッション (8)
第 11 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (9)	研究発表とディスカッション (9)
第 12 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (10)	研究発表とディスカッション (10)
第 13 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (11)	研究発表とディスカッション (11)
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (12)	研究発表とディスカッション (12)
第 17 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (13)	研究発表とディスカッション (13)
第 18 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (14)	研究発表とディスカッション (14)
第 19 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (15)	研究発表とディスカッション (15)
第 20 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (16)	研究発表とディスカッション (16)
第 21 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (17)	研究発表とディスカッション (17)
第 22 回	ゼミ生による研究発表 および問題提起に対する ディスカッション (18)	研究発表とディスカッション (18)

- 第 23 回 ゼミ生による研究発表 研究発表とディスカッション（1
および問題提起に対する 9）
ディスカッション
（19）
- 第 24 回 ゼミ生による研究発表 研究発表とディスカッション（2
および問題提起に対する 0）
ディスカッション
（20）
- 第 25 回 ゼミ生による研究発表 研究発表とディスカッション（2
および問題提起に対する 1）
ディスカッション
（21）
- 第 26 回 ゼミ生による研究発表 研究発表とディスカッション（2
および問題提起に対する 2）
ディスカッション
（22）
- 第 27 回 ゼミ生による研究発表 研究発表とディスカッション（2
および問題提起に対する 3）
ディスカッション
（23）
- 第 28 回 秋学期のまとめ 秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書をよむこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価（50%）、通常の参加態度（50%）による総合評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

To live a healthy life in modern society

Course outline

In today's stress-filled society, the number of people living with mental disorders is very high. Stress in the work environment is also shifting and increasing due to diversification of work patterns, overwork, and problems with work-life balance. Many people suffer from lifestyle-related diseases due to irregular lifestyles, and there are many barriers to living a physically and mentally healthy life. In addition, in the rapidly changing environment of healthcare, we are required to manage our own health by accurately selecting and choosing from a flood of information. The purpose of this lecture is to provide students with the knowledge they need to maintain their health, extend their healthy life span, and achieve longevity while working in the future.

Learning Objectives

The aim of this seminar is for all students to deepen their understanding of the research theme through active discussion by students. Students will also learn presentation skills, how to facilitate the proceedings, summarize and present their opinions, and communicate with others through group discussions.

Learning activities outside of classroom

Students are expected to prepare and review using the materials introduced in each presentation. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

The overall evaluation will be based on the evaluation of the resume and the content of the presentation (50%), and the normal participation attitude (50%).

ENV400HA

研究会 A

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：【口】【サ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：人間活動の特徴理解から社会を考える
「人」と「環境」の関連性について幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を学びます。特に社会に内在する廃棄物、リサイクルあるいはエネルギーなどに関する諸問題を人間活動の特徴とともに考察します。テーマ例としては、CO₂の排出と温暖化対策、プラスチックの排出と海洋汚染対策、再生可能エネルギーの可能性と政策、などがあります。現在千代田区が進めている地球温暖化対策とその有効性についても考察する予定です。科学と技術の進歩とはなにか？という視点を含めて、科学技術と社会の関連性を考えることも重要なテーマです。この他、参加者が関心を強く持っている内容についてもテーマとして取り上げる予定です。

【到達目標】

様々な社会的問題に対する政策について、地球という自然システムの概念を含めて多角的に考える力を身につけることを目標としています。また自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある表現（プレゼンテーション）を行うことができるようになることも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

著書、文献等の読み合わせ、あるいは様々な web 情報に触れることにより現在の社会的課題について考察します。本研究会で必要としている基礎についても修得するなど、研究を遂行するための準備を行います。また、特定のテーマを定め、それに関連する内容について調査し、様々な角度から話し合いを行うことにより問題を深く掘り下げます。グループによる調査と検討のほか、個人研究も行う予定です。これにより環境問題の特徴や性質を知り、様々な分野の内容を結びつけながら問題解決へ向けて考えようとするセンスが養われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間の授業計画とその打ち合わせ
第 2 回	導入ディスカッション（文献購読）	設定されたテーマに関する文献等の調査
第 3 回	導入ディスカッション（資料分析）	設定されたテーマに関する分析と検討
第 4 回	導入ディスカッション（討論）	設定されたテーマに関する総合討論
第 5 回	基礎的事項の確認（資料収集）	基礎知識を習得するための資料収集
第 6 回	基礎的事項の確認（資料の精査）	基礎知識を習得するための資料の学習
第 7 回	基礎的事項の確認（討論）	基礎知識を習得するための討論と質疑応答
第 8 回	共通テーマによる研究と報告（テーマ選定）	共通テーマによる調査と分析（テーマの選定）

第 9 回	共通テーマによる研究と報告（検討）	共通テーマによる調査と分析（分析と検討）
第 10 回	共通テーマによる研究と報告（報告）	共通テーマによる調査と分析（調査結果の報告）
第 11 回	グループ研究（テーマ選定）	グループ研究による調査と分析（調査内容の検討）
第 12 回	グループ研究（検討）	グループ研究による調査と分析（分析と検討）
第 13 回	グループ研究（報告）	グループ研究による調査と分析（発表）
第 14 回	総括	総合討論
第 15 回	個人研究（テーマ選定）	個人研究による調査と分析（調査内容の検討）
第 16 回	個人研究（調査と分析）	個人研究による調査と分析（調査）
第 17 回	個人研究（再検討）	個人研究による調査と分析（分析とさらなる検討）
第 18 回	個人研究（報告）	個人研究による調査と分析（発表）
第 19 回	個人研究（討論）	個人研究による調査と分析（総合討論）
第 20 回	卒論の中間報告（課題整理）	研究会修了論文の中間報告と質疑応答
第 21 回	卒論の中間報告（報告と討論）	研究会修了論文の中間報告と討論
第 22 回	個人研究（課題確認）	個人研究による調査と分析（課題の確認）
第 23 回	個人研究（論点確認）	個人研究による調査と分析（論点の確認）
第 24 回	個人研究（検討内容確認）	個人研究による調査と分析（さらなる検討）
第 25 回	個人研究（総合討論）	個人研究による調査と分析（総合討論）
第 26 回	卒論の最終報告（報告）	研究会修了論文の最終報告と質疑応答（発表）
第 27 回	卒論の最終報告（討論）	研究会修了論文の最終報告と質疑応答（討論）
第 28 回	総括	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準としています。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。このほかグループ研究あるいは個人研究を進めるための調査、検討、資料作成を行うこととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性 60%、レポートの提出状況（充実度）40 %により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのための PC などは各自用意してください。

【その他の重要事項】

授業は対面形式で進めていく予定です。なお、状況によってはオンライン形式に切り替えることがあります。連絡事項は学習支援システムで表示します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Discussion about environmental problems in society from a viewpoint of human actions

In this seminar we consider environmental problems caused by a result of human actions in the earth. One of the points at issue is related to the evolution of science and technology in our society. The meaning of the “progress” for us is inquired here. Policy studies are introduced here. In the spring semester, discussion with common themes will be mainly held for all members of this seminar. Reports for the individual research of us will be introduced in the autumn semester. Students should examine practical instances expanded in society and its influence to our living beforehand. In class, they report prepared contents including their own opinions and suggestion. Discussion will be made by all of participants.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have active sense to research execution. Skills of paper writing for each theme is expected to be acquired.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 60% and Mid- and End-term reports 40%.

ENV400HA

研究会 A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：【口】【サ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、地域の社会や経済との関わりを視点を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の4点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の進め方
第2回	テーマ1：グループ研究1	事前学習
第3回	テーマ1：グループ研究2	グループ討議
第4回	テーマ1：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第5回	テーマ1：グループ研究4	グループ討議
第6回	テーマ1：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第7回	テーマ1：グループ研究6	発表と総括講義
第8回	テーマ2：グループ研究1	事前学習

第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from local perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行っていただきます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加していただきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(100%)：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

GEO400HA

研究会 B

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然災害のすがたは、災害をもたらす自然現象（地震や豪雨など）、土地条件（ゆれやすさや浸水しやすさなど）、人間社会の備え（ハード面からソフト面まで）など、さまざまな側面によって決まります。本研究会では、自然災害と防災にかかわるテーマについて、主に自然地理学的な観点から考えていきます。

【到達目標】

自然災害と防災について、災害をもたらす自然現象、土地条件、人間社会の備えなどの諸側面から具体的に説明できる。
調査法や発表法を身につける。
地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献講読を中心とし、時の話題の紹介やグループ研究などにも取り組みます。自然災害と防災にかかわる話題を中心に扱います。はじめに、災害を決定づける要因とは何かを過去の災害から具体的に学ぶことで、自然災害と防災を多様な観点から理解し、さらに深めていく流れを予定しています。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	趣旨説明
第 2 回	講義	文献等検索法説明、論文の作成法・発表法説明
第 3 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 4 回	時の話題	発表、質疑応答・討論、意見交換
第 5 回	文献講読	過去の災害に学ぶ意義について
第 6 回	文献講読	意見交換
第 7 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 8 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 9 回	時の話題	発表、質疑応答・討論、意見交換
第 10 回	文献講読	意見交換
第 11 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 12 回	文献講読	意見交換
第 13 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	趣旨説明
第 16 回	グループ研究	テーマや地域の設定
第 17 回	グループ研究	調査内容の検討
第 18 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 19 回	時の話題	発表、質疑応答・討論、意見交換
第 20 回	文献講読	意見交換
第 21 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 22 回	グループ研究	発表、質疑応答・討論
第 23 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 24 回	時の話題	発表、質疑応答・討論、意見交換
第 25 回	グループ研究	発表、質疑応答・討論

第 26 回	文献講読	意見交換
第 27 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 28 回	グループ研究	発表、質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。資料の収集・分析や事前調査、発表準備、発表後の整理、追加調査、とりまとめ等を行う。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点やレポート等の総合評価（100%）

【学生の意見等からの気づき】

知識や基礎力、思考力に加え、応用力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

【Outline (in English)】

Natural disasters result from various factors such as natural phenomena that cause disasters (earthquake, heavy rain, and so on), topographic environment at each area (vulnerability for ground motion, flooding, and so on) and disaster management in each human society (from social infrastructures to human behaviors). We examine topics surrounding natural disasters and their prevention, based on physical-geographic approaches.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain natural disasters and their prevention from the perspective of natural phenomena, land conditions, and social vulnerability, (2) to conduct survey and presentation, and (3) to use maps. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on criteria including in-class contribution and reports (100%).

SOS400HA

研究会 B

齊藤 安希子

配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講semester：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：推奨するコース：【G】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、現代の様々な問題・課題を素材として、国際社会の諸問題について考える。自らの関心のあるテーマ等に沿って考えた内容を研究会で発表し、討議することにより、自身の問題意識や意見を持ち、更に、それらをアプトアプトできるようにする。また、リサーチや分析の方法などのスキルに加え、それぞれのテーマに関連する国際機構、各国間協議・交渉、アクター等についての知識を得る。

扱う問題・課題としては、例えば、貿易・投資、安全保障、紛争解決、地域、SDGs、国際ビジネス、環境、等が挙げられるが、具体的なテーマは出席者と相談して決定する。

【到達目標】

テーマに沿って、調査・研究し、クラス内で発表し、議論することで、問題発見、研究、発表する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、以下で構成する（以下のいずれかが1回に相当）：

①発表者による発表と討論Ⅰ：発表者は担当回に10~15分間程度、予め設定されたテーマに沿って発表する。その後に参加者全員で討議する。発表者以外も予めテーマに沿った資料を読み、討議に備える。また、討議にあたり必要であると思われる知識等については、講師が適宜補足する。

②発表者による発表と討論Ⅱ：発表者は自身が設定したテーマに沿って、30~45分間程度で発表する。その後に参加者全員で討論。

③講義と討論：講師による講義と参加者による討論。
上記他、参加人数に応じて、ロールプレイングを行う。
最終授業で、13回までの内容のまとめや復習を行う。
課題へのフィードバックは、主に、プレゼンテーションの場合はクラス内で、また、レポートの場合は個別に面談または書面にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講師及びメンバー間の自己紹介、研究会の進め方等の概説、各参加者の目標設定
2	国際政治・経済・社会問題について考える	講師による講義と討論
3	国際政治・経済・社会問題について考える	講師による講義と討論
4	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
5	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
6	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
7	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
8	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
9	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論

10	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
11	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
12	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
13	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
14	国際政治・経済・社会問題について考える	まとめと討論
15	国際政治・経済・社会問題について考える	講師による講義
16	国際政治・経済・社会問題について考える	講師による講義
17	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
18	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
19	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
20	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
21	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
22	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
23	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
24	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
25	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
26	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
27	国際政治・経済・社会問題について考える	発表と討論
28	国際政治・経済・社会問題について考える	まとめと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会で紹介する文献・資料等について予習・復習をすること。報告者は報告にあたり、十分な準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

都度授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

発表：50%
議論への参加：30%
レポート：20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて一部授業をオンラインとする可能性があるため、パソコンを使える環境を用意すること。

【Outline (in English)】

In this study group, we will learn about various issues in the international community. Students will read, research, present, and discuss in the class, through which students will be able to develop their own opinions of the issues and output them. In addition to skills in research and analysis, students will acquire knowledge on international organizations, inter-country consultations/negotiations, actors, etc., related to each theme.

The issues and problems to be covered could include, for example, trade and investment, security, regional issues, ESGs, and international business, but which topics to choose are subject to discussions in the class.

Learning activities outside of classroom: about 2hours/week
Grading Criteria /Policy: Presentation (50%), participation in the discussion (30%), Writing/Paper(20%)

TRS400HA

研究会 B

梶 裕史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：推奨するコース：【口】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」（訪問先＝八重山諸島）での調査・体験を活かして事例研究をおこなう。

【到達目標】

「環境表象論Ⅱ」の内容を、ゼミ合宿時の現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、この刺激で自主的にフィールドワークを計画する意欲を高めると同時に、沖縄に限らず様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を共有できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

「授業計画」に示すように、教室では同学年の共同作業（共同研究発表の準備）や個人研究発表とその後の質疑応答、意見交換など、グループワークが中心となり、教員によるフォードバックもその都度行われます。春学期は主として、夏休みに実施する沖縄離島ゼミ合宿の事前学習、秋学期は主として、合宿の成果をまとめる共同作業を行います。

毎週、教室で対面授業を行う予定ですが、感染状況によって変更になる場合もあります。事前の学習支援システム等を通じたのお知らせにより確認してください。

また、沖縄離島合宿は、感染状況によっては 22 年度秋の学祭休み期間か春休み（23 年 3 月）に延期する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、	年間スケジュールの説明等 参加者自己紹介
第 2 回	沖縄・八重山離島につ	合宿で訪問する地域について概観 いてのガイダンス 的な予備学習
第 3 回	導入課題の小発表（グ	竹富島を訪ねる旅を想定した自主 ループワーク） 企画（日帰り／1泊）
第 4 回	講義とグループワーク	竹富島の集落景観（有形部分）の ① 価値Ⅰ
第 5 回	講義とグループワーク	伝統文化継承と「観光」の両立 ② その経緯
第 6 回	講義とグループワーク	島の針路選択の成功 ③
第 7 回	講義とグループワーク	集落景観の価値Ⅱ（無形部分） ④ 祭事・行事の意義など
第 8 回	講義とグループワーク	「うつぐみの心」と観光文化（第 ⑤ 2 回からのまとめ）
第 9 回	講義とグループワーク	竹富島の「循環する自然」に即し ⑥ た生活文化
第 10 回	個別小発表	現地で調べたいテーマについて/ 合宿のグループ分け
第 11 回	講義とグループワーク	石垣島白保集落について 概観 ⑦

第12回	講義とグループワーク⑧	白保の「サンゴ礁文化継承」の地域活動について一竹富島との共通点・相違
第13回	夏合宿の打ち合わせ①	島の方々と交流するにあたっての留意事項等
第14回	夏合宿の打ち合わせ②	各自のヒアリングの質問候補の紹介・共有のグループワーク
第15回	秋学期オリエンテーション	合宿を振り返り、その成果をまとめたポスター作成（ゼミ相談会用）と共同発表に向けた打ち合わせ
第16回	共同作業① （ポスター作成）	構成（コンテンツ）、見出し、解説文、写真選定等
第17回	共同作業② （ポスター作成）	小グループ毎に、前回の細部をつめる
第18回	共同作業③ （ポスター完成）	ゼミ相談会のポイント打ち合わせ
第19回	共同作業④ （共同プレゼンの準備）	ポスター作業の収穫をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第20回	共同作業⑤ （共同プレゼンの準備）	前回到続いてポスター作業の収穫をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第21回	共同作業⑥ （共同プレゼンの準備）	レジュメ完成
第22回	共同作業⑦ （共同プレゼンの準備）	プレゼン予行練習
第23回	個人研究発表①（学年末論文作成の準備）	個別に合宿の成果を発表。1人20以内で1回2～3人程度。第1グループ （例）伝統的な食文化と健康
第24回	個人研究発表②（学年末論文作成の準備）	第2グループ （例）「住」の景観と連帯感・共同規範
第25回	個人研究発表③（学年末論文作成の準備）	第3グループ （例）祭事・芸能と共同体の規範、絆
第26回	個人研究発表④（学年末論文作成の準備）	第4グループ （例）伝統を活かすツーリズムと、破壊する観光開発（リゾート問題）
第27回	2年生共同発表	3・4年生も参加、聴講
第28回	個別論文指導	グループワークを行う中で、一人一人を呼んで教員がアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、合宿の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文 65 %、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35 %。

【学生の意見等からの気づき】

- ・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。
- ・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。
- ・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・この金曜4限研究会は、継続参加の3年生が履修登録対象になります。

【関連の深いコース】

人間文化コース、ローカル・サステイナビリティコース、

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural landscape" of the sea and remote islands and ecotourism

Based on the concept of "cultural landscape", the possibility of ecological region formation and human formation making full use of the isolated natural and cultural assets of remote islands and beaches, Japanese eco-tourism, tourism culture, eco-museum etc. perspective While linking, we conduct case studies taking advantage of surveys and experiences at "Okinawa island seminar camp" (Yaeyama Islands) where we plan and implement during the summer vacation.

Goal

To understand the contents of "Environmental Representation Theory I II" through field surveys and experiences during the seminar camp. In addition, this stimulus will motivate you to plan fieldwork independently, and at the same time, you will be able to find a connection with your own local experience from stories in various fields, not limited to Okinawa, and share individual research results.

Work to be done outside of class

Students should collect preliminary knowledge and local information to prepare for the training camp (mainly in the spring semester). Useful information exchange between seminar students outside the class (classroom). Voluntary visits in the vicinity, etc. The standard preparatory study and reviewing time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Presentation content and year-end dissertation 65%, participation attitude and cooperation / contribution within the organization such as seminars 35%.

CMF400HA

研究会 B

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エアラインとエアポートの各種業務の詳細を学び、航空交通運輸の発達と命を守ることの重責を知る。

【到達目標】

1. 空港業務と航空産業の性質と経営状況を説明できる。
2. 現代の空港業務と航空産業における課題を説明できる。
3. 空港業務と航空産業をより良好なものとするための提言ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを2冊ほど選び、各自の担当部分を決めて春学期は1冊目を、秋学期は2冊目を輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト（1）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第 2 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 3 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 4 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 5 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 6 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 7 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 8 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 9 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 10 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 11 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 12 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

第 13 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 14 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 15 回	テキスト（2）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第 16 回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 17 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 18 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 19 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 20 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 21 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 22 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 23 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 24 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 25 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 26 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 27 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第 28 回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。第 1～2 8 回：輪読箇所精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習。

本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション（50 %：議論・質疑応答の良好度、到達目標 1～3 への到達度）、発表（50 %：スライド・資料などの完成度や正確性、到達目標 1～3 への到達度）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

楽しく、じっくりと勉強します。また、知識を脳裏に固定化するには質問するのが一番です。わからないことは遠慮せずに質問し、スッキリさせてゆきましょう。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class is a seminar for learning about the airport operation and the aviation business.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to learn about the systems and policies of the airport operation and the aviation business,

B. to obtain the knowledges of the problems of the airport operation and the aviation business and

C. to make suggestions for better environment in the airport operation and the aviation business.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to investigate on their own research issues and to prepare for the presentation and discussion. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on the qualities of the presentation (50%) and the discussion (50%).

CMF400HA

研究会 B

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 2/Mon.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* Human Communication *

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Hosei Learning Management System (hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第 2 回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication /
第 3 回	Introduction of Communication Studies	Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第 4 回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?

第 5 回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?	第 25 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第 6 回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language	第 26 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 7 回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?	第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 8 回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?	第 28 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 9 回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?	<p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</p> <p>Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials. Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.</p>		
第 10 回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening	<p>【テキスト（教科書）】</p> <p>There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in each class.</p>		
第 11 回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay	<p>【参考書】</p> <p>Adler, R., & Rodman, G. (2021). Understanding Human Communication (14th Edition). New York: Oxford. Joseph A. DeVito (2018). Human Communication: The Basic Course (14th Edition). Pearson. Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2021). Human Communication (7th Edition). Boston: McGraw Hill.</p>		
第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online forum postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes. Assessment will consist of in-class participation (forum) (30%), a presentation (20%), a take-home exam (20%) and a written assignment(30%). Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.</p>		
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques	<p>【学生の意見等からの気づき】</p> <p>There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.</p>		
第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.	<p>【Outline (in English)】</p> <p>Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.</p>		
第 15 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication	<p>students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. Assessment will consist of in-class participation (forum) (30%), a presentation (20%), a take-home exam (20%) and a written assignment(30%). Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.</p>		
第 16 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships			
第 17 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships			
第 18 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups			
第 19 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups			
第 20 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture			
第 21 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication			
第 22 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network			
第 23 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication			
第 24 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process			

ECN400HA

研究会 B

武貞 稔彦

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 5/Mon.5

備考（履修条件等）：推奨するコース：【グ】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2022 年度は、「多様性」と「寛容」について考えます。現代社会では、多様な他者との共生が必要です。特に日本では、少子高齢化を背景として、労働力確保のために外国人労働者を増やす、しかし移民には消極的な政策を実施しています。そのような背景の中、実際にどうすれば多様性に富む寛容な持続可能な社会が可能になるのか、外国とつながりのある人々との共生を中心に考えていきます。持続可能な開発目標（SDGs）の Goal 17 パートナリーシップに直接関わる内容となります。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像・構想できるようになることを目標とします。

特に今年度のテーマに関しては、①「多様性」、「寛容」、「多文化共生」といった概念とその来歴について理解する、②現実の生活における「共生」と個人々の関わり（関わる出来事）を抽出し再考する、③よりよい未来のために必要な「多様性ある社会の実現」と個人の関係のあり方について何らかの考えや価値観を持つ、ということに重点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。なお、本演習は対面開催を予定するが、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて授業実施方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	何が「問題」か？	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。
第 3 回	誰にとって「問題」か？	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、誰にとって「問題」なのかについて意見交換する。
第 4 回	グループディスカッション課題 1（「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係総論）(1)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(1)
第 5 回	グループディスカッション課題 1（「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係総論）(2)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(2)
第 6 回	グループディスカッション課題 1（「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係総論）(3)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、これらと個人の関係について意見交換する。(3)
第 7 回	グループディスカッション課題 2（日本における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(1)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本における問題について意見交換する。(1)
第 8 回	グループディスカッション課題 2（日本における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(2)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本における問題について意見交換する。(2)
第 9 回	グループディスカッション課題 3（先進国における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(1)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における問題について意見交換する。(3)

第 10 回	グループディスカッション課題 3（先進国における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(2)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における問題について意見交換する。(4)
第 11 回	グループディスカッション課題 4（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(1)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(1)
第 12 回	グループディスカッション課題 4（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(2)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(2)
第 13 回	グループディスカッション課題 4（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」と「個人」との関係）(3)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、途上国における問題について意見交換する。(3)
第 14 回	「多様性／寛容／多文化共生」とは？	春学期の学びの総括を行う。
第 15 回	秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	「問題」を「解決する」とは？(1)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)
第 17 回	「問題」を「解決する」とは？(2)	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)
第 18 回	「問題」の捉え方を学ぶ	「多様性／寛容／多文化共生」に関する基礎文献を読み、「問題」の捉え方—フレミングについて学ぶ。
第 19 回	グループディスカッション課題 5（過去における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 20 回	グループディスカッション課題 5（過去における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 21 回	グループディスカッション課題 6（現代における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 22 回	グループディスカッション課題 6（現代における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 23 回	グループディスカッション課題 7（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 24 回	グループディスカッション課題 7（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 25 回	グループディスカッション課題 8（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 26 回	グループディスカッション課題 8（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(2)	グループ発表および全体ディスカッション。(1)
第 27 回	グループディスカッション課題 8（途上国における「多様性／寛容／多文化共生」）(3)	グループ発表および全体ディスカッション。フィードバックを含む。(2)
第 28 回	年間の学びの総括	「多様性／寛容／多文化共生」について理解できた点、できなかった点を整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会での議論への貢献（70 %）、期末レポート（30 %）にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍で行ったオンラインゼミの経験も踏まえ、ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを確保することと、個々人の成長の確認方法について工夫を加えたい。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力の実務に携わり、多様性に富む社会（たとえばインド、インドネシア、アメリカ）での居住／勤務経験がある。本研究会においては、それらの経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】**【Seminar Outline】**

In 2022, we will consider "diversity" and "tolerance". In modern society, we need to coexist with diverse others. Particularly in Japan, against the backdrop of a declining birthrate and an aging population, policies are being implemented to increase the number of foreign workers in order to secure a workforce, but with a reluctance toward immigration. Against this backdrop, we will consider how we can actually create a diverse, tolerant and sustainable society, focusing on coexistence with people who have ties to foreign countries. The content will be directly related to the Goal 17 partnership of the Sustainable Development Goals (SDGs).

【Learning Objectives】

Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic idea/concept "diversity", "tolerance", and "multiculturalism" and to nurture their values and attitudes towards an effective measure to construct a sustainable society.

【Learning Activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are required to prepare for and review the materials introduced in each session.

Students are required to read the basic literature and the assignments given in each session. Also, read through the reference books introduced in the course as much as possible. Students will be given opportunities to actively gather in groups to discuss their assignments.

【Grading Criteria/Policy】

Grades will be based on performance in the regular session (active participation and contribution to discussions, etc.) (70%) and the final report (30%).

SOC400HA

研究会 B**長峰 登記夫**

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：推奨するコース：【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をとらして労働環境を考える。

Thinking about work environment through work and jobs.

【到達目標】

前期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。後期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめられるようになることをめざす。こうした学習をとらして、私たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。後期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、最終的にはレポートにまとめる。したがって、前期と後期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメ作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。コロナ感染状況によって大学の行動方針に変更があり、授業の実施方法にも変更が生じた場合、その詳細は学習支援システムで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか、等について考える。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本的雇用システムの特徴について学ぶ。この回では、とくにいわゆる終身雇用に焦点を当て、その歴史的变化を見ていく。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本的雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといつてよい。企業内組合の組織や機能、海外諸国のそれとのちがい等についてみていく。

第7回	日本の雇用システム4 (成果主義的雇用管理)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5 (雇用とジェンダー)	海外諸国と比較して、日本企業で女性はより大きなハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、均等法施行以来それはどう変化してきたのか等について学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6 (非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間1 (労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。
第11回	仕事と労働時間2 (長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。原因は何か、それに対して政府や企業はどのような対策を講じているのか等について学ぶ。
第12回	レポートの途中経過の提示とコメント	学生は80%完成したレポートの途中経過を提示する。レポートの書き方で説明した注意事項にしたがって構成され、書かれているかをチェックし、コメントする。
第13回	障がい者の就職支援と雇用	障害者差別解消法施行以前からの、障がい者の就職や雇用の実態と現状について学ぶ。
第14回	レポート提出とチェック	最終レポートの提出とチェック
第15回	大学生の就職1 (日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第16回	大学生の就職2 (大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどういった問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等とおして最新の情報を確認する。
第17回	前期学習の復習1 (日本の雇用とは)	前期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第18回	前期学習の復習2 (日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第19回	学生による研究発表1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第20回	学生による研究発表2	学生による発表と質疑応答
第21回	学生による研究発表3	学生による発表と質疑応答
第22回	学生による研究発表4	学生による発表と質疑応答
第23回	学生による研究発表5	学生による発表と質疑応答
第24回	学生による研究発表6	学生による発表と質疑応答
第25回	学生による研究発表7	学生による発表と質疑応答
第26回	学生による研究発表8	学生による発表と質疑応答
第27回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第28回	レポート提出	最終レポートの提出とチェック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。前期は、毎回指定された文献資料を事前に読んでおくこと、後期は、発表予定者が事前に指示した、発表内容に関連した資料を読んで、議論に参加できるよう準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

前期は基本的に本の1章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。後期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、後期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 (改訂版)』有斐閣ブックス、2012年、2310円。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容、6. その他の平常点 (含出席) 等を加味して総合的に行う (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生が期限内に指示された作業 (レジュメ作成や報告、レポート作成等) を終えられるよう、指導する。

【関連の深いコース】

関連の深いコースは「サステナブル経済・経営コース」と「ローカル・サステナビリティコース」です。コースについては履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

The objective of this subject is to provide students with a chance to think about work environments through daily working life after graduation. For that, students will study about various issues relating to employment, discuss about them, make a presentation in class and write a final essay. By so doing, students will learn the way of thinking about things logically and perform work smoothly as planned and in compliance with the law.

【Goal】

Through the study in this seminar, it aims at students learning how work is performed and what work environment should be. The seminar also aims at students becoming able to think about things logically. As a milestone in the process, students will be supposed to read materials provided, participate in class discussion, make a presentation at least once in each semester and submit an essay in each semester.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must have read materials provided in class in advance. In the Spring Semester, students will have read materials, checked what they did not understand well, should be ready to ask questions or make comments in class. There is a homework during the summer holidays, that is choosing a topic that students will study about by themselves, make a presentation in class and write an essay in the Autumn Semester. They should talk to the lecturer about whether the selected topic is proper as a topic for a final essay. If a study camp is planned during the summer holidays, the topic of a final essay will be discussed there. The supposed study hours for this subject before and after each session are two.

【Grading criteria】

Assessment will be made taking into consideration various elements such as attendance, participation in class discussion, presentation in class, contents of a resume prepared for the presentation, submission of homeworks and a final essay in each semester. Assessment will be made by putting all of these together and it accounts for 100% of the marking.

HIS400HA

研究会 B

根崎 光男

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 5/Mon.5

備考（履修条件等）：推奨するコース：【口】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【地域環境の歴史を考える】

近世日本の地域環境について、地域の歴史を調査・研究し、その特徴を文献・フィールドの調査を通して考える。そのために、歴史史料の読解、古文書の解読、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を深める。

【到達目標】

環境史研究のための教養を身につけ、また歴史資料や古文書の読解力を深めて研究を前進させ、自らが設定した課題の解決に向けた取り組みや判明した事柄を説明できる。この延長線上に研究会レポートを提出できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式による対面授業を行う。そのなかで、授業内での発表、課題解決型学習、校外学習を行う。レポート提出後の授業において、提出されたレポートからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の説明とゼミの進め方の確認を行う。
第2回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第3回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第4回	大学周辺フィールド調査①	古地図を持って、大学周辺を探索し、地域の歴史の痕跡の意味を考える。
第5回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第6回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第7回	大学周辺フィールド調査②	古地図を持って、大学周辺を探索し、地域の歴史の痕跡の意味を考える。
第8回	史料読解のグループ学習①	指定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第9回	史料読解のグループ学習②	指定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第10回	古文書解読①	指定した古文書を解読・分析し、ディスカッションを行う。
第11回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第12回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第13回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第14回	中間発表の総括と課題の検討	中間発表を総括し、新しい課題について意見交換する。
第15回	グループの研究テーマの確認	グループ学習の研究テーマを確認し、秋学期の課題を明確にする。
第16回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第17回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。

第18回 史料読解⑦

歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。

第19回 史料読解⑧

歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。

第20回 古文書解読②

指定した古文書を解読・分析し、ディスカッションを行う。

第21回 史料読解⑨

歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。

第22回 特定テーマグループ研究発表①

設定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。

第23回 特定テーマグループ研究発表②

設定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。

第24回 古文書解読③

指定した古文書を解読・分析し、ディスカッションを行う。

第25回 特定テーマ研究発表①

各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

第26回 特定テーマ研究発表②

各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

第27回 特定テーマ研究発表③

各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

第28回 特定テーマ研究発表④

各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。配付した歴史史料・古文書を事前に読解・分析する。グループ・個人の研究テーマにかかわる文献収集・分析を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ発表・個人発表による年間4回のレポート提出(40%)、発表の態度・内容(20%)、平常点(30%)、貢献度(10%)により総合的に評価する。発表・レポートは研究への取り組み状況と進展状況に応じて、平常点は授業における積極的な関わりの度合い、貢献度は特に本授業運営での貢献によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoomに接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Examines the history of the region, and explores the characteristics of the regional environment in the early modern period of Japan through literature reviews and field surveys.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquisition of reading comprehension of historical materials, ability to solve problems, and progress of practical Japanese environmental history research.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports:40%,Announcement content:20%,Normal point:30%,and in-class contribution:10%

MAN400HA

研究会 B

長谷川 直哉

配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：推奨するコース：【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、スチュワードシップコード、コーポレートガバナンスコード、ESG投資（サステナブル投資）など企業活動の非財務情報の重要性に着目して、サステナブル社会で求められる企業像や企業価値の構成要素について学びます。

【到達目標】

証券投資理論、ESG投資の基本的知識を習得します。特定のテーマに沿って財務情報と非財務情報を使用した企業価値分析の実証的な取り組みを行ない、企業評価の基本知識とスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics（企業倫理）に関する文献の輪読を行いストックリーグに必要な知識を習得し、学外の懸賞論文に応募します。秋学期は CSR 構想インターゼミナール、日経ストックリーグに参加します。ESG 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルデータに基づく論文執筆やファンドの組成を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ゼミスケジュール	ゼミの進め方 学外の懸賞論文への応募 と CSR 構想インターゼミナール への参加方針
第 2 回	サステナビリティ経営 に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	サステナビリティ経営 に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	サステナビリティ経営 に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	サステナビリティ経営 に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	懸賞論文の中間報告①	論文テーマの方向性と問題意識つ いての報告と全体討議
第 7 回	コーポレートガバナ ンスに関する基本文献の 講読	担当者による報告と全体討議
第 8 回	デジタルトランス フォーメーションに関 する基本文献の講読	担当者による報告と全体討議
第 9 回	経営戦略論に関する基 本文献の講読	担当者による報告と全体討議
第 10 回	懸賞論文の中間報告②	論文の進捗状況報告と全体討議
第 11 回	証券投資論に関する基 本文献の講読①	担当者による報告と全体討議

第 12 回	証券投資論に関する基 本文献の講読②	担当者による報告と全体討議
第 13 回	財務分析に関する基本 文献の講読	担当者による報告と全体討議
第 14 回	懸賞論文の中間報告③	論文の進捗状況報告と全体討議
第 15 回	懸賞論文の最終報告	完成論文の発表と討議
第 16 回	CSR 構想インターゼ ミナール中間報告①	発表テーマの方向性と問題意識つ いての報告と全体討議
第 17 回	企業ヒアリング報告①	ヒアリング調査の結果報告と全体 討議
第 18 回	企業ヒアリング報告②	ヒアリング調査の結果報告と全体 討議
第 19 回	CSR 構想インターゼ ミナール中間報告②	発表内容の説明と全体討議
第 20 回	企業ヒアリング報告③	ヒアリング調査の結果報告と全体 討議
第 21 回	企業ヒアリング報告④	ヒアリング調査の結果報告と全体 討議
第 22 回	CSR 構想インターゼ ミナール中間報告③	完成稿の説明とプレゼンテーショ ンの予行演習
第 23 回	日経ストックリーグ中 間報告①	テーマとスクリーニングプロセス の報告と全体討議
第 24 回	日経ストックリーグ中 間報告②	テーマとスクリーニングプロセス の報告と全体討議
第 25 回	日経ストックリーグ中 間報告③	ポートフォリオ企業の報告
第 26 回	同志社大学とのイン ターゼミの発表準備①	発表内容の報告と全体討議
第 27 回	同志社大学とのイン ターゼミの発表準備②	発表内容の報告と全体討議
第 28 回	懸賞論文 / CSR イン ゼミ / 日経ストック リーグの結果報告	1 年間のゼミ活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミで紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。統合報告書やサステナブル報告書を読み、企業の SDGs 活動等に関する基礎知識を習得して下さい。企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜 - 時代を超えた企業家の使命』文真堂, 2021 年
日本経営協会 / 長谷川直哉『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会, 2019 年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂, 2019 年
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂, 2018 年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂, 2017 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂, 2016 年
日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社, 2017 年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)
ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容
レポート (70%)
懸賞論文、CSR 構想インターゼミナール、日経ストックリーグの取り組み内容

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネージャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 1 部上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】

<研究テーマ>

企業と社会のサステナビリティ

<主要研究業績>

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021 年 9 月 28 日)』2021 年

「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020 年 3 月 2 日～12 日)』2020 年

「社会課題と企業経営 - 企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319 号』2021 年

【Outline (in English)】

This seminar focuses on the importance of non-financial information on corporate activities, such as SDGs (Sustainable Development Goals), CSR (Corporate Social Responsibility), stewardship code, corporate governance code, and ESG investment (sustainable investment), to learn about the corporate image required in a sustainable society and the components of corporate value.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the final report (70%) and presentation (30%).

ENV400HA

研究会 A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：【グ】【サ】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の 4 点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
 - ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
 - ③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
 - ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます
- また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1：グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1：グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1：グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1：グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2：グループ研究 1	事前学習

第9回	テーマ2：グループ研究2	グループ討議
第10回	テーマ2：グループ研究3	グループ討議と中間発表
第11回	テーマ2：グループ研究4	グループ討議
第12回	テーマ2：グループ研究5	グループ討議とまとめ
第13回	テーマ2：グループ研究6	発表と総括講義
第14回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第15回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第16回	テーマ3：ディベート1	事前学習
第17回	テーマ3：ディベート2	グループ討議
第18回	テーマ3：ディベート3	ディベート第1回
第19回	テーマ3：ディベート4	グループ討議
第20回	テーマ3：ディベート5	ディベート第2回
第21回	テーマ3：ディベート6	発表とまとめ
第22回	テーマ4：個人・グループ研究1	事前学習
第23回	テーマ4：個人・グループ研究2	グループ内プレゼン
第24回	テーマ4：個人・グループ研究3	グループ討議
第25回	テーマ4：個人・グループ研究4	グループ討議と中間発表
第26回	テーマ4：個人・グループ研究5	グループ討議
第27回	テーマ4：個人・グループ研究6	発表と総括講義
第28回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from global perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってまいります。

また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してまいります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

MAN400HA

研究会 B

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：推奨するコース：【経】【グ】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。

なお、この授業は、対面授業として実施される予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英文契約書の背景 (1)	国際契約書と英語等
第2回	英文契約書の背景 (2)	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第3回	契約書の英語 (1)	接続詞、助動詞等
第4回	契約書の英語 (2)	特殊な用語法 (1)、小テスト
第5回	契約書の英語 (3)	特殊な用語法 (2)、小テスト
第6回	契約書の英語 (4)	特殊な用語法 (3)、小テスト
第7回	契約書の英語 (5)	特殊な用語法 (4)、小テスト
第8回	契約書の英語 (6)	売買契約書 (1)、小テスト
第9回	契約書の英語 (7)	売買契約書 (2)、小テスト
第10回	契約書の英語 (8)	売買契約書 (3)、小テスト
第11回	英文契約の読解 (1)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第12回	英文契約の読解 (2)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第13回	英文契約の読解 (3)	実際の英文契約読解 (班による発表)
第14回	英文契約の読解 (4)	実際の英文契約読解 (班による発表)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときには和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

本郷貴裕『はじめてでも読みこなせる英文契約書』（明日香出版社、(2018) 2, 640 円。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

成績は、小テストの合計点（70%）と班による発表評価（30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【実務経験のある教員による授業】

大学教員になる以前、企業の国際法務部で、英文契約及び関係する文書を英語で大量に起案してきたことから、読解の対象となる英文契約を説明するときに、なぜそのような表現になるのか、あるいは、自分であればもっと詳細に必要な事項を書き込むといった説明を行うことができる。

【Outline (in English)】

< Course Outline >

In this seminar, we will study for reading basic contracts written in English (based on Anglo-American law). English style and terms written in contracts are very unique. Students will learn basic contract terms and examples.

< Learning Objectives >

This course aims to equip students with the basic skills to read English contracts. This ability will be required for students to play an active role internationally in the future.

< Learning Activities outside of Classroom >

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture. Students should remember the quiz points (some legal words and sentences) specified in the textbook before attending each class. Each student group should prepare for a report of the translation of the actual English contract. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in this course will be decided based on your in-class quiz points (70%) and your group report (30%).

ENV400HA

研究会 B

日原 傳

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：推奨するコース：【グ】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国が直面する環境問題の実態を知り、その解決の方法を考える。

【到達目標】

- ・中国の環境問題について理解を深める。
- ・中国の環境問題の解決のために行動する人々の活動状況を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の時間に使用する基本テキストについて説明する。その上で、参加者に担当箇所を割り振る。担当者はテキストを精読して、問題点を把握し、他の文献等に当たって可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論を行なう。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキストについて	基本テキスト及び関連資料の説明。
第2回	文献講読	テキスト輪読
第3回	文献講読	テキスト輪読
第4回	文献講読	テキスト輪読
第5回	文献講読	テキスト輪読
第6回	文献講読	テキスト輪読
第7回	文献講読	テキスト輪読
第8回	文献講読	テキスト輪読
第9回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第10回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第11回	文献講読	テキスト輪読
第12回	文献講読	テキスト輪読
第13回	文献講読、発表	テキスト輪読、発表
第14回	総合討論	研究会活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- ・テキストの該当箇所を下読みし、議論の種を見つけておく。
- ・担当者は担当箇所に関して、可能な限り調べ、レジメを作成する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

授業の進行に合わせて、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度・発表） 70 %

最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

最終レポートの構想を発表する場を早めに設ける。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Chinese environmental problems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term paper (30%), in-class contribution(70%).

SHS400HA

研究会 B

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：千代田区の温暖化対策について考える

主として千代田区における環境対応に関する具体的な取り組み事例を調査します。エネルギーと温暖化に関するテーマはもとより、例えば廃棄物とリサイクルなどに関する内容も調査の対象です。またCES（千代田エコシステム）についても検討する予定です。また、千代田区だけでなく、これまで各地で展開されている環境対応について学習するなど、幅広い角度から持続可能な社会を構築するために必要なテーマを設定して研究していく予定です。科学技術のあり方を考察することも重要なテーマとしています。これにより様々な学問領域に関する内容を関連付けることの重要性を意識しながら、「人」と「環境問題」との接点を見つめていくことを目的としています。

【到達目標】

都市における環境負荷低減活動について理解することを目標としています。具体的には温室効果ガスを削減する仕組み・技術・配慮などについて理解することを目標としています。また廃棄物処理とリサイクルの実態についても現状を理解し、新たな提言に結び付けていくことができる力を獲得することも目標のひとつとしています。これらの目標を達成するため、様々な取り組み事例を分析します。エネルギーに関するテーマをはじめとして、廃棄物ならびに物質循環の問題についても研究対象としています。これにより環境政策を模索する力を獲得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式で進めていく予定です。なお、状況によってはオンライン形式に切り替えることがあります。連絡事項は学習支援システムで表示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間の授業計画についての打ち合わせ
第 2 回	導入ディスカッション（研究テーマの収集）	共通テーマをもとにした討論（題材収集）
第 3 回	導入ディスカッション（研究）	共通テーマをもとにした討論（考察と論点整理）
第 4 回	導入ディスカッション（報告準備）	共通テーマをもとにした討論（報告内容の整理）
第 5 回	導入ディスカッション（報告）	共通テーマをもとにした討論（研究発表）
第 6 回	導入ディスカッション（総合討論）	共通テーマをもとにした討論（話し合い）
第 7 回	基礎事項の習得（環境関連用語の学習）	温暖化対策を考察するうえで必要な基礎知識（用語を中心に）
第 8 回	基礎事項の習得（社会統計の学習）	温暖化対策を考察するうえで必要な基礎知識（統計を中心に）
第 9 回	基礎事項の習得（科学と政策について）	温暖化対策を考察するうえで必要な基礎知識（著書等の読み合わせ）

第 10 回	基礎事項の習得（報告と質疑応答、総合討論）	温暖化対策を考察するうえで必要な基礎知識（講読内容の検討）
第 11 回	千代田区の地域特性（著書、文献調査）	千代田区の特性と現況の調査（著書等から）
第 12 回	千代田区の地域特性（Web 調査）	千代田区の特性と現況の調査（Web 等から）
第 13 回	千代田区の地域特性（討論）	千代田区の特性と現況の調査（話し合い）
第 14 回	春学期の総括	総合討論
第 15 回	千代田区の温暖化対策（著書、文献調査）	千代田区の温暖化政策の調査（著書等から）
第 16 回	千代田区の温暖化対策（Web 調査）	千代田区の温暖化政策の調査（Web 等から）
第 17 回	千代田区の温暖化対策（分析と検討）	千代田区の温暖化政策の調査（内容分析と考察）
第 18 回	千代田区の温暖化対策（報告準備）	千代田区の温暖化政策の調査（報告内容の整理）
第 19 回	千代田区の温暖化対策（報告）	千代田区の温暖化政策の調査（発表）
第 20 回	千代田区の温暖化対策（討論）	千代田区の温暖化政策の調査（話し合い）
第 21 回	特色ある地域の事例研究（題材収集）	他の地域の環境対応調査（題材の収集）
第 22 回	特色ある地域の事例研究（研究）	他の地域の環境対応調査（考察と論点整理）
第 23 回	特色ある地域の事例研究（報告準備）	他の地域の環境対応調査（報告内容の整理）
第 24 回	特色ある地域の事例研究（報告）	他の地域の環境対応調査（研究発表）
第 25 回	特色ある地域の事例研究（討論）	他の地域の環境対応調査（総合討論）
第 26 回	総合検討（新たな課題の考察）	温暖化対策の現状理解と新たな課題の検討
第 27 回	総合検討（将来像の考察）	温暖化対策の将来像の検討
第 28 回	総括	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告する場合には関連資料を提示するだけでなく、レジュメを作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性 60%、レポートの提出状況（充実度）40%により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのための PC などは各自用意してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) This seminar mainly deals with technological correspondence to global warming of the earth. Case study expanded in Chiyoda ward in Tokyo will be expanded. Students practically learn the themes not only for energy problems concerning emission of greenhouse gases but also for waste management and recycle processing of materials. They should examine practical instances in urban areas and prepare reports in advance. Discussion will be made by all of participants.

(Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have active sense to research execution about local areas in Japan. Skills of paper writing is expected to be acquired.

(Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class.

(Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with in-class contribution 60% and Mid- and End-term reports 40%.

MAN400HA

研究会 B

金藤 正直

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、自治体（千代田区）だけではなく、区内の企業、教育機関、その他関係機関とも連携しながら、小・中学生を対象とした千代田区版 ESD (Education for Sustainable Development) プログラムを検討しつつ、このプログラムを効果的に進めていくためのテキスト、カードゲーム、ボードゲームの開発を目的とする。

【到達目標】

本研究会では、千代田区での環境・社会問題への対策や取り組みをもとに、小・中学校のための新たな体験型 ESD プログラムや教材（テキストやゲーム）を検討し、提案することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①千代田区の環境・社会問題に関する施策や取り組みに基づいてチームを作り、研究・調査を行う。なお、今年度の研究チームについては、昨年度活動している研究チーム（地球温暖化、古紙、プラスチック、ビン・カン・ペットボトル、燃えるゴミ（食品ロスを含む））に、新たなチーム（再生可能エネルギー、生物多様性保全、サステナブルファッション、環境共生まちづくり（エリアマネジメント）、環境投資・コスト、食と栄養、健康、ダイバーシティなど）を加える予定である。

②文献調査（市販の教材（テキストやゲーム）の調査も含む）、アンケート・ヒアリング調査、区内関係者とのミーティングを通じて、所属チームで検討する環境・社会問題の取組状況とその課題を明らかにしていく。

③小・中学生が②の課題への解決策を論理的に検討し、説明することができる新たな ESD プログラムや教材を検討し、提案していく。ここでの成果については、中間報告・最終報告を行い、またレポートも作成する。

※研究会は対面で実施する。

※ゼミでは、各チームメンバーのさらなるレベルアップのために、千代田区のイベントや委員会を始め、学会、インゼミ、企業イベント、エコプロなどへの参加も予定している。

※課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、各自 1 年間の目標を検討し、設定してもらう。
第 2 回	研究・調査のための諸文献の分析方法 (A)	文献（市販の教材も含む）を用いて、主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第 3 回	研究・調査のための諸文献の分析方法 (B)	文献（市販の教材も含む）を用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第 4 回	諸文献の分析内容の報告・議論①	文献（市販の教材も含む）の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 5 回	諸文献の分析内容の報告・議論②	文献（市販の教材も含む）の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 6 回	諸文献の分析内容の報告・議論③	文献（市販の教材も含む）の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 7 回	諸文献の分析内容の報告・議論④	文献（市販の教材も含む）の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第 8 回	研究・調査テーマの選定・検討方法	研究・調査テーマ（開発する教材）の選定・検討方法を説明するとともに、実際にそのテーマを選定し、検討していく作業も行う。
第 9 回	研究・調査テーマの分析方法	第 7 回までの講義内容に基づいて、第 8 回で選定・検討した研究・調査テーマ（開発する教材）を分析していくための方法を説明する。

第 10 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論①	研究・調査テーマ（開発する教材）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 11 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論②	研究・調査テーマ（開発する教材）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 12 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論③	研究・調査テーマ（開発する教材）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 13 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論④	研究・調査テーマ（開発する教材）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 14 回	小 括	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第 15 回	研究・調査に関する報告会（A）	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論する。
第 16 回	研究・調査に関する報告会（B）	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 17 回	現地調査の方法（A）	現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）の方法を説明する。
第 18 回	現地調査の方法（B）	現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）のための調査票の作成方法を説明するとともに、実際に調査票の作成作業も行う。
第 19 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤－ 1	現地調査も加味した研究・調査の方向性（開発する教材の有効性）を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 20 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤－ 2	現地調査も加味した研究・調査の方向性（開発する教材の有効性）を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 21 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤－ 3	現地調査も加味した研究・調査の方向性（開発する教材の有効性）を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 22 回	教材の調査（A）	ESD の教材を扱っているショップや施設などに行き、関係者に調査する。
第 23 回	教材の調査（B）	第 22 回で調査した結果を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第 24 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑥	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（開発すべき教材）を検討し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 25 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑦	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（開発すべき教材）を検討し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 26 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑧	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（開発すべき教材）を検討し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 27 回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑨	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（開発すべき教材）を検討し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第 28 回	総括 研究・調査テーマの検討 内容の整理	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していくとともに、その内容を研究・調査計画書やそれをもとに作成されるレポートに活かしていく方法を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力を身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）とともに、報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。また必要に応じて教材の試作品の紹介もお願いします。

【参考書】

各チームメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ・ 討論への参加（発言内容）（20%）
- ・ 報告用配布レジュメの内容（20%）
- ・ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ・ 研究・調査レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのため、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

全てのコースが対象

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this seminar is to learn the methodology for developing a new ESD program of Chiyoda ward based on the literature survey and the field survey.

② Learning Objectives

Thought this seminar, students are able to learn how to effectively teach ESD in Chiyoda ward.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the seminar, using the materials introduced in seminar. Preparatory study and review time for this seminar are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this seminar will be decided on the basis of the following.

- 1) Participation in the discussion : 20%
- 2) Content of the resume : 20%
- 3) Content of the research/survey presentation : 30%
- 4) Research/survey report : 30%

CUA400HA

研究会 B

山崎 真之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Bゼミのテーマは「文化人類学的エスノグラフィーの基礎を学び、文化を探る」です。人間と環境の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、調査論文を作成する。

【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) フィールドワークの実践的なスキルを得る
- 4) 先行研究レビューを参考にしながら調査データを分析し、調査論文にまとめる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のフィールドワークの準備、調査計画を行う。フィールドワークは各自の調査計画に応じて、夏季・冬季休暇中および学期中に実施する。秋学期は、先行研究を講読し、先行研究レビューを作成しながら、フィールドワークで収集したデータの分析を調査論文としてまとめ、発表する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明、文献講読の発表担当を決める
第 2 回	エスノグラフィー入門 (1)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 3 回	エスノグラフィー入門 (2)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 4 回	エスノグラフィー入門 (3)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 5 回	エスノグラフィー入門 (4)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 6 回	エスノグラフィー入門 (5)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる

第 7 回	エスノグラフィー入門 (6)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 8 回	エスノグラフィー入門 (7)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 9 回	エスノグラフィー入門 (8)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 10 回	エスノグラフィー入門 (9)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 11 回	エスノグラフィー入門 (10)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 12 回	エスノグラフィー入門 (11)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 13 回	エスノグラフィー入門 (12)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 14 回	前期のまとめ	前期のまとめ、各自の調査計画作成を発表、提出する。
第 15 回	ガイダンス	後期の進め方についての説明
第 16 回	調査研究の中間報告 (1)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 17 回	調査研究の中間報告 (2)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 18 回	調査研究の中間報告 (3)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 19 回	調査研究の中間報告 (4)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
第 20 回	エスノグラフィー分析 (1)	関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 21 回	エスノグラフィー分析 (2)	関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 22 回	エスノグラフィー分析 (3)	関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 23 回	エスノグラフィー分析 (4)	関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
第 24 回	エスノグラフィー分析 (5)	関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する

- 第25回 エスノグラフィー分析 (6) 関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
- 第26回 研究成果の発表 (1) 調査論文を発表し、討論する
- 第27回 研究成果の発表 (2) 調査論文を発表し、討論する
- 第28回 研究成果の発表 (3) 調査論文を発表し、討論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず熟読して演習に臨み、積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にしておく。調査準備とフィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。研究テーマに関連する先行研究文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを随時アップデートすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（20%）、文献感想文（20%）、文献発表（20%）、研究論文（40%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません

【学生が準備すべき機器他】

本ゼミでは、資料配布、お知らせ配信、課題提出等は全て Hoppii(学習支援システム)を通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

どのコースの学生でも履修可能

【Outline (in English)】

Course outline

This is a seminar course, which is designed to learn basic knowledge of ethnographic research methods and writing.

Learning Objectives

The goals of this course are to learn basic knowledge of cultural anthropology, ethnography, field work, and data analysis.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process, debate contribution (20%), reading assignment (20%), presentation (20%), and paper (40%).

PHL400HA

研究会 A

赤羽 悠

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：【グ】【文】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の問題を考察するために必要な、自由、人権、民主主義、平等、所有、他者、差別、権力、平和、労働、貧困、正義、ジェンダー、セクシュアリティといった諸概念は、これまでの長い思想的・文化的な伝統のなかで数多くの議論が積み重ねられてきた。

本研究会では、ヨーロッパや近現代日本の文化や社会について、必要な文献講読や芸術作品の分析を通じて、上記諸概念に関する歴史的議論の内容と背景や表象のあり方などを理解し、それらの現代社会における意義を考察することを目標としている。

2022年度は「真理と社会」をテーマとする。

【到達目標】

(1) ヨーロッパや近現代日本の思想や文学、文化に関する文献の正確な読解力の定着。ならびに、「人間」「社会」「民主主義」をはじめとする諸概念それ自体が、どのような歴史的負荷を帯びているか把握すること。

(2) 個々の問題の発見、必要な情報の収集・分析、論理的な考察、成果の表現（発表や討議を通じた意見表明の方法、レポート作成を通じた論文執筆の方法）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ヨーロッパや近現代日本の文化や社会に関する文献の輪読+個人研究発表。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、および各人の1年間の研究スケジュールの確認
第2回	テキストの精読 (1)	真理と社会に関する基礎的文献の講読 (1)
第3回	テキストの精読 (2)	真理と社会に関する基礎的文献の講読 (2)
第4回	テキストの精読 (3)	真理と社会に関する基礎的文献の講読 (3)
第5回	テキストの精読 (4)	真理と社会に関する基礎的文献の講読 (4)
第6回	テキストの精読 (5)	真理と社会に関する基礎的文献の講読 (5)
第7回	テキストの精読 (6)	真理と社会に関する基礎的文献の講読 (6)
第8回	テキストの精読 (7)	真理と社会に関する古典の精読 (1)
第9回	テキストの精読 (8)	真理と社会に関する古典の精読 (2)
第10回	テキストの精読 (9)	真理と社会に関する古典の精読 (3)
第11回	テキストの精読 (10)	真理と社会に関する古典の精読 (4)
第12回	4年生研究会修了論文中間発表 (1)	4年生を対象とした卒論中間発表 (前編)
第13回	4年生研究会修了論文中間発表 (2)	4年生を対象とした卒論中間発表 (中編)

第14回	4年生研究会修了論文 中間発表(3)	4年生を対象とした卒論中間発表 (後編)
第15回	テキストの精読(11)	真理と社会に関する古典の精読 (5)
第16回	テキストの精読(12)	真理と社会に関する古典の精読 (6)
第17回	テキストの精読(13)	真理と社会に関する古典の精読 (7)
第18回	テキストの精読(14)	真理と社会に関する古典の精読 (8)
第19回	テキストの精読(15)	真理と社会に関する古典の精読 (9)
第20回	2、3年生研究構想発 表(1)	2、3年生それぞれの研究につい て簡単に発表、教員・学生を交え て討論(1)
第21回	2、3年生研究構想発 表(2)	2、3年生それぞれの研究につい て簡単に発表、教員・学生を交え て討論(2)
第22回	2、3年生研究構想発 表(3)	2、3年生それぞれの研究につい て簡単に発表、教員・学生を交え て討論(3)
第23回	2、3年生研究構想発 表(4)	2、3年生それぞれの研究につい て簡単に発表、教員・学生を交え て討論(4)
第24回	2、3年生研究構想発 表(5)	2、3年生それぞれの研究につい て簡単に発表、教員・学生を交え て討論(5)
第25回	4年生研究会修了論文 中間発表(1)	研究会修了論文第2章までの執 筆段階において中間発表を行う (前編)
第26回	4年生研究会修了論文 中間発表(2)	研究会修了論文第2章までの執 筆段階において中間発表を行う (中編)
第27回	4年生研究会修了論文 中間発表(3)	研究会修了論文第2章までの執 筆段階において中間発表を行う (後編)
第28回	まとめ	1年間の総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
(1) 授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。(2) 日頃からとにかく本を読むこと。映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツ、お笑いなどを積極的に鑑賞、観戦すること。(3) 人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋を覗いてみること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

授業当初はプリント。その後扱う文献については教場で指示する。

【参考書】

教場にて指示。

【成績評価の方法と基準】

【(1) 2、3年生は、授業中に年間2回の発表と積極的な議論への参加(20%)、夏・冬2回の期末レポート(50%)と2ヶ月に1度のブック(映画)・レポート提出(30%)。

【(2) 4年生は、授業中の積極的な議論への参加(15%)、および、研究会修了論文の2回にわたる中間報告(20%)、研究会論文を提出すること(50%)。6月まで月1回のブック(映画)・レポート提出すること(15%)。】

ただし、課題を1回でも未提出の場合は単位を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

毎年どのようなテキストを取り扱うのかを教員、学生双方で議論し合いながら決定している。

【その他の重要事項】

人間文化コース、グローバル・サステイナビリティコース所属学生のみ受講が可能である。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【Outline (in English)】

This course deals with issues of truth and society. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and writing research papers.

Students are expected to read and examine the texts covered in class in advance.

Evaluation will be based on class presentations, participation in discussions, and reading reports.

LAW400HA

研究会 A

横内 恵

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：【経】【口】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国の環境法政策について調査をし、ディスカッションやディベートを通してそれらの課題について深く考え、理解することを目指します。また、受講者各自で研究テーマを設定し、主体的に研究して4年生終了時までに論文を書き上げることを目指します。

【到達目標】

本研究会では、受講者各自で設定した研究テーマについて、調査して表し、参加者全員で議論することを通じ、学部4年次には、研究会修了論文を完成させることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業を併用する予定である。各受講者には、授業内での研究報告等を求める。研究報告については、主に授業時間内でフィードバックを行う。毎回、報告者以外の受講者も本演習での積極的な参加が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本研究会のテーマや進め方について解説する。受講者の春学期の報告スケジュールを決定する。
第2回	イントロダクション	本研究会における研究の進め方について詳細に解説する。
第3回	研究報告(1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第4回	研究報告(2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第5回	研究報告(3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第6回	研究報告(4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第7回	研究報告(5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第8回	研究報告(6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第9回	研究報告(7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第10回	研究報告(8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第11回	研究報告(9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第12回	ディベート(1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第13回	ディベート(2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第14回	まとめ	春学期の復習を行う
第15回	秋学期の研究計画	各受講者の研究テーマについて協議し、報告スケジュールを決定する
第16回	研究報告(1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う

第17回	研究報告(2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第18回	研究報告(3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第19回	研究報告(4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第20回	研究報告(5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第21回	研究報告(6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第22回	研究報告(7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第23回	研究報告(8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第24回	研究報告(9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第25回	研究報告(10)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第26回	ディベート(1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第27回	ディベート(2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第28回	まとめ	秋学期の総復習を行い、次年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告準備にあたっては、事前に文献調査をしっかりと行ってください。適宜、受講生に課題を出すこともあります。本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第5版〕』（弘文堂、2020年）。

【参考書】

大塚直『環境法〔第4版〕』（有斐閣、2020年）。
その他、必要に応じて研究会中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

総合評価（目安としては、平常点85%、課題15%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

対面・オンラインの予定回は、受講生に相談の上で変更する可能性があることにご留意ください。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【Outline (in English)】

Course outline : This seminar offers undergraduate students opportunities to acquire knowledge in environmental administrative law and compose graduation theses.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to write an academic paper.

Learning activities outside of classroom : The standard preparation and review time for this class is two hours each week.

Grading Criteria /Policy : Comprehensive evaluation (100%).

SOC400HA

研究会 A

佐伯 英子

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：【口】【文】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では「身体社会学」の中からジェンダーや多様性に関する問題に焦点を当てて理解を深めます。

【到達目標】

1. 「身体」を社会学的観点から捉えることにより新しい知見を得る。
2. 各自が設定した研究テーマに沿って調査を行い、卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前期と後期でそれぞれに設定されたテーマに基づいてグループプロジェクトを行います。また、個人研究に関する発表やディスカッションの場を設けます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の概要と目標; 年間計画の確認; 自己紹介
第2回	個人研究についての発表	報告、質疑応答とディスカッション
第3回	個人研究についての発表	報告、質疑応答とディスカッション
第4回	グループプロジェクト(1)ブレインストーミング	アイデアや情報の共有、ディスカッション
第5回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第6回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第7回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第8回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第9回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第10回	グループプロジェクト(1)発表	報告、質疑応答
第11回	グループプロジェクト(1)総括	ディスカッションとまとめ
第12回	個人研究についての発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第13回	個人研究についての発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第14回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり; 夏季休暇中の課題の確認; 秋学期の進め方についての説明

第15回	ガイダンス	秋学期の計画について確認; 夏季休暇中の課題に関する報告; グループワークについてディスカッション
第16回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第17回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第18回	個人研究についての発表	進捗状況の共有と調査内容についての報告、質疑応答とディスカッション
第19回	グループプロジェクト(2)ブレインストーミング	アイデアや情報を共有、ディスカッション
第20回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第21回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第22回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第23回	グループプロジェクト(2)発表	報告、質疑応答
第24回	グループプロジェクト(2)総括	ディスカッションとまとめ
第25回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第26回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第27回	個人研究についての発表	ここまでの調査と分析で明らかになったことを発表; 質疑応答
第28回	1年間のまとめ	今年度の学習内容と研究活動のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎週課題となる文献を読み、ディスカッションに備え、質問や意見を用意してきてください。また、個人研究として各自がテーマを決めて調査と発表をすることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%; 課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションや発表の時間を増やし、学生がより主体的に参加できるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This seminar on the Sociology of the Body focuses on issues surrounding gender, and diversity.

【Learning Objectives】

In this seminar, students are expected to:

1. deepen their understanding of issues surrounding gender and social diversity from sociological perspectives; and
2. conduct individual research projects and complete their theses by the end of the senior year.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 50%; Assignments 50%

HUG400HA

研究会 A

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：【経】【口】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2022年度は「地域の経済」について調べ、考え、議論します。

【到達目標】

この研究会では「地域」や「社会」や「経済」をキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ（フィールドワークや資料分析）、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマ「地域の経済」についてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする
第2回	「学び問う」、「調べ考える」ことについて	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説する
第3回	研究テーマの検討	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第4回	研究スタート発表	グループ研究の目的、方法を発表し、議論する。
第5回	研究スタート発表	グループ研究の目的、方法を発表し、議論する。
第6回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第7回	研究スタート発表	グループ研究の目的、方法を発表し、議論する。
第8回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第9回	データ収集と分析	データを分析し、議論する
第10回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第11回	データ収集と分析	データを分析し、議論する
第12回	グループワーク	議論をもとに、調査研究、分析を進める。
第13回	調査計画の報告	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する

第14回 調査計画の報告

グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する

第15回 研究成果中間報告

卒業研究、グループ研究の成果報告

第16回 グループワーク

議論をもとに、調査研究、分析を進める。

第17回 卒論中間発表

4年生の中間発表をもとに議論する。

第18回 卒論中間発表

4年生の中間発表をもとに議論する。

第19回 グループワーク

議論をもとに、調査研究、分析を進める。

第20回 卒論中間発表

4年生の中間発表をもとに議論する。

第21回 卒論中間発表

4年生の中間発表をもとに議論する。

第22回 グループワーク

議論をもとに、調査研究、分析を進める。

第23回 3年生の卒論構想発表

個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。

第24回 3年生の卒論構想発表

個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。

第25回 3年生の卒論構想発表

個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。

第26回 3年生の卒論構想発表

個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。

第27回 3年生の卒論構想発表

個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する。

第28回 年間のふりかえりとまとめ

「地域の経済」という共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の5感で可能な範囲でのフィールドワークを体感してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

・適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

グループ研究（30%）、個別研究（30%）、研究会への参加姿勢（40%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の主体性を大切にした研究会運営をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

In 2022, students will investigate, think and discuss about "the economy of local".

◆ Learning Objectives

In this study group, students will consider "region," "society," and "economy" as keywords. The goal of this course is for students to (1) carefully read relevant literature and books, (2) formulate their own "questions," (3) conduct independent research (fieldwork and material analysis), and (4) write a research paper.

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students are expected to actively access papers, documents, and materials related to their own problem consciousness, voluntarily collect and organize them, read them carefully, and become aware of their own originality. In addition, please try to experience fieldwork to the extent possible using your own five senses as well as literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

The evaluation will be based on the overall attitude toward group research (30 %), individual research (30 %), and participation in research meetings (40 %).

PHL400HA

研究会 A

吉永 明弘

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：【口】【文】コースのみ履修可

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学と都市問題について学ぶ

【到達目標】

環境倫理学の概要を理解するとともに、倫理的な考え方を身につける。また、都市問題、住宅問題についても理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境倫理学、都市問題、住宅問題などに関する文献をたくさん読んで議論する。どのジャンルの本の重点的に読むかは参加学生と相談して決める。

その他、アメニティマップ（魅力ある場所と問題のある場所を色分けして記したマップ）の製作と発表も行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	環境倫理学、都市問題、住宅問題の概要を説明し、購読するテキストを決める。
2	イントロダクション (2)	環境倫理学、都市問題、住宅問題の概要を説明し、購読するテキストを決める。
3	文献購読 (1)	テキストの購読を行う。
4	文献購読 (2)	テキストの購読を行う。
5	文献購読 (3)	テキストの購読を行う。
6	文献購読 (4)	テキストの購読を行う。
7	文献購読 (5)	テキストの購読を行う。
8	文献購読 (6)	テキストの購読を行う。
9	アメニティマップ概説	アメニティマップについて説明する。
10	アメニティマップ準備	アメニティマップ製作の準備を行う。
11	アメニティマップ製作	アメニティマップを製作する。
12	アメニティマップ製作	アメニティマップを製作する。
13	アメニティマップ発表	アメニティマップを用いて発表を行う。
14	アメニティマップ発表	アメニティマップを用いて発表を行う。
15	中間考察	テキストと地図作りから得られた知見について話し合う。
16	文献購読 (7)	テキストの購読を行う。
17	文献購読 (8)	テキストの購読を行う。
18	文献購読 (9)	テキストの購読を行う。
19	文献購読 (10)	テキストの購読を行う。
20	文献購読 (11)	テキストの購読を行う。
21	文献購読 (12)	テキストの購読を行う。
22	冊子の製作 (1)	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。

23	冊子の製作（2）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
24	冊子の製作（3）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
25	冊子の製作（4）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
26	冊子の製作（5）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
27	冊子の製作（6）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。
28	冊子の製作（7）	マップと文献研究の成果を冊子にまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者はテキストを読んでレジュメをつくってこくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談のうえ決定します。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
 吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
 吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
 吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【成績評価の方法と基準】

担当分のレジュメ（30%）、アメニティマップ（20%）、冊子の作成（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

人間文化コース

【Outline (in English)】

This course deals with the environmental ethics, urban environment. At the end of the course, students are expected to write a paper on environmental ethics and urban environment. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Making a book:50%, amenity map:20%, in class contribution:30%.

ECN400HA

研究会 B

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：2023年以降は「研究会A」として開講予定

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2022年度のテーマは「気候変動問題」です。気候変動問題は、温暖化だけでなく異常気象や生物多様性・エネルギー問題など幅広く関連する問題です。1つの政策が気候変動問題を解決できるわけではない。そのため、複合的な政策（ポリシーミックス）が求められる。この授業を通じて、持続可能な社会を実現するための方策を議論を深めます。

【到達目標】

本研究会では、以下の到達目標を設定しています。

- 1) 気候変動問題をめぐる議論を広い視野から捉える
- 2) 自分の意見を持ち、それを様々な方法によって人に伝える
- 3) 持続可能な社会に必要な政策の立案・構想できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	登録者間の自己紹介、授業の内容・進め方について概説する
第2回	基礎文献の輪読1	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第3回	基礎文献の輪読2	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第4回	基礎文献の輪読3	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第5回	基礎文献の輪読4	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第6回	基礎文献の輪読5	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第7回	グループディスカッション1-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第8回	グループディスカッション1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第9回	グループディスカッション2-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第10回	グループディスカッション2-2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第11回	グループディスカッション2-3	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第12回	グループディスカッション2-4	グループ発表および全体ディスカッション
第13回	グループディスカッション3	グループ毎に課題について議論し、結論をだす

第 14 回	春学期の総まとめ	春学期全体のまとめとこれからの課題について
第 15 回	秋学期のオリエンテーション	春学期の復習と秋学期の進め方について概説する
第 16 回	中級文献の輪読 1	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第 17 回	中級文献の輪読 2	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第 18 回	中級文献の輪読 3	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第 19 回	中級文献の輪読 4	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第 20 回	中級文献の輪読 5	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第 21 回	グループディスカッション 4-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第 22 回	グループディスカッション 4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 23 回	グループディスカッション 5-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第 24 回	グループディスカッション 5-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 25 回	グループディスカッション 6-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第 26 回	グループディスカッション 6-2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第 27 回	グループディスカッション 6-3	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) have a wide view on climate change, 2) understand the economic logic of climate change policies and 3) propose relevant climate change policies needed in the future.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the references. Your required study time is at least three hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, presentation 50%, in class contribution: 10%

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。必要に応じて関連する文献を読むこと。また、与えられた課題を期限内に実施すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を用いない。

【参考書】

有村・杉野・鷺津（2022）『カーボンプライシングのフロンティア』、日本評論社。

T.H. Arimura and S. Matsumoto ed. (2021) Carbon Pricing in Japan, Springer.

有村（2015）『温暖化対策の新しい排出削減メカニズム』、日本評論社。

有村・蓬田・川瀬（2012）『地球温暖化対策と国際貿易：排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』、日本評論社。

有村・武田（2012）『排出量取引と省エネルギーの経済分析』、日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への積極的参加や貢献など）（60%）、期末レポート（40%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新任のため該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやタブレットなどを持参すること

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with climate change. Climate change is more than just the global warming issue. For example, extreme weather condition, biodiversity and energy issues are also associated with climate change. Since climate change is complex, there is no one policy solution. We will discuss what policies are need to achieve a sustainable society in this course. It also enhances the development of students' skill in debating and presentation.

SHS400HA

研究会 B

金光 秀和

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：2023年以降は「研究会 A」として開講予定

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な未来を展望できるようになるために、「科学技術と社会」「科学技術と人間」をメインテーマとして考察を進めます。具体的には、各自が「人間」「環境」「科学技術」から課題（問い）を設定し、文献調査・購読、プレゼンテーション、ワークショップの企画、年度末レポートの作成を行い、課題発見能力（疑う力）、論理的思考力（筋道を立てて考える力）、批判的思考力（適切にツッコむ力）の涵養を目指します。テーマは「人間」「環境」「科学技術」を軸としますが、基本的には各自の興味関心を踏まえて自由に設定できます。また、これまでに経験したことのないことにチャレンジして報告をする「チャレンジ報告会」、読書体験を共有する「リーディングセッション」など、未来に向けて実践的に経験を拡張する機会も設けます。

【到達目標】

各自が課題（問い）を設定して研究活動を進めることによって、①課題発見・分析能力、②課題完遂能力、③論理的思考力、④情報管理能力、⑤情報発信・スキルの涵養を目標とします。これらを通して、「科学技術と社会」「科学技術と人間」の問題について考察を深めることが期待されます。また、ワークショップの企画・運営によって、⑤コミュニケーション力、⑥スケジュール管理能力、⑦チームワーク力、⑧ファシリテーション力、⑨リーダーシップ力の涵養を目標とします。これらを通して、「科学技術と社会」「科学技術と人間」の問題に対処するための態度、行動を学ぶことが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自が設定した課題（問い）をもとに、インプット（文献購読、情報収集）とアウトプット（プレゼンテーション、ワークショップの企画・運営）を行います。また、新型コロナウイルス蔓延の状況を見ながら、他大学のゼミとの協働、社会人との対話、各自の課題（問い）に即した現場調査などのフィールドワークを実施したいと思います。授業では、提出された論点や質問について、適宜全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について説明します。
第 2 回	プレゼンテーション①	自己紹介を兼ねたプレゼンテーションを実施してもらい、各自が扱う課題、チャレンジリスト、読書リストを検討します。
第 3 回	文献購読①	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を購読します。
第 4 回	文献購読②	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を購読します。
第 5 回	文献購読③	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を購読します。
第 6 回	文献購読④	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を購読します。
第 7 回	文献購読⑤	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を購読します。

第 8 回	リーディングセッション①	課題図書を読書体験を共有するためのワークショップを開催します。
第 9 回	文献購読⑥	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を購読します。
第 10 回	文献購読⑦	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を購読します。
第 11 回	プレゼンテーション②	発表者と質問者を決めて各自の課題について発表します。
第 12 回	プレゼンテーション③	発表者と質問者を決めて各自の課題について発表します。
第 13 回	プレゼンテーション④	発表者と質問者を決めて各自の課題について発表します。
第 14 回	チャレンジ報告会①	春学期の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験の拡張を共有するためのワークショップを開催します。
第 15 回	秋学期イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について確認します。また、チャレンジリスト、読書リストを検討します。
第 16 回	文献購読⑧	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を購読します。
第 17 回	文献購読⑨	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を購読します。
第 18 回	文献購読⑩	発表者と質問者を決めてテーマに関連した文献を購読します。
第 19 回	プレゼンテーション⑤	発表者と質問者を決めて各自の課題（年度末レポートの進捗状況）について発表します。
第 20 回	プレゼンテーション⑥	発表者と質問者を決めて各自の課題（年度末レポートの進捗状況）について発表します。
第 21 回	プレゼンテーション⑦	発表者と質問者を決めて各自の課題（年度末レポートの進捗状況）について発表します。
第 22 回	リーディングセッション②	課題図書を読書体験を共有するためのワークショップを開催します。
第 23 回	プレゼンテーション⑧	発表者と質問者を決めて各自のワークショップの企画について発表します。
第 24 回	プレゼンテーション⑨	発表者と質問者を決めて各自のワークショップの企画について発表します。
第 25 回	ワークショップ①	担当者を決めて各自が企画したワークショップを開催します。
第 26 回	ワークショップ②	担当者を決めて各自が企画したワークショップを開催します。
第 27 回	ワークショップ③	担当者を決めて各自が企画したワークショップを開催します。
第 28 回	チャレンジ報告会②	一年間の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験の拡張を共有するためのワークショップを開催します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの興味関心を踏まえて問いを立てられるように、新聞、映画、SF 小説などをもとに、「人間」「環境」「科学技術」に関心を払ってください。特に、授業で扱うテーマについては、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。また、授業で指定された文献はしっかりと熟読し、それをもとに自分でも文献（情報）調査を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

特に指定しませんが、各自の課題に即して適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加、文献調査・購読、プレゼンテーション、ワークショップの企画・運営）を80%、年度末レポートを20%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【関連の深いコース】

人間文化コース
環境サイエンスコース

【Outline (in English)】**Course Outline**

The main themes of the course are "Science, Technology and Society" and "Science, Technology and Human Beings" to enable students to see a sustainable future. Specifically, each student will set an issue (question) from the perspective of "human beings," "environment," and "science and technology," and conduct literature research and subscriptions, make presentations, plan workshops, and write end-of-year reports, with the aim of cultivating the ability to discover issues (the ability to question), think logically (the ability to think in a logical manner), and think critically (the ability to think appropriately). Themes will be based on "human beings," "environment," and "science and technology," but students will be free to choose their own themes based on their own interests. There will also be opportunities to expand practical experiences for the future, such as the "Challenge Debriefing Session," where students will report on challenges they have never experienced before, and the "Reading Session," where students will share their reading experiences.

Learning Objectives

Through research activities in which students set their own problems (questions), this class aims to develop (1) problem finding and analysis skills, (2) problem solving skills, (3) logical thinking skills, (4) information management skills, and (5) information transmission skills. Through these activities, students are expected to deepen their consideration of the issues of "science, technology and society" and "science, technology and human beings". By planning and running each workshop, this class also aims to cultivate (5) communication skills, (6) schedule management skills, (7) teamwork skills, (8) facilitation skills, and (9) leadership skills. Through these activities, students are expected to learn attitudes and behaviors to deal with the issues of "science, technology and society" and "science, technology and human beings".

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class contribution (80%) and final report (20%).

LAW400HA

研究会 B**横内 恵**

配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：推奨するコース：【経】【口】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミックライティングの基本的スキルを習得し、論文を執筆する。

【到達目標】

いわゆる卒業論文に該当する論文（研究会修了論文又はコース修了論文）を書き上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業を併用する予定である。各受講者には、授業内での研究報告等を求める。研究報告については、主に授業時間内でフィードバックを行う。毎回、報告者以外の受講者も本演習での積極的な参加が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本研究会のテーマや進め方について解説する
第2回	研究報告(1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第3回	研究報告(2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第4回	研究報告(3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第5回	研究報告(4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第6回	研究報告(5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第7回	研究報告(6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第8回	研究報告(7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第9回	研究報告(8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第10回	研究報告(9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第11回	研究報告(10)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第12回	ディベート(1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第13回	ディベート(2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第14回	春学期まとめ	春学期の総復習を行う
第15回	オリエンテーション	春学期の復習をし、秋学期の進め方について解説する
第16回	研究報告(1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第17回	研究報告(2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第18回	研究報告(3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第19回	研究報告(4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う

第20回 研究報告(5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第21回 研究報告(6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第22回 研究報告(7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第23回 研究報告(8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第24回 研究報告(9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第25回 研究報告(10)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第26回 デイバート(1)	特定のテーマについて、グループに分かれてデイバートを行う
第27回 デイバート(2)	特定のテーマについて、グループに分かれてデイバートを行う
第28回 まとめ	1年間の復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

総合評価（目安としては、平常点70%、課題30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

対面・オンラインの予定回は、受講生に相談の上で変更する可能性があることにご留意ください。

【Outline (in English)】

Course outline : This seminar offers undergraduate students opportunities to acquire basic skills in writing papers.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to write an academic paper.

Learning activities outside of classroom : The standard preparation and review time for this class is two hours each week.

Grading Criteria /Policy : Comprehensive evaluation (100%).

SOC400HA

研究会 B

佐伯 英子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火2/Tue.2

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会的視点を養いながら、実践的な社会科学の調査（質的調査）のスキルを身につけるための研究会です。

【到達目標】

- 質的調査の方法を学ぶ。
- 英語文献・論文を探し、読み、使いこなせるようになる。
- 各人のテーマに沿って研究計画書もしくは論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

調査方法に関する講義、個人プロジェクトに関する発表やディスカッション、その他のワークショップを行います。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研究会の概要と目標；年間計画の確認；自己紹介
第2回	社会学の「社会の見方」；質的調査とは何か	ジャーナリズムと社会学；質的調査と量的調査
第3回	個人研究 ワークショップ	何を知りたいか；どのような方法で調べたいか
第4回	個人研究に使用する文献（日本語）の発表	報告、質疑応答とディスカッション
第5回	英語文献の探し方（図書）	図書館にてワークショップ
第6回	個人研究に使用する文献（英文図書）の発表	報告、質疑応答とディスカッション
第7回	英語資料の探し方（新聞、雑誌記事、学術論文）	データベースの使い方
第8回	英語論文の読み方	構成を知る；目的に沿った読み方；読み方のコツ
第9回	個人研究に使用する文献の発表（英語論文）	報告、質疑応答とディスカッション
第10回	半構造インタビュー、フォーカス・グループ	インタビューの依頼；準備；手法；ラポール
第11回	参与観察	観察の方法；フィールドノートの取り方；整理方法
第12回	テキスト分析	雑誌、新聞、テレビ番組等の内容をどのように社会調査に使うか
第13回	質的データの分析方法	データの管理；整理と分析；コーディング
第14回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり；夏季休暇中の課題の確認；秋学期の進め方についての説明
第15回	ガイダンス	秋学期の計画について確認

第16回	リサーチエスチョン	問いの立て方; 先行研究とのつながり
第17回	研究計画書の書き方	内容と構成
第18回	先行研究のまとめかた	研究課題との繋げ方
第19回	先行研究のまとめについて発表	個人研究のために用意した先行研究のまとめの報告とディスカッション
第20回	調査方法のワークショップ	個人研究で使用する調査方法に関するグループワークとグループディスカッション
第21回	調査方法についての発表	個人研究で使用する調査方法について発表
第22回	アウトラインの共有	個人研究の計画書アウトラインについて発表、質疑応答
第23回	ピアレビュー	受講者同士、計画書の第1稿にコメントと質問
第24回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第25回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第26回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第27回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第28回	1年間のまとめ	今年度の学習内容と研究活動のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること、課題を定められた期間内に仕上げること、文献を読み、報告やディスカッションに備えること、自主的に研究を進めることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%; 課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやディスカッションの時間を増やし、学生がより主体的に参加できるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This seminar is designed to have students obtain skills necessary for conducting qualitative social research while cultivating sociological perspectives.

【Learning Objectives】

In this seminar, students are expected to:

1. gain fundamental knowledge of how to conduct qualitative social research using interviews and participant observation; and
2. complete research proposal with extensive literature review or write a paper based on qualitative research.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 50%; Assignments 50%

HUG400HA

研究会 B

湯澤 規子

配当年次/単位：2~4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、地域経済、人文地理学、歴史学、民俗学、文化人類学などの視点から興味があるテーマを調べ、考え、議論します。受講生の問題関心に合わせて、2022年度の「研究テーマ」を設定します。

【到達目標】

学生はテーマを決定し、それをキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ（フィールドワークや資料分析）、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマについてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション（春）	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする
第2回	研究講座：マイテーマを決める	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説した後、研究会メンバーで共通テーマを決める
第3回	テーマ報告（1）	研究テーマを報告し、議論する。
第4回	テーマ報告（2）	研究テーマを報告し、議論する。
第5回	テーマ報告（3）	研究テーマを報告し、議論する。
第6回	研究講座：論文を読む・紹介する	論文紹介の方法を講義する。
第7回	基礎文献講読と報告（1）	関連する文献を読み、報告にもとづき議論する。
第8回	研究講座：読みやすいレジュメをつくる	レジュメの作り方を講義する。
第9回	基礎文献講読と報告（2）	関連する文献を読み、報告にもとづき議論する。
第10回	研究講座：研究計画を立てる	研究計画の立て方について講義する。
第11回	基礎文献講読と報告（3）	関連する文献を読み、報告にもとづき議論する。
第12回	研究講座：調査のアポイントメントをとる・調査に出かける	調査の方法について講義する。
第13回	研究計画報告（1）	研究計画を報告し、議論する。
第14回	研究計画報告（2）	研究計画を報告し、議論する。
第15回	調査中間報告（1）	夏休みの調査報告をもとに、議論する。
第16回	研究講座：調査結果のまとめかた	調査結果のまとめかたについて講義する。

第17回	調査中間報告（2）	夏休みの調査報告をもとに、議論する。
第18回	調査中間報告（3）	夏休みの調査報告をもとに、議論する。
第19回	研究講座：論文構成の作り方	論文構成の作り方について講義する。
第20回	論文構成報告（1）	論文構成を報告し、議論する。
第21回	論文構成報告（2）	論文構成を報告し、議論する。
第22回	研究講座：文章を書くコツと論文のまとめ方	リサーチペーパーのまとめ方について講義する。
第23回	論文構成報告（3）	論文構成を報告し、議論する。
第24回	論文構成報告（4）	論文構成を報告し、議論する。
第25回	研究報告とディスカッション（1）	研究成果を報告し、議論する。
第26回	研究報告とディスカッション（2）	研究成果を報告し、議論する。
第27回	報告報告とディスカッション（3）	研究成果を報告し、議論する。
第28回	年間のふりかえりとまとめ	共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の5感で可能な範囲でフィールドワークを体感してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会への主体的と最終レポートを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

オプションのワークショップなどについては、参加者と相談の上実施するか否かを決め、テーマと日程を設定します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

Students will research, think about, and discuss topics of interest from the perspectives of regional economics, human geography, history, folklore, and cultural anthropology. The "research theme" for 2022 will be set according to the students' problematic interests.

◆ Learning Objectives

Students decide on a theme and consider it as a keyword. Students are expected to (1) carefully read relevant literature and books, (2) formulate their own "questions," (3) conduct independent research (fieldwork and material analysis), and (4) write a research paper.

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students are expected to actively access papers, documents, and materials related to their own problem consciousness, voluntarily collect and organize them, read them carefully, and become aware of their own originality. Also, please try to experience fieldwork to the extent possible using your own five senses as well as literature. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Students will be evaluated on the basis of their participation in the workshop and the final report.

PHL400HA

研究会 B

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：推奨するコース：【口】【文】

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命倫理・動物倫理・環境倫理の本を読む。

【到達目標】

生命倫理、動物倫理、環境倫理に関する専門書を協力して読むことによって、内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生命倫理、動物倫理、環境倫理に関する本を輪読する。参加者の関心のあるテーマを中心に読んでいく。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介を行い、読む本を選定する。
2	生命倫理に関する本を読む（1）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
3	生命倫理に関する本を読む（2）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
4	生命倫理に関する本を読む（3）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
5	生命倫理に関する本を読む（4）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
6	生命倫理に関する本を読む（5）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
7	生命倫理に関する本を読む（6）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
8	生命倫理に関する本を読む（7）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
9	生命倫理に関する本を読む（8）	選定された生命倫理に関する文献を輪読する
10	動物倫理に関する本を読む（1）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
11	動物倫理に関する本を読む（2）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
12	動物倫理に関する本を読む（3）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
13	動物倫理に関する本を読む（4）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
14	動物倫理に関する本を読む（5）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
15	動物倫理に関する本を読む（6）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
16	動物倫理に関する本を読む（7）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する
17	動物倫理に関する本を読む（8）	選定された動物倫理に関する文献を輪読する

18	環境倫理に関する本を読む（1）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
19	環境倫理に関する本を読む（2）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
20	環境倫理に関する本を読む（3）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
21	環境倫理に関する本を読む（4）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
22	環境倫理に関する本を読む（5）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
23	環境倫理に関する本を読む（6）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
24	環境倫理に関する本を読む（7）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
25	環境倫理に関する本を読む（8）	選定された環境倫理に関する文献を輪読する
26	書評の作成と添削（1）	書評の作成と添削を行う。
27	書評の作成と添削（2）	書評の作成と添削を行う。
28	書評の作成と添削（3）	書評の作成と添削を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人の関心のあるテーマについて調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談のうえ決定します。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
 吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017年
 吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年
 吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020年

【成績評価の方法と基準】

発表（50%）と書評（50%）の作成に対して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with bioethics, animal ethics and environmental ethics. At the end of the course, students are expected to write a book review on bioethics, animal ethics and environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, in class contribution:50%.

CMF400HA

研究会 B

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考（履修条件等）：社会人クラス

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGsの視点から、COVID-19の時代と持続可能な地域社会について考える。具体的には、パンデミックの持続可能性への影響、新しい社会のイメージ、変革への課題について、ソーシャル・イノベーションやソーシャル・デザインといわれる新たな地域実践をみながら検討する。この授業の目的は、学生が現代文明の転換期において地域の持続可能性について理解し、さらに社会実践のデザインについて学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な地域社会に関する知識を習得する。
- ・COVID-19に関する諸問題を理解する。
- ・地域課題の発見、課題解決のための思考力を身につける。
- ・調査研究に関する学問的な技法を身につける
- ・ソーシャルデザインを企画する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、文献購読、現地調査も含むケーススタディ、ソーシャルデザインに関するワークショップなどを組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の方向性と具体的なプログラムについて確認する。
第2回	COVID-19と地域の持続可能性課題	COVID-19と地域の持続可能性に関する近年の動向から、参加者の関心と問題意識を共有する。
第3回	SDGsとCOVID-19	SDGsとCOVID-19の関係について検討する。
第4回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第5回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第6回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第7回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第8回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第9回	ケーススタディ	ソーシャルイノベーション・ソーシャルデザインに関するケーススタディを行う。
第10回	ゲストスピーカー	ゲストスピーカーによる講義と討論を行う。

第 11 回	ソーシャルデザインのプレゼンテーションとワークショップ	地域の持続可能性問題について、各自のソーシャルデザインに関する企画案を検討する。
第 12 回	ソーシャルデザインのプレゼンテーションとワークショップ	地域の持続可能性問題について、各自のソーシャルデザインに関する企画案を検討する。
第 13 回	ソーシャルデザインのプレゼンテーションとワークショップ	地域の持続可能性問題について、各自のソーシャルデザインに関する企画案を検討する。
第 14 回	夏期フィールドスタディの検討	夏期休暇中に実施する研究会としてのフィールドスタディについて検討する。
第 15 回	COVID-19 と地域の持続可能性課題	2022 年 9 月までの COVID-19 の動向と地域の持続可能性課題について検討する。
第 16 回	夏期フィールドスタディの結果の検討	夏期休暇中に実施した研究会としてのフィールドスタディの結果について検討する。
第 17 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 18 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 19 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 20 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 21 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 22 回	ゲストスピーカー	ゲストスピーカーによる講義と討論を行う。
第 23 回	ケーススタディ	ソーシャルイノベーション・ソーシャルデザインに関するケーススタディを行う。
第 24 回	ソーシャルデザインのプレゼンテーションとワークショップ	地域の持続可能性問題について、各自のソーシャルデザインに関する企画案を検討する。
第 25 回	ソーシャルデザインのプレゼンテーションとワークショップ	地域の持続可能性問題について、各自のソーシャルデザインに関する企画案を検討する。
第 26 回	ソーシャルデザインのプレゼンテーションとワークショップ	地域の持続可能性問題について、各自のソーシャルデザインに関する企画案を検討する。
第 27 回	ソーシャルデザインのプレゼンテーションとワークショップ	地域の持続可能性問題について、各自のソーシャルデザインに関する企画案を検討する。
第 28 回	ポストコロナの課題と展望	新しい社会像と具体的な課題やソーシャルデザインについて総括的に検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

- ・ 文献および関連資料の予習
- ・ 課題への取り組み

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、課題への取り組み（30 %）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの授業のためフィードバックはできません。

【その他の重要事項】

研究会を通して、RSP 所属学生を中心として、学生のコミュニティ形成を図っていきます。

【Outline (in English)】

In this seminar, from the viewpoint of “SDGs”, we will think about the age of covid-19 and “Sustainable community”. If it says concretely, we will focus on the impact of pandemic on sustainability, the image of new society and the agenda to change, while referring to new practices, so-called social innovation and social design. The purpose of this seminar is for students to understand local sustainability at the turning point of modern civilization and to learn about the design of social practice further.

At the end of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (1) Acquire knowledge of sustainable community.
- (2) Understand issues related to covid-19.
- (3) Acquire problem-finding and problem-solving skills.
- (4) Acquire academic skills for research.
- (5) Acquire the ability to plan social design.

Students need to prepare and review each session by using textbooks and related materials, and to work on some assignments. Preparatory and review time for this seminar are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Active class participation:70%, Assignments :30%

ECN400HA

研究会 B

杉野 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 5/Thu.5

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2022年度のテーマは「気候変動問題」です。気候変動問題は、温暖化だけでなく異常気象や生物多様性・エネルギー問題など幅広く関連する問題です。1つの政策が気候変動問題を解決できるわけではない。そのため、複合的な政策（ポリシーミックス）が求められる。この授業を通じて、持続可能な社会を実現するための方策を議論を深めます。

【到達目標】

本研究会では、以下の到達目標を設定しています。

- 1) 気候変動問題をめぐる議論を広い視野から捉える
- 2) 自分の意見を持ち、それを様々な方法によって人に伝える
- 3) 持続可能な社会に必要な政策の立案・構想できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	登録者間の自己紹介、授業の内容・進め方について概説する
第2回	基礎文献の輪読1	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第3回	基礎文献の輪読2	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第4回	基礎文献の輪読3	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第5回	基礎文献の輪読4	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第6回	基礎文献の輪読5	気候変動問題の本質に関する文献を読み、議論する
第7回	グループディスカッション1-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第8回	グループディスカッション1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第9回	グループディスカッション2-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第10回	グループディスカッション2-2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第11回	グループディスカッション2-3	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第12回	グループディスカッション2-4	グループ発表および全体ディスカッション
第13回	グループディスカッション3	グループ毎に課題について議論し、結論をだす

第14回	春学期の総まとめ	春学期全体のまとめとこれからの課題について
第15回	秋学期のオリエンテーション	春学期の復習と秋学期の進め方について概説する
第16回	中級文献の輪読1	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第17回	中級文献の輪読2	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第18回	中級文献の輪読3	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第19回	中級文献の輪読4	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第20回	中級文献の輪読5	気候変動政策に関する文献を読み、議論する
第21回	グループディスカッション4-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第22回	グループディスカッション4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第23回	グループディスカッション5-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第24回	グループディスカッション5-2	グループ発表および全体ディスカッション
第25回	グループディスカッション6-1	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第26回	グループディスカッション6-2	グループ毎に課題について議論し、必要な調査事項を明らかにする
第27回	グループディスカッション6-3	グループ発表および全体ディスカッション
第28回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。必要に応じて関連する文献を読むこと。また、与えられた課題を期限内に実施すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を用いらない。

【参考書】

有村・杉野・鷺津（2022）『カーボンプライシングのフロンティア』、日本評論社。
 T.H. Arimura and S. Matsumoto ed. (2021) Carbon Pricing in Japan, Springer.
 有村（2015）『温暖化対策の新しい排出削減メカニズム』、日本評論社。
 有村・蓬田・川瀬（2012）『地球温暖化対策と国際貿易：排出量取引と国境調整措置をめぐる経済学・法学的分析』、日本評論社。
 有村・武田（2012）『排出量取引と省エネルギーの経済分析』、日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への積極的参加や貢献など）（60%）、期末レポート（40%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新任のため該当しない。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやタブレットなどを持参すること

【Outline (in English)】

【Course Outline】 In this course, we will focus on climate change. Climate change is more than just the global warming issue. For example, extreme weather condition, biodiversity and energy issues are also associated with climate change. Since climate change is complex, there is no one policy solution. This course deals with policies and actions needed to achieve a sustainable society. It also enhances the development of students' skill in debating, writing and presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) have a wide view on climate change, 2) understand the economic logic of climate change policies and 3) propose relevant climate change policies needed.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the references. Your required study time is at least three hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, presentation 50%, in class contribution: 10%

SHS400HA

研究会 B

金光 秀和

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 3/Tue.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の共生、人間と人間の共生という理念を実現するために必要な「多様性の尊重」と「対話」をメインテーマとして、社会に貢献する協働のネットワークを形成するために必要な思考力やコミュニケーション能力の涵養を目指します。具体的には、さまざまなテーマについて「哲学対話」と呼ばれる手法を用いて協働のプロセスを経ながら考察を深めます。各自が自由にテーマを設定し、情報を収集して発表する機会や対話をファシリテートする機会も設けます。また、各回の冒頭に社会的話題などを取り上げるミニプレゼンテーションを実施します。なお、哲学対話に哲学的知識は一切不要です。

【到達目標】

対話において①自らの考えを表現すること、②他者の考えを傾聴すること、③他者とともに考えることを目標とします。また、プレゼンテーションやファシリテーションにおいて④自らの興味関心を踏まえて問いを立てること、⑤問題を批判的に思考すること、⑥自らの考えを他者に説明し、他者との協働を促進することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対話を軸としながら、インプット（文献購読、情報収集）とアウトプット（プレゼンテーション、ファシリテーション）を行います。また、新型コロナウイルス蔓延の状況を見ながら、他大学のゼミとの協働、社会人との対話、各自のテーマに即した現場調査などのフィールドワークを実施したいと思います。授業では、提出された論点や質問について、適宜全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について説明します。
第 2 回	哲学対話①	哲学対話を実施します。
第 3 回	文献購読①	発表者と質問者を決めて「哲学対話」や「多様性の尊重」に関連した文献を購読します。
第 4 回	文献購読②	発表者と質問者を決めて「哲学対話」や「多様性の尊重」に関連した文献を購読します。
第 5 回	文献購読③	発表者と質問者を決めて「哲学対話」や「多様性の尊重」に関連した文献を購読します。
第 6 回	哲学対話②	哲学対話を実施します。
第 7 回	哲学対話③	哲学対話を実施します。
第 8 回	哲学対話④	哲学対話を実施します。
第 9 回	哲学対話⑤	哲学対話を実施します。
第 10 回	哲学対話⑥	哲学対話を実施します。
第 11 回	プレゼンテーション①	各自が哲学対話で考えてみたいテーマについて発表します。
第 12 回	プレゼンテーション②	各自が哲学対話で考えてみたいテーマについて発表します。
第 13 回	プレゼンテーション③	各自が哲学対話で考えてみたいテーマについて発表します。

第 14 回	春学期の振り返りとまとめ	春学期の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験を共有します。
第 15 回	秋学期イントロダクション	本授業の問題意識、テーマの概要、進め方について確認します。また、各自が担当する文献を検討します
第 16 回	文献購読④	担当者と質問者を決めて各自が考察を深めたいと思った問いに関連した文献を購読します。
第 17 回	文献購読⑤	担当者と質問者を決めて各自が考察を深めたいと思った問いに関連した文献を購読します。
第 18 回	文献購読⑥	担当者と質問者を決めて各自が考察を深めたいと思った問いに関連した文献を購読します。
第 19 回	文献購読⑦	担当者と質問者を決めて各自が考察を深めたいと思った問いに関連した文献を購読します。
第 20 回	ファシリテーション①	担当者が哲学対話を企画・運営します。
第 21 回	ファシリテーション②	担当者が哲学対話を企画・運営します。
第 22 回	ファシリテーション③	担当者が哲学対話を企画・運営します。
第 23 回	ファシリテーション④	担当者が哲学対話を企画・運営します。
第 24 回	ファシリテーション⑤	担当者が哲学対話を企画・運営します。
第 25 回	ファシリテーション⑥	担当者が哲学対話を企画・運営します。
第 26 回	プレゼンテーション④	発表者と質問者を決めて各自の年度末レポートについて発表します。
第 27 回	プレゼンテーション⑤	発表者と質問者を決めて各自の年度末レポートについて発表します。
第 28 回	1年間の振り返りとまとめ	一年間の活動を全体的に振り返るとともに、それぞれの経験を共有します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの興味関心を踏まえて問いを立てられるように、新聞、映画、SF 小説などをもとに、世界や自分に関心を払ってください。特に、授業で扱う問いについては、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。また、授業で指定された文献はしっかりと熟読し、それをもとに自分でも文献（情報）調査を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

特に指定しませんが、各自のテーマに即して適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加、文献調査・購読、プレゼンテーション、ファシリテーション）を 80 %、年度末レポートを 20 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【Outline (in English)】

Course Outline

The main themes of this course are "respect for diversity" and "dialogue," which are necessary to realize the principles of symbiosis between humans and the environment, and between humans and humans. The aim of this course is to cultivate the thinking and communication skills necessary to form a collaborative network that contributes to society. Specifically, we will deepen our consideration of various themes through a collaborative process using a method called "philosophical dialogue". Each student will be free to set his/her own theme, and will have the opportunity to collect and present information as well as to facilitate the dialogue. At the beginning of each class, a mini-presentation on a social topic will be given. No philosophical knowledge is required for the dialogue.

Learning Objectives

In dialogue, the goals are (1) to express your own ideas, (2) to listen to the ideas of others, and (3) to think together with others. In addition, in presentations and facilitation, the goals are (4) to formulate questions based on your own interests, (5) to think critically about issues, and (6) to explain your own ideas to others and to promote collaboration with others.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class contribution (80%) and final report (20%).

ENV400HA

研究会 B

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：CES ゼミ

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

千代田区を学びの対象のひとつとしながら、都市全体を視野に入れ、以下のテーマに取り組みます。

- ①緑・水・多様な生物など都市の自然を構成している個々の要素について理解と知識を深めます。
- ②街路樹・公園・都市農業・河川や海岸など都市を構成する自然的空間の果たす役割と機能を考えます。
- ③環境教育・コミュニティ・企業活動・市民活動・景観・維持管理など人間の果たす役割について探求します。
- ④認証制度・都市計画・グリーンインフラなどこれらに関連づける仕組みやシステムから持続的な都市を提案します。

【到達目標】

本ゼミでは「緑・水・生物」の視点から人と自然にとって持続可能な都市を探求します。防災・造園・生物多様性・計画・教育など様々な分野からのアプローチを試み、多面的知識と俯瞰的な視点から都市環境を考え、その実現をイメージできる実践的な思考力（コンサルタント力・デザイン力）を高めます。

併せて、千代田区が取り組んでいる環境マネジメントシステムである CES（千代田エコシステム）への貢献も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①グループ研究…半期に2～3 テーマ程度を設定し、グループで調査・討論・取りまとめ・プレゼンテーションを行い、「課題設定 → 情報収集 → 分析評価 → 伝達・発信」を通して課題への知識と理解を高めます。
- ②個人研究 1…共通テーマを設定し、日替わり交代で短い発表を行い、それらを統合し俯瞰することでテーマの様相や課題を考えます。
- ③個人研究 2…個人々の関心に応じた研究テーマを自由に設定して調査と意見交換を行い、到達目標に掲げた能力を高めていきます。
- ④フィールド研究…半期に数回程度、様々な取り組みの実際を学ぶ、グループで観察記録して評価する、環境教育に関わるイベントに参加する等の活動を行います。
- ⑤実践提案まとめ…これらを積み重ね、組み合わせることで持続可能な都市に向けた提言を取りまとめることを通して、俯瞰力・構想力・実践的思考力を高めていきます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	基礎学習 1（テーマ 1）	テーマ 1 に関する基礎知識の習得
第 3 回	基礎学習 2（テーマ 1）	テーマ 1 に関する基礎知識の習得
第 4 回	基礎学習 3（テーマ 2）	テーマ 2 に関する基礎知識の習得
第 5 回	基礎学習 4（テーマ 2）	テーマ 2 に関する基礎知識の習得
第 6 回	フィールド学習 1	現地調査 1
第 7 回	グループ研究 1	緑地に関するグループ討議
第 8 回	グループ研究 2	緑地に関するグループ討議・発表
第 9 回	グループ研究 3	水辺に関するグループ討議

第 10 回	グループ研究 4	水辺に関するグループ討議・発表
第 11 回	フィールド学習 2	現地調査 2
第 12 回	グループ研究 5	生物に関するグループ討議
第 13 回	グループ研究 6	生物に関するグループ討議・発表
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	グループ研究 7	認証と評価に関するグループ討議
第 17 回	グループ研究 8	認証と評価に関するグループ討議・発表
第 18 回	グループ研究 9	計画とデザインに関するグループ討議
第 19 回	グループ研究 10	計画とデザインに関するグループ討議・発表
第 20 回	フィールド学習 3	現地調査 3
第 21 回	個人研究 1	テーマ検討と意見交換
第 22 回	個人研究 2	研究構成の検討と意見交換
第 23 回	個人研究 3	研究のブラッシュアップ
第 24 回	実践提案の検討	持続可能に都市に向けた提案の検討
第 25 回	実践提案のまとめ	持続可能に都市に向けた提案のまとめ
第 26 回	個人研究成果の発表 1	研究結果の発表と討論 1
第 27 回	個人研究成果の発表 2	研究結果の発表と討論 2
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をします。各自の研究に係る文献・資料収集、実地調査のほか、共同の活動としてゼミ時間以外に、各種イベントの準備と実施、施設見学や現地調査等を実施します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：活動参加、学習意欲、受講態度、グループワークや学内外のイベント活動への貢献、ゼミ運営への率先と貢献、提出物の内容と期日遵守等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「サイエンスカフェⅢ」「自然環境論Ⅳ」などの関連する講義科目の履修を推奨します。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline (in English)】

In this course, students will learn practically the following themes mainly for Chiyoda Ward as one of the study field with a view to the entire urban area.

- ① The factors that compose urban nature, such as greenery, waterfront, and wildlife.
- ② The role and function of natural spaces that make up urban areas, such as street trees, parks, urban agriculture, rivers and coasts.
- ③ The role of human beings to urban nature, such as environmental education, activities at community, corporate activities, citizen activity, landscape creation and maintenance activities.
- ④ The mechanisms and systems that link urban nature, such as evaluation systems, urban planning and green infrastructure.

The goals of this class are to acquire wide/ deep knowledge and practical thinking ability of the above-mentioned matters. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

OTR400HA

研究会修了論文

朝比奈 茂

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会 A を原則として 2 年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会 A の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第 2 回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第 3 回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第 4 回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第 5 回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第 6 回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第 7 回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第 8 回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第 9 回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第 10 回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第 11 回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第 12 回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第 13 回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第 14 回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

板橋 美也

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

杉戸 信彦

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

土屋 志穂

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

梶 裕史

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

北川 徹哉

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

小島 聡

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文**ESTHER STOCKWELL**

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

武貞 稔彦

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文**辻 英史**

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

永野 秀雄

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

長峰 登記夫

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

西城戸 誠

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

根崎 光男

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

長谷川 直哉

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文**日原 傳**

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

平野井 ちえ子

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

藤倉 良

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

松本 倫明

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

宮川 路子

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

渡邊 誠

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

高田 雅之

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

金藤 正直

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

赤羽 悠

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

横内 恵

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

佐伯 英子

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

湯澤 規子

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

研究会修了論文

吉永 明弘

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究会Aを原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。(詳細は「履修の手引き」参照。)

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各研究会Aの中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。(Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organised, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

コース修了論文

人間環境学部教員

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：RSP 生以外

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、コース修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②コース修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。
- ③ A タイプ研究会受講者は登録できない。

【Outline (in English)】

This is a course for thesis writing designed for those who do not participate in a Type A seminar.

The goal of this course is that students will be able to plan and write their theses based on their research.

The minimum requirement for the thesis is that it contains the essential components of an academic paper and the writing is well organized.

It will be evaluated based on the originality of the content.

This class is essentially a self-directed course. Students are required to follow the instructions of their seminar advisor and independently work on their research and writing.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

プログラム修了論文**人間環境学部教員**

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：RSP 生のみ

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人リフレッシュ・ステージ・プログラム（RSP）で入学した学生が、人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、プログラム修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

また、指導においては個別または全体に対して適宜フィードバックを行う。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラム修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがい、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足感も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②プログラム修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、プログラム修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。
- ③ RSP 以外の学生は登録できない。

【Outline (in English)】

This is a course for writing thesis (for RSP program students). Students will be able to plan and write academic papers based on their research.

The minimum requirement for the paper is that it must be well organized, and it will be evaluated based on the originality of the content.

This class is basically an extracurricular study. Students are required to follow the instructions of his/her seminar teacher. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR200HA

人間環境セミナー

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土3/Sat.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下 SDGs）について、多様な分野で実現に向け取り組んでいる専門家の講義を受ける。それらを通じ、SDGs についての理解を深めると同時に、各人が自身の関心分野を切り口に、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。今年度のセミナーでは、主に「市民社会」の担い手に焦点をあて講義を進める予定である。

【到達目標】

グローバルな射程を持ち、多様かつ一部は実現に困難が予想される目標も含んだ SDGs については、主に国際機関、政府や NGO / NPO が主体的に活動するものと思われがちである。しかし SDGs では、民間企業や市民がその担い手として重要であると認識されている。持続可能な社会について学ぶ当学部の学生として、① SDGs に関する基礎的な知識を持ち、人に説明することができるようになること、② SDGs にあげられた各種課題を「自分ごと」として捉えることができる当事者としての意識を涵養すること、が本セミナーの目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、SDGs に関わって実際の現場で活躍されている講師を招き、具体的な活動や努力、体験などの話を聴講する。各講師の知見やさまざまな経験に触れることによって、受講者の SDGs や現代社会における課題に対する意識や理解が深まることが期待される。

受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。

また、同時に可能な範囲でアクティブラーニングの要素を取り入れた回を設け、受講者の思い、考え、意見などを発信する機会も設ける予定である。

多数の受講者が想定されるため、原則オンラインでの開講を予定する。したがって受講者数の制限は行わない予定である。詳細は春学期当初に Hoppii を通じて連絡する。

担当：武貞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーの目的、進め方等の説明。講義の全体像の解説。
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義

第14回 総括

全体での質疑応答／意見交換とセミナーの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：次週以降のテーマにつき自分なりの予備知識を得て、質問や意見等を用意してください。

復習：講義で配布されたプリントや、聴講した内容について復習し、いっそう理解や興味を深めてください。

本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

【参考書】

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%

テストもしくはレポート：60%（新型コロナウイルスの感染状況に応じて決定）

なお、原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選ぶ。

【その他の重要事項】

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および学部ウェブサイトにて発表する。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In this course, participants will receive lectures on the Sustainable Development Goals (SDGs), which are international goals for the year 2030, from experts who are working to realize them in a variety of fields. Through these lectures, participants will deepen their understanding of the SDGs and gain a foothold to contribute to the realization of the concept of a sustainable society in the future, using their own field of interest as a starting point. This year's seminar will mainly focus on the leaders of "civil society".

[Learning Objectives]

The SDGs, which have a global scope and include a variety of goals, some of which are expected to be difficult to achieve, are often thought of as being primarily the work of international organizations, governments, and NGOs/NPOs. However, the private sector and citizens are recognized as important players in the SDGs. The goals of this seminar are: 1) to have basic knowledge of the SDGs and to be able to explain them to others, and 2) to cultivate an awareness of being a party to the SDGs so that one can see the various issues listed in the SDGs as one's own.

[Learning Activities outside of classroom]

Preparation: Students are expected to have their own prior knowledge of the topics to be covered in the next week and beyond, and to prepare questions and opinions.

Review: Students are expected to review the handouts distributed in the lecture and the contents of the lecture to further deepen your understanding and interest.

The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Contribution points (participation attitude, content of comment papers, remarks in class, etc.): 40%.

Test or report: 60% (determined according to the infection status of the new coronavirus)

In principle, students who are absent without permission more than four times will not receive a grade.

OTR200HA

人間環境セミナー

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土3/Sat.3

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コロナ禍における芸術・文化の現場について理解を深めます。演劇・美術・文学の各現場・最前線で、それぞれの文化発信がどのように行われているのか、私たちを取り巻く文化環境について学び、「芸術・文化は不要不急なのか」を考えてみましょう。外部講師には、文人・芸術家・文化発信の実務担当者を予定しています。

【到達目標】

1. 文人・芸術家の作品とその背景を理解します。
2. 芸術・文化の情報発信やアート・マネジメントの仕事を理解します。
3. 受講者各自が親しめる芸術・文化のジャンルを発見します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本セミナーでは、芸術の現場を支えている方々を講師としてお招きし、それぞれの活動内容についての講義を聴講したり、必要に応じて実演を鑑賞したり、ワークショップに参加します。各講師の豊富な御経験と奥深い思想に触れることで、受講者の芸術・文化に対する見方が深まることを期待しています。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

担当者：板橋、日原、平野井

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方について 各回の講師と講演タイトルについては、決定次第 Hoppii と学部HPにて周知します。
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	復習と試験	コーディネーターの教員による設問について論述する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で配布された資料を復習してください。また、日ごろから芸術・文化に関連した新聞記事や本を読むように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が、必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

参考書は、外部講師が、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 参加態度：出席は毎回とります。10分以上遅れて入室することは認めず、欠席扱いとします。4回以上欠席した場合は、評価の対象としません。講師への質問内容も加味するので、積極的な発言を期待します。

2. ジャーナル：毎回その日のセミナーについて考えたことを簡潔にまとめ、Hoppiiに期限内に提出してもらいます。ジャーナルを4回以上提出しなかった場合も、評価の対象としません。

3. 筆記による期末試験：コーディネーターの教員別に出题する。受験しなかった場合は、評価の対象としません。

以上を総合的に評価します。

平常点（参加態度+ジャーナル）：50%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン講義を受けるためのパソコン・ネットワーク接続等。Zoom講義には静逸な環境から参加してください。

【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間を設けます。積極的に質問してください。セミナーの詳しいテーマ及び外部講師については、Hoppii及び学部HPにて発表します。なお、外部講師の都合でテーマの内容が変更、および順序が変わることがあります。

【Outline (in English)】

This course focuses on artistic challenges under the COVID-19 crises in Japan through the lectures and workshops by artists and art managers. Our goals include savoring a variety of artifacts and understanding missions of art managements. Before/after each class, you are expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on active participation, journal writing and final exam : participations & journals(50%) and final exam(50%).

OTR200HA

人間環境セミナー

人間環境学部教員

配当年次/単位：1~4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 6/Wed.6

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2021年11月に開催された気候変動枠組み条約第26回締約国会議(COP26)では、2030年までに、2010年比で温室効果ガス排出量を45%減らすことが必要であることが決議されました。日本はこれに先立つ2021年5月に地球温暖化対策推進法を改正して、2050年までに脱炭素社会を達成することを明記し、さらに、COP26では2030年までに2013年比45%の削減という緩和目標をブレッジしました。本講義では日本が脱炭素社会達成に向けて各セクターがどのような取り組みが進められているかを各分野の専門家のお話から学習します。

【到達目標】

気候変動緩和策には特効薬はありません。脱炭素社会の達成に向けては、あらゆるセクターがそれぞれに対策を進めることが必要です。一方で、あらゆる政策にはコストが伴います。それぞれにはどのような課題があり、コストを如何に低減してゆかかということも考慮しなければいけません。本講義ではこうした多方面の取り組みと課題について総合的に理解することを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は大学から指示のない限り、対面で実施します。ただし、遠隔地からの講義など講師のご都合によって、オンライン講義を教室で視聴する場合があります。下記の講義の順番と内容は仮のもので、最終的なプログラムは各回の講師と講演タイトルについては4月以降、決定次第Hoppiiに掲示します。学生からの質問やコメントは随時受付、適宜、回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーのねらいと進め方について。
第2回	COP26に至るまでのUNFCCC 交際交渉の経緯	加藤真（海外環境協力センター）
第3回	国際機関から見た世界と日本の脱炭素政策	国際エネルギー機関（パリからの遠隔講義）
第4回	日本の環境政策	環境省関係者
第5回	日本のエネルギー政策	資源エネルギー庁
第6回	地方公共団体の先進的施策	北九州市
第7回	水素の利用	未定
第8回	航空	未定
第9回	農業	未定
第10回	金融	未定
第11回	陸運	未定
第12回	エネルギー産業	未定
第13回	小売業または製造業	未定
第14回	まとめと試験	まとめと試験を授業内に行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で配布された資料を基に講義内容を復習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。外部講師が必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

参考書は外部講師が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%

テスト・レポート：60%

4回以上欠席した人には成績評価は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選びます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講演後に講師への質問の時間が設けられますので、積極的に質問してください。講師の方々は丁寧に回答くださりますので、理解を深められるはずです。

セミナーの詳しいテーマ及び外部講師については、Hoppiiにて発表します。

【Outline (in English)】

At the 26th Conference of the Parties (COP26) to the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) held in November 2021, it was resolved that greenhouse gas emissions shall be reduced to 45% of the 2010 level by 2030. Prior to this, Japan amended the Law Concerning the Promotion of the Measures to Cope with Global Warming in May 2021 to clearly state that it will achieve a decarbonized society by 2050, and also pledged a mitigation target of 45% reduction from 2013 levels by 2030 at COP26. In this class, students will learn from experts in various fields what efforts are being made by each sector to achieve a decarbonized society in Japan. The learning objective is to acquire substantial knowledge regarding what is carried out and what is needed to attain carbon-neutral Japan. Students are required to study at least two hours to prepare and review each lectures. Assessment will be based on participation (40%) and final report or exam (60%). Students are required to present at least 11 lectures.

OTR200HA

フィールドスタディ**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回 ～第4回	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第5回 ～第10回	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第11回 ～第13回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。
参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

【Outline (in English)】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

Explanations for preparatory study and evaluation criteria will be provided for each course at orientation and advance lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR200HA

フィールドスタディ

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～第4回	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第5回～第10回	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第11回～第13回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。
参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

【Outline (in English)】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

Explanations for preparatory study and evaluation criteria will be provided for each course at orientation and advance lectures. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

OTR400HA

SCOPE Seminar

伊藤 弘太郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Seminar (Academic)

This seminar offers students opportunities to discuss contemporary issues and prospects associated with international relations in the Indo-Pacific region. Although it is said that information technology (IT) has made a massive amount of knowledge accessible to us, it is entirely unclear how we can effectively use it to make the world more sustainable. On the contrary, we tend to be drawn in a sea of information. This seminar encourage students to gain skills to critically analyze knowledge in the age of globalization.

【到達目標】

- (1) Learn critical reading skills.
- (2) Learn critical thinking skills.
- (3) Understand how 'concepts' are used analytically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3", "DP4" and "DP5" are related

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. While we are reading the same textbook together, each student is encouraged to find news to share and discuss in class. In addition to a midterm report on what is learned from the textbook, each student is required to complete his/her final project.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Introduction to the course
Week 2	Reading academic literature (1)	Short lecture and discussion
Week 3	Reading academic literature (2)	Short lectures and discussion
Week 4	Reading academic literature (3)	Short lecture and discussion
Week 5	Reading academic literature (4)	Short lecture and discussion
Week 6	Reading academic literature (5)	Short lecture and discussion
Week 7	Reading academic literature (6)	Short lecture and discussion
Week 8	Reading academic literature (7)	Short lecture and discussion
Week 9	Reading academic literature (8)	Short lectures and discussion
Week 10	Reading academic literature (9)	Short lectures and discussion
Week 11	Reading academic literature (10)	Short lectures and discussions
Week 12	Reading academic literature (11)	Short lecture and discussion
Week 13	Reading academic literature (12)	Short lecture and discussion
Week 14	Conclusion	Reflections and final remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be introduced in the first class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 50%

Presentations: 20%

Final assignment: 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】
No specified equipment is needed.
【その他の重要事項】
N/A

OTR400HA

SCOPE Seminar

竹原 正篤

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skills to analyze the role of business to contribute to solving global issues described in the U.N. Sustainable Development Goals(SDGs). As governments alone cannot solve problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders to reduce negative impact across their value chains and deliver solutions to various problems. Through this course, students learn various efforts of global and local companies to solve challenges on the earth and how they are creating shared value (CSV) and realizing sustainable growth.

【到達目標】

Students aim at achieving the following goals:

(1)Learn global and local sustainability challenges and how companies are creating shared values (CSV) and realizing their sustained growth.
(2)Develop logical thinking skills to set hypotheses, collect necessary information, and test the hypotheses through systematic analysis on themes that students choose.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3", "DP4" and "DP5" are related

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. To acquire basic knowledge on global sustainability and roles of companies, students will review and present selected academic literatures and various companies' sustainability/integrated reports. If students are interested in a specific industry or company, they can conduct research and share the research findings with other members of this course.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
Week 2	Reading academic literatures(1)	Short lectures and discussions
Week 3	Reading academic literatures (2)	Student presentation and discussions
Week 4	Reading academic literatures (3)	Student presentation and discussions
Week 5	Reading academic literatures (4)	Student presentation and discussions
Week 6	Reading academic literatures (5)	Student presentation and discussions
Week 7	Reading academic literatures (6)	Student presentation and discussions
Week 8	Reading academic literatures (7)	Student presentation and discussions
Week 9	Reading academic literatures (8)	Student presentation and discussions
Week 10	Reading academic literatures (9)	Student presentation and discussions
Week 11	Reading academic literatures (10)	Student presentation and discussions
Week 12	Reading academic literatures (11)	Student presentation and discussions
Week 13	Reading academic literatures (12)	Student presentation and discussions
Week 14	Reading academic literatures (13)	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to attend each class fully prepared. For students' own research topics, students are required to read materials and summarize key points on a regular basis.

If students want to maximize learning effectiveness, approximately 2 hours each for preparation and review for each class is required.

【テキスト（教科書）】

Academic literatures to be reviewed in class will be introduced during the orientation class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Active participation in class discussion:50%
- (2) Students' presentations:30%
- (3) Students' overall progress:20%

Details will be explained in class.

Please note if students miss four or more classes, they cannot receive credit unless they have a justifiable reason.

【学生の意見等からの気づき】

Instructor will provide individual feedback on students' presentations for future improvement.

【学生が準備すべき機器他】

When students make their presentations, they may want to use their own PC or other devices.

【その他の重要事項】

As all the class discussions and presentations in this course will be conducted in English, if students have any concerns, please contact the lecturer in advance.

OTR400HA

SCOPE Seminar

伊藤 弘太郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Seminar (Academic)

This seminar offers students opportunities to discuss contemporary issues and prospects associated with international relations in the Indo-Pacific region. Although it is said that information technology (IT) has made a massive amount of knowledge accessible to us, it is entirely unclear how we can effectively use it to make the world more sustainable. On the contrary, we tend to be drawn in a sea of information. This seminar encourage students to gain skills to critically analyse knowledge in the age of globalization.

【到達目標】

- (1) Learn critical reading skills.
- (2) Learn critical thinking skills.
- (3) Understand how 'concepts' are used analytically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3", "DP4" and "DP5" are related

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. While we are reading the same textbook together, each student is encouraged to find news to share and discuss in class. In addition to a midterm report on what is learned from the textbook, each student is required to complete his/her final project.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Introduction to the course
Week 2	Reading academic literature (1)	Short lecture and discussion
Week 3	Reading academic literature (2)	Short lectures and discussion
Week 4	Reading academic literature (3)	Short lecture and discussion
Week 5	Reading academic literature (4)	Short lecture and discussion
Week 6	Reading academic literature (5)	Short lecture and discussion
Week 7	Reading academic literature (6)	Short lecture and discussion
Week 8	Reading academic literature (7)	Short lecture and discussion
Week 9	Reading academic literature (8)	Short lectures and discussion
Week 10	Reading academic literature (9)	Short lectures and discussion
Week 11	Reading academic literature (10)	Short lectures and discussions
Week 12	Reading academic literature (11)	Short lecture and discussion
Week 13	Reading academic literature (12)	Short lecture and discussion
Week 14	Conclusion	Reflections and final remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be introduced in the first class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 50%

Presentations: 20%

Final assignment: 30%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】
No specified equipment is needed.
【その他の重要事項】
N/A

OTR400HA

SCOPE Seminar

竹原 正篤

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skills to analyze the role of business to contribute to solving global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable Development Goals. As governments alone cannot solve problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to collaborate with their stakeholders to reduce negative impact across their value chains and deliver high-impact business solutions to challenging sustainability issues. In this course, students will proactively learn, through active learning, the current status and challenges of corporate efforts on various sustainability challenges on the planet.

【到達目標】

Students aim at achieving the following goals:

- (1) Learn global sustainability challenges and how companies are tackling these challenges through businesses.
- (2) Acquire logical thinking and analysis skills necessary to correctly analyze a company's approach to sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3", "DP4" and "DP5" are related

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, presentations by students and discussions. To acquire basic knowledge on global sustainability and roles of companies, students will review selected academic literatures and sustainability/Integrated reports issued by major global companies. The summary of those materials will be reported on by students and followed by class discussion. If students are interested in a specific industry or company, they can conduct research and share their findings with classmates.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
Week 2	Reading academic literatures(1)	Short lectures and discussions
Week 3	Reading academic literatures (2)	Student presentation and discussions
Week 4	Reading academic literatures (3)	Student presentation and discussions
Week 5	Reading academic literatures (4)	Student presentation and discussions
Week 6	Reading academic literatures (5)	Student presentation and discussions
Week 7	Reading academic literatures (6)	Student presentation and discussions
Week 8	Reading academic literatures (7)	Student presentation and discussions
Week 9	Reading academic literatures (8)	Student presentation and discussions
Week 10	Reading academic literatures (9)	Student presentation and discussions
Week 11	Reading academic literatures (10)	Student presentation and discussions
Week 12	Reading academic literatures (11)	Student presentation and discussions
Week 13	Reading academic literatures (12)	Student presentation and discussions
Week 14	Reading academic literatures (13)	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to attend each class fully prepared by reading textbooks and references. Also, students are required to complete all assignments on time. If students want to maximize learning effectiveness, approximately 2 hours each for preparation and review for each class is required.

【テキスト（教科書）】

Academic literatures will be introduced during the orientation class. For your reference, some key literatures reviewed and discussed in previous courses are as follows.

*Clayton Christensen, Karen Dillon “How Will You Measure Your Life?” HarperCollins, 2012

*Bill Gates, “How to Avoid a Climate Disaster: The Solutions We Have and the Breakthroughs We Need” Knopf, 2020

*Ikujiro Nonaka, Hiroataka Takeuchi, “The Wise Company: How Companies Create Continuous Innovation” 2019

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

(1) Active participation in the class discussion: 50%

(2) Students' in-class presentations : 50%

NOTE: If students miss four or more classes, they cannot receive credit unless they have a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

Instructor will provide individual feedback to student presentations for future improvement.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

This course aims to deepen students' understanding of various business and sustainability topics through student presentations and class discussions. The language used in the class will be English. Therefore, students taking this course should understand that active class participation and sufficient English communication skills are essential.

OTR400HA

SCOPE Seminar

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar, students will learn technology and innovation that affect social development and inequality by reading UNCTAD report 2021.

【到達目標】

We aim at achieving the following goals:

(1) understanding the current global society from the perspective of technology and innovation,

(2) have basic knowledge on technology and innovation affecting sustainability,

(3) gain skills to understand, present, and discuss the content of reports.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3", "DP4" and "DP5" are related

【授業の進め方と方法】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. The course will consist of students' report summary, complementary lecture and discussions.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading UN report (1)	Short lectures and discussions
3	Reading UN report (2)	Students presentations and discussions
4	Reading UN report (3)	Students presentations and discussions
5	Reading UN report (4)	Students presentations and discussions
6	Reading UN report (5)	Students presentations and discussions
7	Reading UN report(6)	Students presentations and discussions
8	Reading UN report(7)	Students presentations and discussions
9	Reading UN report(8)	Students presentations and discussions
10	Reading UN report (9)	Students presentations and discussions
11	Reading UN report (10)	Students presentations and discussions
12	Reading UN report (11)	Students presentations and discussions
13	Reading UN report(12)	Students presentations and discussions
14	Reading UN report (13) and course summary	Students presentation and discussions, and course summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

United Nations Conference on Trade and Development (UNCTAD) Technology and Innovation Report 2021 -Catching technological waves - Innovation with equity (free PDF available from the UN website)

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on following criteria:

- (1) Active class participation: 40%
- (2) Completion of in-class reporting (presentation) assignments: 40%
- (3) Final writing assignment: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Reading materials are subject to change based on students' understanding and interest.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

I recommend that students with an interest in development studies continue to attend this seminar. In addition to reading the textbook, I plan to give guidance in line with each research theme.

OTR400HA

SCOPE Seminar

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar, students will learn about human development in the era of Anthropocene by reading a UN report and discussing related cases.

【到達目標】

We aim at achieving following goals:

- (1) learn about the Anthropocene,
- (2) understand issues related to human development,
- (3) gain skills to read reports with statistical data.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3", "DP4" and "DP5" are related

【授業の進め方と方法】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. The course will consist of students' report summary, complementary lecture and discussions.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading UN report (1)	Short lectures and discussions
3	Reading UN report (2)	Students presentations and discussions
4	Reading UN report (3)	Students presentations and discussions
5	Reading UN report (4)	Students presentations and discussions
6	Reading UN report (5)	Students presentations and discussions
7	Reading UN report(6)	Students presentations and discussions
8	Reading UN report(7)	Students presentations and discussions
9	Reading UN report(8)	Students presentations and discussions
10	Reading UN report (9)	Students presentations and discussions
11	Reading UN report (10)	Students presentations and discussions
12	Reading UN report (11)	Students presentations and discussions
13	Reading UN report(12)	Students presentations and discussions
14	Reading UN report (13) and course summary	Students presentation and discussions, and course summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

United Nations Development Programme. 2020. Human Development Report 2020, The Next Frontier: Human Development and the Anthropocene. United Nations Publication. (free PDF available from the UN website)

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on following criteria:

- (1) Active class participation: 40%

- (2) Completion of in-class reporting (presentation) assignments: 40%
 (3) Final writing assignment: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Reading materials are subject to change based on students' understanding and interest.

【学生が準備すべき機器他】

Depending on the status of COVID-19, there is a possibility that we will have online classes. Students are requested to register to HOPPII at the beginning of the semester to receive a ZOOM meeting ID.

【その他の重要事項】

I recommend that students with an interest in development studies continue to attend this seminar. In addition to reading the textbook, I plan to give guidance in line with each research theme.

OTR400HA

SCOPE Seminar

SHAMIK CHAKRABORTY

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Join us in the seminar course to gain understanding on fundamental aspects of landscapes and sustainability. We will learn various issues related to landscape sustainability through active learning. This course is directly related to the aims of the Sustainability Co-creation Programme (SCOPE) at Hosei University.

A vital attribute of the seminar course is developing a "class project" where students are required to bring their own research questions while employing a suitable method to explore the answer (e.g., literature review, interview, questionnaire, observation). Students will then be required to write a report, summing up their investigations. Depending on their research projects, students will also get chances to learn from fieldworks, and from local stakeholders/resource managers regarding various local sustainability problems.

【到達目標】

The course is designed as an advanced seminar course for undergraduate students. Those who are interested to know about sustainable landscapes from a socio-ecological viewpoint are welcome. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of the various challenges of sustainable resource use mainly through critical thinking, and discussions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3", "DP4" and "DP5" are related

【授業の進め方と方法】

Lectures and personal guidance will be carried out regarding each of the student's class project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

The class will be conducted on a face-to-face basis with availability of online platforms only for those students who are not in Japan at the time of conducting the classes. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level of Covid -19. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and orientation	Guidance for the seminar course. What are socioecological landscapes? How socioecological landscapes can inform sustainability studies.
Week 2	Brainstorming on students research interests	Discussions on students research interests. Relating these interests with various dimensions of sustainability issues.
Week 3	Research methods: A brief introduction	Guidance and discussion on research methods and field study topic.
Week 4	Understanding change, degradation and resilience of landscapes	Understanding change, degradation and resilience of landscapes through students' research projects.
Week 5	How we can co-create sustainability?	Knowledge and commons Use of multiple knowledges for landscape sustainability
Week 6	Critical thinking and discussion	Discussion based on lecture of week 4 and week 5
Week 7	Individual guidance 1	Guidance on students' class projects
Week 8	Individual guidance 2	Guidance on students' class projects
Week 9	Individual guidance 3	Guidance on students' class projects

Week 10	Individual guidance 4	Guidance on students' class projects
Week 11	Presentations 1	Students class presentations on research projects
Week 12	Presentations 2	Students class presentations on research projects
Week 13	Presentations 3	Students class presentations on research projects
Week 14	Summary	Summary and course wrap-up. What we have learnt from the course and looking forward.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class.

【参考書】

References will be provided in the class

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

No significant changes were made based on students' comments

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

OTR400HA

SCOPE Seminar

SHAMIK CHAKRABORTY

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Seminar (Advanced)

Join us in the seminar course to gain understanding on fundamental aspects of landscapes and sustainability issues through engaging with socio-ecological landscapes/seascapes. This seminar will be a continuation of the seminar held in the fall semester and give an insight into the concept of landscapes and its application in studying landscape sustainability.

A major part of the research will link the notion of landscapes together with learning from local knowledgeable stakeholders and experts to have a critical understanding of sustainability studies. A vital attribute of the seminar course is developing (or continuing) a "class project" where the students are required to bring their own research questions while employing a suitable method to explore the answer (e.g., literature based research, interview, questionnaire, observation) from topics introduced. Students will then be required to write a report, summing up their investigations.

【到達目標】

The course is designed as an advanced seminar course for undergraduate students. Those who are interested to know about landscapes and sustainability issues (such as the traditional agriculture and/or fisheries-based systems), including directly visiting these ecosystems, and learning from local stakeholders, are welcome. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of different types of landscapes and the challenges they face. They will also work through critical thinking, discussion, and writing to explore workable solutions to these challenges. Students will learn vital oral and written communication skills, mainly through their class projects. These skills will help them in their future studies and research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3", "DP4" and "DP5" are related

【授業の進め方と方法】

Lectures and personal guidance will be carried out regarding each of the student's class project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. The course will mainly be based on on-campus classes.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

The class will be conducted on a face-to-face basis with availability of online platforms only for those students who are not in Japan at the time of conducting the classes. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level of Covid-19. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the concept of "landscapes"	What are "landscapes"? Evolution of the notion of landscapes
Week 2	Landscape and landscape governance	How the notion of landscapes can be used for an integrated landscape governance
Week 3	Research methods 1	Guidance and discussion on research methods and study topics.
Week 4	Research methods 2	Guidance and discussion on research methods and study topics.
Week 5	Landscapes and resilience	Landscapes and resilience (reflection through students' projects and lectures).
Week 6	Landscapes and resilience	Landscapes as complex adaptive systems
Week 7	Knowledge component and landscapes	Indigenous and local knowledge in cultural landscapes and their resilience (reflection through the field studies and/or invited lecture).
Week 8	Field visit 1	Location TBA
Week 9	Field visit 2	Reflections on field visit

Week 10	Individual guidance 1	Guidance on individual projects
Week 11	Individual guidance 2	Guidance on individual projects
Week 12	Individual guidance 3	Guidance on individual projects
Week 13	Individual guidance 4	Guidance on individual projects
Week 14	Course wrap up	Wrap up, final guidance for writing report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are required to carry out their field studies with close supervision from the instructor. They are encouraged to raise fresh issues or offer critical viewpoints on the readings

【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

No significant changes were required based on students' comments

【学生が準備すべき機器他】

N/A

【その他の重要事項】

N/A

OTR200HA

Field Workshop

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開：グローバル：成績優秀：実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Field Workshop is designed to provide hands-on experiences outside the classroom to further learn about sustainability. Depending on the Field Workshop, students will visit particular locations and facilities within or outside of Japan and learn from experts who are devoted to unique issues relating to sustainability.

【到達目標】

Through this course, students will be able to (1) better understand issues of sustainability, especially by connecting knowledges that they learned in classrooms and through field visits and (2) to actively engage in discussions on how to apply theories to actual problems in order to improve future sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP5" is related

【授業の進め方と方法】

Each Field Workshop consists of both a field trip itself and on-campus classes before and after the field trips for preparations and reflections. Class schedule below is a sample of a course. Since Field Workshops differ from one another in their contents, students are advised to find detailed information about each Field Workshop when announced.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Outlines of a Field Workshop
2-4	Classes for preparation of the field trips	Knowledge required to understand the sites and preparation of the Field Workshop
5-11	Fieldwork	Four day trips
12-13	Classes for reflections of the field trips	Reviews and discussions
14	Report writing	Writing and submitting an assigned report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Detailed instructions are provided in the orientation and other sessions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in orientation and preparatory classes.

【参考書】

Texts will be introduced in orientation and preparatory classes.

【成績評価の方法と基準】

Participation and contribution: 50%; the final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

Participants have to bear the costs of transportation, insurance, etc.

Cancellation of the participation is, in principle, not allowed after the enrollment is finalized. Furthermore, there is no refund made for the paid expenses if the cancellation is due to personal reasons.

In addition, this course is to be canceled if there is no participant from SCOPE.

OTR200HA

Field Workshop

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Field Workshop is designed to provide hands-on experiences outside the classroom to further learn about sustainability. Depending on the Field Workshop, students will visit particular locations and facilities within or outside of Japan and learn from experts who are devoted to various issues relating to sustainability.

【到達目標】

Through this course, students will be able to (1) better understand issues of sustainability, especially by connecting knowledges that they learned in classrooms and through field visits and (2) to actively engage in discussions on how to apply theories to actual problems in order to improve future sustainability.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP5" is related

【授業の進め方と方法】

Each Field Workshop consists of both a field trip itself and on-campus classes before and after the field trips for preparations and reflections. Class schedule below is a sample of a course. Since Field Workshops differ from one another in their contents, students are advised to find detailed information about each Field Workshop when announced.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Outlines of a Field Workshop
2-4	Classes for preparation of the field trips	Knowledge required to understand the sites and preparation of the Field Workshop
5-11	Fieldwork	Four day trips
12-13	Classes for reflections of the field trips	Reviews and discussions
14	Report writing	Writing and submitting an assigned report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Detailed instructions are provided in the orientation and other sessions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in orientation and preparatory classes.

【参考書】

Texts will be introduced in orientation and preparatory classes.

【成績評価の方法と基準】

Participation and contribution: 50%; the final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

Participants have to bear the costs of transportation, insurance, etc.

Cancellation of the participation is, in principle, not allowed after the enrollment is finalized. Furthermore, there is no refund made for the paid expenses if the cancellation is due to personal reasons.

In addition, this course is to be canceled if there is no participant from SCOPE.

OTR200HA

Co-creative Workshop A I

竹原 正篤

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides students with multidisciplinary learning opportunities to deal with various challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. In this Co-creative Workshop, participants will discuss various sustainability issues and try to come up with solutions through group work. Examples of cases previous participants tackled include: (1) local revitalization in Japanese rural areas with a social business approach, (2) ensuring environmental and social sustainability in the global supply chain of an apparel company, and (3) conducting in-depth analysis on sustainability efforts of various companies.

【到達目標】

By the end of the semester, students should be able to:

- (1) identify and analyze sustainability problems in given cases
- (2) interact proactively and collaborate with diverse participants
- (3) design collaborative solutions and present them in the class

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP1" and "DP2" is related

【授業の進め方と方法】

(1) Students will participate in group work with other students who have diverse backgrounds and study experience. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to come up with solutions for various sustainability problems.

(2) Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants, selection if necessary.
Week 2	Basics of business and sustainability	Understand overview and key concepts of business and sustainability
Week 3	Case No.1 (1)	Introduction to case/topic No.1.
Week 4	Case No.1 (2)	Defining and analyzing the issue
Week 5	Case No.1 (3)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 6	Case No.2 (1)	Group presentation and feedback from facilitator/participants
Week 7	Case No.2 (2)	Introduction to case/topic No.2.
Week 8	Case No.2 (3)	Defining and analyzing the issue
Week 9	Case No.3 (1)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution
Week 10	Case No.3 (2)	Group presentation and feedback from facilitator/participants
Week 11	Case No.3 (3)	Introduction to case/topic No.3.
Week 12	Case No.4 (1)	Defining and analyzing the issue
Week 13	Case No.4 (2)	Analyze the issue focusing on causal relationship, generate ideas and reach collaborative solution

Week 14 Case No.4 (3)

Group presentation and feedback from facilitator/participants

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials, do necessary research and contribute to group work.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Because this course is a workshop-style class, textbook is not used.

Materials will be distributed in class according to the topic and discussions.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Contribution to the group work (40%)
- (2) Active class participation in the class discussion (20%)
- (3) Student's own progress (40%)

Details will be explained in class.

Please note if students miss four or more classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

Following student comments, instructor's explanation will be minimized and students will lead the discussions.

【学生が準備すべき機器他】

When students do their group work and make presentations, they may want to use their own PCs or other devices.

【その他の重要事項】

(1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.

(2) As all the class and group work will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties to keep up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

(3) Students can take Co-creative Workshops A I and A II in random order.

OTR200HA

Co-creative Workshop A II

竹原 正篤

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides students with multidisciplinary learning opportunities to deal with various challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects. In this Co-creative Workshop, participants will discuss sustainability issues in the field of business and try to come up with solutions through various group work. Examples of cases students tackled in the previous workshops include: (1) achieving local revitalization in rural areas by tackling social problems with a social business approach, (2) ensuring environmental and social sustainability in the global supply chain of an apparel company, and (3) conducting in-depth analysis on sustainability efforts of various global companies.

【到達目標】

By the end of the semester, students should be able to:

- (1) Identify and analyze sustainability problems in given cases
- (2) Interact proactively and collaborate with diverse participants
- (3) Reach and design collaborative solutions and present them in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP1" and "DP2" is related

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group work with other students who have diverse backgrounds and study experience. Through facilitating interaction and teamwork, defining problems, and generating ideas, participants will collaborate to come up with solutions for various sustainability challenges.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants, selection if necessary
Week 2	Basics of business and sustainability	Understand overview and key concepts of business and sustainability
Week 3	Case No.1 (1)	Introduction to case/topic No.1.
Week 4	Case No.1 (2)	Defining and analyzing the issue Analyze the issue focusing on a causal relationship, generate ideas and reach a collaborative solution
Week 5	Case No.1 (3)	Group presentation and feedback from facilitator/participants
Week 6	Case No.2 (1)	Introduction to case/topic No.2.
Week 7	Case No.2 (2)	Defining and analyzing the issue. Analyze the issue focusing on a causal relationship, generate ideas and reach a collaborative solution
Week 8	Case No.2 (3)	Group presentation and feedback from facilitator/participants
Week 9	Case No.3 (1)	Introduction to case/topic No.3.
Week 10	Case No.3 (2)	Defining and analyzing the issue Analyze the issue focusing on a causal relationship, generate ideas and reach a collaborative solution
Week 11	Case No.3 (3)	Group presentation and feedback from facilitator/participants
Week 12	Case No.4 (1)	Introduction to case/topic No.4. Defining the issue and analyzing stakeholders

Week 13 Case No.4 (2)

Analyze the issue focusing on a causal relationship, generate ideas and reach a collaborative solution
Group presentation and feedback from facilitator/participants

Week 14 Case No.4 (3)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read reference materials, do necessary website research and contribute to group work. If students want to maximize learning effectiveness, approximately 2 hours each for preparatory study and review for each class is required.

【テキスト（教科書）】

Textbooks are not used in the Co-creative workshop. The instructor will distribute materials in each class.

【参考書】

Additional resources will be introduced in the class, if necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Contribution to the group work (30%)
- (2) Active class participation in the class discussion (30%)
- (3) Student's own progress (40%)

Details of grading will be explained in the first class.

NOTE: If students miss four or more classes, they cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

Checking students' progress and feedback, class contents might change.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

(1) Note that a selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating in this course should attend the first class.

(2) As all the class discussion and group work will be conducted in English, students with lower English proficiency may have difficulties in keeping up with the class. In that case, students are expected to make additional efforts to improve their English skills.

(3) Methods and schedule will be subject to change based on feedback from participants.

(4) Students can take Co-creative Workshops A I and A II in random order.

OTR200HA

Co-creative Workshop B I

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning experiences of dealing with significant challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop projects together. In this Co-creative Workshop, participants will learn sustainability issues in the field of social development in developing countries through case studies of innovative solutions, systems thinking about issues, research on selected topics, and proposal of projects. The issues to be covered this semester are commodities related to sustainable production and consumption.

【到達目標】

By the end of the semester, students are expected to:

- 1) understand the issues and backgrounds of the given cases,
- 2) have skills of systems thinking and multidisciplinary perspective,
- 3) have an image of project formation through collaboration with diverse participants,
- 4) be trained in presentation in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP1" and "DP2" is related

【授業の進め方と方法】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Classes are constructed based on the problem based learning method and supplemented with case studies and lecture. Students will participate in the group work with other students with diverse background and study experience.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants
2	Case No.1 (1) Issue and innovative projects	Introduction to the issue and innovative projects for solution
3	Case No.1 (2) Critical analysis and systems thinking	Critical analysis of the projects and systems thinking to deepen understanding of the issue
4	Case No.1 (3) Sharing information	Sharing information and data from individual research
5	Case No.1 (4) Redefining issues	Redefining issues and setting own goals
6	Case No.1 (5) Project design	Discussion on project ideas, stakeholder analysis, selection of a project
7	Case No.1 (6) Presentation	In class presentation of solutions and feedback from participants
8	Case No.2 (1) Issue and innovative projects	Introduction to the issue and innovative projects for solution
9	Case No.2 (2) Critical analysis and systems thinking	Introduction to the issue and innovative projects for solution. Critical analysis of the projects and systems thinking to deepen understanding of the issue
10	Case No.2 (3) Sharing information	Sharing information and data from individual research
11	Case No.2 (4) Redefining issues	Redefining issues and setting own goals
12	Case No.2 (5) Project design	Discussion on project ideas, stakeholder analysis, selection of a project

13	Case No.2 (6) Presentation	In class presentation of solutions and feedback from participants
14	Summary and reflection	Summary and reflection

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to set research questions, to collect necessary information and data and to contribute to group work. Preparatory time are necessary, in particular, before (3) Sharing information and (6) Presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in the class.

【参考書】

Additional resources will be introduced in the class, if necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on following criteria:

Active class participation (20%)
Contribution to the group work (40%)
Presentations (40%)

【学生の意見等からの気づき】

Based on students' feedback, progress of the class might change.

【学生が準備すべき機器他】

Depending on the status of COVID-19, there is a possibility that we will have online classes. Students are requested to register to HOPPII at the beginning of the semester to receive a ZOOM meeting ID.

【その他の重要事項】

- (1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.
- (2) Methods and schedule will be subject to change based on feedback from participants.
- (3) Students can take Co-creative Workshop B I and B II in random order.

OTR200HA

Co-creative Workshop B II

吉田 秀美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：主催：SCOPE

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The Co-creative Workshop provides multidisciplinary learning experiences of dealing with significant challenges of sustainability. The class brings together students from SCOPE and students from the Faculty of Sustainability Studies and offers them the opportunity to collaborate on workshop project together. In this Co-creative Workshop, participants will learn sustainability issues in the field of social development through case studies of innovative solutions, systems thinking about issues, research on selected topics and proposal of projects.

【到達目標】

By the end of the semester, students are expected to:

- 1) understand the issues and backgrounds of the given cases,
- 2) have skills of systems thinking and multidisciplinary perspective,
- 3) have an image of project formation through collaboration with diverse participants,
- 4) be trained in presentation in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP1" and "DP2" is related

【授業の進め方と方法】

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Learning Management System. Classes are constructed based on the problem based learning method and supplemented with case studies and lecture. Students will participate in the group work with other students with diverse background and study experience.

Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at. The details will be announced through the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Ice-breaking and introduction of participants
2	Case No.1 (1) Issue and innovative projects	Introduction to the issue and innovative projects for solution
3	Case No.1 (2) Critical analysis and systems thinking	Critical analysis of the projects and systems thinking to deepen understanding of the issue
4	Case No.1 (3) Sharing information	Sharing information and data from individual research
5	Case No.1 (4) Redefining issues	Redefining issues and setting own goals
6	Case No.1 (5) Project design	Discussion on project ideas, stakeholder analysis, selection of a project
7	Case No.1 (6) Presentation	In class presentation of solutions and feedback from participants
8	Case No.2 (1) Issue and innovative projects	Introduction to the issue and innovative projects for solution
9	Case No.2 (2) Critical analysis and systems thinking	Introduction to the issue and innovative projects for solution. Critical analysis of the projects and systems thinking to deepen understanding of the issue
10	Case No.2 (3) Sharing information	Sharing information and data from individual research
11	Case No.2 (4) Redefining issues	Redefining issues and setting own goals
12	Case No.2 (5) Project design	Discussion on project ideas, stakeholder analysis, selection of a project
13	Case No.2 (6) Presentation	In class presentation of solutions and feedback from participants

14 Summary and reflection

Summary and reflection

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to set research questions, to collect necessary information and data and to contribute to group work. Preparatory time are necessary, in particular, before (3) Sharing information and (6) Presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in the class.

【参考書】

Additional resources will be introduced in the class, if necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on following criteria:

- Active class participation (20%)
- Contribution to the group work (40%)
- Presentations (40%)

【学生の意見等からの気づき】

Based on students' feedback, progress of the class might change.

【学生が準備すべき機器他】

Depending on the status of COVID-19, there is a possibility that we will have online classes. Students are requested to register to HOPPII at the beginning of the semester to receive class methods including ZOOM meeting ID.

【その他の重要事項】

- (1) Note that selection may be conducted in the first class if the number of participants is too large. Students interested in participating should attend the first class.
- (2) Methods and schedule will be subject to change based on feedback from participants.
- (3) Students can take Co-creative Workshop B I and B II in random order.

